岡山大学構内遺跡発掘調査報告　第3冊

鹿田遺跡 I

—医学部附属病院外来診療棟改築
およびNMR-CT室新築に伴う発掘調査—

1988年

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

鹿田遺跡Ⅰ　正誤表

頁	行	誤	正
21	図8	住2 住3 溝34	住3 住2 溝32 土192
	9	土壙254・318	土壙318
91	2	BB29	BB32
119	23	BB30	BD30
124	図120	井8 井9 井10	井9 井10 井8
169	3	AZ30	AY28

頁	行	誤	正
473	表32 番号4	AZ39	AY28
481	表32 番号393 〃 〃 〃 〃 〃 394 〃 〃 〃	－ 附図1 鹿田中3 ～鹿田古1 附図2	古代 附図7 古代 附図7
482	表32 番号401 〃 〃 408 〃 〃 409 〃 〃 412 表34 番号 2	AV・AW35 AX35 AV・AW35 AW・AX35 BB30	AW34・35 AV35・36 AV35 AW36 BD30

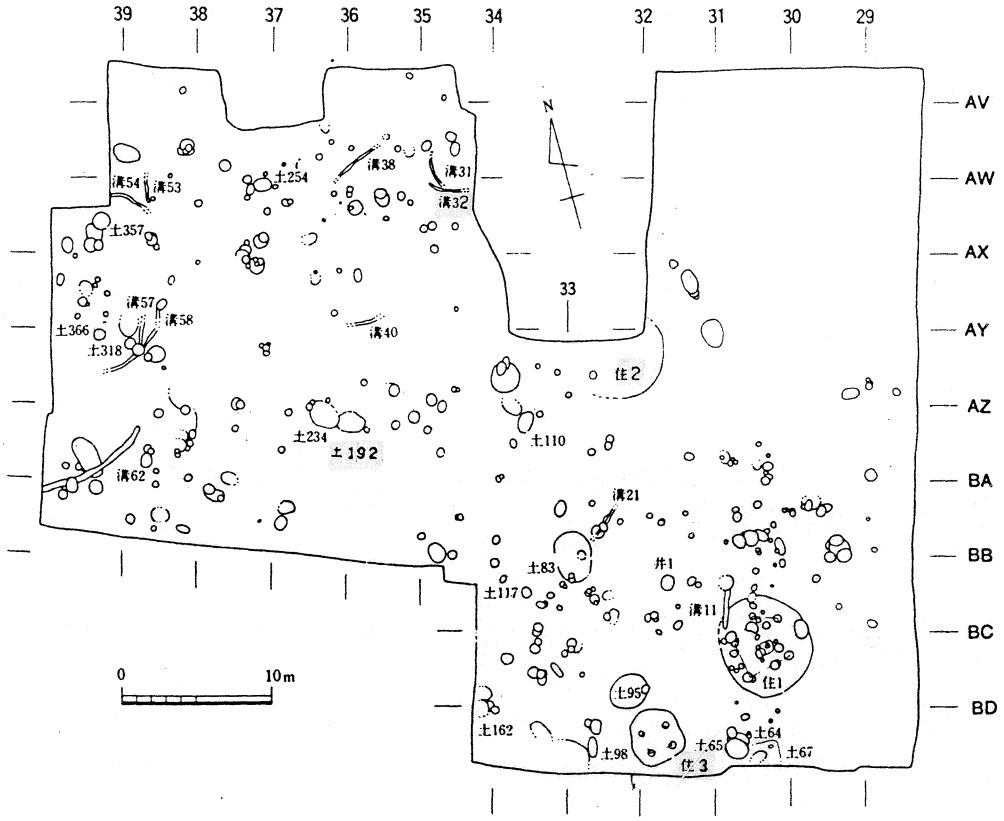


図8　弥生時代中期後半の主要遺構配置図　縮尺 1/500

岡山大学構内遺跡発掘調査報告　第３冊

鹿田遺跡 I

―医学部附属病院外来診療棟改築
およびNMR-CT室新築に伴う発掘調査―

１９８８年

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

序

本書は、1983年度から1984年度にかけて岡山大学埋蔵文化財調査室が行なった医学部附属病院外来診療棟改築工事およびＮＭＲ－ＣＴ室新築工事にともなう発掘調査報告書である。

発掘調査面積は合計2364㎡に及び，そのうえ，調査対象地が鹿田地区内では古くから安定した地域であったことから，多数の遺構が明らかになり，また遺物もおびただしく出土した。特に，遺物・遺構の多かった弥生時代および中世については，土器編年上有効な資料が得られた。また，古代については木簡・墨書土器の出土，掘立柱建物群・井戸の検出などから鹿田遺跡の片鱗を窺う資料が出土した。しかし，文献にみられる鹿田庄については直接の関連を示すような資料は検出されなかった。そのため，今回の報告では鹿田庄についての研究は今後の課題として残された。

発掘調査から報告書執筆まで，調査研究員の努力は言うまでもないが，岡山県古代吉備文化財センターの一部職員，岡山市教育委員会文化課埋蔵文化財担当の一部職員，そのほか岡山大学文学部考古学研究室の教官および大学院生の尽力を得た。岡山大学施設設定委員会埋蔵文化財保護対策検討専門委員会並びに事務局施設部の各位の理解と協力とあわせ，心から感謝したい。

1988年３月14日

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター長

近　藤　義　郎

例　　言

1　本書は岡山大学埋蔵文化財調査室が1983年度・1984年度に鹿田地区で実施した岡山大学医学部附属病院外来診療棟改築工事に伴う発掘調査（1983年７月27～11月23日，1984年１月９日～８月31日）と同病院ＮＭＲ―ＣＴ室新築工事に伴う発掘調査（1983年８月１日～12月30日）の報告書である。前者は総面積2188㎡を測り，鹿田地区構内座標ＡＶ～ＢＤ28～40区に，後者は総面積176㎡を測り，同地区構内座標ＢＧ～ＢＩ18～21区に各々位置する。

2　岡山大学施設設定委員会埋蔵文化財保護対策検討専門委員会の指導のもとに発掘調査から報告書作成までの作業が行われた。委員・幹事の方々に記して感謝申し上げる。

委員長〔1983年度〕新見嘉兵衛〔1983・1984年度〕緒方正名

委　員〔1983年度・1984年度〕吉田　晶，難波良司，小川勝士，小田嶋梧郎，大和正利，成田英夫，近藤義郎，稲田孝司

〔1983年度〕稲田陽一，浦田昌計，山田　宰，中島利勝，益田忠雄

〔1984年度〕橋本博之，上村明廣，武丸恒雄，中田高義，小西国義，野原　望

幹　事〔1983年度〕藤嶋　茂〔1984年度〕近藤　寛

〔1983・1984年度〕濱中敬三，中岡善吉，山下彰三，島田祥生

3　報告書の作成に当たって，自然科学的検討を次の各氏に依頼し，有益な教示と助言を得た。

石材鑑定	岡山理科大学教授	三宅　寛
木材樹種鑑定	岡山大学農学部教授	畔柳　鎮（現岡山商科大学教授）
種子鑑定	元岡山大学教授	笠原安夫，武田満子
貝　鑑　定	比治山女子短期大学教授	稲葉明彦
骨　鑑　定	岡山大学農学部教授	鳥海　徹
歯　鑑　定	岡山大学歯学部教授	小田嶋梧郎
赤色顔料分析	岡山大学理学部助手	逸見千代子
ガラス滓分析	東京国立文化財研究所	三浦定俊
	株式会社ニコン	苅谷道郎

各位に対して，記して深謝の意を表する次第である。

4　遺構の実測は青木進治郎・池上博・伊藤真・今津啓子・小池伸彦・栄一郎・鈴木英男・鈴木康之・高井健司・新納泉・八谷隆生・馬場洋・平井典子・宮原博之・山本悦世・吉留秀敏・力竹孝典が行い，家田淳一・五十嵐直志・池橋幹・宇垣匡雅・大久保徹也・小池幸夫・駒井正明・田中裕介・千葉豊・南堀正・贄元洋・北條芳隆・松井潔・山田雅子（現大久保）・吉村健の協力を得た。

5　遺構の浄写は栄・山田・山本が行い，一部松岡かおり・保田義治の協力を得た。遺構観察表の作成は松岡・山本が担当した。

6　遺物の実測は土器を山本・吉留の指導のもとに青木・伊藤・八谷・宮原・力竹が主に行い，一部，鈴木康之・古市秀治・松井潔の援助を受けた。浄写・観察表の作成は山本が行った。石器は栄が担当し，実測・浄写に保田の協力を得た。木器は山田が担当した。遺物の写真撮影は保田・力竹による。遺物整理には青木・伊藤・小坂令子・清水ユミ子・八谷・宮原・安井ともえ・安原文恵・力竹の協力を得た。

7　文章は第２・３章の事実報告については栄一郎（岡山大学埋蔵文化財調査室助手）と山本悦世（同助手）が分担し，文責は文末に記した。

執筆者の全体の概略は以下のようになる。

第１章：栄・山本，第２章：栄・山本，第３章：栄，第４章１・２：山本，同３：鈴木康之（広島大学院生），同４：大久保徹也（香川県教育委員会技師），同５：栄，同６：保田義治（岡山大学埋蔵文化財調査室技術補佐員），同７：大久保雅子（香川県教育委員会），附編１：藤下典之（大阪府立大学農学部助教授），同２：小田嶋梧郎（岡山大学歯学部教授），同３：三浦定俊（東京都国立文化財研究所），苅谷道郎（株式会社ニコン）

8　編集は近藤義郎（元岡山大学埋蔵文化財調査室室長・現岡山大学埋蔵文化財調査研究センター長）・稲田孝司（元岡山大学埋蔵文化財調査室長）の指導のもとに，当初，吉留が行い，転出後は山本が引き継いだ。

9　本報告書に関する資料は全て岡山大学埋蔵文化財調査研究センターにて保管している。

10　調査・整理において以下の方々にご援助・教示をいただいた。記して感謝申し上げる。

秋山浩三・伊藤晃・江見正己・岡田博・尾上実・桑田俊明・高橋護・高畑知功・田中和宏・綱谷克彦・中野雅美・橋本久和・春成秀爾・広瀬和雄・福田正継・藤野次史・正岡睦夫・道上康仁・本村豪章・森川昌和・森田勉・柳瀬昭彦・用田政晴

目　　次

第１章　調査と遺跡の概要

１．遺跡の位置と周辺遺跡の概要…… 1

２．調査に至る経過…… 4

３．調査組織…… 4

４．調査の方法と経過…… 6

(1)　構内座標の設定と区割…… 6

(2)　基本層序の設定…… 6

(3)　調査の概略…… 8

(4)　時期設定ほか…… 9

第２章　Ⅰ地点（AU ～ BD 28～40区）の調査

１．調査区の位置…… 15

２．層序…… 16

３．遺構・遺物…… 21

(1)　弥生時代中期後半の遺構・遺物…… 21

ａ．竪穴住居…… 22

ｂ．井戸…… 29

ｃ．土壙…… 35

(2)　弥生時代後期前半の遺構・遺物…… 50

ａ．竪穴住居…… 52

ｂ．井戸…… 68

ｃ．溝…… 77

ｄ．土壙…… 78

ｅ．土器棺…… 119

(3)　弥生時代後期後半の遺構・遺物…… 124

ａ．竪穴住居…… 125

ｂ．井戸…… 138

ｃ．土壙…… 169

ｄ．土器溜り…… 178

(4)　古墳時代初頭の遺構・遺物…… 190

ａ．竪穴住居…… 191

b．井戸…… 204
c．土壙…… 225
d．土器溜り…… 226
(5) 弥生～古墳時代初頭のその他の主要遺構…… 232
a．竪穴住居…… 232
b．土壙…… 232
(6) 古墳時代後期の遺構・遺物…… 234
a．竪穴住居…… 235
b．土壙…… 237
(7) 古代の遺構・遺物…… 247
a．掘立柱建物…… 248
b．井戸…… 252
(8) 中世の遺構・遺物…… 258
a．掘立柱建物…… 259
b．井戸…… 261
c．溝…… 294
(9) 近世の遺構・遺物…… 301
(10) その他の出土遺物…… 302
a．土器・土製品…… 302
b．石器…… 305
第3章 Ⅱ地点（BG・BH 19～21区）の調査
1．調査区の位置…… 313
2．層序…… 313
3．遺構・遺物…… 316
(1) 弥生時代～古墳時代初頭の遺構・遺物…… 316
a．竪穴住居…… 316
b．井戸…… 317
c．土壙…… 325
d．土器溜り…… 325
(2) 古墳時代後期の遺構・遺物…… 347
a．竪穴住居…… 347
(3) 古代の遺構・遺物…… 349

a．柱穴列…… 349
b．井戸…… 350
(4) 中世・近世の遺構・遺物…… 354
a．井戸…… 354
b．溝…… 359
c．土壙…… 368
(5) その他の出土遺物…… 369
第4章 考察
1 鹿田遺跡における集落構造とその変遷…… 373
2 鹿田遺跡の弥生～古墳時代初頭の土器…… 385
3 鹿田遺跡出土の中世土器について…… 397
4 鹿田遺跡の製塩土器…… 407
5 サヌカイト遺物の分析…… 415
6 石鍋について…… 429
7 鹿田遺跡出土の木製品…… 435
附編 自然科学的研究
1 鹿田遺跡から出土したメロン仲間 Cucumis melo L.の種子,
特に雑草メロン型の小粒種子について…… 藤下 典之 443
2 岡山市鹿田地区出土・弥生時代の乳歯…… 小田嶋梧郎 453
3 鹿田遺跡出土ガラス滓…… 三浦定俊，苅谷道郎 463
附 表 遺構一覧表…… 465

図　目　次

調査の経過と遺跡の概要

図１　鹿田遺跡周辺主要遺跡分布図……　2
図２　鹿田地区全体図と調査地点……　6－7
図３　微高地の推定範囲と土層柱状図…　7

Ⅰ地点（AU～BD 28～39区）の調査

図４　調査区の区割……　15
図５　調査区断面土層図（１）……　17
図６　調査区断面土層図（２）……　18
図７　調査区断面土層図（３）……　19
図８　弥生時代中期後半の
　　主要遺構配置図……　21
図９　竪穴住居－１……　22
図10　竪穴住居－１　出土遺物（１）…　23
図11　竪穴住居－１　出土遺物（２）…　24
図12　竪穴住居－１　出土遺物（３）…　25
図13　竪穴住居－２……　26
図14　竪穴住居－２　出土遺物（１）…　27
図15　竪穴住居－２　出土遺物（２）…　28
図16　井戸－１……　30
図17　井戸－１　遺物出土状況……　32
図18　井戸－１　出土遺物（１）……　33
図19　井戸－１　出土遺物（２）……　34
図20　土壙－64・65……　35
図21　土壙－64　出土遺物……　36
図22　土壙－65　出土遺物……　36
図23　土壙－98　出土遺物……　37
図24　土壙－110……　38
図25　土壙－162……　38
図26　土壙－117，出土遺物（１）……　39
図27　土壙－117　出土遺物（２）……　40
図28　土壙－117　出土遺物（３）……　41
図29　土壙－192・234……　42
図30　土壙－234　出土遺物……　43
図31　土壙－192　出土遺物（１）……　44
図32　土壙－192　出土遺物（２）……　45
図33　土壙－254……　45
図34　土壙－254　出土遺物……　46
図35　土壙－357，出土遺物……　47
図36　土壙－318……　47
図37　土壙－318　出土遺物……　48
図38　土壙－366……　48
図39　土壙－366　出土遺物……　49
図40　弥生時代後期前半の
　　主要遺構配置図……　51
図41　竪穴住居－３……　52
図42　竪穴住居－３　出土遺物……　53
図43　竪穴住居－４……　54
図44　竪穴住居－４　出土遺物……　55
図45　竪穴住居－５……　56
図46　竪穴住居－５　出土遺物（１）…　58
図47　竪穴住居－５　出土遺物（２）…　59
図48　竪穴住居－５　出土遺物（３）…　60
図49　竪穴住居－５　出土遺物（４）…　61
図50　竪穴住居－５　出土遺物（５）…　62
図51　竪穴住居－６……　63
図52　竪穴住居－７，出土遺物……　64
図53　竪穴住居－８……　65
図54　竪穴住居－８　出土遺物（１）…　66
図55　竪穴住居－８　出土遺物（２）…　67
図56　井戸－２……　68

図57　井戸－２　出土遺物（１）…… 69
図58　井戸－２　出土遺物（２）…… 70
図59　井戸－３…… 71
図60　井戸－３　出土遺物（１）…… 72
図61　井戸－３　出土遺物（２）…… 73
図62　井戸－３　出土遺物（３）…… 74
図63　井戸－３　出土遺物（４）…… 75
図64　井戸－３　出土遺物（５）…… 76
図65　溝－37，出土遺物…… 77
図66　土壙－23，出土遺物…… 78
図67　土壙－54，出土遺物…… 79
図68　土壙－60，出土遺物（１）…… 80
図69　土壙－60　出土遺物（２）…… 81
図70　土壙－60　出土遺物（３）…… 82
図71　土壙－60　出土遺物（４）…… 83
図72　土壙－63…… 83
図73　土壙－63　出土遺物（１）…… 84
図74　土壙－63　出土遺物（２）…… 85
図75　土壙－69，出土遺物（１）…… 86
図76　土壙－69　出土遺物（２）…… 87
図77　土壙－69　出土遺物（３）…… 88
図78　土壙－71…… 88
図79　土壙－71　出土遺物…… 89
図80　土壙－82，出土遺物…… 90
図81　土壙－87，出土遺物…… 91
図82　土壙－96，出土遺物（１）…… 92
図83　土壙－96　出土遺物（２）…… 93
図84　土壙－96　出土遺物（３）…… 94
図85　土壙－96　出土遺物（４）…… 95
図86　土壙－105　出土遺物（１）…… 96
図87　土壙－105　出土遺物（２）…… 97
図88　土壙－109，出土遺物（１）…… 98
図89　土壙－109　出土遺物（２）…… 99
図90　土壙－118 …… 99
図91　土壙－118　出土遺物（１）…… 100
図92　土壙－118　出土遺物（２）…… 101
図93　土壙－147 …… 101
図94　土壙－147　出土遺物（１）…… 102
図95　土壙－147　出土遺物（２）…… 103
図96　土壙－149，出土遺物 …… 103
図97　土壙－158，出土遺物（１）…… 104
図98　土壙－158　出土遺物（２）…… 105
図99　土壙－158　出土遺物（３）…… 106
図100 土壙－194，出土遺物（１）…… 107
図101 土壙－194　出土遺物（２）…… 108
図102 土壙－194　出土遺物（３）…… 109
図103 土壙－193 …… 110
図104 土壙－200，出土遺物 …… 110
図105 土壙－231 …… 111
図106 土壙－231　出土遺物（１）…… 112
図107 土壙－231　出土遺物（２）…… 113
図108 土壙－264，出土遺物（１）…… 114
図109 土壙－264　出土遺物（２）…… 115
図110 土壙－268，出土遺物（１）…… 116
図111 土壙－268　出土遺物（２）…… 117
図112 土壙－284 …… 117
図113 土壙－284　出土遺物 …… 118
図114 土器棺－１，出土遺物…… 119
図115 土器棺－２…… 119
図116 土器棺－２　出土遺物…… 120
図117 土器棺－３，出土遺物…… 121
図118 土器棺－４，出土遺物（１）…… 123

図119 土器棺－4　出土遺物（2）…… 123
図120 弥生時代後期後半の
主要遺構配置図…… 124
図121 竪穴住居－9 …… 125
図122 竪穴住居－9　出土遺物…… 126
図123 竪穴住居－10…… 127
図124 竪穴住居－10　出土遺物…… 128
図125 竪穴住居－11…… 129
図126 竪穴住居－11　出土遺物…… 130
図127 竪穴住居－12…… 131
図128 竪穴住居－12　出土遺物（1）… 132
図129 竪穴住居－12　出土遺物（2）… 133
図130 竪穴住居－13・14・15・16・17… 135
図131 竪穴住居－13・14　出土遺物…… 136
図132 竪穴住居－15　出土遺物…… 137
図133 竪穴住居－16　出土遺物…… 137
図134 井戸－4 …… 138
図135 井戸－4　出土遺物（1）…… 139
図136 井戸－4　出土遺物（2）…… 140
図137 井戸－4　出土遺物（3）…… 141
図138 井戸－5，出土遺物…… 142
図139 井戸－6 …… 143
図140 井戸－6　出土遺物（1）…… 144
図141 井戸－6　出土遺物（2）…… 145
図142 井戸－6　出土遺物（3）…… 146
図143 井戸－7 …… 147
図144 井戸－7　出土遺物（1）…… 148
図145 井戸－7　出土遺物（2）…… 149
図146 井戸－7　出土遺物（3）…… 150
図147 井戸－7　出土遺物（4）…… 151
図148 井戸－8 …… 152
図149 井戸－8　出土遺物（1）…… 153
図150 井戸－8　出土遺物（2）…… 154
図151 井戸－9 …… 155
図152 井戸－9　出土遺物（1）…… 156
図153 井戸－9　出土遺物（2）…… 157
図154 井戸－10…… 158
図155 井戸－10　出土遺物（1）…… 159
図156 井戸－10　出土遺物（2）…… 160
図157 井戸－10　出土遺物（3）…… 161
図158 井戸－11，出土遺物…… 162
図159 井戸－12…… 163
図160 井戸－12　出土遺物（1）…… 164
図161 井戸－12　出土遺物（2）…… 165
図162 井戸－13…… 166
図163 井戸－13　出土遺物（1）…… 167
図164 井戸－13　出土遺物（2）…… 168
図165 土壙－4，出土遺物（1）…… 169
図166 土壙－4　出土遺物（2）…… 170
図167 土壙－8 …… 170
図168 土壙－8　出土遺物…… 171
図169 土壙－38…… 171
図170 土壙－38　出土遺物…… 172
図171 土壙－21，出土遺物…… 173
図172 土壙－50，出土遺物…… 174
図173 土壙－132，出土遺物 …… 175
図174 土壙－202 …… 175
図175 土壙－202　出土遺物 …… 176
図176 土壙－230 …… 176
図177 土壙－230　出土遺物 …… 177
図178 土器溜り－1（1）…… 178
図179 土器溜り－1（2）…… 179
図180 土器溜り－1　出土遺物（1）… 179
図181 土器溜り－1　出土遺物（2）… 180

図182 土器溜り－1　出土遺物（3）… 181
図183 土器溜り－1　出土遺物（4）… 182
図184 土器溜り－2　出土遺物（1）… 183
図185 土器溜り－2…… 184
図186 土器溜り－2　出土遺物（2）… 185
図187 土器溜り－2　出土遺物（3）… 186
図188 土器溜り－2　出土遺物（4）… 187
図189 土器溜り－2　出土遺物（5）… 188
図190 土器溜り－2　出土遺物（6）… 189
図191 古墳時代初頭の主要遺構配置図… 190
図192 竪穴住居－18…… 191
図193 竪穴住居－18　出土遺物…… 192
図194 竪穴住居－19…… 193
図195 竪穴住居－19　出土遺物（1）… 194
図196 竪穴住居－19　出土遺物（2）… 195
図197 竪穴住居－20…… 196
図198 竪穴住居－20　出土遺物（1）… 197
図199 竪穴住居－20　出土遺物（2）… 198
図200 竪穴住居－20　出土遺物（3）… 199
図201 竪穴住居－21…… 199
図202 竪穴住居－21　出土遺物（1）… 200
図203 竪穴住居－21　出土遺物（2）… 201
図204 竪穴住居－21　出土遺物（3）… 202
図205 竪穴住居－22…… 202
図206 竪穴住居－23…… 203
図207 竪穴住居－24…… 203
図208 井戸－14…… 204
図209 井戸－14　出土遺物（1）…… 205
図210 井戸－14　出土遺物（2）…… 206
図211 井戸－14　出土遺物（3）…… 207
図212 井戸－14　出土遺物（4）…… 208
図213 井戸－15…… 209
図214 井戸－15　出土遺物（1）…… 210
図215 井戸－15　出土遺物（2）…… 211
図216 井戸－15　出土遺物（3）…… 212
図217 井戸－15　出土遺物（4）…… 213
図218 井戸－15　出土遺物（5）…… 214
図219 井戸－16，出土遺物…… 215
図220 井戸－17…… 216
図221 井戸－17　出土遺物（1）…… 217
図222 井戸－17　出土遺物（2）…… 218
図223 井戸－17　出土遺物（3）…… 218
図224 井戸－17　出土遺物（4）…… 219
図225 井戸－18…… 220
図226 井戸－18　出土遺物…… 221
図227 井戸－19・1号炉…… 222
図228 井戸－19　出土遺物（1）…… 223
図229 井戸－19　出土遺物（2）…… 224
図230 土壙－142，出土遺物 …… 225
図231 土器溜り－3，出土遺物…… 226
図232 土器溜り－4…… 227
図233 土器溜り－4　出土遺物（1）… 228
図234 土器溜り－4　出土遺物（2）… 229
図235 土器溜り－4　出土遺物（3）… 230
図236 土器溜り－4　出土遺物（4）… 231
図237 竪穴住居－25…… 232
図238 土壙－368 …… 232
図239 土壙－368　出土遺物 …… 233
図240 古墳時代後期の主要遺構配置図… 234
図241 竪穴住居－26…… 235
図242 竪穴住居－26　出土遺物…… 236
図243 土壙－410 …… 237
図244 土壙－410　出土遺物（1） …… 238
図245 土壙－410　出土遺物（2） …… 239

図246 土壙－410　出土遺物（３）…… 240
図247 土壙－410　出土遺物（４）…… 241
図248 土壙－422 …… 242
図249 土壙－422　出土遺物（１）…… 243
図250 土壙－422　出土遺物（２）…… 244
図251 土壙－422　出土遺物（３）…… 245
図252 土壙－423，出土遺物 …… 246
図253 古代の主要遺構配置図…… 247
図254 掘立柱建物－２…… 249
図255 掘立柱建物－６…… 250
図256 掘立柱建物－７，出土遺物…… 251
図257 井戸－20…… 253
図258 井戸－20　出土遺物（１）…… 254
図259 井戸－20　出土遺物（２）…… 255
図260 井戸－20　出土遺物（３）…… 256
図261 井戸－20　出土遺物（４）…… 257
図262 中世の主要遺構配置図…… 258
図263 掘立柱建物－11…… 260
図264 井戸－21…… 261
図265 井戸－21　出土遺物（１）…… 262
図266 井戸－21　出土遺物（２）…… 263
図267 井戸－21　出土遺物（３）…… 264
図268 井戸－21　出土遺物（４）…… 265
図269 井戸－22…… 267
図270 井戸－22　出土遺物…… 268
図271 井戸－23…… 269
図272 井戸－23　出土遺物…… 270
図273 井戸－24，出土遺物（１）…… 271
図274 井戸－24　出土遺物（２）…… 272
図275 井戸－25，出土遺物（１）…… 273
図276 井戸－25　出土遺物（２）…… 274
図277 井戸－26，出土遺物…… 275
図278 井戸－27　出土遺物…… 276
図279 井戸－28，出土遺物（１）…… 277
図280 井戸－28　出土遺物（２）…… 278
図281 井戸－29…… 279
図282 井戸－29　出土遺物（１）…… 280
図283 井戸－29　出土遺物（２）…… 281
図284 井戸－29　出土遺物（３）…… 282
図285 井戸－29　出土遺物（４）…… 283
図286 井戸－29　出土遺物（５）…… 284
図287 井戸－29　出土遺物（６）…… 285
図288 井戸－29　出土遺物（７）…… 286
図289 井戸－30…… 287
図290 井戸－30　出土遺物…… 288
図291 井戸－31…… 289
図292 井戸－31，出土遺物…… 290
図293 井戸－32，出土遺物（１）…… 291
図294 井戸－32　出土遺物（２）…… 292
図295 井戸－33，出土遺物…… 293
図296 溝－70，出土遺物（１）…… 294
図297 溝－70　出土遺物（２）…… 295
図298 溝－70　出土遺物（３）…… 296
図299 溝－70　出土遺物（４）…… 297
図300 溝－70　出土遺物（５）…… 298
図301 溝－71，出土遺物（１）…… 299
図302 溝－71　出土遺物（２）…… 300
図303 近世の主要遺構配置図…… 301
図304 その他の出土遺物（１）…… 302
図305 その他の出土遺物（２）…… 303
図306 その他の出土遺物（３）…… 304
図307 その他の出土遺物（４）…… 306
図308 その他の出土遺物（５）…… 307
図309 その他の出土遺物（６）…… 308

図310 その他の出土遺物（７）…… 309
図311 その他の出土遺物（８）…… 310
Ⅱ地点（BG・BH 19～21区）の調査
図312 調査区の区割…… 313
図313 調査区断面土層図…… 314
図314 竪穴住居－１…… 316
図315 井戸－１…… 317
図316 井戸－１　出土遺物（１）…… 318
図317 井戸－１　出土遺物（２）…… 319
図318 井戸－１　出土遺物（３）…… 320
図319 井戸－１　出土遺物（４）…… 321
図320 井戸－２…… 322
図321 井戸－２　出土遺物…… 323
図322 井戸－３，出土遺物…… 324
図323 土壙－３…… 325
図324 土壙－３　出土遺物…… 326
図325 土壙－５…… 327
図326 土壙－５　出土遺物…… 328
図327 土壙－８，出土遺物…… 329
図328 土壙－９，出土遺物…… 330
図329 土壙－12，出土遺物…… 331
図330 土壙－23…… 332
図331 土壙－23　出土遺物（１）…… 333
図332 土壙－23　出土遺物（２）…… 334
図333 土壙－23　出土遺物（３）…… 335
図334 土壙－23　出土遺物（４）…… 336
図335 土壙－23　出土遺物（５）…… 337
図336 土壙－35，出土遺物…… 338
図337 土壙－43，出土遺物…… 339
図338 土壙－66…… 339
図339 土壙－66　出土遺物…… 340
図340 土壙－80，出土遺物…… 341
図341 土壙－84，出土遺物（１）…… 342
図342 土壙－84　出土遺物（２）…… 343
図343 土壙－101，出土遺物 …… 343
図344 土壙－102，出土遺物（１）　…… 344
図345 土壙－102，出土遺物（２）　…… 345
図346 土壙－108，出土遺物 …… 346
図347 竪穴住居－２…… 347
図348 竪穴住居－２　出土遺物…… 348
図349 柱穴列－１…… 349
図350 井戸－４…… 350
図351 井戸－４　出土遺物（１）…… 351
図352 井戸－４　出土遺物（２）…… 352
図353 井戸－４　出土遺物（３）…… 353
図354 井戸－５…… 355
図355 井戸－５　出土遺物…… 356
図356 井戸－６…… 357
図357 井戸－６　出土遺物…… 358
図358 溝－８…… 359
図359 溝－８　出土遺物（１）…… 360
図360 溝－８　出土遺物（２）…… 361
図361 溝－８　出土遺物（３）…… 362
図362 溝－８　出土遺物（４）…… 363
図363 溝－19，出土遺物…… 363
図364 溝－11…… 364
図365 溝－11　出土遺物…… 365
図366 溝－14…… 366
図367 溝－14　出土遺物…… 367
図368 土壙－123，出土遺物 …… 368
図369 その他の出土遺物（１）…… 369
図370 その他の出土遺物（２）…… 370
図371 その他の出土遺物（３）…… 371

考察

図372 井戸類型概念図…… 376
図373 高杯・甕の組合せ類型図…… 391
図374 A期土師質椀の法量分布…… 400
図375 B期土師質椀の法量分布…… 400
図376 C期土師質椀の法量分布…… 401
図377 土師質椀の法量変化…… 401
図378 鹿田遺跡出土中世土器の変遷
…… 404－405
図379 鹿田遺跡の製塩土器…… 407
図380 土壙71の製塩土器…… 410
図381 Ⅲ類製塩土器…… 411
図382 上東遺跡東鬼川市
P－3土壙の製塩土器…… 412
図383 百間川原尾島遺跡丸田調査区
井戸16の製塩土器…… 413
図384 サヌカイト剥片の長幅分布…… 416
図385 サヌカイト剥片（左）・同剥片
石器（右）厚さ度数分布…… 417
図386 剥片実測図…… 419
図387 石核実測図および石核・楔形石器
剝離面構成模式図…… 421
図388 サヌカイト剥片石器の長幅分布… 424
図389 サヌカイト剥片石器の製作過程… 425
図390 井戸－1…… 445
図391 現生のメロン仲間 *Cucumis melo L.*
の種子の大きさ… 446
図392 鹿田遺跡および弥生時代の主要
遺跡から出土したメロン仲間の
種子の大きさ… 447
図393 鹿田遺跡の井戸または包含層別
（Ⅰ～Ⅷ）ならびに遺構当たり
50粒以上を出土した遺跡別の
種子の長さと幅の平均値…… 448
図394 メロン仲間 *Cucumis melo* L. の
種子出土遺跡の分布と遺跡別出土
種子の大きさ…… 450
図395 壺棺－2の遺構平・断面図…… 454
図396 乳切歯群の各歯冠唇面観…… 456
図397 鑑別できた乳臼歯群の咬合面観… 458
図398 歯の形態学実習用モデルと
対比した乳切歯群…… 460
図399 歯の形態学実習用モデルの咬合面
と対比した乳臼歯群…… 460

表 目 次

表１　編年対比表…… 10
表２　Ⅰ地点における遺構番号対応表… 11
表３　Ⅱ地点における遺構番号対応表… 11
表４　時期別主要遺構一覧表…… 12
表５　井戸－１土層観察表…… 31
表６　時期別検出遺構総数一覧表…… 373
表７　竪穴住居の変遷（Ⅰ地点）…… 375
表８　井戸類型一覧表…… 376
表９　主要包含物別土壙一覧表（１）
〈炭・焼土〉…… 379
表10　主要包含物別土壙一覧表（２）
〈粘土〉…… 379
表11　主要包含物別土壙一覧表（３）
〈礫〉…… 379
表12　主要包含物別土壙一覧表（４）
〈遺物〉…… 380
表13　遺物包含量別土壙数一覧表…… 380
表14　主要包含物別土壙一覧表（５）
〈製塩土器〉…… 381
表15　主要包含物別土壙一覧表（６）
〈ガラス滓〉…… 381
表16　鹿田・後・２期主要遺構における
甕・高杯組合せ表…… 391
表17　土師質椀と共伴遺物の対応…… 402
表18　鹿田遺跡の製塩土器出土遺構一覧表
…… 408
表19　完形剝片の属性…… 418
表20　弥生～古墳時代初頭の木製品…… 435
表21　古代・中世の木製品…… 439
表22　鹿田遺跡より出土したメロン仲間
Cucumis melo L. の種子 …… 445
表23　メロン仲間の種子を遺構当たり100粒
以上出土した遺跡別の種子の大きさ
…… 449
表24　鹿田遺跡と百間川遺跡で出土したガラ
ス滓に含まれる主成分の比較…… 463
表25　鹿田遺跡出土のガラス滓成分分析表
…… 464
表26　Ⅰ地点竪穴住居一覧表…… 465
表27　Ⅰ地点掘立柱建物一覧表…… 467
表28　Ⅰ地点柱穴列一覧表…… 467
表29　Ⅰ地点井戸一覧表…… 468
表30　Ⅰ地点野壺一覧表…… 471
表31　Ⅰ地点溝一覧表…… 471
表32　Ⅰ地点土壙一覧表…… 473
表33　Ⅰ地点土器溜り一覧表…… 482
表34　Ⅰ地点土器棺一覧表…… 482
表35　Ⅱ地点竪穴住居一覧表…… 483
表36　Ⅱ地点柱穴列一覧表…… 483
表37　Ⅱ地点井戸一覧表…… 483
表38　Ⅱ地点溝一覧表…… 484
表39　Ⅱ地点土壙一覧表…… 485

図版目次

図版1　Ⅰ地点
1　調査前全景（東から）
2　調査開始段階全景（南東から）
図版2　Ⅰ地点
1　南北断面（西から）
2　南壁断面（北から）
図版3　Ⅰ地点
1　東西断面（北から）
2　東西断面（北から）
図版4　Ⅰ地点
1　弥生時代遺構
AU ～ AZ 28～32区（東から）
2　弥生時代遺構
BB ～ BD 31～32区（西から）
図版5　Ⅰ地点
1　弥生時代遺構
AW ～ BA 36～39区（南から）
2　弥生時代遺構
AY ～ AX 34～36区（南から）
図版6　Ⅰ地点
1　竪穴住居－1（東から）
2　土壙－366　遺物出土状況
（南から）
図版7　Ⅰ地点
1　井戸－1（南から）
2　井戸－1　断面（南から）
図版8　Ⅰ地点
1　竪穴住居－3（南から）
2　竪穴住居－4（南西から）
図版9　Ⅰ地点
1　竪穴住居－7（東から）
2　竪穴住居－12（東から）
図版10　Ⅰ地点
1　井戸－2（西から）
2　井戸－2　井筒出土状況
（南から）
図版11　Ⅰ地点
1　井戸－3（東から）
2　井戸－3　遺物出土状況
（南から）
図版12　Ⅰ地点
1　土壙－23　遺物出土状況
（東から）
2　土壙－264　遺物出土状況
（南から）
図版13　Ⅰ地点
1　土壙－96　遺物出土状況
（東から）
2　土壙－158　遺物出土状況
（東から）
図版14　Ⅰ地点
1　土壙－231　断面（東から）
2　土壙－149　断面（西から）
図版15　Ⅰ地点
1　土器棺－2（南から）
2　土器棺－3（東から）
図版16　Ⅰ地点
1　土器棺－4（南から）
2　溝－37　断面（北から）

図版17　Ⅰ地点
1　井戸－4（南から）
2　井戸－4　遺物出土状況（東から）
図版18　Ⅰ地点
1　井戸－4　遺物出土状況（北西から）
2　井戸－7（西から）
図版19　Ⅰ地点
1　井戸－7　遺物出土状況（東から）
2　井戸－7　木器出土状況（東から）
図版20　Ⅰ地点
1　井戸－8　木器出土状況（南から）
2　井戸－12　遺物出土状況（南から）
図版21　Ⅰ地点
1　井戸－13　遺物出土状況（東から）
2　井戸－13　木器出土状況（南西から）
図版22　Ⅰ地点
1　土器溜り－2　東西断面（南西から）
2　土器溜り－2　遺物堆積状況（南から）
図版23　Ⅰ地点
1　竪穴住居－18（西から）
2　竪穴住居－19（北から）
図版24　Ⅰ地点
1　竪穴住居－21（西から）
2　竪穴住居－22（西から）
図版25　Ⅰ地点
1　竪穴住居－24（北東から）
2　竪穴住居－25（南から）
図版26　Ⅰ地点
1　井戸－14　遺物出土状況（東から）
2　井戸－14　遺物出土状況（南から）
図版27　Ⅰ地点
1　井戸－15（南から）
2　井戸－17　遺物出土状況（北から）
図版28　Ⅰ地点
1　井戸－18（東から）
2　井戸－18　遺物出土状況（西から）
図版29　Ⅰ地点
1　1号炉（西から）
2　作業風景
図版30　Ⅰ地点
1　土壙－368　遺物出土状況（東から）
2　BC 32区ピット34　骨・歯出土状況　（南西から）
図版31　Ⅰ地点
1　掘立柱建物－2（東から）
2　掘立柱建物－7（北から）
図版32　Ⅰ地点
1　井戸－20（西から）
2　井戸－20　断面（西から）

図版33　Ⅰ地点
1　井戸－20　井筒出土状況（南から）
2　井戸－20　完掘状況（東から）
図版34　Ⅰ　地　点
1　掘立柱建物－10・11（北から）
2　掘立柱建物－13・15（北から）
図版35　Ⅰ地点
1　井戸－21（西から）
2　井戸－21　井戸わく出土状況（東から）
図版36　Ⅰ地点
1　井戸－22　馬骨出土状況（北から）
2　井戸－22　遺物出土状況（北から）
図版37　Ⅰ地点
1　井戸－25　遺物出土状況（南から）
2　井戸－25　木器出土状況（南東から）
図版38　Ⅰ地点
1　井戸－29（南から）
2　井戸－29　遺物出土状況（南から）
図版39　Ⅰ地点
1　井戸－31（南から）
2　井戸－31　遺物出土状況（西から）
図版40　Ⅱ地点
1　調査開始段階全景（西から）
2　東壁断面（西から）
図版41　Ⅱ地点
1　弥生時代遺構全景（南から）
2　竪穴住居－1（北から）
図版42　Ⅱ地点
1　井戸－2　遺物出土状況（西から）
2　井戸－3（北から）
図版43　Ⅱ地点
1　土壙－5　遺物出土状況（南西から）
2　土壙－108　遺物出土状況（北から）
図版44　Ⅱ地点
1　竪穴住居－2（南から）
2　井戸－4　井筒出土状況（北から）
図版45　Ⅱ地点
1　井戸－4（東から）
2　中世遺構全景（南から）
図版46　Ⅱ地点
1　井戸－6（西から）
2　井戸－6　遺物出土状況（西から）
図版47　Ⅰ地点出土土器
弥生時代中期後半の土器1
図版48　Ⅰ地点出土土器
弥生時代中期後半の土器2
図版49　Ⅰ地点出土土器
弥生時代後期前半の土器1（井戸－3）
図版50　Ⅰ地点出土土器
弥生時代後期前半の土器2

（土壙－60）
図版51　Ⅱ地点出土土器
弥生時代後期前半の土器３
（Ⅱ地点井戸－１）
図版52　Ⅰ・Ⅱ地点出土土器
弥生時代後期前半の土器４
図版53　Ⅰ・Ⅱ地点出土土器
弥生時代後期前半の土器５
図版54　Ⅰ地点出土土器
弥生時代後期前半の土器６
図版55　Ⅰ地点出土土器
弥生時代後期前半の土器７
図版56　Ⅰ・Ⅱ地点出土土器
弥生時代後期前半の土器８
図版57　Ⅰ地点出土土器
弥生時代後期前半の土器９
（土器棺－１・２）
図版58　Ⅰ地点出土土器
弥生時代後期前半の土器10
（土器棺－４）
図版59　Ⅰ地点出土土器
弥生時代後期後半の土器１
（井戸－４）
図版60　Ⅰ地点出土土器
弥生時代後期後半の土器２
（井戸－７）
図版61　Ⅰ地点出土土器
弥生時代後期後半の土器３
（井戸－12）
図版62　Ⅰ地点出土土器
弥生時代後期後半の土器４
（井戸－９・13）
図版63　Ⅰ地点出土土器
古墳時代初頭の土器１
（井戸－14）
図版64　Ⅰ地点出土土器
古墳時代初頭の土器２
（土器溜り－４）
図版65　Ⅰ地点出土土器
古墳時代初頭の土器３
図版66　Ⅰ地点出土土器
古墳時代初頭の土器４
図版67　Ⅰ地点出土土器
古墳時代後期の土師器・須恵器
（土壙－410）
図版68　Ⅰ・Ⅱ地点出土土器
古代の土師器・須恵器
（井戸－20・Ⅱ地点井戸－４）
図版69　Ⅰ・Ⅱ地点出土土器
中世土器１（椀）
図版70　Ⅰ・Ⅱ地点出土土器
中世土器２（椀）
図版71　Ⅰ・Ⅱ地点出土土器
中世土器３（皿）
図版72　Ⅰ・Ⅱ地点出土土器
中世土器４（鍋）
図版73　Ⅰ・Ⅱ地点出土土器
中世土器５（瓦器・輸入陶磁器）
図版74　Ⅰ地点出土土器
製塩土器
図版75　Ⅰ・Ⅱ地点出土遺物
弥生時代の土製品・金属器
・ガラス滓
図版76　Ⅰ・Ⅱ地点出土遺物

土錘・中世の遺物
図版77　Ⅰ地点出土土器
1　縄文土器
2　弥生時代前期土器
図版78　Ⅰ地点出土石器
1　石鏃・楔形石器・石庖丁
2　スクレイパー
図版79　Ⅰ地点出土石器
1　砥石1
2　砥石2
3　不明石器
図版80　Ⅰ地点出土石器
1　石　錘
2　敲　石
図版81　Ⅰ・Ⅱ地点出土石器
1　磨石（Ⅰ地点）
2　軽石・石鍋（Ⅰ地点）
3　石庖丁・スクレイパー（Ⅱ地点）
4　軽石・石鍋（Ⅱ地点）
図版82　Ⅰ地点出土木器
弥生～古墳時代初頭の木器
図版83　Ⅰ地点出土木器
古代・中世の木器
図版84　Ⅱ地点出土木器
木器（Ⅱ地点 井戸－1・4・5）
図版85　鹿田遺跡よりの出土種子
鹿田遺跡より出土したメロン
仲間 Cucumis melo L の種子
図版86　メロン仲間の現生種子と出土種子
メロン仲間の各種現生種子と
遺跡出土種子
図版87　雑草メロン
1　西日本各地の離島から採集した
雑草メロン
2　長崎県五島列島の荒れた畑に
自生している雑草メロン
3　香川県小豆島のサツマイモ畑に
自生している雑草メロン
図版88　種子
1　井戸－1（Ⅰ地点）出土メロン
2　同上拡大
図版89　種子
1　井戸－1（Ⅰ地点）出土
タカサブロウ
2　井戸－1（Ⅰ地点）出土
イヌビユ

第１章　調査の経過と遺跡の概要

１．遺跡の位置と周辺遺跡の概要

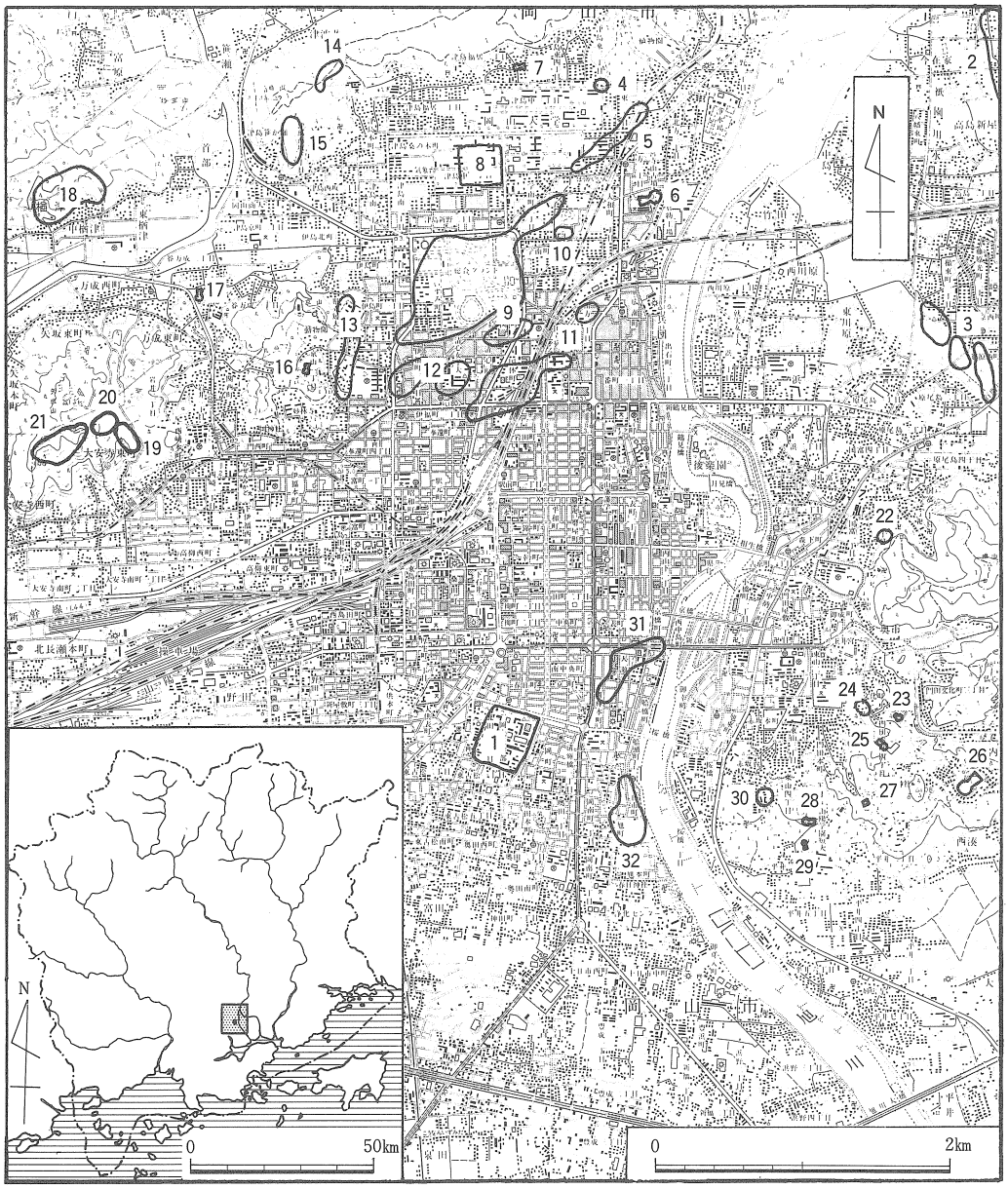
岡山大学鹿田地区は岡山市旧市街地の南部，岡山市鹿田町２丁目５番１号に所在する。鹿田遺跡は，この岡山大学鹿田地区内のほぼ全域にわたって存在すると推定され，岡山平野を南流する旭川西岸の沖積地上に立地している。旭川を狭んだ東約２㎞には操山山塊が，北約５㎞には半田山山塊が広がっており，鹿田遺跡が立地する岡山平野の形成は，約6000年前の縄文海進以後，急速に進んだものとみられる。平野内には旭川の旧河道やそれにともなう自然堤防などの微高地の存在が各所で認められ，本遺跡も標高１～２ｍ前後の微高地上に基本的には立地しているものとみられる。

本遺跡周辺の遺跡について概観すると，現在のところ，最古の遺跡として，操山山塊に立地するナイフ形石器が採集された操山218号遺跡（旗振台古墳，北部古墳）があげられる(註1)。また，同じく操山山塊に立地する操山217号遺跡（門田常任寺東南遺跡）では細石器が採集されている(註2)。限られた例ではあるが，これから，旧石器時代には，現在の岡山平野の背後に控える操山山塊などの小山塊・丘陵部を中心に人間生活が営まれていたことが窺われる。

縄文時代においては，本遺跡周辺では，現在のところ，縄文前期以前の遺跡の存在は不明である。中期以降になると，沖積部にも遺跡の存在が確認される。例えば，旭川東岸の百間川遺跡群においては，縄文中期～晩期土器や晩期の遺構が確認されている(註3)。また，旭川西岸では，半田山山塊の東南端の丘陵部から沖積部にかけて縄文後期の朝寝鼻貝塚が立地している(註4)。さらに，より南の沖積部では，岡山大学農学部構内においても，縄文中期末～晩期土器が確認されており(註5)，岡山県総合グランド内の津島遺跡でも，縄文晩期土器が出土している(註6)。津島遺跡から直線距離で約３㎞南に位置する本遺跡においても，僅かであるが縄文中期・晩期土器が検出されている。これらの土器は小破片であるが，磨滅の程度は低く，比較的近辺に該期の遺跡が存在するものと推定される。

これらのことから，先に触れた縄文海進以降の沖積化の進行は急速なものであったとみられ，鹿田遺跡周辺においても，縄文中期以降には既に生活可能な微高地が形成され，縄文人の活動が展開されていた可能性が窺れるのである。

弥生時代に入ると，旭川東岸の百間川遺跡群(註7)・旭川西岸の津島遺跡(註8)・南方遺跡(註9)などの農耕集落が平野部に出現する。鹿田遺跡は東北１㎞に位置する天瀬遺跡(註10)とともに，現在のところ，狭義の岡山平野に出現した最南の弥生集落となっている。今回の鹿田遺跡の調査では，弥生中



1．**鹿田遺跡**　2．備前国庁跡（古代～中世）　3．百間川原尾島遺跡（弥生～江戸）　4．朝寝鼻貝塚（縄文後期）　5．津島江道遺跡（弥生）　6．神宮寺山古墳　7．お塚様古墳　8．岡山大学津島地区遺跡群（縄文晩期～江戸）　9．津島遺跡（縄文晩期～中世）　10．中溝遺跡（弥生中期～江戸）　11．南方遺跡（弥生・古墳）　12．上伊福遺跡（弥生・古墳他）　13．上伊福西遺跡（弥生後期他）　14．都月坂墳墓群　15．七ツ坑古墳群　16．津倉古墳　17．青陵古墳　18．中楯津古墳群　19．正野田古墳群　20．矢坂山東古墳群　21．矢坂山西古墳群　22．操山４号墳　23．操山103号墳　24．操山217号遺跡（旧石器）　25．操山106号墳　26．湊茶臼山古墳　27．操山111号墳　28．網浜茶臼山古墳　29．操山109号墳　30．網浜廃寺（白鳳～平安）　31．天瀬遺跡（弥生中・後期）　32．二日市遺跡（弥生～江戸）

図１　鹿田遺跡周辺主要遺跡分布図　縮尺 1/50000

期前半以前の遺物は僅かで，遺構も確認されておらず，天瀬遺跡もほぼ類似した様相を呈するとみられることから，これらの岡山平野南部への定住的な集落の進出は，北部に比べて相対的に遅れ，弥生中期以降のことと考えられるのである。

これらの平野部の集落は，鹿田遺跡にみられるように，一般に弥生中期以降にその分布と規模を拡大し，古墳時代初頭まで継続するものが多く認められる。また近年では弥生時代以降の水田址が百間川遺跡群や中溝遺跡で発見されている。

一方，弥生後期末以降，半田山山塊には，都月坂墳墓群，七つ坑古墳群等の弥生時代墳丘墓，前方後円（方）墳が展開し，また，操山山塊には，網浜茶臼山古墳，湊茶臼山古墳などの古墳時代前期の前方後円墳や円墳，古墳時代後期の円墳や方墳などが群在している。

このような古墳群の展開から，該期において一層の社会的基盤の発達があったことが窺われるが，岡山平野部においては，本遺跡や津島遺跡あるいは百間川遺跡群などで，該期の竪穴住居などが確認されているが，その具体的な様相は，現在のところ必ずしも明らかではない。

古代以降においては，本遺跡をはじめ，百間川遺跡群などで，掘立柱建物，井戸，溝，などの遺構をともなう集落遺跡が少なからず確認されている。また，備前国府は，旭川東岸の操山山塊と龍ノ口山塊との間の平野部に推定され，周辺部には条里地割が比較的良好に残存している。一方，旭川西岸においても，条里に関連するとみられる遺構が一部で確認されている。津島遺跡では，条里制施行に関連するとみられる古墳時代後期以後の整地土層や畦・溝[註11]が，岡山大学津島地区構内の小橋法目黒遺跡においては，坪境に相当すると推定される平安前期の溝[註12]が，それぞれ検出されており，旭川西岸でも，条里制の施行は，主に岡山平野北部を中心に，かなり古く遡るものと推定される。

また，岡山平野南部は，古代から中世にかけては，荘園地帯をなしており，藤原氏の殿下渡領であった鹿田庄や春日神社の社領であった荒野庄などの存在が知られている。特に，本遺跡が位置する鹿田地区周辺は，鹿田庄の有力な比定地となっている[註13]。今回の調査において，本地区周辺が奈良から平安初期には本格的に開発されたと推定されることは，記録上その成立が奈良時代に遡る鹿田庄との関係を考える上で注目される。

岡山平野南部地域は，近世以降，干拓を中心とした大規模な開発が進められる。その中で，本遺跡の東１㎞に存在する二日市遺跡においては，寛永通宝鋳造関係遺構が検出され，銭座跡に比定されている[註14]。

鹿田遺跡は近世以降水田化されており，その周辺地域も基本的に水田地帯を形成していたとみられる。本遺跡においては，1921年（大正10年）に岡山大学医学部および同附属病院の前身である岡山医学専門学校および岡山県立病院が建設され，また周辺地域も漸次市街地化し，現在に至っている[註15]。

2．調査に至る経過

岡山大学鹿田地区構内においては，1980年４月に岡山市教育委員会が行った歯学部校舎および同附属病院棟新営工事に先立つ確認調査によって，中世土器が確認され，周辺部に中世期の埋蔵文化財が包蔵されていることが示唆されていた。

さらに，1982年３月には，医学部附属動物実験施設新営工事に際し，岡山市教育委員会によって，中世の遺構・遺物が存在することが確認され，1982年４月には，同教育委員会より本学に対し，鹿田地区内に埋蔵文化財包蔵地が存在することが通知された。そして，同年６月には，岡山県教育委員会によって，同じく医学部附属動物実験施設新営工事に伴う排水管等布設工事に伴う立会調査が行われ，中世の土壙および土器類が検出された(註16)。続いて，同年７月には，医学部標本保存庫新営その他工事に伴って，岡山県教育委員会によって確認調査が実施され，ここでも遺物包含層の存在が確認されている。

以上のような，過去の岡山県・市両教育委員会の調査から，本鹿田地区内には鹿田遺跡が存在することが明瞭となり，本地区内の土木工事等においては埋蔵文化財に対する慎重な対応が必要となった。このような状況の中で，医学部附属病院外来診療棟の改築工事が計画され，岡山県および岡山市両教育委員会によって，工事に先立つ確認調査が実施された。その結果，中世遺物包含層に加えて，弥生時代後期土器や弥生時代ないし古墳時代前半の土器片を含む溝状遺構が検出され，弥生時代の遺物包含層も存在する可能性が指摘されることとなった(註17)。

一方，1982年２月に設置された岡山大学施設設定委員会埋蔵文化財保護対策検討専門委員会では，大学構内の埋蔵文化財の保護・調査に対応する組織として，1983年３月に，埋蔵文化財調査室を設置し，この埋蔵文化財調査室が医学部附属病院外来診療棟改築予定地の発掘調査を担当することとなった。さらに，医学部附属病院ＮＭＲ—ＣＴ室新築予定地が，同外来診療棟改築予定地に近接することから，工事に先立つ発掘調査の必要性が認められ，同じく埋蔵文化財調査室が外来診療棟改築予定地の調査と並行して担当することとなったのである。

3．調　査　組　織

埋蔵文化財保護対策検討専門委員会

委　員　長　新　見　嘉兵衛（医学部教授）1983年６月まで
〃　緒　方　正　名（医学部教授）1983年７月から
委　員　吉　田　晶（文学部教授）　小　川　勝　士（医学部教授）
近　藤　義　郎（文学部教授　岡山大学埋蔵文化財調査室長）　小田嶋　梧　郎（歯学部教授）　大　和　正　利（薬学部教授）

稲　田　孝　司（文学部助教授）　成　田　英　夫（教養部教授）
難　波　良　司（教育学部教授）

（1983年度）　稲　田　陽　一（法学部教授）　中　島　利　勝（工学部教授）
浦　田　昌　計（経済学部教授）　益　田　忠　雄（農学部教授）
山　田　　宰（理学部教授）

（1984年度）　上　村　明　廣（法学部教授）　野　原　　望（医学部教授）
橋　本　博　之（経済学部教授）　中　田　高　義（工学部教授）
武　丸　恒　雄（理学部教授）　小　西　国　義（農学部教授）

幹　　事　藤　嶋　　茂（庶務部長）　1983年度
近　藤　　寛（庶務部長）　1984年度
濱　中　敬　三（経理部長）　中　岡　善　吉（施設部長）
山　下　彰　三（学生部次長）　1983年９月まで
島　田　祥　生（　〃　）　1983年10月から

調査主体　岡山大学学長　大藤　眞

調査総括　吉留秀敏（岡山大学埋蔵文化財調査室助手）

調　査　員　池上　　博（岡山大学埋蔵文化財調査室技術補査員）　1984年４月１日～同年８月31日
〃　今津　啓子（同）　1984年４月16日～同年９月30日
〃　栄　　一郎（同）　1984年４月１日から
〃　新納　　泉（同）　1984年３月７日～同年５月31日
〃　平井　典子（同）　1983年８月１日～1984年８月31日
〃　山本　悦世（同）
〃　小池　伸彦（広島大学文学研究科大学院生）　1984年３月８日～同年３月30日
〃　鈴木　康之（同）　1984年６月１日～同年７月30日

調査補助員　青木進治郎（岡山大学経済学部学生）　調査補助員　馬場　　洋（同）
〃　伊藤　　真（同）　〃　宮原　博幸（同）
〃　鈴木　英男（同）　〃　力竹　孝典（同）
〃　八谷　隆生（同）

調査協力者　宇垣匡雅（岡山大学文学部助手），家田淳一，大久保徹也，小池幸夫，駒井正明，高井健司，田中裕介，千葉豊，贄元洋，松井潔，吉村健（以上岡山大学文学研究科大学院生），五十嵐直志，池橋幹，北條芳隆，南堀正（以上岡山大学文学部学生），山田雅子（岡山県教育委員会）

4．調査の方法と経過

(1) 構内座標の設定と区割

岡山大学鹿田地区は岡山市の旧市街地南部に位置し，現在，本地区周辺には，市中央部において認められる正方位の条里地割とは異なり，その南北軸を若干東へ振った地割が残存している。そこで，本地区では周辺の地割にあわせた構内座標を設定した。すなわち，国土地理院第５座標系の南北軸座標値（Ｘ＝－149,800ｍ）と東西軸座標値（Ｙ＝－37,400ｍ）を原点とし，南北軸を座標北から15°東へ振った構内座標を設定した。原点は本学鹿田地区構内の東北端から約18ｍ東北の地点にある（図２）。

調査においては，この構内座標に基づいて一辺５ｍの正方形の区割を設定した。すなわち原点を通る東西線をＡＡラインとし，それより南へ５ｍごとの東西線をＡＢライン，ＡＣラインのごとく呼び，原点を通る南北線をＯＯラインとし，西へ５ｍごとの南北線をＯ１ライン，Ｏ２ラインのように呼び，両方向のラインによって区切られる一辺５ｍの正方形の区画を調査区区割の単位とした。５ｍ区画単位は，その東北角で交わる二方向のライン名を組み合わせて，ＡＡＯＯ区のごとく呼称する。

(2) 基本層序の設定

本学鹿田地区では，以前の試掘調査等の結果と今回の発掘調査の進行にともない，主として堆積時期をもとにしてⅠ層～Ⅵ層の基本層序を設定している。その後の試掘調査などの成果も総合すると，現時点での本学鹿田地区の基本的な堆積状況は以下のようにまとめることができる（図３[註18]）。

Ⅰ層は現代の表土と本学医学部および同附属病院の前身である岡山医学専門学校と岡山県立病院建設時の造成土である。現地表の標高は2.0～2.8ｍ前後で，Ⅰ層の層厚は一般に１ｍ前後を測る。

Ⅱ層は近世から近代の造成直前までの水田土壌の累層である。一般に水分を多く含む軟質の灰色土で，乾燥すると淡灰色を呈するようになる。本層は鹿田地区のほぼ全域にわたって存在するが，その上面の標高は地点によって差が認められる。

Ⅲ層は古代以降Ⅱ層堆積直前までの堆積土を一括したものである。本層は鹿田地区の北端部（Ａ，Ｂ地点）と南半部（Ｇ～Ｉ地点）で認められ，一般に茶褐色系の色調を呈する粘質土もしくは微砂土である。このⅢ層は主として中世の遺物包含層となっており，今回の調査区には古代・中世の遺構が残存することから，Ⅲ層が確認されなかった今回の調査区とその周辺は当時においては高位部に当り，後代の造成によって本来存在していたⅢ層は削平されたものと推定される。

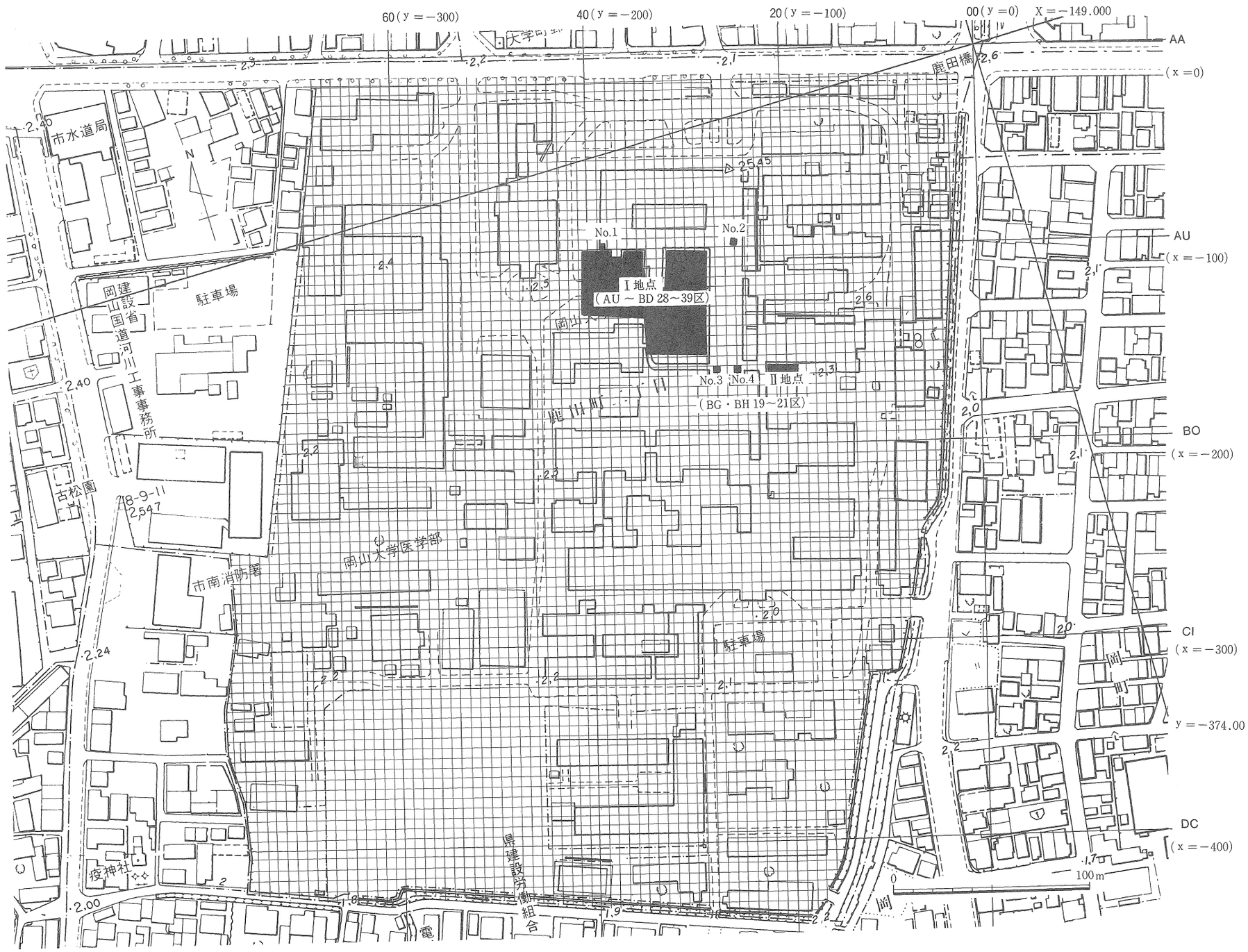
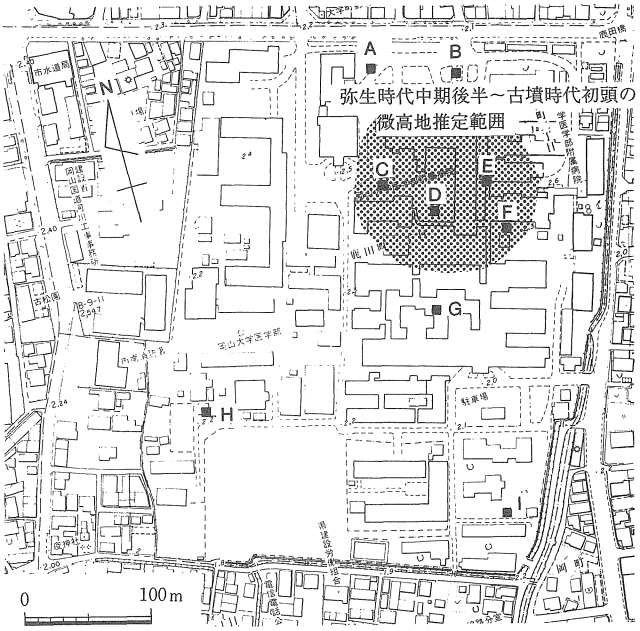


図２　鹿田地区全体図と調査地点　　縮尺 1/2500

Ⅳ層は古墳時代後期以前で，古墳時代初頭よりも新しいと推定される堆積層を一括しているが，包含遺物が乏しく，その堆積時期は必ずしも明瞭ではない。本層としたものは，今回の調査区周辺地域では，一般に灰茶色系の色調の粘質土もしくは微砂土であるが，本地区北端部（B地点）でⅣ層としたものは，流水下の堆積とみられる細砂であり，地点によって堆積状況に相違が認められる。



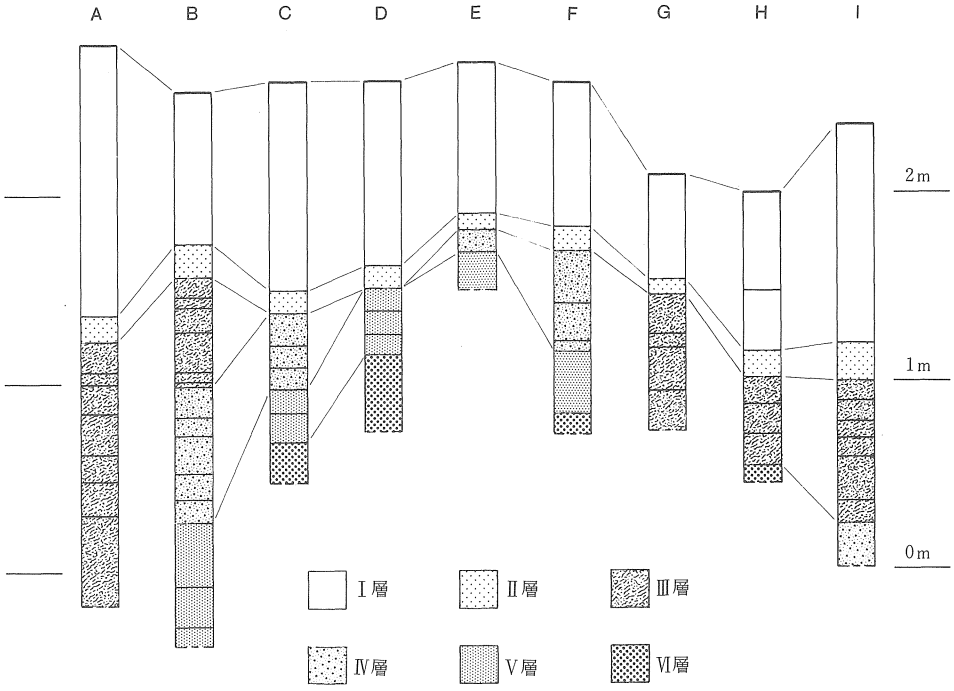


図３　微高地の推定範囲と土層柱状図　縮尺 1/6000，1/40

Ⅴ層は弥生時代中期後半から古墳時代初頭にかけての遺物包含層を一括したものである。現在のところ，本層は本地区南半部では認められず，本地区北側部分（Ｃ～Ｆ地点）を中心に確認しており，中でもＥ地点において最も高位に位置している。これらの地点のⅤ層は，主に暗黄褐色または灰褐色系の色調を呈する砂質土層であるが，本地区北端部のＢ地点のⅤ層相当層はいずれも砂層であり，遺物は周辺から流れ込んだものである。これらの状況から，弥生時代中期後半から古墳時代初頭にかけての微高地が，今回の２つの調査地点を中心とした範囲に存在していたものと推定される。

Ⅵ層はⅤ層より下位の現在遺物未検出の堆積層を一括したものである。本地区南側部分においてはその最上位は一般に黄褐色砂質土であり，弥生～古墳時代初頭の基盤層となっている。それ以下は暗灰色粘質土・粘土と続き，さらに標高１ｍ前後で湧水層である青灰色砂層に達する。

このⅥ層からは先に触れたように現在のところ遺物は発見されていないが，今回の調査では本層まで掘り込まれた弥生時代中期後半以降の遺構中から，縄文時代中期・晩期土器，弥生時代前期土器が僅かではあるが検出されており，本地区での安定した微高地の形成ならびに遺跡の出現はさらに遡る可能性が考えられる。

(3) 調査の概略

Ⅰ地点（ＡＵ～ＢＤ28～40区）

Ⅰ地点の調査面積は2188㎡である。本地点の調査は1983年７月27日から開始し，Ⅱ地点の調査との関係で同年11月22日に一時中断，そして翌1984年１月９日から再開し，同年８月31日に現地作業を終了した。

調査は機械により造成土（Ⅰ層）を除去し，Ⅱ層以下は手掘りで下げた。Ⅱ層は近代の水田土壌であり，調査区西南側が一段低く造成されており，このⅡ層下面からは水田に伴う近代の野壺，溝を検出した（附図８）。この水田造成によって，Ⅲ層および南側部分のⅣ層は削平され，消失していた。Ⅳ層以下の調査は，面的に層の広がりを追求するのが困難であったため，５～20㎝前後の厚さの人工層位によって掘り下げをおこなった。その結果，標高145～185㎝の間で，古墳時代後期の竪穴住居・土壙，古代～中世の掘立柱建物・井戸・溝・土壙等を検出した。これらの遺構は後世の水田造成によるⅣ層の完全な削平を免れた調査区東北半に主に検出されている。その検出面はⅣ層上面から中位もしくはⅣ層が削平されたところではⅤ層上面に相当するが，本来の掘り込み面はいずれも既に削平されたⅢ層中に存在したものと推定される。さらに標高135㎝以下において，弥生時代中期後半から古墳時代初頭にかけての多量の遺構群を調査区全域で検出しており，その掘り込み面はⅤ層中に相当する。弥生中期後半の遺構は相対的に下位で検出される傾向が認められたが，面的に確認することはできなかった。調査は全

域を標高80～100cm前後まで下げ，一部土手沿いにⅥ層の截ち割りをおこなって終了した。

Ⅱ地点（ＢＧ・ＢＨ19～21区）

Ⅱ地点の調査面積は176㎡である。本地点の調査は1983年８月１日に開始し，同年12月30日に終了した。調査は機械により造成土（Ⅰ層）を除去し，Ⅱ層以下は手掘りで下げた。本調査区においてもⅠ地点と同様にⅢ層は既に削平されており，Ⅳ層以下は人工層位にもとづいて調査をおこなった。その結果標高140～170cm間では，古墳時代後期の竪穴住居，古代の柱穴列・井戸・溝・土壙・柱穴，近世の溝などを検出した。これらの遺構の検出面はⅣ層上面から中位に相当するが，その本来の掘り込み面は既に削平されたⅢ層の上面またはⅢ層中に存在したものと推定される。さらに標高120cm以下において，弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構群を検出した。該期の遺構は鹿田・後・２期に属するものが大半であり，弥生時代中期に遡る遺構は確認されていない。これらの遺構群の検出面はⅤ層に対応する。調査は弥生時代～古墳時代初頭の遺構群の調査の完了をもって終了した。

旧外来診療棟跡地の試掘調査

Ⅰ地点の調査と並行し，1984年８月22～24日，同８月29～30日に旧外来診療棟跡地の試掘調査を４地点でおこなった（図２　No.１～４）。各地区とも旧外来診療建物基礎による攪乱が，標高50～70cm前後まで達しており，Ⅴ層より上位の堆積は既に削平され，消失していた。

現地説明会

1983年10月29日には，Ⅰ地点およびⅡ地点共通で，古代～中世の遺物検出状況を中心とした現地説明会を実施した。さらに，1984年５月19日にはⅠ地点の主に弥生時代の遺構群についての現地説明会をおこなった。（栄）

(4)　時期設定ほか

時　期　設　定

【弥生時代～古墳時代初頭】

岡山県南部における編年案は最近の資料の増加とともに修正・細分が進んでいる。その中で上東遺跡での編年案[(註19)]，そして，それを基本的に踏襲し雄町遺跡での編年案を参考にした百間川遺跡での便宜的な編年案等[(註20)]にみられる前期・中期を各々３期に，後期を４期に，古墳時代前期を３期に大別し，その中で新相と古相を設定する編年が一般的に用いられる傾向がある[(註21)]。ここでは，周辺遺跡の状況を考慮に入れ，対応関係に混乱が生じないように上記の区分方法を

基本的な大枠とし，それにあわせて鹿田遺跡における時期設定を行った。弥生時代中期については今回調査の出土遺物が中期後半に限定されたものではあったが，将来的な資料増加の可能性を考えて鹿田・中・３期とし，後期については鹿田・後・１期～４期に四分し，新・旧の様相が認められる２・４期については古相にａ，新相にｂを附した。そして古墳時代については古墳時代初頭を鹿田・古・１期とし，ａ・ｂ期に細分した。周辺遺跡との対応関係は表１のようになる。

【古墳時代～近世】

古墳時代：２期区分法をとり前期と後期とに分ける。実年代では前期を４・５世紀，後期を６・７世紀にあてた。

古代：８世紀～11世紀前半（後述の中世以前）

中世：岡山県南部において中世土器の指標となる土師質高台付椀（いわゆる「早島式土器」）の存在が少なくとも11世紀後半まで遡る可能性が高いことから，実年代を11世紀後半～16世紀後半とする。

近世：17世紀～19世紀中頃（明治時代以前）

便宜的に以上のように設定し，本文中において大きな範囲で捉える場合には時代を，そして，時期的な細分が可能で，実年代の明白な資料についてはそれを明記した。　　（山本）

表１　編年対比表

時期＼遺跡			鹿　田	百間川	上東・川入
弥生時代	前期	津島		百間川前期Ⅰ	
		門田		〃　〃　Ⅱ	
				〃　〃　Ⅲ	
	中期	南方		〃　中期Ⅰ	
		菰池		〃　〃　Ⅱ	
		前山Ⅱ	鹿田・中・３期	〃　〃　Ⅲ	
		仁伍			上東・鬼川市０
	後期	上東	〃・後・１期	〃　後期Ⅰ	〃・〃　Ⅰ
			〃・〃・２ａ期	〃　〃　Ⅱ	〃・〃　Ⅱ
			〃・〃・２ｂ期		
		グランド上層	〃・〃・３期	〃　〃　Ⅲ	〃・〃　Ⅲ
		酒津	〃・〃・４ａ期	〃　〃　Ⅳ	才の町　Ⅰ
			〃・〃・４ｂ期		〃　Ⅱ
古墳時代	前期	王泊６層	〃・古・１ａ期	〃　古墳時代Ⅰ	下田所
			〃・〃・１ｂ期		
				〃　〃　Ⅱ	亀川上層
					＋
				〃　〃　Ⅲ	川入・大溝上層

報告書内での文章・図・表の表記方法ほか

1　調査の概要は『岡山大学構内調査研究年報』１・２　1984年　において既に報告しているが，本報告と相違がある場合，本報告をもって訂正したものとする。特に，遺構番号については表２・表３において各々を対応させている。

2　遺物番号は，土器については遺構別に，その他の遺物については調査区別に次の略号を付け，通し番号とした。石器：Ｓ，木器：Ｗ，土製品：Ｐ，金属器：Ｍ，骨角器：Ｂである。

3　観察表の掲載は，遺物については本文中に遺物実測図とセットにし，遺構については第４章考察の後に附表としてまとめた。

表２　Ⅰ地点における遺構番号対応表

時期	本報告	年報１	年報２	時期	本報告	年報１	年報２
弥生時代	竪穴住居 1		SB 23	古代	柱穴例 3	SB 19	
～古墳時代	〃 12		〃 16		井戸 20	SE 21	
初頭	〃 18		〃 24		溝 68	SD 8	SD 70
	井戸 2		SE 22	中世	掘立柱建物 10	SB 1	
	〃 13		〃 25		〃 11	〃 2	
	〃 17		〃 50		〃 14	〃 3	
	土壙 142		SK 122		〃 12	〃 4	
	土器棺 2		〃 1		〃 13	〃 5	
古墳時代後期	竪穴住居 26	SB 7			〃 15	〃 6	
	土壙 410	SK 9			井戸 21	SE 14	
	〃 416	〃 10			〃 29	〃 17	
	〃 422	〃 12			溝 70	〃 4	SD 4
	〃 423	〃 13			〃 71	〃 5	〃 16
古代	掘立柱建物 3	SB 10		近世	野壺 2	SE 2	
	〃 1	〃 12			〃 3	〃 3	
	〃 4	〃 13			〃 4	〃 4	
	〃 5	〃 14			〃 5	〃 5	
	〃 6	〃 15			井戸 34	〃 1	
	〃 7	〃 16			野壺 7	〃 7	
	〃 8	〃 17			溝 64	SD 1	
	〃 9	〃 18			〃 66	〃 2	

表３　Ⅱ地点における遺構番号対応表

時期	本報告	年報１	年報２	時期	本報告	年報１	年報２
弥生時代	竪穴住居 1	SB 2		中世	井戸 6	SE 3	
～古墳時代	井戸 3	SE 5			溝 8	SD 5	
初頭	〃 2	〃 6			〃 19	〃 6	
	〃 1	〃 7			〃 14	〃 7	
古墳後期	竪穴住居 2	SB 1			〃 11	〃 8	
古代	井戸 4	SE 4					
	柱穴列 4	SA 1					

表4　時期別主要遺構一覧表

時期＼遺構名			竪穴住居		井戸		溝		土壙		土器棺	土器溜り
時期		地点	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ
弥生時代	中期	3期	1・2・3		1				64・65・98・110・117・162 192・234・254・318・357・366			
	後期	1期										
		2a期	7・5・3 6 8・4		2 3		37		23・54・60・63・82 87・105・109・118・147 149・158・200・264 268・284	66 35 23 5	1～4	
		2b期	12	1		1			71・96・193・231 69・194	3 8・9 12・43		
		3期	13 12 9 14		4	2 3			4・8・21・38	80 84		1
		4a期	12・15・11・10		5 6・7・8 11				50・132・202・230	101		2
		4b期			10・9 12・13							
古墳時代	前期	1a期	18・16 19・17・21		14・15 16・19 17				142			2・3・4
		1b期	20・22・23		18					102・108		
			24									
	後期		26	2					410・422・423			5
古代			建物1～9		20	4	68・69					
中世	11C後半		建物10～15		21							
	12C				22～27 28		70・71	8 19		123		
	13C前半				29　30	5						
	13C後半				31	6						
	14C				32			14				
近世					34							

（　→　遺構の連続性を示す。）

遺物観察表の表記の中で用いた工具使用ナデとは工具の単位が明瞭でナデ状を呈する非常に細かく浅いハケ状の調整を指す。また胎土については微砂：径0.5㎜以下，細砂：径0.5～1㎜，粗砂：径1～2㎜，細礫：径2㎜以上の基準で示している。

遺構観察表の表記方法の説明は附表に前置きとして記している。

4　図・図版の縮尺は基本的には下記のようになる。

〈図〉　遺構：竪穴住居 1/60，井戸・土壙等 1/30

遺物：土器・土製品 1/4，石器 2/3・1/3，木器 1/4，金属器 1/2

〈図版〉遺物：土器 約1/4（弥生～古墳時代初頭）・約1/3（古墳時代～中世），

石器 約2/3・1/2，木器 約1/4，金属器・土製品・製塩土器 約1/2

例外のものについては，各々についてその縮尺値を明記した。

5　本報告書で用いる高度値は標高であり，方位は真北である。

6　全体図は附図にした。本文中で各時期の概要の下に掲載した全体図は攪乱等を除去し，該期の遺構のみを復元可能な限り記入した図である。

7　遺構名は文章・図・図版中の一部で掘立柱建物：建物，竪穴式住居：住，井戸：井，土壙：土と略号化して使用した。また，時期表示に際しても一部で「鹿田」の名称を略した。

8　本文中に掲載した遺構については表4においてその所属時期をまとめている。

9　本報告書に掲載した地形図でS＝1/50000のものは建設省国土地理院発行の岡山北部と南部の図を合成したものである。　（山本）

註

1　鎌木義昌「第一編　原始時代」『岡山市史（古代編）』　1962　14～15頁

2　註1文献　16～17頁

3　岡山県教育委員会「百間川沢田遺跡2　百間川長谷遺跡2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』59　1985

4　註1文献　33頁

5　吉留秀敏ほか「岡山大学津島地区遺跡群の調査」Ⅱ『岡山大学構内遺跡発掘調査報告』第2冊　1986

6　津島遺跡調査団『昭和44年岡山県津島遺跡調査概報』　1969
岡山県教育委員会『岡山県津島遺跡調査概報』　1970

7　岡山県教育委員会「旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査」Ⅰ～Ⅴ『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』39・46・51・52・56　1980～1982　1984および註3文献

8　註5文献

9　出宮徳尚ほか「南方（国立病院）遺跡発掘調査報告」　1981

10　出宮徳尚「50　天瀬遺跡」『岡山県史　第十八巻　考古資料』　1986　116頁

11　註5文献

12　家田淳一ほか「岡山大学津島北地区小橋法目黒遺跡（ＡＷ14区）の発掘調査」『岡山大学構内遺跡発掘調査報告』第１集　1985

13　藤井駿「備前国鹿田庄について」魚澄惣五郎編『瀬戸内海地域の社会史的研究』　1952

14　出宮徳尚「岡山県二日市遺跡」『日本考古学年報』35　1985　248～251頁

15　本節の執筆および図１の作成には，岡山市教育委員会発行の『岡山市埋蔵文化財分布地図』 1983　を参照した。

16　光永真一「岡山大学医学部附属動物実験施設新営工事に伴う排水管等布設工事に伴う立会調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13　1983　125～126頁

17　河本清「岡山大学医学部附属病院外来棟改築に伴う確認調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13　1983　127頁

18　図３のＡ～Ｉ地点の土層柱状図は以下の資料に基づいて作成した。

Ａ・Ｂ地点：1985年12月の岡山大学埋蔵文化財調査室による試掘調査資料による。

Ｃ・Ｄ地点：岡山大学埋蔵文化財調査室による今回のⅠ地点調査資料による。

Ｅ地点：1983年10月の岡山大学埋蔵文化財調査室による外来診療棟蒸気配管埋設工事に伴う立会調査資料による。

山本悦世，吉留秀敏「昭和58年度岡山大学構内の試掘・立合調査報告」『岡山大学構内遺跡調査研究年報』１　1985　27～29頁

吉留秀敏「昭和59年度岡山大学構内の試掘・立合調査報告」『岡山大学構内遺跡調査研究年報』２　1985　23～25頁

吉留秀敏「昭和59年度岡山大学構内の試掘・立合調査報告」『岡山大学構内遺跡調査研究年報』２　1985　23～25頁

Ｈ地点：1982年３月の岡山市教育委員会による医学部附属動物実験施設新営工事に伴う調査資料による。資料は岡山市教育委員会より提供を受けた。

Ｉ地点：1985年３月の岡山大学埋蔵文化財調査室による試掘調査資料による。

19　伊藤晃・柳瀬昭彦ほか「上東遺跡の調査」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』２　1974

柳瀬昭彦「Ⅴ．結語　川入・上東遺跡の弥生式土器及び古式土師器について」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』16　1977　172～178頁

20　江見氏はここで「この時期区分は当遺跡群調査終了の時点で，弥生時代以外の時期も含め、改めて組み直し、各々の時代区分及び細分を行う予定である。」と附している。

江見正己「第２章　調査および報告書作成における問題点」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』39　1980　25頁

21　これ以外に

高橋護「入門講座　弥生土器　山陽」『月刊考古学ジャーナル』173・175・179．181　　1980

同「研究報告」７　岡山県立博物館　1986　の土器編年がある。

第２章　Ⅰ地点（ＡＵ～ＢＤ28～40区）の調査

１．調査区の位置

本調査は既述のように岡山大学医学部附属病院外来診療棟改築予定地に対して実施した。調査区は本学鹿田地区の北側ほぼ中央に位置し，発掘調査以前は旧外来診療棟と旧耳鼻科棟および中央診療棟とに囲まれた駐車場であった。調査区は中央北側と西南側が抉られた東西に長い長方形状を呈している。東西の最大長は約61ｍ，南北の最大長は約48ｍを測り，面積は2188㎡である。本調査区は本学鹿田地区構内座標に基づく地区割ではＡＵ～ＢＤ28～40区に位置している（図４）。

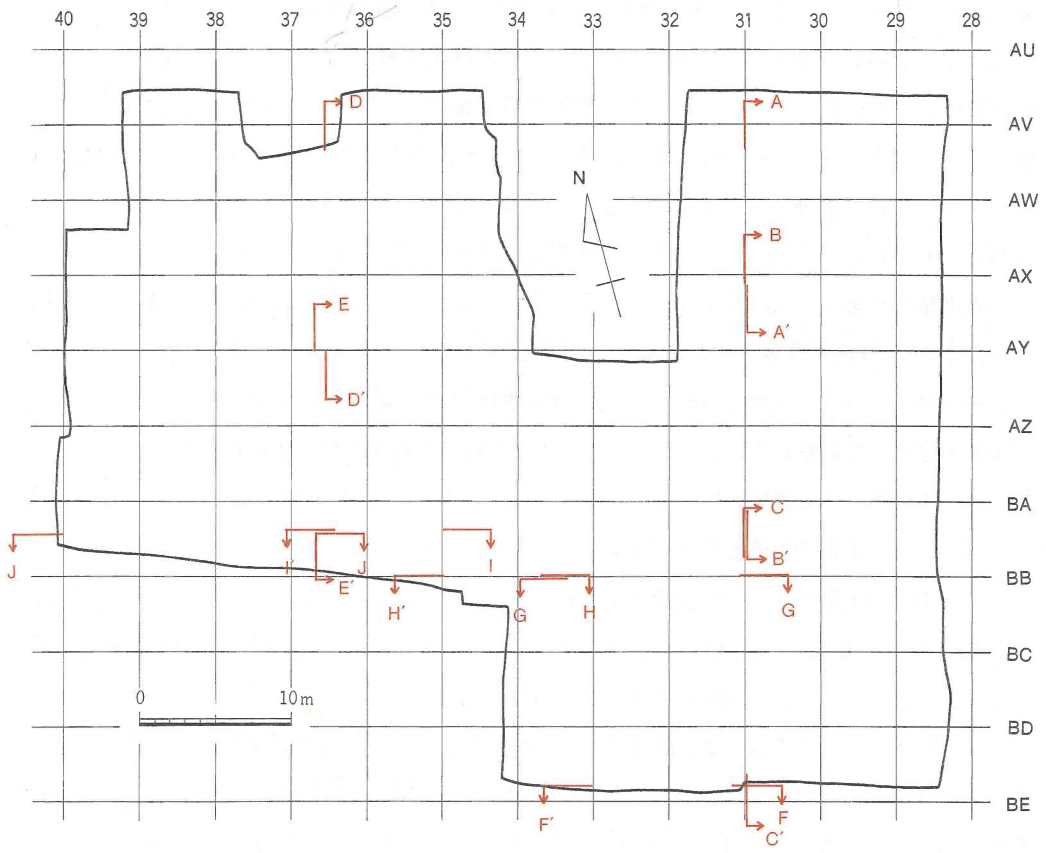


図４　調査区の区割　縮尺1/500

2．層　　序

岡山大学鹿田地区においては，第１章で述べたように主として堆積時期の推定をもとにしてⅠ～Ⅵ層の基本層序を設定している。以下においてもこの基本層序を中心に本地点の層序について説明する。

本地点の調査では，厚さ1.2ｍ前後の表土および造成土（Ⅰ層）を機械掘削し，さらに基本的には近代の水田土壌の累層（Ⅱ層）を人力で一部掘り下げた後，31ラインおよび37ラインから東へ約２ｍの南北土手を，ＢＡラインから南へ２ｍのライン（35ライン以西）およびＢＢライン（35ライン以東）に沿って東西土手をそれぞれ設定し，その断面土層を観察・記録した。さらに調査区東南端部の中央南壁についても土層の観察・記録をおこなった（図４～７）。以下，各断面土層図について説明する。なお，発掘前の地表面の標高は2.6～2.7ｍである。

まず31ライン沿いの南北土手断面について説明する（図５）。Ａ―Ａ′断面およびＢ―Ｂ′断面の北半においては，近代水田層（Ⅱ層）および弥生～古墳時代初頭の遺物包含層（Ⅴ層）の一部は土手設定時には既に下げられている。Ａ―Ａ′断面１層（以下Ａ―１層と略記し，他の層位についても同様に略記する）は暗灰褐色粘質土層で，弥生～古墳初頭の遺物包含層（Ⅴ層）である。このＡ―１層はＢ―３層に対応し，ともにその上面の標高は160㎝を越え，後述するように今回の調査区では最も高くなっている。本層はＢ―Ｂ′断面北半よりも南では大きく削平されている。その直上には近代の水田土壌の累層であるⅡ層（Ｂ―１・２層，Ｃ―１層）が堆積しており，この削平が近代の水田造成によることを示している。Ｂ―Ｂ′断面南側およびＣ―Ｃ′断面では弥生～古墳初頭の遺物包含層（Ⅴ層）は数枚の堆積から構成され（Ｂ―３～５層，Ｃ―２～４層），その色調は一般に暗灰褐色～暗黄褐色を呈するが，北側に比べて砂質が強まっている。このⅤ層としてまとめた各層の上面および下面から弥生～古墳初頭の竪穴住居を始めとする遺構が掘り込まれており，その掘り込み面には上下の差が認められる。さらに，古代～中世の遺構も見かけ上本層の上面から掘り込まれた形になっている。したがって古代～中世の遺物を主として包含するⅢ層およびⅣ層相当層は既に削平消失したものと推定される。Ａ―２層，Ｂ―６層，Ｃ―５層は黄褐色砂質土であり，下位の粘性が強まるＢ―７層とともに無遺物の基盤層（Ⅵ層）となっている。

次に，37ライン沿いの南北土手断面について説明する（図６）。土手設定時には，Ｄ―Ｄ′断面では近代水田土壌（Ⅱ層）の大半が既に除去されていたが，Ｅ―Ｅ′断面は近代の水田造成の低位部にあたり，Ⅱ層相当層（Ｅ―１～６層）が残存している。このⅡ層相当層直下にはほとんど遺物を含まない淡灰緑色～明灰茶色の粘質土（Ｄ―２・３層，Ｅ―７・８層）が堆積する。その明確な堆積時期は不明であるが，上下の堆積との関係からⅣ層に対比され，ここでもⅢ層

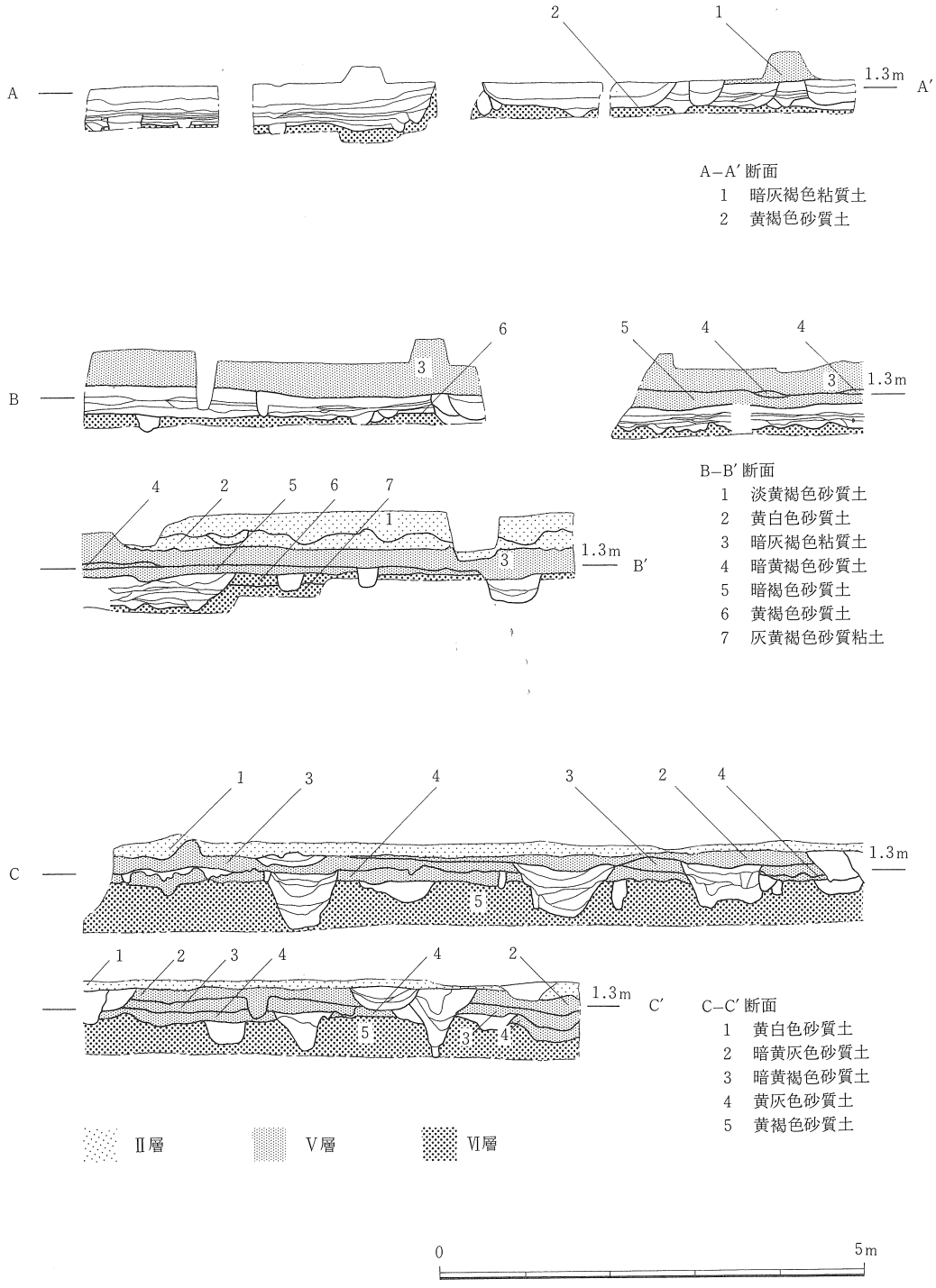


図5　調査区断面土層図(1)　縮尺 1/80

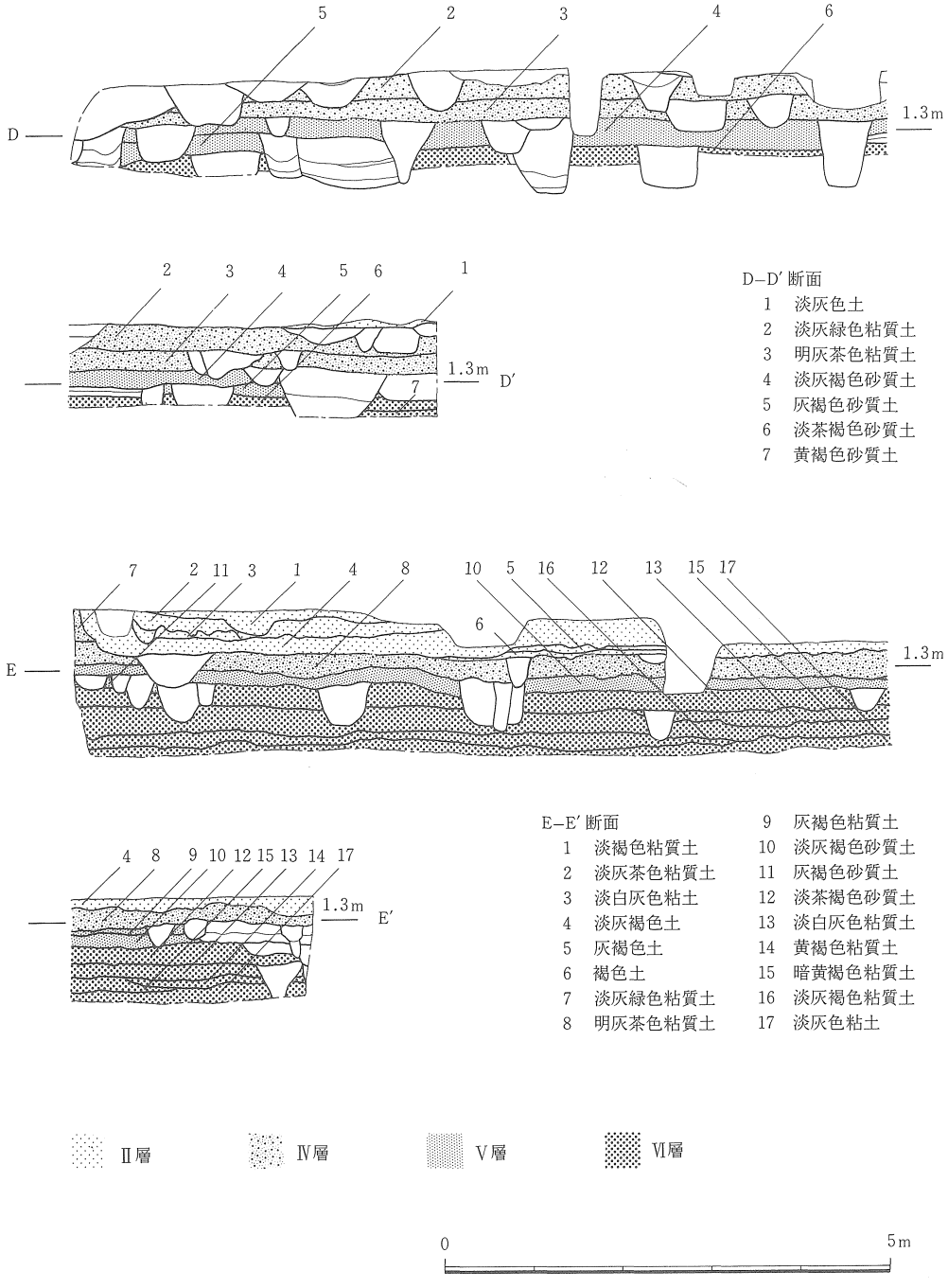


図6　調査区断面土層図(2)　縮尺 1/80

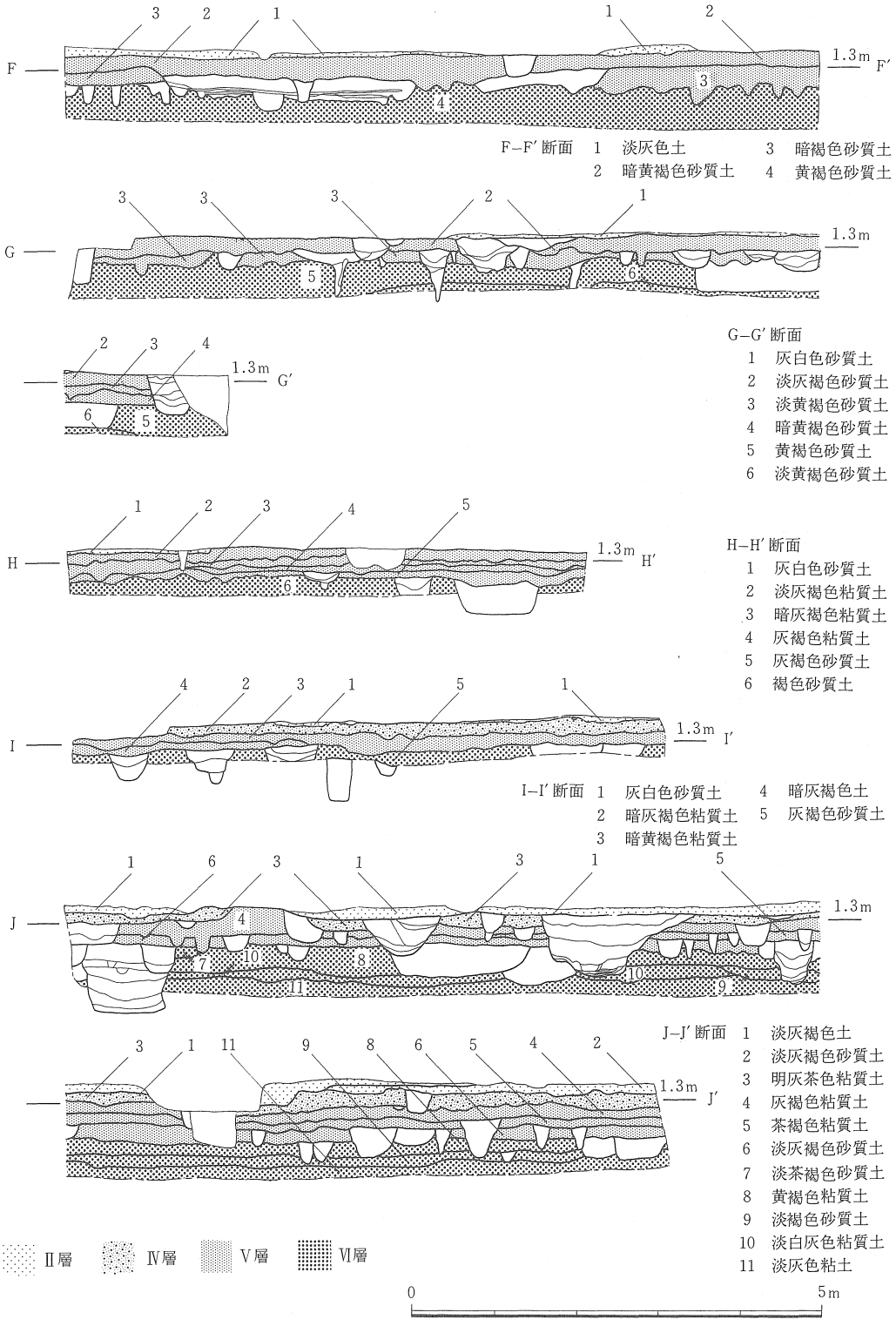


図7　調査区断面土層図(3)　縮尺 1/80

相当層は既に削平されたものと推定される。Ⅳ層下のD—4・5層およびE—10・11層は淡灰褐色～灰褐色砂質土で，より粘性の強いE—9層とともに弥生～古墳初頭の遺物包含層（Ⅴ層）である。Ⅴ層上面の標高は120～150cm前後で，先の31ライン沿い南北土手に比べて低くなっており，かつ南に向って傾斜し，全体の層厚も漸減している。このⅤ層相当層は地点によって上下に分かれ，それぞれの上面および下面からの弥生～古墳初頭の遺構の掘り込みが認められる。Ⅴ層以下は層厚20cm前後の砂質土（D—6・7層，E—12層）さらに粘質土（E—13～16層），粘土（E—17層）が堆積しており，無遺物の基盤層（Ⅵ層）に相当する。

最後に東西方向の土層について説明する（図7）。調査区東南端部中央南壁のF—F'断面は31ライン沿い南北土手の様相と基本的に一致している。近代の水田造成によってⅢ・Ⅳ層相当層は削平されたとみられ，近代水田土壌のF—1層（Ⅱ層）の直下に暗黄褐色～暗褐色砂質土（F—2・3層）が堆積し，弥生～古墳初頭の遺物包含層（Ⅴ層）となっている。F—4層は基盤の砂質土層（Ⅵ層）である。BBライン沿い東西土手断面（G—G'断面，H—H'断面）でも，やはり近代の造成によってⅢ層およびⅣ層は削平消失したものとみられる。淡灰褐色～暗黄褐色砂質土～粘質土のG—2～4層とH—2・3・5層はそれぞれ基本的に対応し，H—4層とともに弥生～古墳初頭遺物包含層（Ⅴ層）となっている。Ⅴ層上面の標高は140～150cm前後を測り，東西の顕著な傾斜は認められないが，西側ではより粘性を強めている。G—5・6層，H—6層は無遺物の砂質土であり，Ⅵ層に相当する。最後にI—I'断面・J—J'断面をみると，ここでも中世を中心とした遺物を包含するⅢ層は既に削平されたと推定されるが，近代水田土壌であるI—1層・J—1・2層（Ⅱ層）直下の暗灰褐色～明灰茶色粘質土（I—2層，J—3層）は中世の遺構がその上面から掘り込まれていることなどからⅣ層に相当すると推定できる。Ⅳ層直下のI—3・4層・J—4～6層は弥生～古墳初頭の遺物包含層（Ⅴ層）として一括される。Ⅴ層相当層は上位は粘質土であるが，下位は砂質を強めている。本層の上面は全体的傾向として東から西に向って傾斜しており，西端部で標高約120cmを測る。I—5層・J—7～11層は基盤層（Ⅵ層）であり，上部は砂質土で下位になる程粘性が強まり，標高60cm以下は粘土層（J—11層）となっている。

以上の土層の観察から，本調査区では弥生～古墳初頭の遺物包含層であるⅤ層は該期の微高地の形状に沿って，調査区北東部で最も高く，周辺に向って傾斜しながら堆積していることが認められる。このⅤ層の上位に堆積した遺物をほとんど含まないⅣ層および主に中世遺物を包含するⅢ層は近代の水田造成によって大半が削平されており，造成直前において相対的に低位部であった西側で一部削平を免がれたⅣ層が残存している。近代の造成後は全面にわたって水田土壌の累層であるⅡ層が堆積しており，以後病院などの造成時に厚さが1.2m前後に達する程の大量の造成土が盛られている。

3．遺構・遺物

(1) 弥生時代中期後半の遺構・遺物

竪穴住居３棟・井戸１基・土壙86基・溝16条・柱穴多数を検出した。遺構は基本的には調査区全域に広がる。北東部の空白は後世の竪穴住居構築時の削平による遺構の消失が考えうる。住居群中に位置する井戸１は特殊な包含物と堆積状況を示し祭祀的要素を強く残す。また，土壙67は隅丸方形プランが予想され，炭の薄層状堆積も認められるなど，不明瞭ながら住居の可能性を残す。その他に，墓壙とみられる土壙192・234，ガラス滓出土土壙254・318，粘土塊出土土壙357・366等も注目される。その他に，遺構検出最下面では掘り方が非常に不明瞭で，点々と焼土のみを含む土壙83・95が検出された。また，溝はいずれも短小で浅く，検出された多数の柱穴は，未検出の住居・掘立柱建物の柱穴を形成すると想定される。

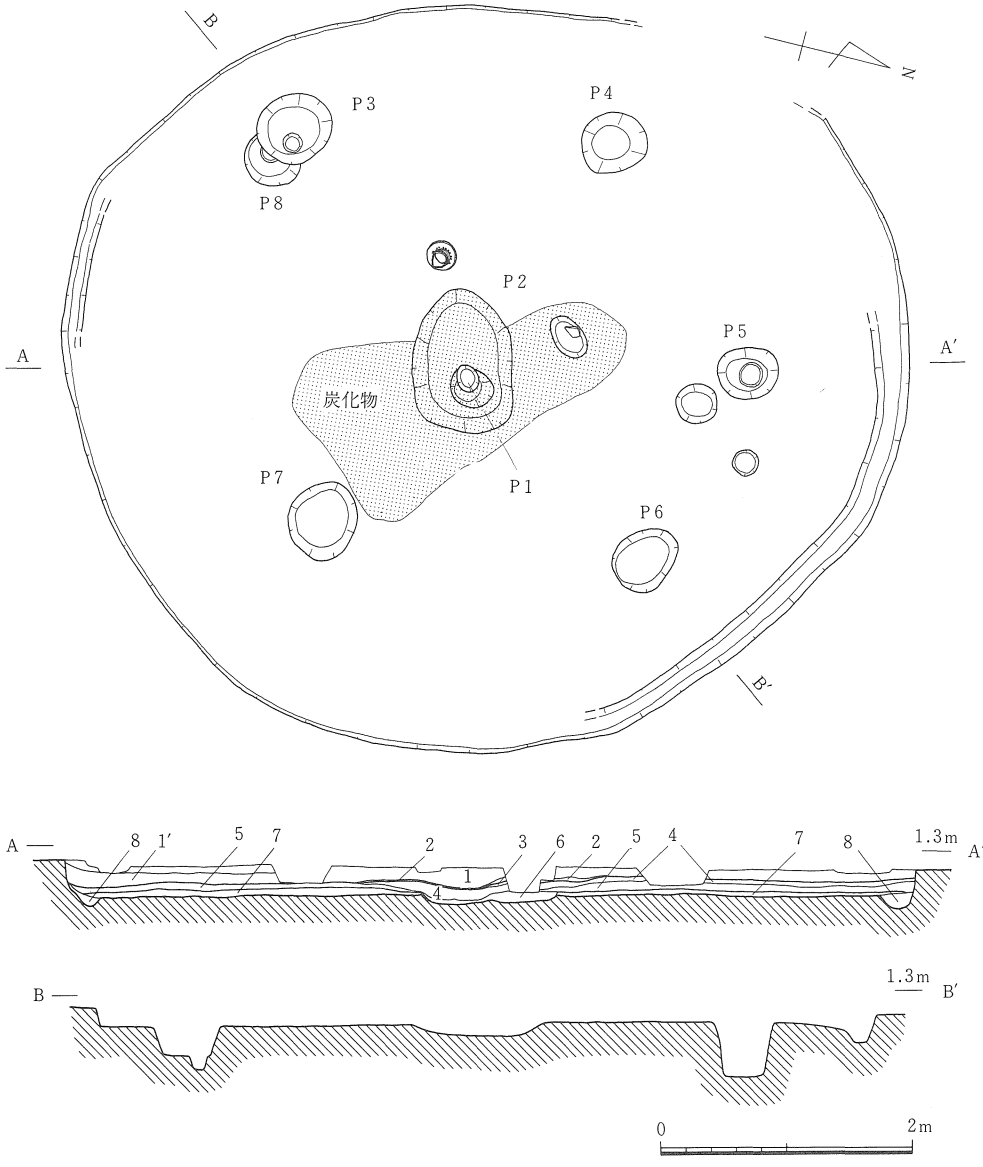
以上のように当時期には大きな溝は存在せず，１基の井戸に対して３棟以上の竪穴住居が存在し，周囲に各種の機能を有す土壙が作られていたと想定される。　　(山本)

図８　弥生時代中期後半の主要遺構配置図　縮尺 1/500

a．竪　穴　住　居

竪穴住居－1（図9～12，図版6－1・47・78－2・79－1）

ＢＣ30区を中心に多数の遺構の下から検出された。住居の北西隅は発掘区の側溝によってそ



1　黄灰色微砂（炭・焼土少含）……最終埋土
1′　黄灰色微砂（炭多含）……　〃
2　炭層
3　暗黄灰色微砂（炭多含・焼土少含）
4　暗黄灰色微砂（炭・焼土多含）……２次住居貼床
5　暗黄灰色微砂（炭・焼土少含）……２次住居床
6　黄灰色微砂（炭・焼土少含）
7　暗黄灰色微砂（炭・焼土少含）……１次住居貼床
8　暗黄灰色細砂（炭・焼土少含）……１次住居壁体溝埋土

図９　竪穴住居－１　縮尺 1/60

の旧状を失っている。土層観察から１度の建て替えが想定される。

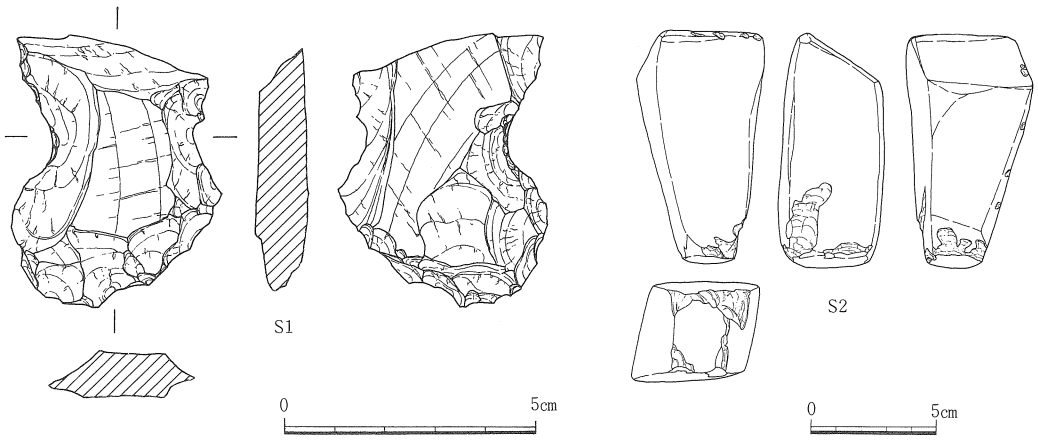
１次住居は南北660cm・東西600cmのやや楕円形を呈す住居が推定されるが，その壁体溝の検出は困難で，不明瞭な部分を残す。中央穴Ｐ２のほかにＰ４～８の主要柱穴５本が検出されている。Ｐ２は周囲に径120×80cm・深さ10cm前後の浅い落ち込みを伴う。柱間は300～170cmとかなりの幅を示し，歪んだ五角形を形成する。床面高は標高98cm前後で，全面に厚さ約５cmの貼り床が認められる。

最終住居においても壁体溝の検出は非常に困難で，１次住居以上に不明瞭な部分が多い。柱に関しては，切合い関係が確認されたのは，中央穴のＰ１とＰ２，それ以外の主要柱穴ではＰ３とＰ８の１ヶ所のみで，他の４本については１次住居の柱穴を踏襲している。Ｐ３～７はいずれも標高70cm前後にその底面をもち，また，径は50～60cmを測る。以上のことから，１次と最終住居との間で大きな拡張が行われたとは考え難く，最終住居もほぼ同規模の平面形を有していた可能性が高い。また，中央穴Ｐ２に伴う浅い落ち込みはその上部を最終住居の貼り床が厚く覆っており，この段階では存在しない。床面高は標高100～110cmで南に向って傾向する。貼り床は北半部のみに認められ，厚さ５cm前後を測る。また，中央穴Ｐ１の周辺には炭化物が広範囲に分布し，厚いところでは４cmに及ぶ。

遺物は１次住居床面・最終住居床面及び埋土中・柱穴内から各々出土している。

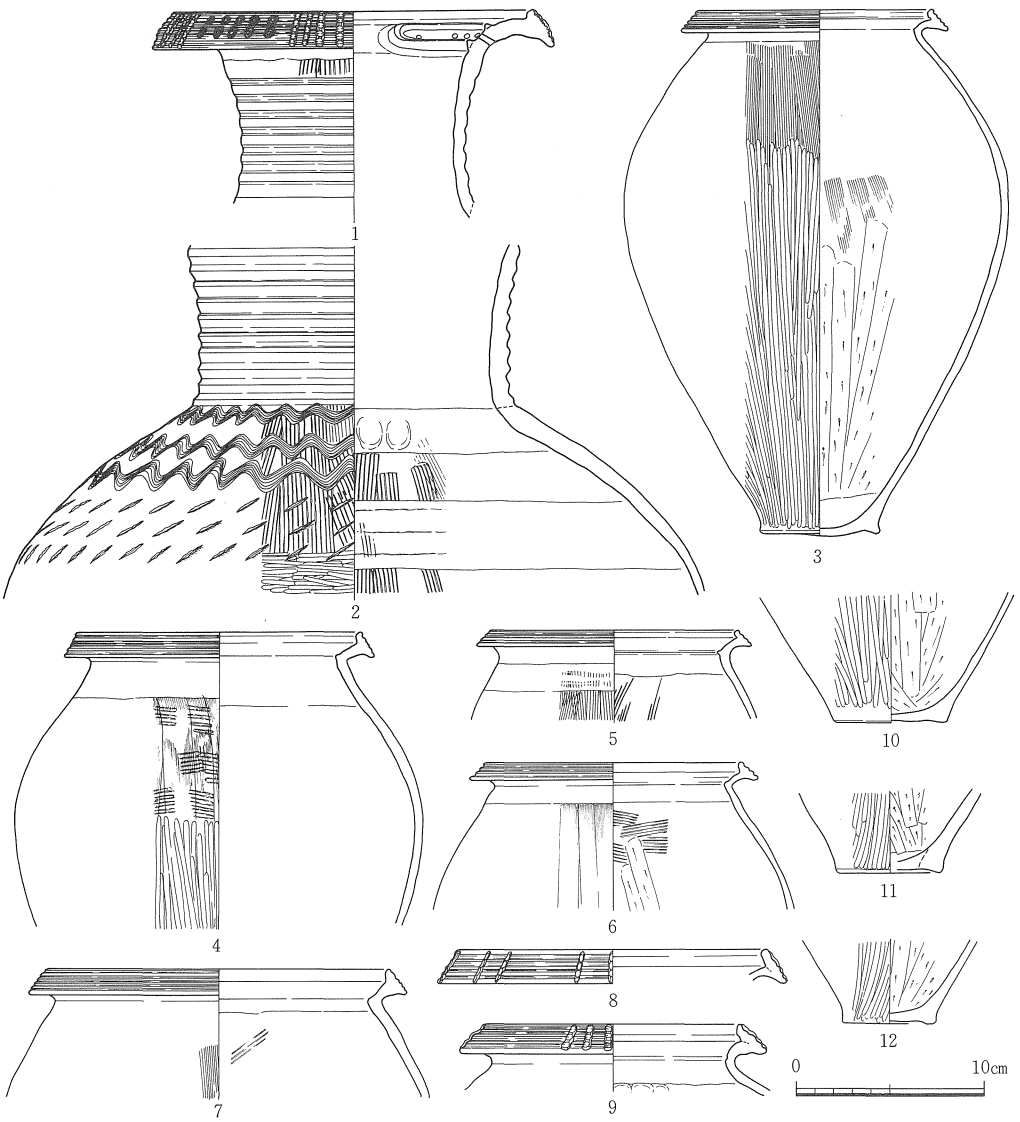
１次住居床面出土遺物はごく僅かで，図化し得るものは高杯（14）のみである。それ以外は全て最終住居に伴うと考えられる。

最終住居床面出土の遺物としては壺（１）・把手（25）・砥石（Ｓ２）がある。また，埋土



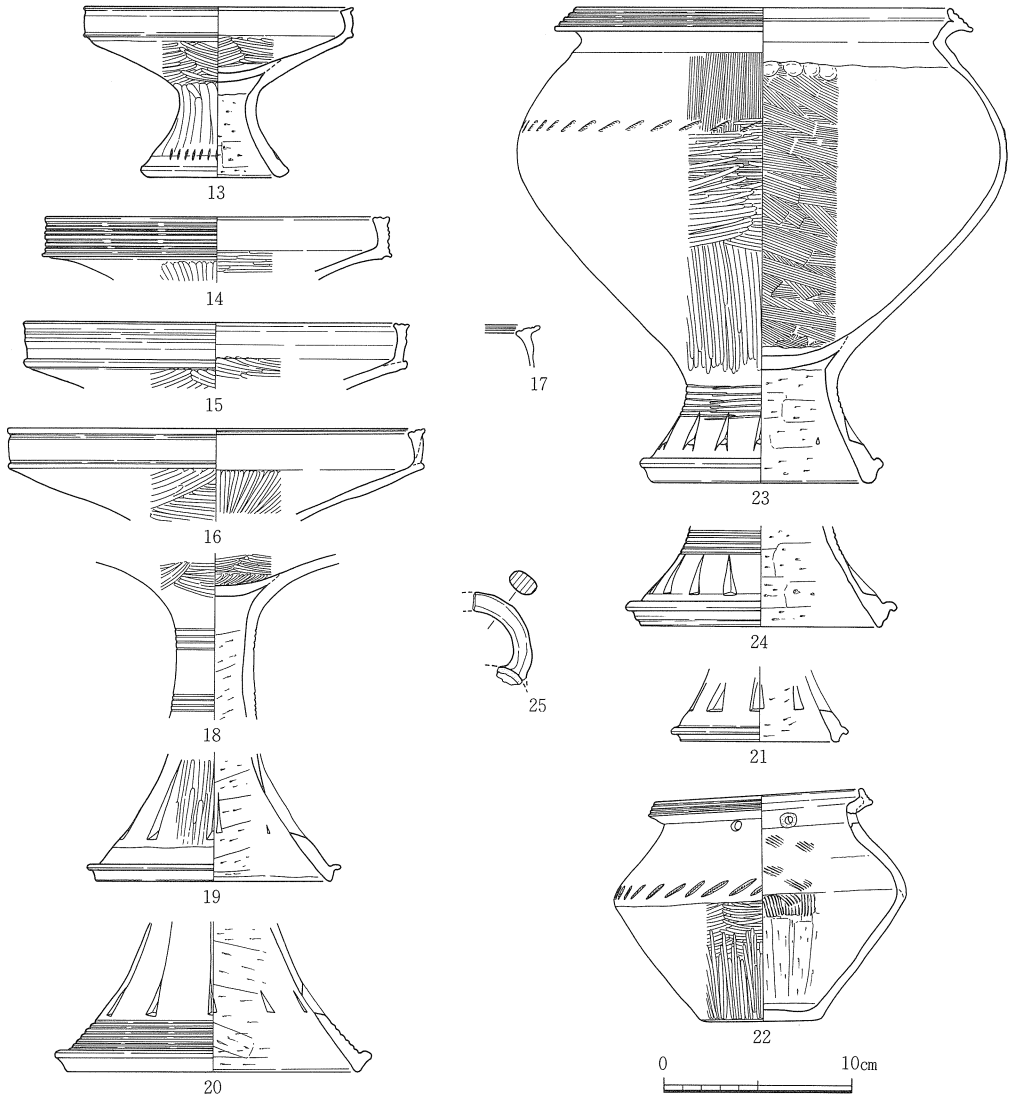
遺物番号	器　種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材　質	特　徴
Ｓ１	スクレイパー	5.4	4.1	1.0	28.0	サヌカイト	一端折損，一側縁に抉り，周縁部に敲打によるつぶれ
Ｓ２	砥　石	9.0	4.5	4.0	290.0	珪岩(?)	四角柱状を呈す，各面研磨面

図10　竪穴住居－１　出土遺物(1)　縮尺 2/3(Ｓ１)・1/3(Ｓ２)



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	19.3	—	—	棒状浮文3条と4条各々3ケ所，二重竹管文2段5列4ケ所・2段6列2ケ所，浮文と竹管文交互配置，内面貼付け凸帯は馬蹄形・内に円孔2個1対7ケ所と1個1ケ所	内黄褐外淡黄褐	細砂，金雲母
2	〃	—	—	—	頸部凹線10条，体部内面ハケ後横ナデ，櫛描波状文・列点文各々3段，煤付着	黄褐～暗灰褐	微砂
3	甕形土器	12.6	6.4	28.0	口縁部凹線4条，体部内面下半箆ケズリ・上半ナデ（一部にハケ残存），底部ナデ	黄褐～暗褐	微～細砂
4	〃	15.2	—	—	〃 〃 5条，体部内面ナデ・外面タタキ後工具使用ナデ後下半は箆ミガキ	淡黄褐～暗灰褐	〃～ 〃
5	〃	13.1	—	—	〃 〃 3条，体部内面ナデ後ハケ㊟	淡褐～明褐	〃～ 〃
6	〃	13.6	—	—	〃 〃 3条，体部内面ハケ後下半箆ケズリ・外面工具使用ナデ，煤付着	黄褐～灰褐	微砂
7	〃	18.3	—	—	〃 〃 5条，全体に磨滅	内淡灰白外明燈	細砂㊟
8	壺形土器	16.5	—	—	〃 〃 4条，棒状浮文2本1対	淡灰白～淡白褐	微砂
9	〃	13.6	—	—	〃 〃 〃，棒状浮文3本1対4ケ所	淡褐	細砂
10	甕形土器	—	5.9	—	底部外面平行の箆ミガキ，黒斑	内黄褐外淡黄白	微～細砂
11	〃	—	5.7	—	〃 〃 ，〃	内灰黒外明黄褐	微砂
12	〃	—	5.0	—	〃 〃 ，煤付着	淡黄灰	〃

図11　竪穴住居－1　出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
13	高杯形土器	14.5	7.1	9.0	杯部内外面篦ミガキ約5角形，脚部列点文は7・7・10個の3ケ所	淡乳灰白	細～粗砂◎，雲母
14	〃	18.3	—	—	凹線は口縁端面2条・口縁部6条，杯部外面ケズリ後篦ミガキ，内面煤	(内)暗黄褐(外)淡黄褐	微～細砂，雲母
15	〃	20.5	—	—	口縁端面凹線2条，口縁部外面凹線は横ナデで消失	黄褐	〃～〃，金雲母
16	〃	22.2	—	—	〃　〃　2条，	淡黄褐	微砂，金雲母
17	〃	—	—	—	〃　〃　3条，	〃	微～細砂
18	〃	—	—	—	杯部内外面篦ミガキ・杯部内底部平行篦ミガキ，外面ナデ，脚部外面ナデ	淡黄灰	微砂
19	〃	—	12.6	—	透し孔は三角形・推定数12個前後・貫通と未貫通混在	淡赤褐～黄褐	微～細砂
20	〃	—	15.6	—	透し孔は三角形・貫通，脚裾部7条の凹線	(内)黄褐(外)赤褐	微砂◎，金雲母
21	〃	—	8.5	—	〃　〃　・〃	淡黄褐	〃
22	鉢形土器	11.0	6.4	12.3	底部内外面ナデ，頸部円孔2個1対2ケ所，	(内)暗黄褐(外)淡黄褐	〃
23	台付鉢土器	20.0	11.9	25.2	三角形透し孔15個，脚部沈線は分割施文，外面の横篦ミガキは5～6角形	淡黄褐	〃 ◎，金雲母
24	〃	—	12.8	—	透し孔は三角形，未貫通，外面丁寧なナデ	淡灰～黄褐	微～細砂，粗砂◎
25	把手形土器	—	—	—	ナデ	淡黄褐	微砂

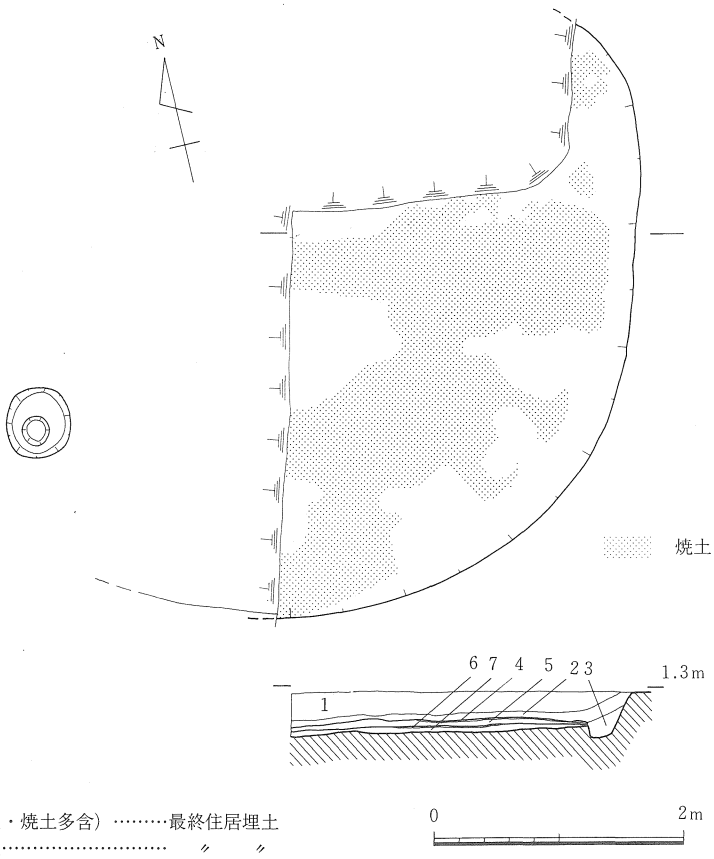
図12　竪穴住居－1　出土遺物(3)　縮尺 1/4

中の遺物としては壺（8）・甕（4・5・7）・高杯（13・15～17・19～21）・台付壺（24）・スクレーパー（S 1）等があげられる。これらも床面からごく近い位置からの出土である。柱穴からはP 4において上半から壺（2・9）・甕（3・6・10～12）・高杯（18）・鉢（22）が，下半から台付壺（23）が出土した。

本遺構の時期は，1次住居では高杯の口縁部にしっかりした凹線が残るなど，最終住居よりやや古い要素が認められるが，全体としては，鹿田・中・3期の範囲に入ると考えられる。

竪穴住居－2（図13～15，図版78）

AY31～32区に位置する。北半部は調査区外・西半部は攪乱穴によって切断され，調査可能部分は東南部のみであった。



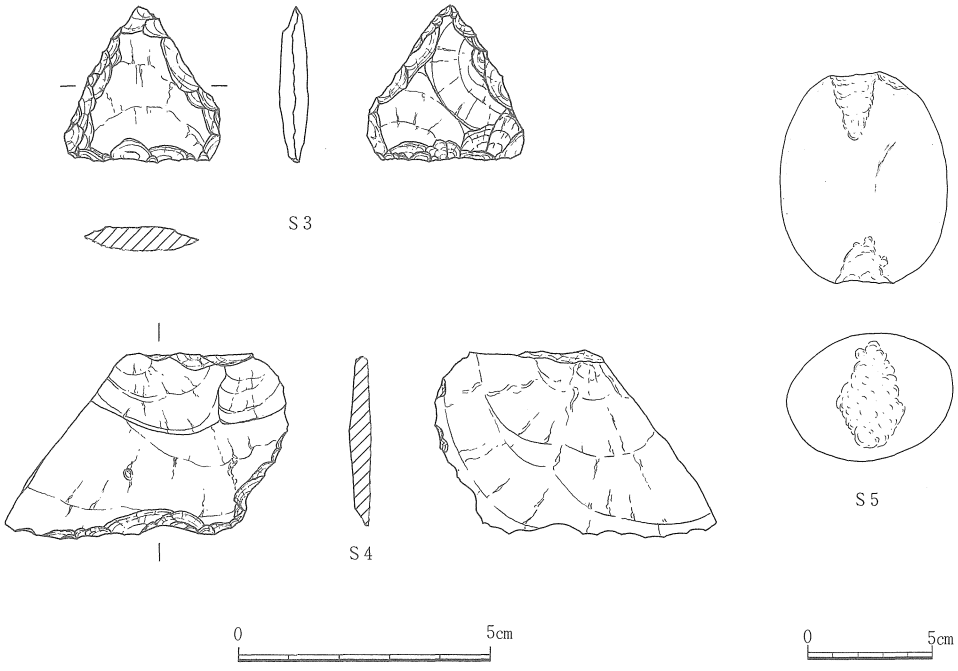
1　淡褐色土（炭・焼土多含）……最終住居埋土
2　淡褐色粘質土……　〃　〃
3　明灰褐色粘質土……　〃　壁体溝埋土
4　淡黄褐色粘質土……　〃　貼床
5　暗灰褐色粘質土（炭・焼土含）…　〃　床
6　淡黄褐色粘質土……1次住居貼床
7　暗灰褐色粘質土……　〃　床

図13　竪穴住居－2　縮尺 1/60

上部埋土の攪乱により平面プランの検出は困難であったが，土層観察から１本の壁体溝を共有する２枚の床面を確認した。復元推定径650㎝前後の円形住居が想定される。床面高は１次住居で標高95～100㎝，最終住居で標高102～105㎝で，各々厚さ１～２㎝の貼り床が部分的に認められる。柱穴は西半部に１ヶ所可能性がある。

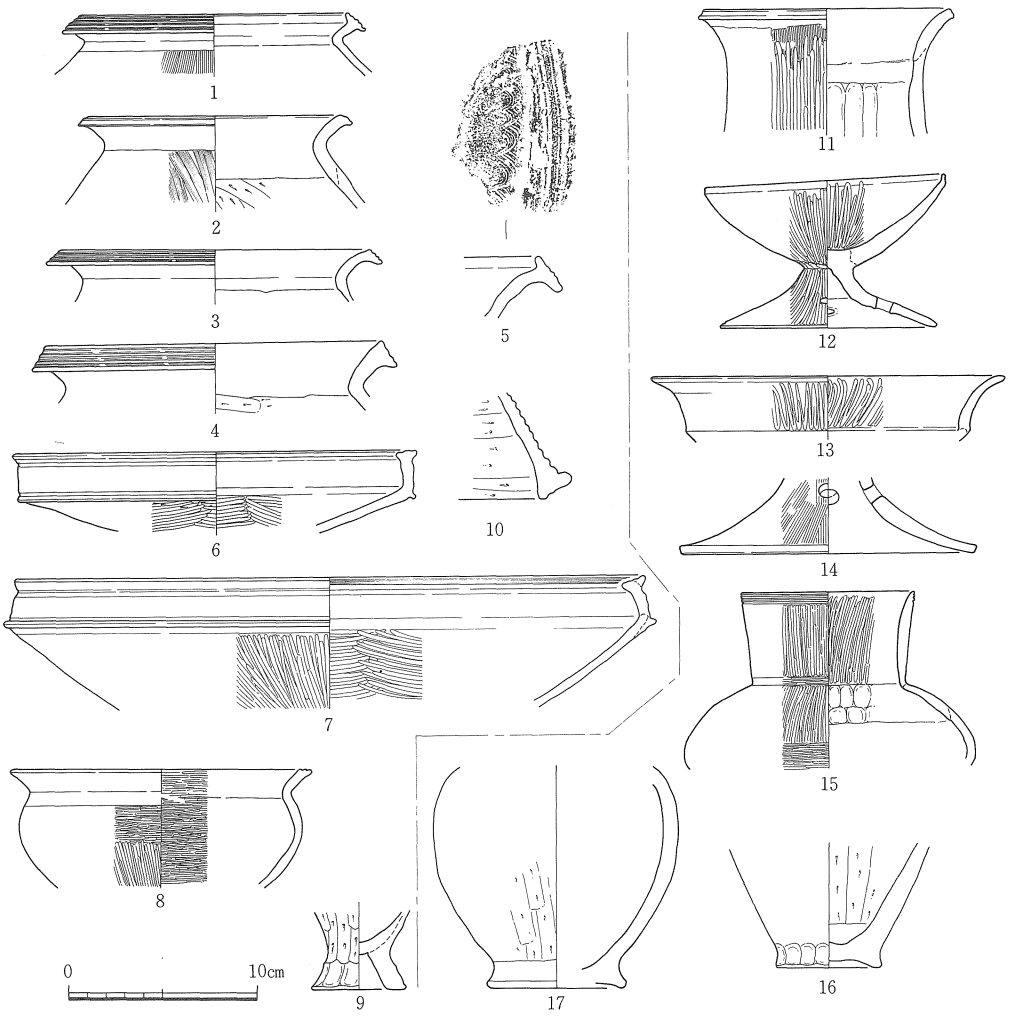
出土遺物としては，甕（１）・壺（５）・高杯（６・７）・器台（10）のほか石器３点が最終床面近くから出土している。Ｓ３は両面に素材面を残すサヌカイト製の平基の石鏃である。Ｓ４も同じくサヌカイト製のスクレイパーで，横長剝片の末端表面側に細部調整が施されている。Ｓ５は花崗岩製の石錘である。良好な遺物が少なく時期決定は難しいが，鹿田・中・３期の可能性が考えられる。

また，上部埋土には多量の焼土・炭化材が埋積する。これは住居廃絶後に投棄されたもので，竪穴住居５の上部焼土等と一連のものである。その時期は，甕（２～４・16）・高杯（14）の示す鹿田・後・２期に廃棄され，最終的には，壺（11・15）・高杯（12・13）等の示す鹿田・後・３期に埋没したものと考えられる。



遺物番号	器種	現存長(㎝)	最大幅(㎝)	最大厚(㎝)	重量(ｇ)	材質	特徴
Ｓ３	石鏃	3.1	3.1	0.5	5.0	サヌカイト	平基で正三角形を呈する，両面に素材面を残す
Ｓ４	スクレイパー	3.9	6.0	0.7	12.0	〃	点状打点をもつ横長剝片素材とし末端面に二次加工痕
Ｓ５	石錘	8.4	6.7	5.1	385.0	斑花崗岩	長軸両端に敲打による溝

図14　竪穴住居－２　出土遺物(1)　縮尺 2/3・1/3（Ｓ５）



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	14.3	—	—	体部内面ナデ，口縁端面凹線4条，口縁部は折返しではない，外面ハケ・煤付着	暗茶褐	細砂
2	〃	13.2	—	—	体部外面浅いハケ・煤付着，内面篦ケズリ	淡黄褐	〃
3	〃	16.5	—	—	体部内面横位篦ケズリ（方向不明），他は横ナデ，口縁端面凹線3条	赤褐～暗褐	〃 ㉖
4	〃	18.0	—	—	口縁端面凹線3条，体部内面篦ケズリ	淡黄褐	微～細砂，雲母
5	壺形土器	—	—	—	頸部外面ハケ，他は横ナデ，口縁部内面波状文，端面に凹線4条と竹管文が廻る	灰褐	細砂㉖
6	高杯形土器	21.5	—	—	口縁端面凹線2条，杯受部内面篦ミガキ，外面篦ケズリ後篦ミガキ	淡黄褐	微～細砂，雲母
7	〃	33.5	—	—	口縁端面に浅い凹線3条，杯受部篦ミガキ	淡黄灰褐	微砂
8	鉢形土器	16.0	—	—	〃 〃 2条	内暗褐外暗灰褐	〃 ㉔
9	製塩土器	—	5.0	—	脚台部端面未調整，内面ナデ，体部外面篦ケズリ，脚台部外面押圧	淡黄褐	粗砂㉖
10	器台形土器	—	—	—	外面横ナデ，凹線11本以上，内面横位の篦ケズリ	〃	微砂
11	壺形土器	13.0	—	—	外面ハケ後篦ミガキ，内面上半横ナデ，下半押圧	内灰黒外淡黄褐	微～細砂
12	高杯形土器	12.8	11.5	8.2	脚裾部内面ナデ，他は篦ミガキ	赤褐	微砂㉔，精良
13	〃	18.8	—	—	内外面波状篦ミガキ	淡黄褐	〃 〃，〃
14	〃	—	15.4	—	内面磨滅で不明，外面ハケ	明赤褐	微砂
15	直口壺形土器	9.2	—	—	口縁端面沈線3条，体部内押圧・ナデ，他は篦ミガキ，外面黒斑	淡赤褐	〃 ㉘，水漉粘土
16	甕形土器	—	5.6	—	外面縦位ナデ，底部内面ナデ・外面押圧	淡黄褐～灰褐	微～細砂
17	台付鉢形土器	—	7.4	—	内面磨滅で不明，外面上半篦ケズリ後ナデ	淡赤褐	〃～〃，細礫㉔

図15　竪穴住居－2　出土遺物(2)　縮尺 1/4

b．井　　戸

井戸－1（図16～19，表5，図版7・48・78－1）

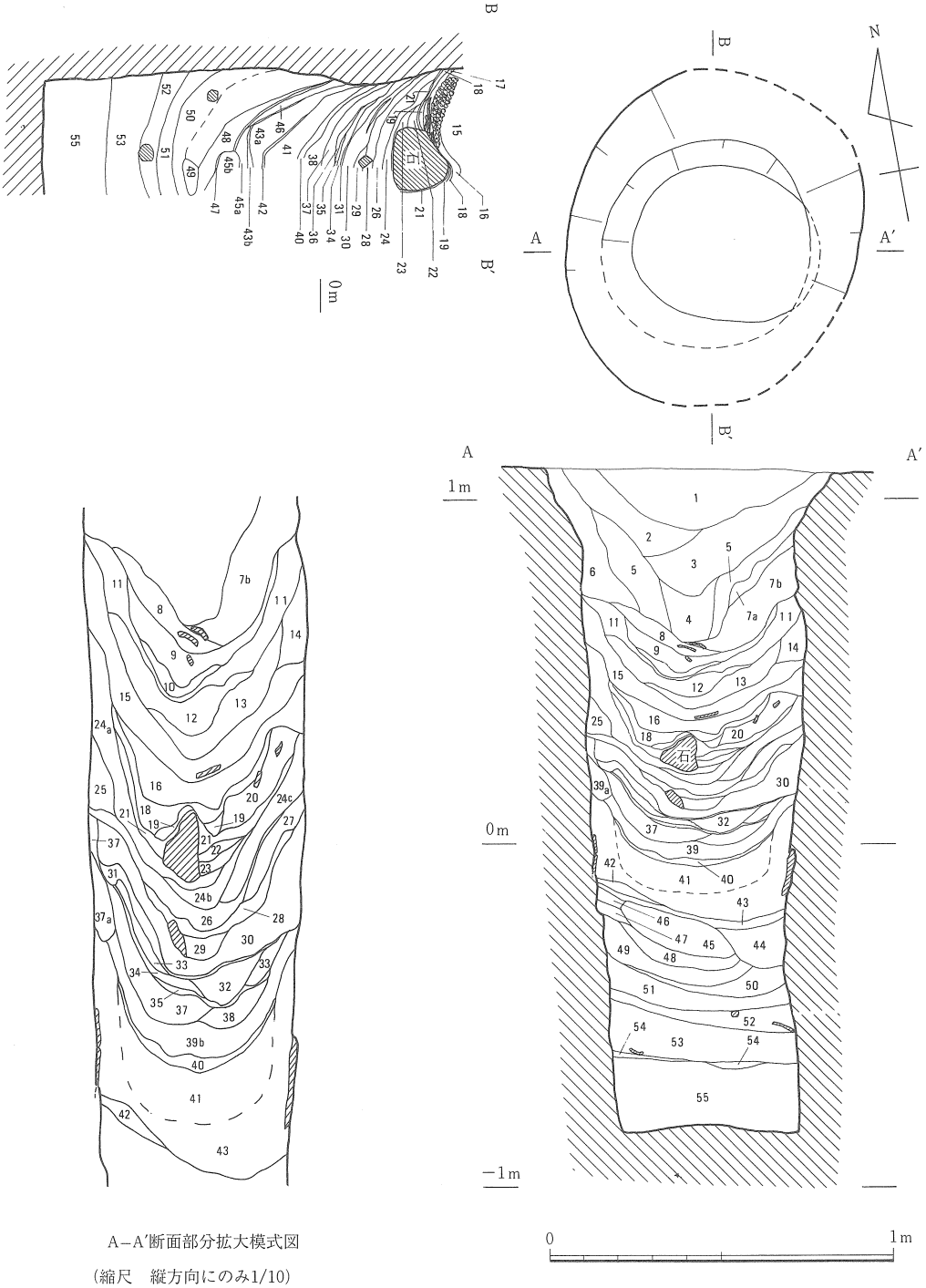
ＢＢ31区に位置する。検出面は標高120㎝である。上面での平面形は，長軸100㎝，短軸90㎝で南北に軸を有す円形を呈す。底面は検出面下195㎝，標高－85㎝の高さに位置し，径50㎝の円形プランを有す。掘り方は，上面から標高85㎝（検出面下35㎝）まではやや摺り鉢状を呈し，そこからほぼ垂直に角度を変換して底面に至る。

まず最初に図と表の説明をしておきたい。土層観察表では包含物の様相を明確にするため，小項目を設けた。使用した記号はＶ：少量，△：普通量，○：多量，◎：特に多量とし，注目される場合にのみ記入した。図17は40層～52層の遺物出土状況の平・断面図である。図17-1は各層出土物を全て重複させた図で，トーン部分は籠状木製品を示す。図17-2は籠状木製品の状態，図17-3は籠状木製品除去後の50～52層における遺物出土状態である。

本遺構内の埋土は55層に明瞭に分層されるが，それらは40～43ｂ層において検出した籠状木製品を中心にして大きく五分割される。つまり籠埋置以前の堆積土44～55層（Ⅰ段階），籠および籠内埋土でなる40～43ｂ層（Ⅱ段階），籠埋置後の堆積土で祭祀的要素を色濃く見せる14～39ｂ層（Ⅲ段階），人為的な最終埋土となる４～13層（Ⅳ段階），自然流入土的要素の強い１～３層（Ⅴ段階）となる。

Ⅰ段階は基本的に他の井戸の下層堆積に類似する。48層以下は粘土層で52層までに有機物を包含する。50～52層には多数の材（図17-3），壺・器台等（１～３・５・６・９・15）が認められる。材は籠の下方（51・52層）および50層下面から上部に置かれた籠と壁面との間に多い。全体的に北側の掘り方際に集中する傾向を示す。杭（Ｗ２）は材に混って50層から出土した。また，52層上面にはヒョウタンの皮が出土している。48層上面にはベンガラ（47層）が薄く散布され，中央部に汚れのない粘土（45層）が塊状に置かれ，その上に籠が据えられる。

Ⅱ段階は籠の埋置である。Ｂ断面（図16）における43ｂ層が籠底部にあたる。籠の形状は詳細な観察・検討の結果，次の状態が想定された（図17-2）。平面形は隅丸長方形状を呈し，角の部分には径１㎝弱の材を縦方向に，短辺の中央には径２㎝程のやや太めの材を西側に１本・東側に２本を配している。この太めの材は吊手部分になると考えられる。横方向の材としては，径５㎜程の材が，少なくとも上端部と側面中央部に部分的に観察できる。また，斜方向にも径約５㎜程度の材を渡して芯にしていることが認められる。底面・側面部分には大量の薄皮状の木質が残存しているが，保存状態が悪く，部分的に木質の走る方向を観察できるのみで，編み方等，細部の検討は不可能であった。底面と側面の変換ラインは東側部分ではよく把握されたが，西側部分では不明瞭である。籠内埋土（41・43層）からは大量の植物質・種子・木質が出土した。43層からは雑草メロン・ザクロ草・タカサブロウ・イヌビユ・カラムシ等の畑雑草，



A–A′断面部分拡大模式図
（縮尺　縦方向にのみ1/10）

図16　井戸－1　縮尺 1/20

表5　井戸－1　土層観察表

層番号	名　称	砂質	粘質	炭	焼土	赤色顔料	有　機　物	そ　の　他	遺　物	範　囲	備　考
1	暗褐色砂質土			V	V			粘土粒			
2	黄褐色　〃							〃	△高杯(10,11,13,14)		
3	暗褐色　〃			△	△			〃			
4	灰色土			△	△				△	中央部に径15cmで	
5	黄白色粘土		◎								
6	黄灰褐色土			△	△				△石鏃(S6)		
7 a	暗茶褐色土			○	○						
7 b	黒灰褐色粘質土			○	○				V		
8	淡灰褐色　〃		△						V		
9	炭層			◎	○				△		
10	焼土層			V	◎						
11	黄白色粘土		◎							ほぼ全面	
12	炭層			◎				灰◎			
13	焼土層			△	◎				△		
14	黄白色粘土		◎							全面に厚く	
15	淡灰～黄白色粘土		◎						V		
16	黒灰色細砂混粘土		○	△	V	△		北半に円礫密集	△	ほぼ全面	
17	暗灰色粘質土		○	△		○			◎台付壺等(4,7,8,12)	16層円礫群下のみ	
18	暗灰色粗砂	◎		○		△		骨砕集中2ケ所		ほぼ全面	
19	灰色粘土		◎							石の周囲のみ	
20	淡灰色細砂混粘土		◎						V	東半部のみ	
21	赤色顔料	○		△		◎ベンガラ		骨砕V		全面	
22	淡灰色粗砂	○								石の周囲のみ	
23	赤色顔料	○				◎ベンガラ		骨砕V		石の周囲のみ	21層と一連
24 a	淡灰色粘土		◎							全面に厚く	
24 b	〃　〃		◎				△木質				
24 c	〃　〃		◎								
25	暗灰色細砂混粘土		◎								
26	暗灰色粗砂	◎		○		△		骨砕△		全面	18層と同様
27	淡灰色粘土		◎								
28	赤色顔料	○		○		◎ベンガラ	V木質	骨砕◎ガラス滓		全面	
29	暗灰色粗砂混粘土		○				○木質，植物質			中央部に一部のみ	
30	淡灰色粘土		◎							全面に厚く	層中にベンガラ薄層
31	赤色顔料			◎		◎	骨砕◎，ガラス滓	骨砕◎,ガラス滓		全面，北西に厚い	
32	灰色粗砂粘土		○				○木質，植物質	灰		東半部にのみ	
33	淡色粗砂粘土		◎				V種子(桃)			周縁部にのみ	
34	淡灰白色粗砂粘土		△					骨砕◎		西半部にのみ	
35	灰色粗砂粘土			○			○植物質，貝(シジミ)	〃 ○		中央部にのみ	
36	赤色顔料					◎				北半部にのみ	
37	暗灰色粗砂	◎		○		△				ほぼ全面	18層と同様
38	灰色粘土		○				◎貝(シジミ)種(桃)他			中央部にのみ	
39 a	〃　〃				V		△木質，植物質				
39 b	〃　〃		◎							全面に厚く	
40	暗灰色粘土			○			◎木，植物質，種，貝		△鉢(16)下面より	全面	
41	〃　〃			○			◎植物質，下面に種子	粘土粒	V		籠内埋土，炭は上面
42	暗黄灰褐色粗砂	○								全面	
43 a	暗茶褐色粘土						◎木質，植物質，種子	上面にガラス滓	V木器(W1)	全面	籠状木製品内埋土
43 b	〃　〃						◎ 〃　〃			全面	籠状木製品の下底面
44	暗灰褐色粘土			○			◎ 〃　〃				
45 a	暗灰色粘土		◎							中央部に塊状で	
45 b	青灰色粘土		◎								
46	黒褐色粗砂	◎			○						
47	赤色顔料					○ベンガラ					
48	暗茶褐色粘土						◎木質，植物質		△壺(1)	全面	
49	暗青灰色粘土		◎								
50	暗茶褐色粘土			○			○木質，植物質，木材	灰○	◎壺等(2,3,5,6,15,W2)	全面	
51	暗青灰色粘土		○				△ 〃　〃		△	全面	
52	暗灰褐色粘土		○				○ 〃　〃			全面	
53	暗青灰色		◎				V 〃　〃		△壺(9)	全面	
54	青灰色細砂	◎									
55	青灰色粘土		◎							全面	

マクワウリが，41層からはクルミ・雑草メロンが検出された。特に43層出土の雑草メロンは籠底面および側面に密着しており，集中部分は３ヶ所以上である。いずれも数10個が目をそろえて塊状をなすことから，実の状態で籠に入れていたことが想定される。その他の遺物としては籠底部（43層）から出土の木器（Ｗ１）がある。41層上半部では，中央部が籠内に落ち込んだ様子が認められる。上面には炭化物が薄く散布され，完形の小形鉢（16）が置かれる。

Ⅲ段階では，簡単にまとめると，汚れのない粘土層（15・24・30・39層）で全面を厚く覆った後，有機物包含層（29・32・33・35・38層）を中央部付近に部分的に入れた後，炭・赤色顔料混粗砂層（18・26・37層）と赤色顔料の層（21・28・31層）が各々全面を覆う。そして，粘土層を敷きつめる。以上の行為が３回繰返されている。１回目が30～39ｂ層・２回目が24～30層・３回目が15～24層である。最後の３回目には，粗砂層（18層）散布後，中央部に置いた石の北側に，

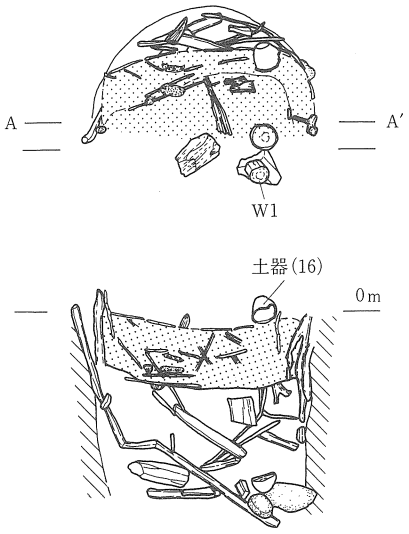


図17－1　40層～52層 遺物出土状況
（::::::籠状木製品）

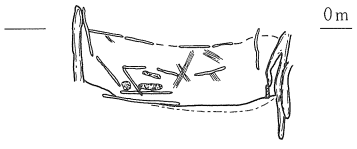
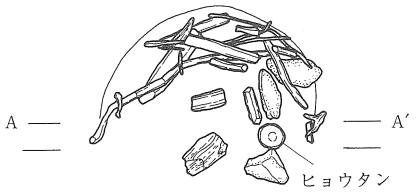


図17－2　籠状木製品出土状況
（:::種子）



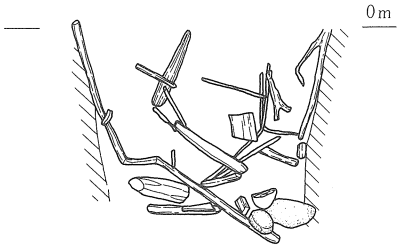


図17－3　50～52層 材出土状況

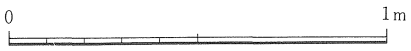


図17　井戸－１　遺物出土状況　縮尺 1/20

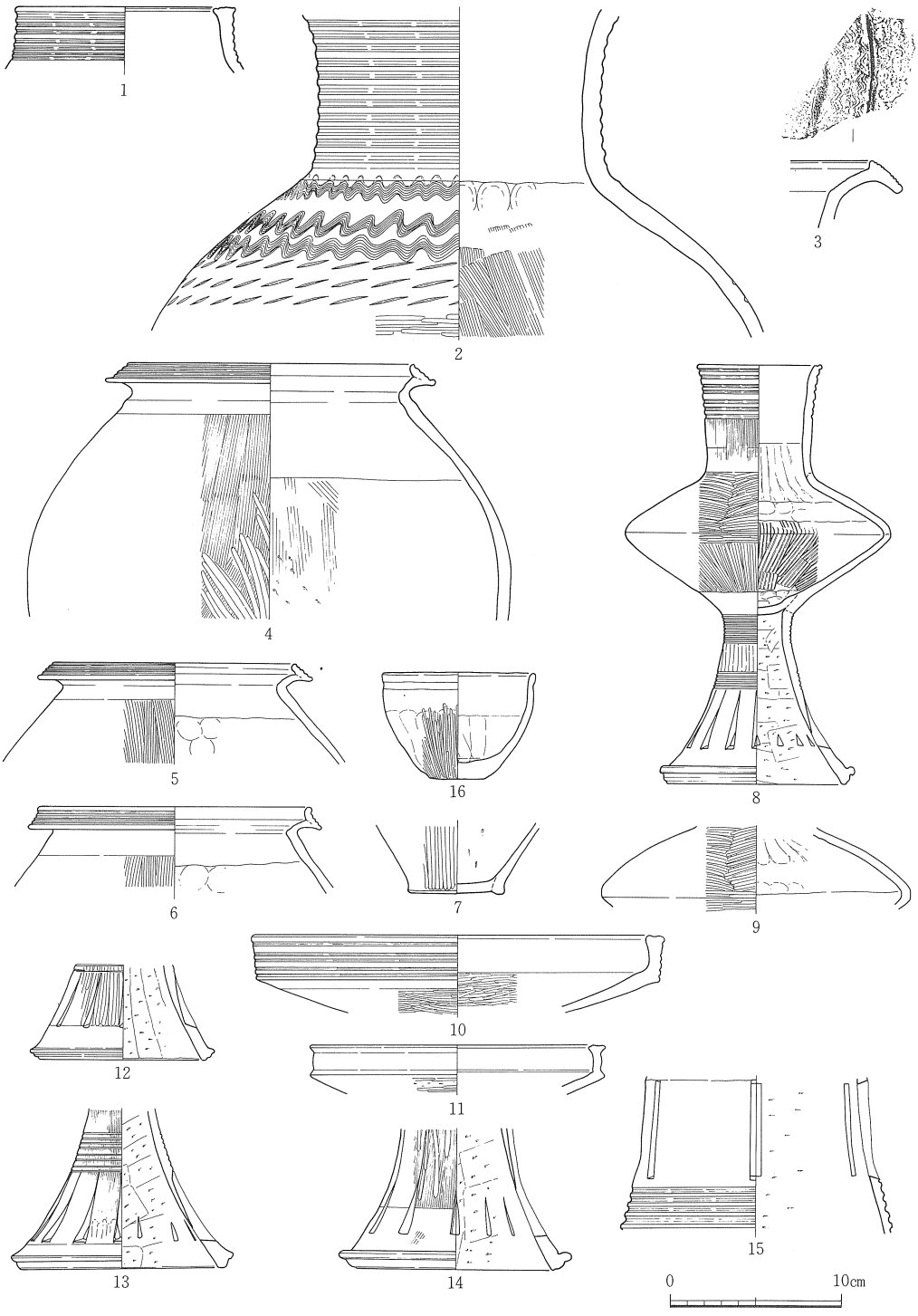


図18　井戸－1　出土遺物(1)　縮尺 1/4

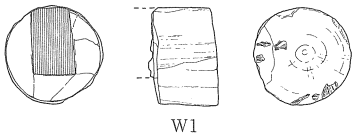
台付直口壺等（4・7・8・12）の土器が破壊された状態で置かれ（18層），上部に円礫が敷きつめられ（17層），その直上に粘土（15層）が密着して厚く敷かれる。有機物層からは，モモ（33・38層出土），シジミ貝（35・38層出土）が検出され，籠内出土種子類とは種類が異なる。赤色顔料層（28・31層）からはガラス滓と考えられる溶材も出土した。赤色顔料は一部でベンガラと確認されている。

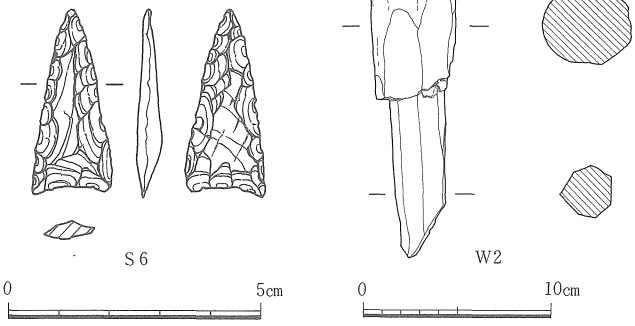
Ⅳ段階では，焼土・炭・粘土の各層が互層をなし，3回繰返されている。遺物は6層から石鏃（S 6）が出土した。

Ⅴ段階の1～3層からは，高杯（10・11・13・14）が出土している。

以上，まとめると，粘土・有機物で下部を埋め，果実を入れた籠を据える。その上部で多量の赤色顔料を使用した祭祀が，次に焼土・炭を使用した祭祀が各々3回づつ繰返されて井戸の廃棄が終了している。祭祀的要素を色濃く示す井戸である。

時期は鹿田・中・3期に比定される。





遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	12.9	－	－	口縁部凹線7条，口縁端面に浅い凹線3条，内外面煤付着	茶褐	微砂㋮
2	〃	－	－	－	頸部凹線12条，肩部外面ハケ後丁寧なナデ，外面煤付着	黒褐	微～細砂
3	〃	－	－	－	口縁部内面10数本の櫛描波状文，口縁端面に二重竹管文2段，2次焼成痕	茶褐	微砂，粗砂㋮
4	甕形土器	16.8	－	－	口縁端面に凹線4条，外面煤付着・下半ハケ後ナデ一部篦ケズリ	内)灰白外)茶褐	微砂㋮，粗砂㋑
5	〃	14.2	－	－	口縁端面凹線4条，外面煤付着	内)茶褐外)黒褐	微～細砂
6	〃	16.0	－	－	〃 ， 〃	内) 〃 外)赤褐	〃～ 〃 ，赤色粒
7	〃	－	5.6	－	外面縦位ハケ後篦ミガキ・煤付着，底部外面ナデ，内面篦ケズリ後ナデ	内)黄褐外) 〃	微砂
8	台付直口壺形土器	7.3	10.5	24.7	脚部下半外面ナデ，頸部外面ハケ後横ナデ，三角形透し孔19個	淡黄褐	微～細砂
9	〃	－	－	－	内面上半しぼり目，他はナデ，外面篦ミガキ	内)黒灰外)黄褐	微砂
10	高杯形土器	24.1	－	－	口縁部浅い凹線5条，端面に凹線1条	淡黄灰	微～細砂
11	〃	17.3	－	－	口縁端面浅い凹線2条，杯部外面篦ケズリ後篦ミガキ，内面煤で不明	内)暗赤褐外)茶褐	微砂，粗砂㋑
12	〃	－	9.7	－	篦描沈線2条以上施文後三角形透し孔12個（未貫通），脚端面凹線2条	茶褐	〃
13	〃	－	12.0	－	脚外面ハケ後下半に篦ミガキ痕，三角形透し孔13個，篦描沈線8条	淡赤褐	細砂
14	〃	－	11.5	－	三角形透し孔10個，脚部下半ハケ後横ナデ，上半ハケ後篦ミガキ	明赤～明黄褐	微～細砂
15	器台形土器	－	－	－	外面磨滅で不明，長方形透し孔6個，内面篦ケズリ	淡黄褐	〃～ 〃 ㋮
16	鉢形土器	9.0	3.2	6.2	内面・底部外面ナデ，体部外面下半ナデ上げ後篦ミガキ，外面煤付着	淡茶～淡灰褐	細砂

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W 1	円形木製品	5.2	5.2	3.4	広葉樹	素材は径約5cmの樹皮のついた丸材で一部樹皮を削り取る，一端に折損しているが突起の痕跡
W 2	杭	23.6	5.9	7.6	－	径6cmの丸材の下端を一段細く面を取るように削り先端は斜めに削り落とす

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S 6	石鏃	3.7	1.7	0.4	2.0	サヌカイト	浅い凹基，両面に素材面

図19　井戸－1　出土遺物(2)　縮尺 1/4(W1･2)・2/3(S 6)

c．土　　壙

土壙－64（図20・21）

ＢＤ30区に位置し，土壙65によってその南半を大きく削平される。

平面形は，長軸146cm・短軸108cmの東西に長い楕円形の土壙が推定される。掘り方は逆台形を呈し，底面は検出面より28cm，標高70cm前後を測る。

埋土の上半は炭・焼土を多量に含む１層とそれら以上に１～４㎜の赤色細礫が目立ち層状をなす２層で構成される非常に汚れた土で土壙65と同じ様相を示す。

出土遺物から時期は鹿田・中・３期に比定される。

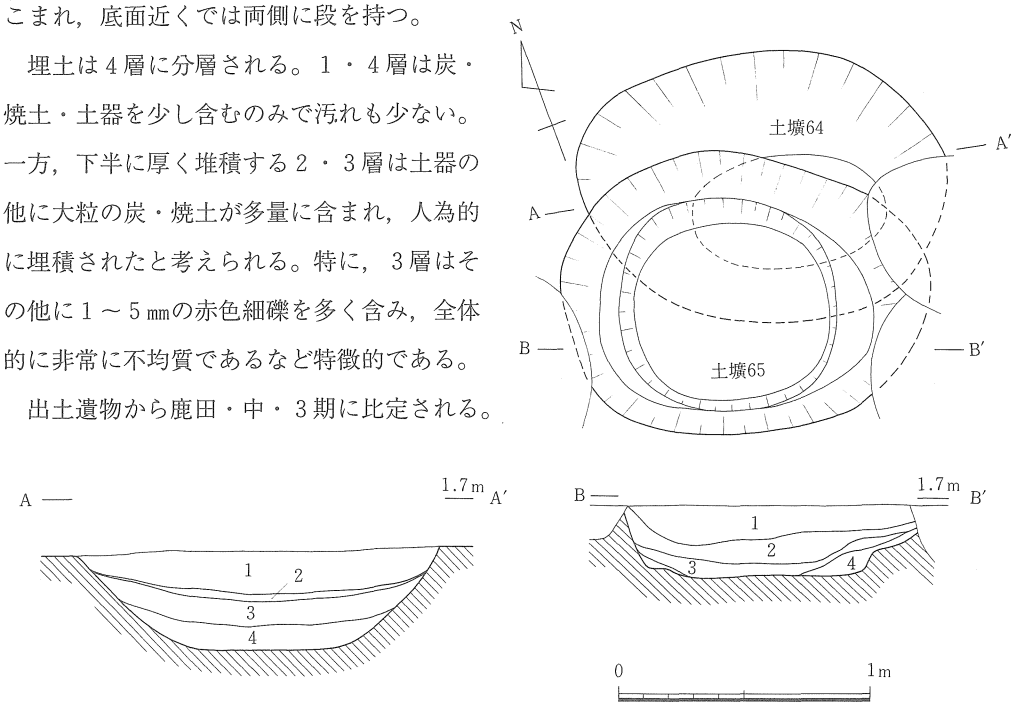
土壙－65（図20・22）

ＢＤ30区に位置する。土壙・柱穴が密集する地域にあたり，東・西側を土壙によって切られ，南側は調査区の南限に接する。

平面形は長軸147cm・短軸は113cmの東西にやや長い楕円形が推定される。底面の深さは検出面より39cmで標高98cmを測る。掘り方は西側は直線的であるのに対して東側は摺り鉢状に掘りこまれ，底面近くでは両側に段を持つ。

埋土は４層に分層される。１・４層は炭・焼土・土器を少し含むのみで汚れも少ない。一方，下半に厚く堆積する２・３層は土器の他に大粒の炭・焼土が多量に含まれ，人為的に埋積されたと考えられる。特に，３層はその他に１～５㎜の赤色細礫を多く含み，全体的に非常に不均質であるなど特徴的である。

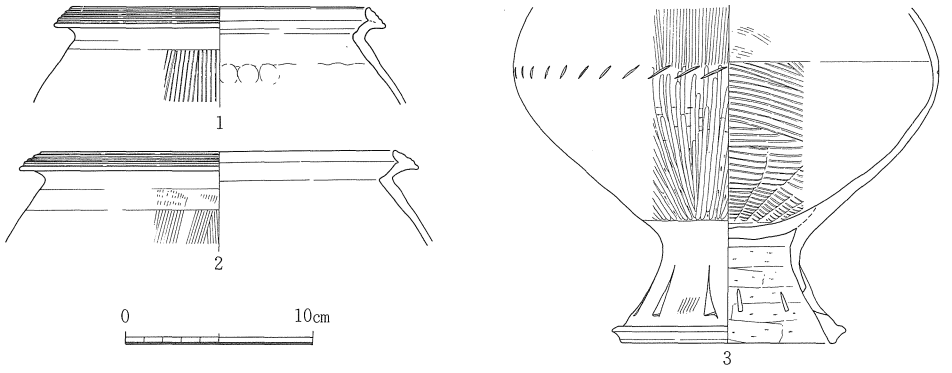
出土遺物から鹿田・中・３期に比定される。



土壙64
1　黄褐色微砂（炭・焼土多含，土器）
2　暗褐色細礫（炭・焼土・赤色細礫多含）
3　黄褐色砂質土
4　暗黄灰褐色細砂

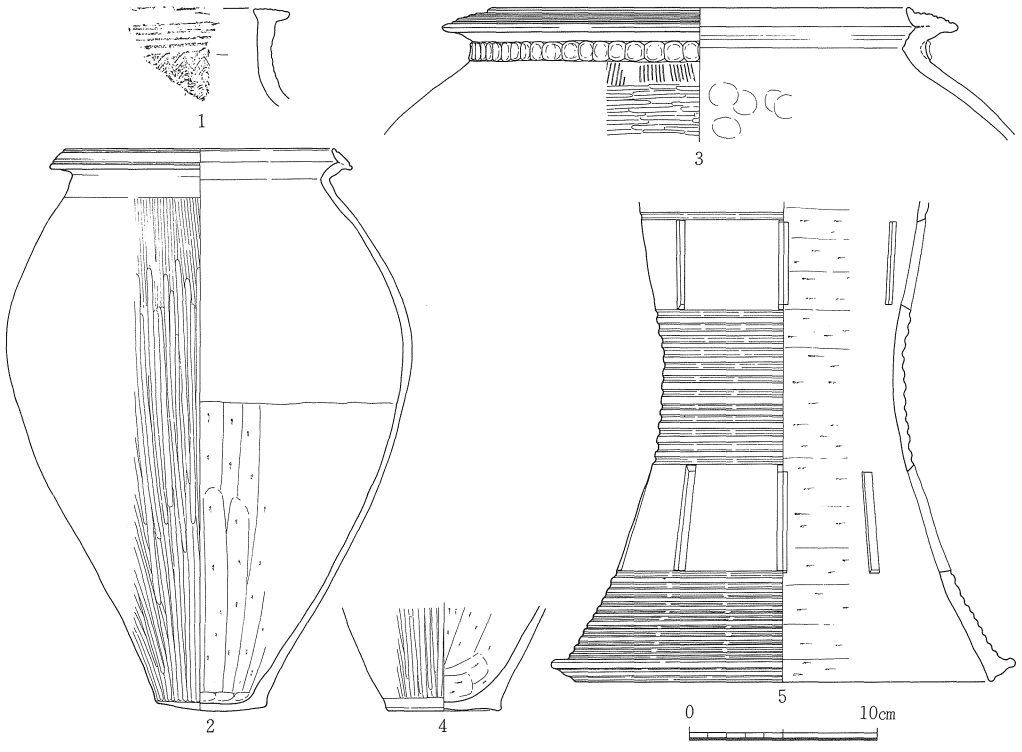
土壙65
1　黄褐色土
2　暗茶灰褐色粘質土（炭・焼土多含，土器）
3　暗茶褐色粘質土　（〃・　〃　，　〃・赤色細礫）
4　黄褐色細砂

図20　土壙－64・65　縮尺 1/30



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	16.0	—	—	口縁端面凹線4条，外面幅広のハケ	内)灰褐外)明褐	細砂
2	〃	18.9	—	—	〃	淡乳白～淡黄白	微～細砂
3	台付壺形土器	—	11.4	—	三角形透し孔10個，台部外面ハケ後ナデ，体部外面下半箆ミガキ	内)灰褐外)淡乳黄褐	微砂

図21　土壙－64　出土遺物　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	—	—	—	内外面横ナデ，口縁端面凹線6条，口縁部凹線5条・波状文	明褐	微～細砂
2	甕形土器	14.4	6.0	30.0	口縁端面凹線4条，外面のハケは非常に浅い，底部外面丁寧なナデ	内)暗黄褐外)黄褐	細砂
3	〃	22.0	—	—	〃　〃　7条，頸部に指頭圧痕文貼付け凸帯	淡黄白	細～粗砂
4	〃	—	6.0	—	底部外面ナデ	内)灰黒外)淡乳灰褐	細砂
5	器台形土器	—	22.0	—	内面箆ケズリ，最下段の凹線10条，長方形透し孔上段7～8個・下段8個	淡黄褐	微～細砂

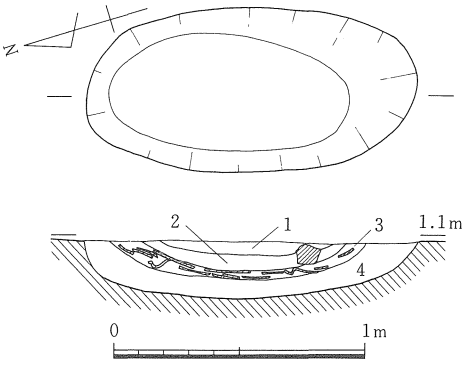
図22　土壙－65　出土遺物　縮尺 1/4

土壙－98（図23）

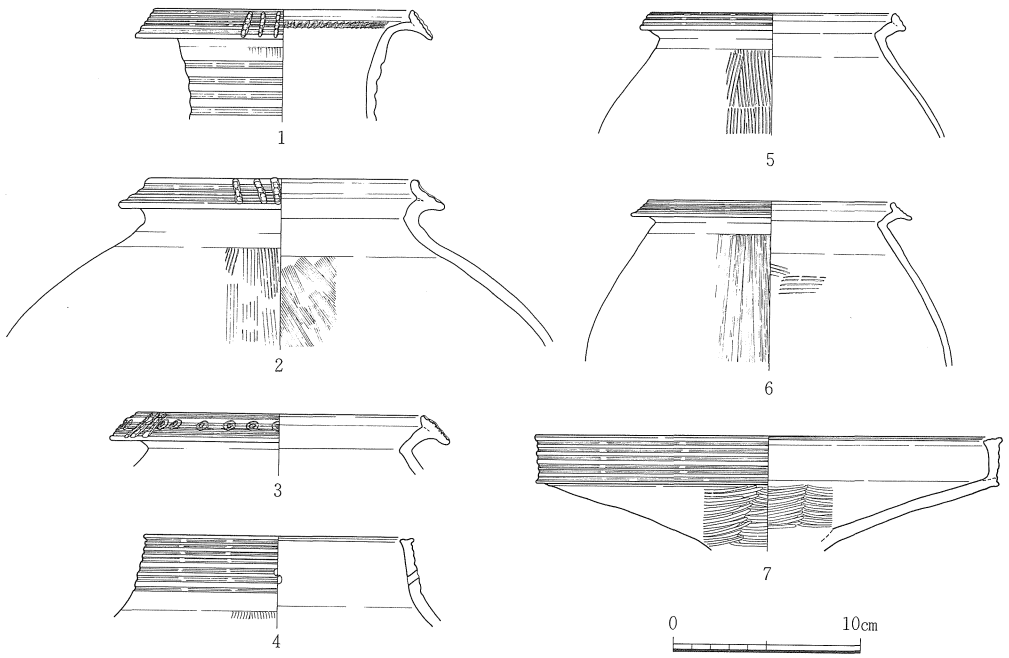
ＢＤ32区に位置する。平面形は長軸131㎝・短軸65㎝の長楕円形を呈し，南北方向に軸をもつ土壙である。掘り方は浅い皿状をなし，底部は検出面より深さ22㎝，標高84㎝を測る。

埋土は２・３層が炭化物・土器を多く含む人為的な層で，１・４層については汚れも少なく遺物もほとんど認められないことから，自然流入土と考えられる。

遺物はほとんど３層から集中して出土している。壺（１～４）・甕（５・６）・高杯（７）等がある。時期は鹿田・中・３期に比定される。



1　淡灰褐色砂質土
2　暗灰褐色　〃　（炭多含）
3　暗灰褐色土（土器多含）
4　黄褐色土



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	13.8	－	－	口縁端面凹線５条・棒状浮文３本単位，頸部ハケ後横ナデ	明黄褐	細砂
2	〃	14.3	－	－	〃　〃 ３条・　〃　３本単位４ケ所，外面ハケ後ナデ	〃	微～細砂
3	〃	15.3	－	－	〃　〃 ６条・二重竹管文７個おきに棒状浮文３本	明褐	微砂
4	〃	14.4	－	－	口縁部に凹線７条，円孔は対角線上に１個づつ	明黄褐～黒褐	微～細砂
5	甕形土器	13.1	－	－	口縁端面に凹線３条，外面幅広のハケ	淡灰褐	微砂
6	〃	13.1	－	－	〃　〃 ４条，外面浅いハケ・煤，内面ナデ（一部ハケ残存）	内淡赤褐外淡灰褐	〃
7	高杯形土器	24.9	－	－	〃　〃 ３条，口縁部凹線６条，杯部外面篦ケズリ後篦ミガキ	淡乳黄白	〃

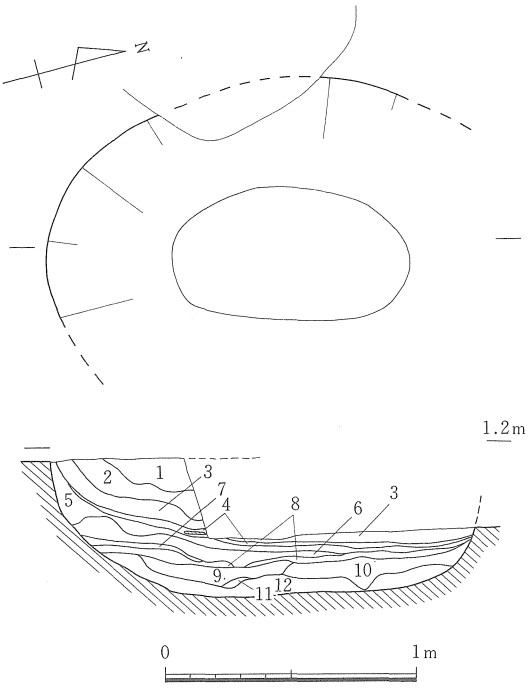
図23　土壙－98，出土遺物　縮尺 1/30，1/4

土壙－110（図24）

ＡＺ33区に位置する。土壙上半部は，南西側の⅓部を残して，深い攪乱穴により大きく削平を受ける。また，西側の一部も土壙109によって切られている。このため，正確な平面形の旧状復元は困難であるが，底面の形状・掘り方の状況等から判断して，長軸180～200cm・短軸150cm前後の南北に軸を持つ楕円形を呈すると推定される。底面の深さは検出面から54cm・標高60cmを測る。

土壙内は比較的明瞭に12層に分層される。また，各々は土質から砂質土層（１～３層・８層・12層），粘質土層（５層・７層・９層・10層），炭・焼土層（４層・６層・11層）の３タイプに分れ，それらが互層をなして堆積している状況が認められる。

遺物は基本的には砂質土層から出土している。細片で量も少なく図化できるものは無い。時期は鹿田・中・３期に比定される。



1　暗黄灰色砂質土
2　明黄灰色　〃
3　黄灰色　〃
4　炭化物層
5　黄灰色粘質土（白色粘土含）
6　炭化物・焼土層
7　黄白色粘質土
8　暗灰褐色砂質土
9　黄白色粘土
10　黄褐色粘質土（炭含）
11　炭化物ブロック
12　褐色砂質土

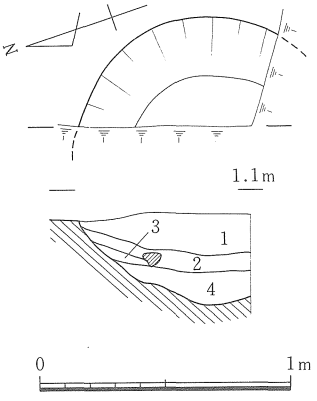
図24　土壙－110　縮尺 1/30

土壙－162（図25）

調査区の隅にあたるＢＤ34区に位置する。南と西側を側溝によって切断されるため平面形の旧状復元は不可能で，円形か楕円形の可能性が推定できるのみである。底面は凹凸を持ち，深さは検出面下36cm，標高64cmを測る。

土壙内上半には多量の炭化物・焼土・細礫（１～３㎜）が埋積し，２層では製塩土器細片の集積が認められる。下半では炭化物等に代って粘土層及び粘土粒の包含が特徴的である。

時期は製塩土器が細片のため不明である。他の遺物からは鹿田・中・３期に比定されるが，少量・細片であるため，混入の可能性があること，製塩土器出現時期の問題等を考えると，後期に入る可能性もある。



1　黒灰褐色土（炭・焼土・細礫）
2　〃　（〃・〃・〃・〃・製塩土器）
3　灰色細砂粘土
4　暗黄灰色粘質土（粘土粒）

図25　土壙－162　縮尺 1/30

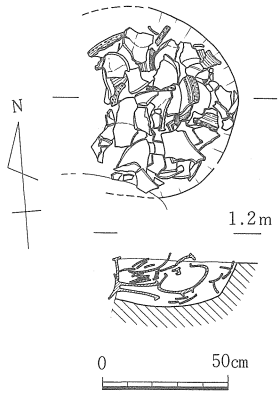
土壙－117（図26～28，図版47・48）

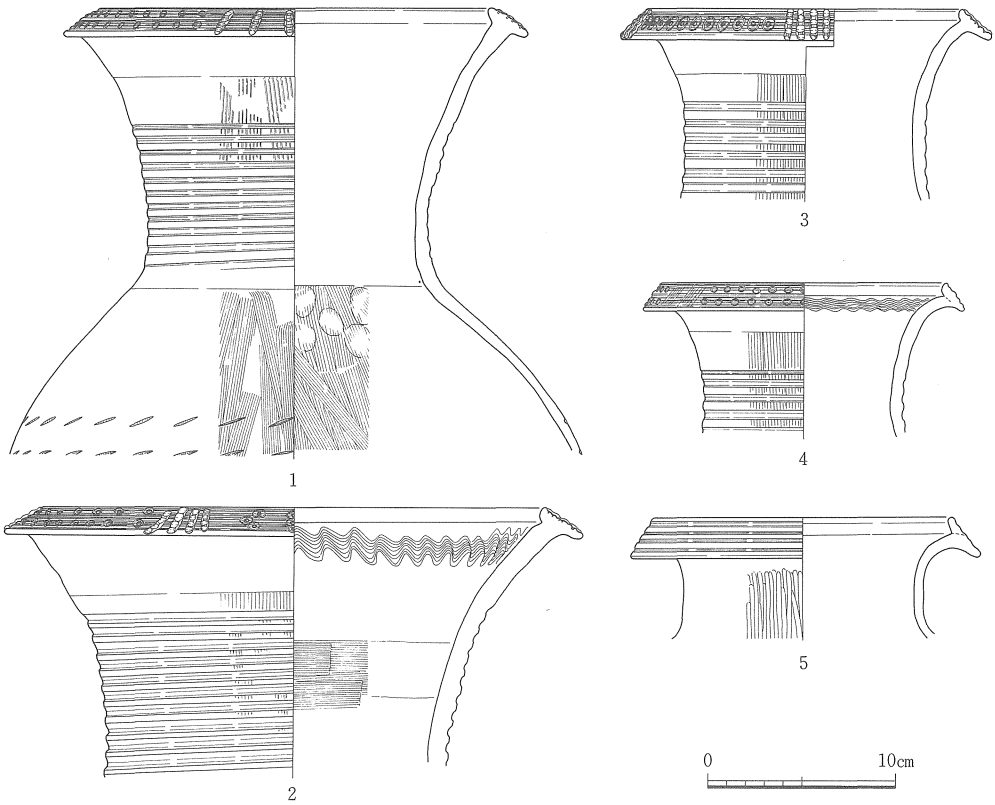
ＢＢ33区に位置する。両側を攪乱により切断される。

平面形は径75㎝前後の円形を呈すと推定される。底面は平坦ではなく緩やかな傾斜を持ち，検出面下18㎝，標高91㎝を測る。

土壙内にはほぼ単一の暗茶褐色粘質土が炭化物と多量の土器を伴って埋積する。土器は完形品に近いものや大形破片が多く，ぎっしりと詰込まれた状況で出土している。器種は壺・甕・高杯・鉢・器台等がある。その中で壺の占める割合が比較的高い。

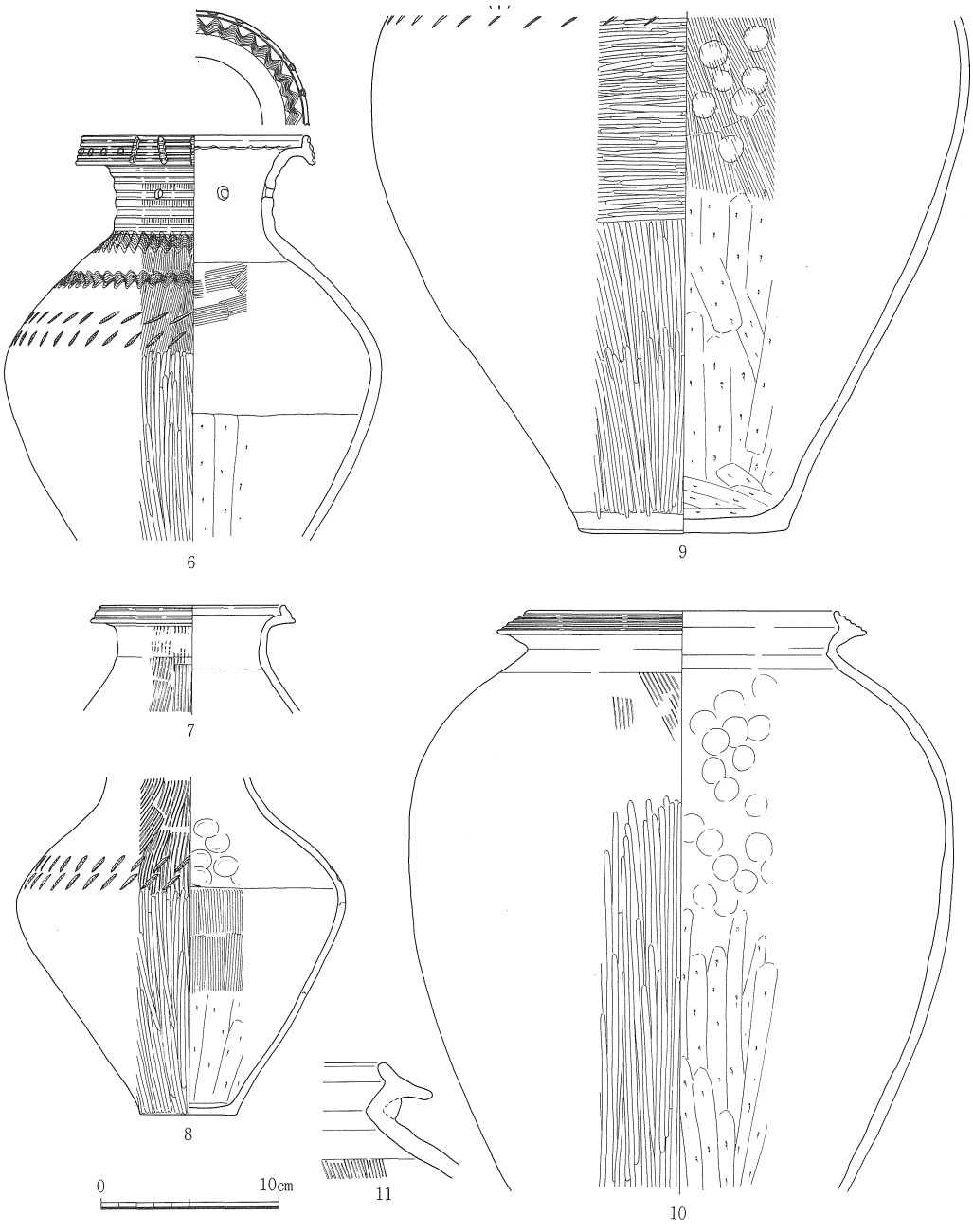
時期は鹿田・中・３期に比定される。　（山本）





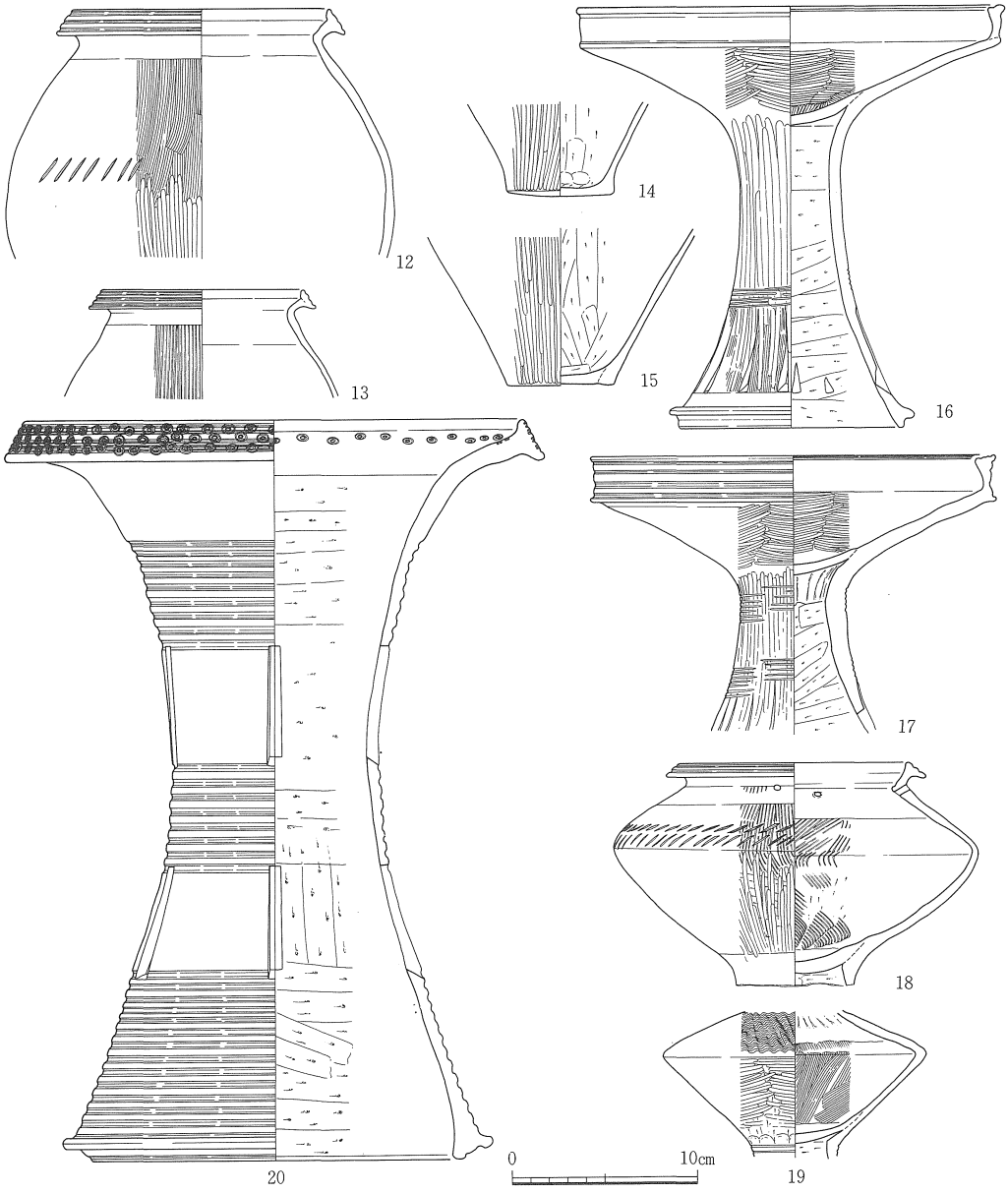
遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	20.8	－	－	棒状浮文３本単位４ケ所，竹管文２段10～13列４ケ所	淡灰褐～淡乳黄褐	微砂
2	〃	26.8	－	－	〃　３本３ケ所・４本２ケ所，二重竹管文２段４ケ所・３段１群	黄褐－明褐	〃，金雲母
3	〃	16.9	－	－	〃　４本単位４ケ所，二重竹管文11個４ケ所	黄褐	〃
4	〃	15.2	－	－	凹線５条，竹管文２段７列とハケ状施圧痕文２ケ所が交互配置	淡赤褐－黄褐色	細～粗砂
5	〃	15.9	－	－	〃　４条	淡黄褐	微～細砂◎

図26　土壙－117，出土遺物(1)　縮尺 1/30，1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
6	壺形土器	12.6	—	—	棒状浮文3個単位・竹管文5個単位各々4ケ所，円孔2個一対2ケ所	淡黄褐	微砂
7	〃	10.3	—	—	内面ナデ，口縁端面凹線2条，外面煤少量	〃	微～細砂
8	〃	—	5.4	—	底部内外面ナデ	明茶褐	微砂
9	〃	—	11.9	—	底部外面平行篦ミガキ，列点文下半のみ残存，黒斑2ケ所，外面煤	内暗黄褐外黒褐	細砂
10	甕形土器	17.4	—	—	口縁端面凹線5条，体部外面上半ハケ後ナデ，外面煤	茶褐～暗茶褐	〃，細礫㉖
11	〃	—	—	—	全体的に剥落が進み不鮮明，頸部に指頭圧痕文貼付け凸帯が廻る	内赤褐外暗褐	微～細砂

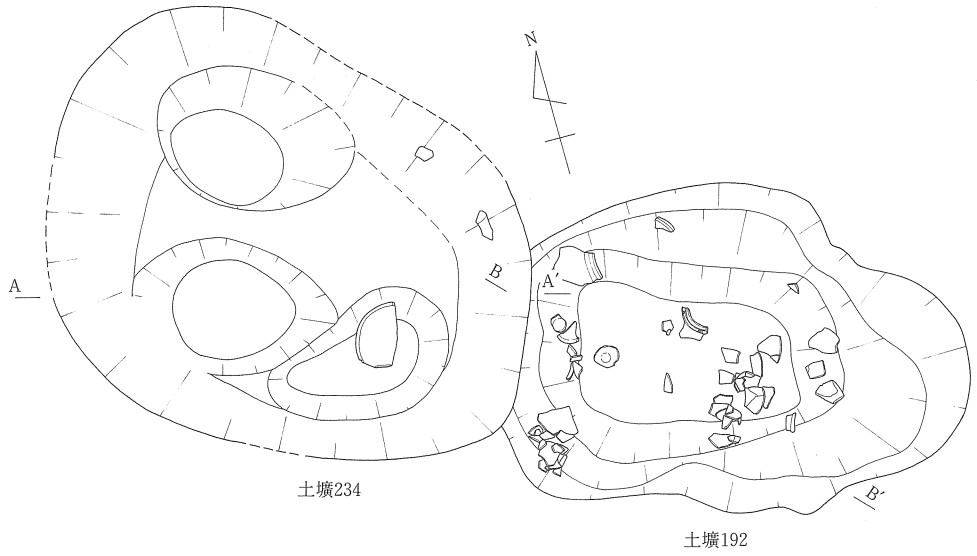
図27　土壙－117　出土遺物(2)　縮尺 1/4



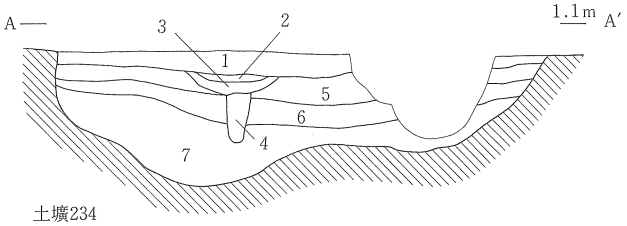
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
12	甕形土器	13.9	—	—	口縁端面凹線3条，内面ナデ，体部の列点文7個単位1ケ所，外面煤	内)灰褐外)暗黄灰	細砂多
13	〃	11.0	—	—	〃 ， 〃 ，体部外面幅広いハケ	黄褐	微砂
14	〃	—	5.8	—	底部外面ナデ，黒斑	内)黒褐外)暗黄褐	細～粗砂
15	〃	—	5.8	—	底部外面篦ミガキ後軽い押圧，外面煤・黒斑	内)暗灰褐外)黄褐	微砂多
16	高杯形土器	23.0	12.1	22.8	杯部篦ミガキ六角形，三角形透し孔14個中未貫通3個，篦描沈線3回で施文	明黄褐	〃
17	〃	21.8	—	—	〃 ，三角形透し孔15個，篦描沈線は各々2回で施文	内)暗茶褐外)茶褐	細砂
18	台付壺形土器	12.5	—	—	円孔2個一対2ケ所，脚部は故意による打欠きの可能性高い	淡黄褐	微～細砂，金雲母
19	〃	—	—	—	体部外面上半全面波状文，2次焼成痕	暗褐	微砂
20	器台形土器	27.0	20.2	40.1	口縁部内外面二重竹管文，方形透し孔上段5個・下段5～6個，黒斑	淡黄褐～淡赤褐	〃，雲母，赤色粒

図28　土壙一117　出土遺物(3)　縮尺 1/4

土壙－234（図29・30）

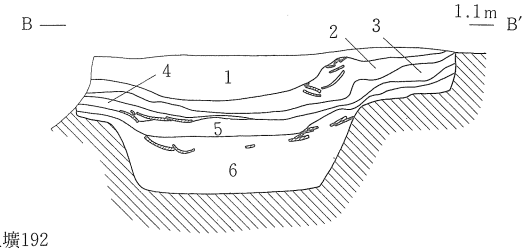


ＡＺ36区の北東部に位置し，南東部で土壙192を切っている。平面形は長径約220㎝，短径約160㎝の西北西に長軸をとる楕円形を呈するとみられる。壁は緩やかに立ち上がるが，西側では上半部が垂直に立ち上がる部分も認められる。底面には３ヶ所の浅い皿状の落ち込みが存在している。最底面は検出面からの深さ約56㎝を測り，標高約54㎝である。埋土は大きく上下にわかれるが，上半部（１・５・６層）は微砂土を基本とし，下半部（７層）は粘質土である。いずれも炭化物を含んでおり，北東部を中心に６層中にはベンガラを含んでいる。２～４層は１層堆積以前の掘り込みの可能性もあるが，詳細は不明である。



土壙234

1　褐色微砂土（炭多含）
2　暗褐色粘質土（炭含）
3　灰色粘土（炭含）
4　暗灰褐色粘質土
5　明褐色微砂土（炭含）
6　褐色微砂土（炭・ベンガラ含）
7　暗褐色粘質土（炭含）

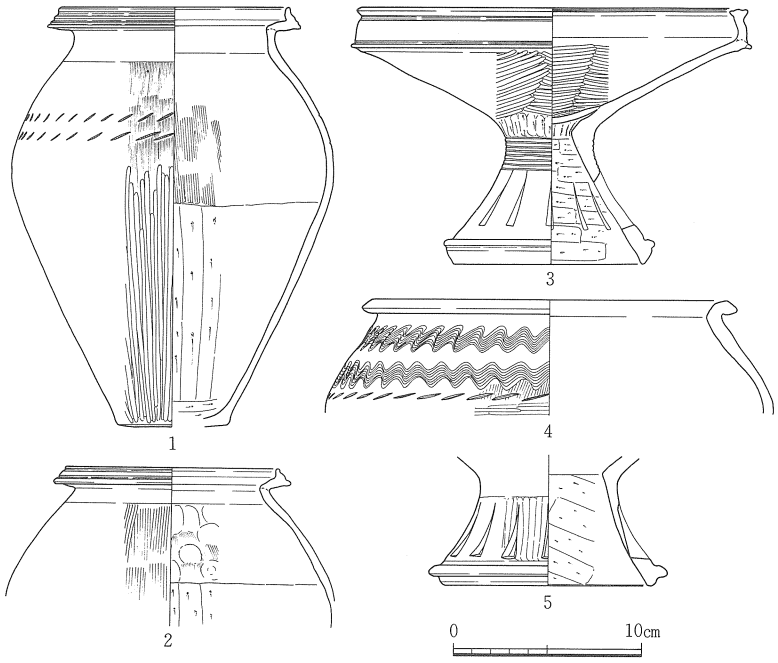


土壙192

1　灰褐色微砂土
2　暗灰褐色土（炭・焼土含）
3　灰褐色土（炭・焼土含）
4　暗灰色土（炭・焼土含）
5　黄褐色微砂土（炭・焼土含）
6　暗灰褐色粘質土（炭・焼土含）

図29　土壙－192・234　縮尺 1/30

遺物は主に1・5層から出土しており，甕（1・2），高杯（3），台付鉢（4・5）などがある。本遺構は埋土中にベンガラが認められることから，埋葬関連の遺構である可能性が認められるが，発掘時には，明確には確認し得なかった。本遺構は出土遺物から鹿田・中・3期に属する。

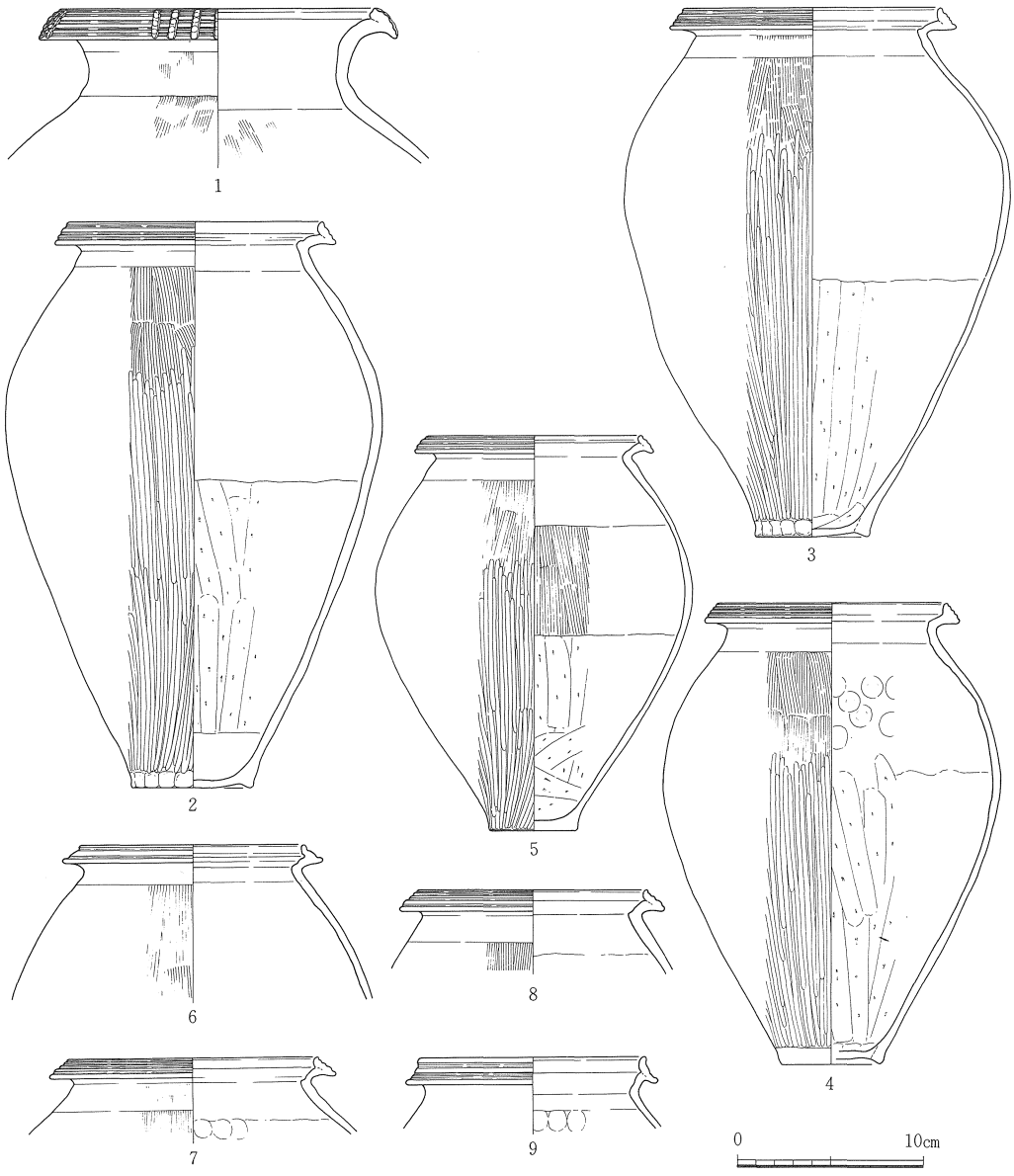


遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	12.2	5.8	22.3	口縁端面凹線3条，体部外面非常に浅いハケ後篦ミガキ，底部外面ナデ	暗茶褐	微～細砂，赤色粒
2	〃	11.4	—	—	〃　〃　2条，体部内面上半非常に浅く細いハケ後ナデ	淡黄灰白	微砂
3	高杯形土器	20.6	10.1	13.6	〃　〃　2条，杯部外面篦ケズリ後篦ミガキ，三角形透し孔推定11～12個	淡乳黄褐	〃
4	台付鉢形土器	18.9	—	—	体部外面上半ハケ後ナデ・下半篦ミガキ，波状文・列点文あり	淡黄褐	細砂
5	〃	11.1	—	—	三角形透し孔未貫通，No4と同一個体の可能性が高い	〃	〃

図30　土壙－234　出土遺物　縮尺 1/4

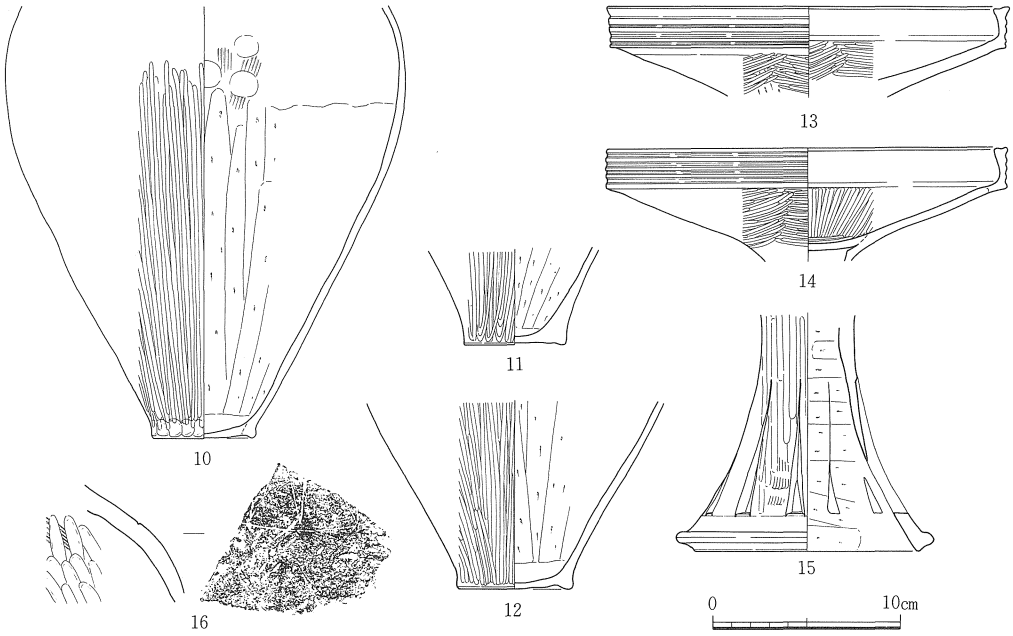
土壙－192（図29・31・32）

ＡＺ35区の北西部からＡＺ36区の北東部にかけて位置し，西端部を先の土壙234に破壊されている（図29）。平面形は長径が約200cm，短径が120cmの長軸がほぼ平面方向を向く楕円形を呈している。掘り方は段掘りとなっており，検出面から深さ25cm前後で一旦やや平坦となり，さらに長径約120cm，短径約80cmの隅丸方形で深さ約35cm前後の掘り方が存在している。壁はいずれもかなり急に立ち上がっている。最下底の検出面からの深さは56cmを測り，最下面の標高は43cm前後である。埋土は基本的に6層に分かれる。1層は流入土とみられるが，2～6層は炭・焼土を比較的豊富に含む，人為的埋土とみられる。2層および6層中からはベンガラが検出されており，特に6層には顕著である。土器は2層・4層・6層から豊富に出土している。なお壺（16）は弥生前期土器であり，本遺構には本来ともなわないとみられる。本遺構は先の土壙234と同じくベンガラの出土から埋葬遺構である可能性が認められる。本遺構は出土土器から鹿田・中・3期に属する。



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	17.0	—	—	頸～胴部外面と胴部内面ハケ後ナデ，棒状浮文4本単位4ケ所	暗灰褐	微砂
2	甕形土器	13.9	6.6	30.5	体部内面上半押圧とナデ，底部外面ナデと軽い押圧，外面煤	淡乳黄褐～黒褐	細～粗砂◎
3	〃	13.9	6.1	28.5	口縁端面凹線4条，底部外面押圧とナデ，外面煤，黒斑	淡黄褐	細砂
4	〃	12.3	5.4	24.9	〃　〃　4条，底部ナデ，外面煤	内)淡褐　外)黒褐	〃
5	〃	11.5	4.7	21.2	〃　〃　3条，底部外面ナデ，外面のハケは非常に浅い	内)黄褐　外)茶褐	〃
6	〃	12.2	—	—	〃　〃　2条，体部外面ハケ後ナデ	淡黄褐	微砂
7	〃	13.5	—	—	〃　〃　4条，外面のハケは不鮮明，外面煤	暗灰褐	〃
8	〃	12.3	—	—	〃　〃　4条	淡黄褐	微～細砂
9	〃	12.3	—	—	〃　〃　2条	明赤褐	細砂

図31　土壙－192　出土遺物(1)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
10	甕形土器	—	5.5	—	体部外面上半ナデ，底部外面粗いハケ後押圧，内面押圧，外面煤，黒斑	内黄灰褐外淡灰褐	微砂，粗砂㉖
11	〃	—	5.4	—	底部外面平行篦ミガキ	黄褐～灰褐	微～細砂
12	〃	—	6.2	—	〃　〃　，外面煤多量	茶褐	粗砂㉟
13	高杯形土器	21.3	—	—	口縁部凹線4条，杯部外面篦ケズリ後篦ミガキ	淡黄褐	微砂
14	〃	21.2	—	—	〃　，〃　〃　は六角形をなす	黄褐	〃
15	〃	—	12.0	—	三角形透し孔は⅓部分に5個	淡黄褐	細砂
16	壺形土器	—	—	—	弥生前期土器，外面ハケ後篦ミガキ・線刻あり	内灰黒外暗灰褐	〃

図32　土壙－192　出土遺物(2)　縮尺 1/4

土壙－254（図33・34，図版48）

本土壙はＡＶ37区の南東部からＡＷ37区の北東部にかけて位置している。平面形は長径約120㎝，短径約90㎝の楕円形を呈し，その長軸はほぼ東西方向である。底はやや中央がくぼんでおり，壁はかなり急な立ち上がりを示している。検出面は標高106㎝前後であり，検出面から底までの深さは70㎝前後を測り，最深部の標高は約34㎝である。埋土はほぼ一様な黄茶色粘質土であるが，下位の方がより粘性が強くなっている。また埋土中には少量の焼土が含まれている。検出面とほぼ同一レベルで土器群が集中して出土しているが，下位では遺物の出土は僅少である。主な出土土器には壺（1），甕（2～5）台

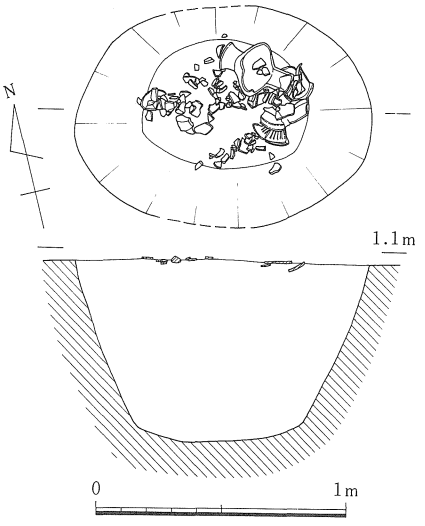
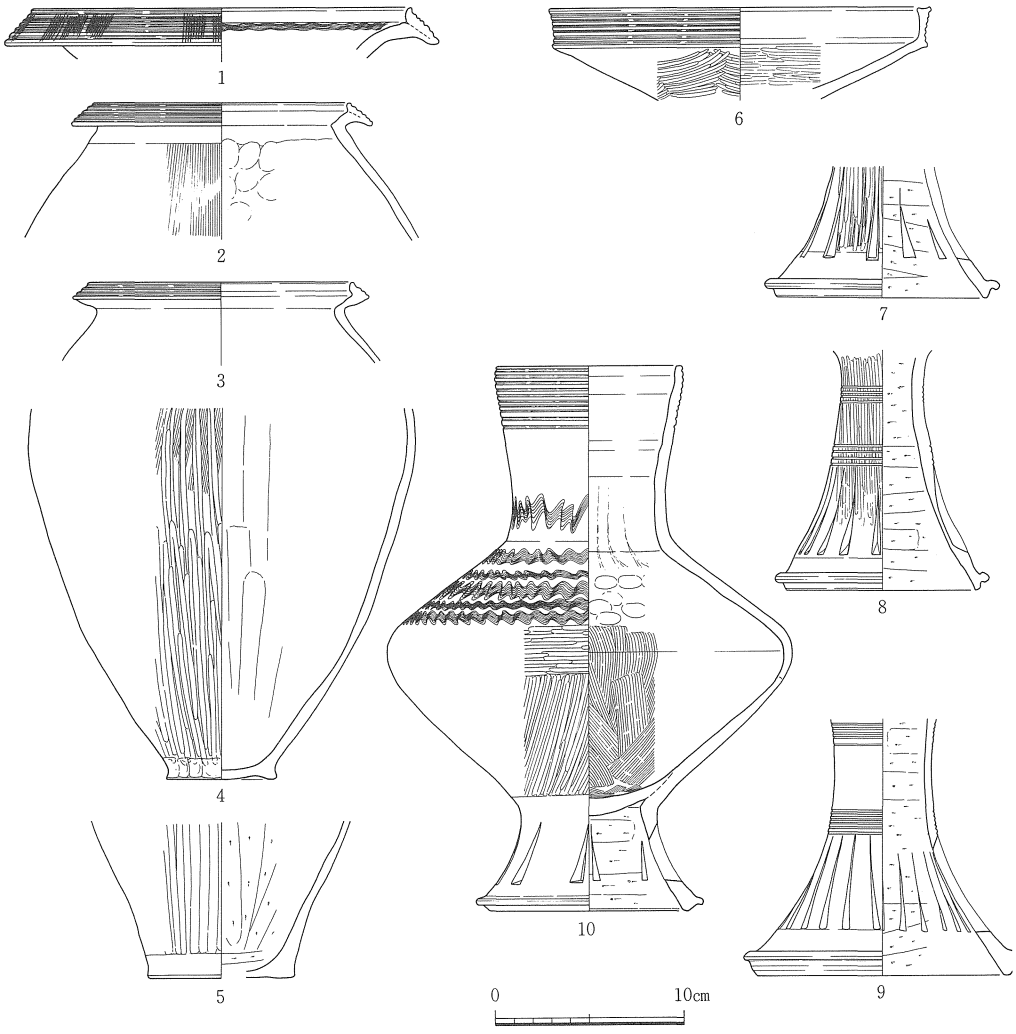


図33　土壙－254　縮尺 1/30

付直口壺（10），高杯（６～９）などがある。本土壙は出土土器から鹿田・中・３期に属するとみられる。

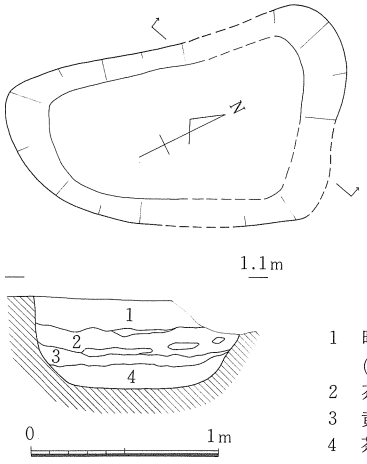


遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	20.1	－	－	口縁端面凹線６条・ハケ状篦圧痕文３ケ所１単位，内面約10条の波状文	明褐	微砂
2	甕形土器	13.6	－	－	〃　〃　５条，体部外面ハケ後軽いナデ	明黄褐	〃
3	〃	14.0	－	－	〃　〃　３条	(内)淡黄褐(外)明赤褐	微～細砂
4	〃	－	5.8	－	外面ハケ後篦ミガキ，底部外面ナデ・押圧，内面磨滅不鮮明，外面煤多量	(内)黒褐(外)赤褐	〃～〃，赤色粒
5	〃	－	7.8	－	外面幅広い篦ミガキ，底部外面ナデ・押圧，黒斑	淡赤褐	微砂
6	高杯形土器	20.2	－	－	口縁部凹線６条，内面磨滅で不鮮明，外面篦ミガキは四～六角形を描く	黄褐	細砂㊎
7	〃	－	11.2	－	外面ハケ後篦ミガキ・下半横ナデ，三角形透し孔は全体の1/4部分に３個	淡黄褐～明褐	細～粗砂
8	〃	－	10.3	－	三角形透し孔は全体の$\frac{1}{4}$中に６～７個・残存の10個中貫通２個	黄褐	細砂
9	〃	－	13.5	－	外面磨滅で不明，三角形透し孔は全体の$\frac{1}{2}$部分に13～14個	明茶褐	〃 ㊎
10	台付直口壺形土器	9.8	10.5	28.9	外面上半及び脚部外面横ナデ，三角形透し孔は９個（内貫通６個）	(内)灰褐(外)淡黄褐	微～細砂

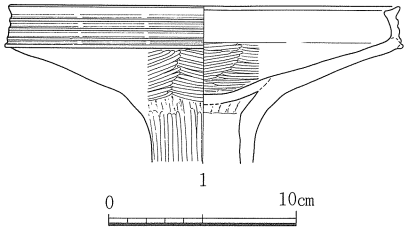
図34　土壙－254　出土遺物　縮尺 1/4

土壙－357（図35）

本土壙はＡＷ39区南側に位置し，一部は破壊されているが，平面形は北東側がやや開き気味の隅丸長方形をなすとみられる。長径約180㎝，短径約100㎝である。底はほぼ平坦であり，壁の下半部は緩やかに立ち上がり，上半部はほぼ垂直である。検出面からの深さは約47㎝である。埋土は大きくは４層に分かれる。２層中には灰白色粘土の大形のブロックが散在している。出土遺物は少なく，図化できるものは高杯１点のみである（１）。本土壙は出土土器から鹿田・中・３期に属するとみられる。



1　暗茶褐色粘質土（炭・焼土含）
2　茶褐色粘質土
3　黄茶色粘質土
4　茶褐色粘質土

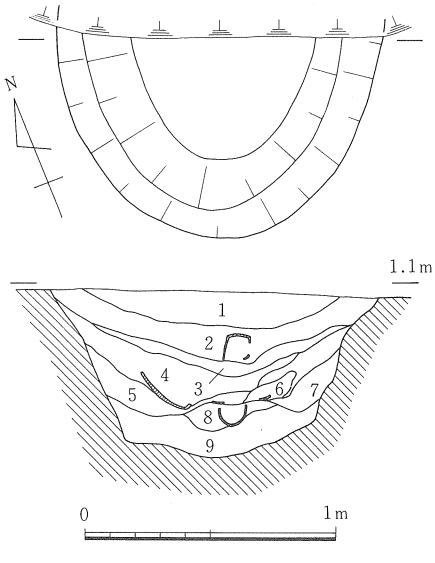


遺物番号	器種	法量（cm） 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	高杯形土器	20.8	－	－	口縁部凹線４条，杯部箆ミガキは四角形を描く，脚部内面ナデ	淡乳黄褐	微～細砂

図35　土壙－357，出土遺物　縮尺 1/30，1/4

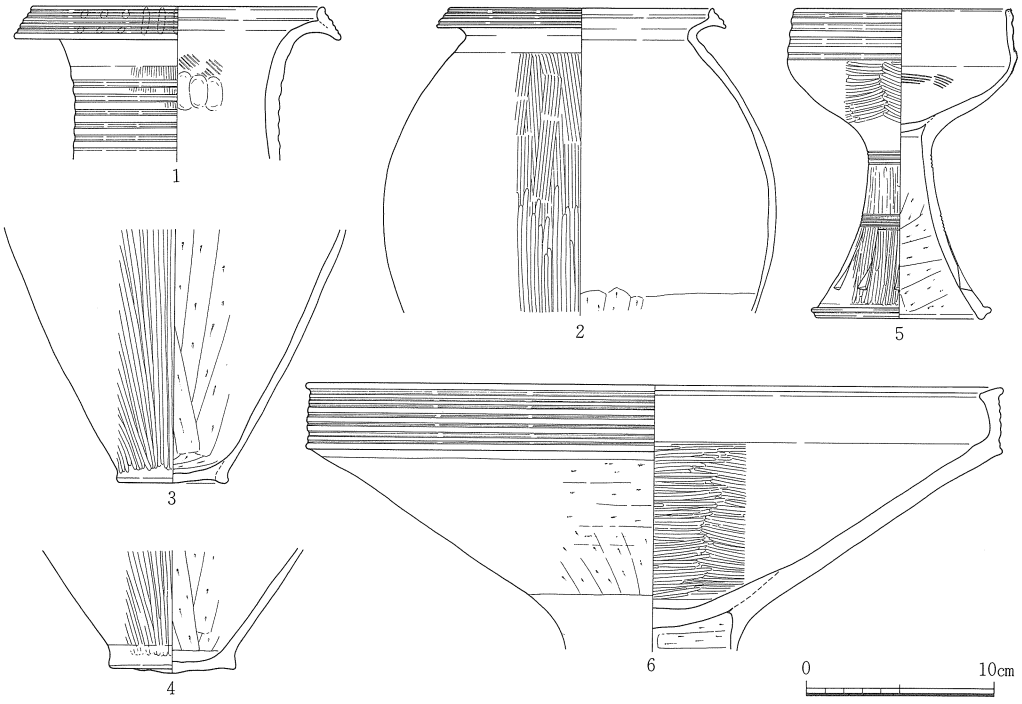
土壙－318（図36・37）

本土壙はＡＸ38・39区からＡＹ38・39区にかけて位置し，北半部を井戸32によって破壊されている。平面形は長軸を南北方向にとる楕円形と推定され，短径は約130㎝である。底は中央部が若干くぼみ，壁は一段から二段くびれている。検出面から最下面までの深さは約68㎝である。埋土は９層に分かれるが，いずれも中央部に向って傾斜する堆積を示しており，炭・焼土・礫などを少量含む層が多い。また各層からはガラス滓が少量ではあるが検出されている。遺物は９層を除く各層から出土しており，本土壙は出土土器から鹿田・中・３期に属するとみられる。



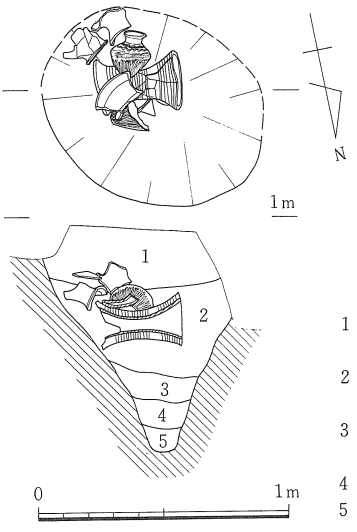
1　淡茶褐色粘質土
2　暗茶灰色粘質土（炭・焼土含）
3　暗灰褐色粘質土
4　褐色砂質土（炭・礫含）
5　灰褐色砂質土（炭・焼土含）
6　淡灰白色粘土
7　褐色粘質土（炭・焼土含）
8　暗灰褐色粘質土
9　淡灰色粘質土（炭・焼土含）

図36　土壙－318　縮尺 1/30



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	15.6	—	—	凹線5条・棒状浮文と竹管文は剝落で詳細不明，頸部外面ハケ後横ナデ	淡乳灰褐	細砂
2	甕形土器	14.0	—	—	〃 3条，外面煤	淡灰褐～淡灰白	微砂
3	〃	—	6.0	—	底部外面押圧・ナデ，外面煤	褐	細砂
4	〃	—	6.8	—	〃 ，外面煤	内)茶褐外)淡灰褐	〃
5	高杯形土器	11.4	8.9	16.5	外面ハケ後ナデ，脚部沈線は上・下段とも螺旋状，三角形透し孔は半数穿通	淡黄褐～淡黄白	微～細砂
6	〃	37.2	—	—	口縁部凹線7条，杯部外面篦ケズリ後軽いナデ，脚部外面ナデ	淡黄褐	細砂

図37　土壙－318　　縮尺 1/4

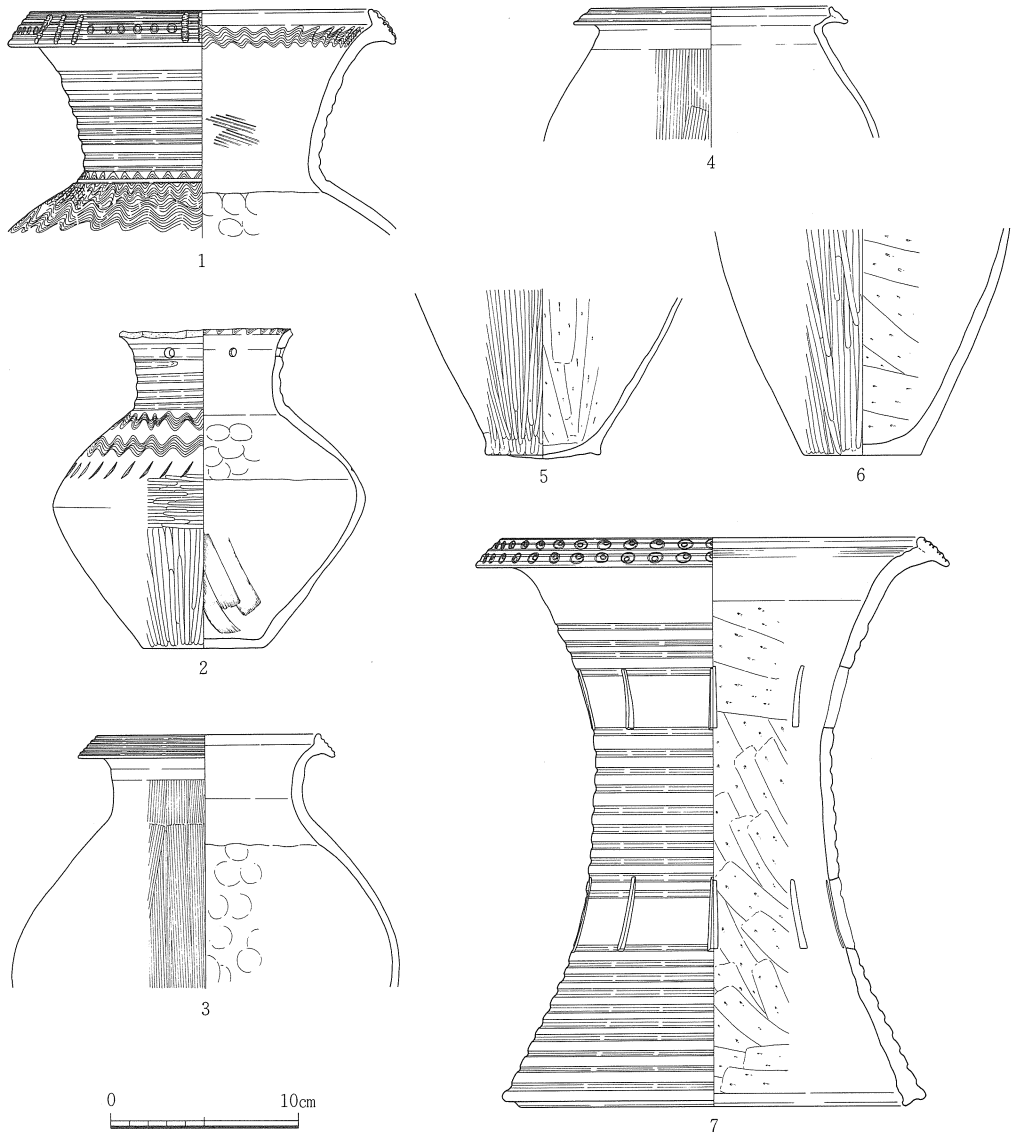


1　灰褐色粘質土（炭・焼土含）
2　灰色粘質土（炭・焼土多含）
3　茶褐色粘質土（炭含）
4　灰色粘土（炭含）
5　青灰色粘土（炭含）

図38　土壙－366　縮尺 1/30

土壙－366（図38・39，図版6・47・48）

本遺構はＡＸ39区の中央に位置する。西側部分は一部壊されているが，長径が94㎝前後，短径が75㎝前後の楕円形プランをとるものとみられる。検出面から底までの深さは約90㎝である。掘り方は下になるほど径が小さくなっており，底径は10㎝前後に過ぎず本遺構は形態からみて柱穴の可能性があろう。埋土は5層に分かれ，1～3層は粘質土，4・5層は粘土である。遺物は1・2層から出土し，3層以下には認められない。特に2層からは器台，壺などが一括出土している。本遺構は鹿田・中・3期に属する。　（栄）



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	18.2	—	—	棒状浮文3本単位推定8ケ所と竹管文5～6個単位推定8ケ所が交互配置，肩部外面全面波状文7本前後，内面ハケ後ナデ	内)黄褐/外)赤褐	細砂
2	〃	—	6.4	—	底部外面ナデ，体部内面下半工具使用ナデ，円孔2個単位2ケ所，波状文は半分残存，口縁部は打欠きの可能性あり，黒斑	淡黄白～黄褐	〃，細礫㋁
3	〃	11.9	—	—	口縁端面凹線5条，外面煤少量	淡茶褐	〃
4	甕形土器	13.0	—	—	〃 〃 2条，外面煤	淡乳灰褐～乳黄白	微砂
5	〃	—	6.1	—	底部外面押圧，底部は5.9×6.3㎝の楕円形，外面煤	暗灰褐	〃
6	〃	—	6.2	—	〃 ナデ	内)淡黄褐/外)明灰褐	〃
7	器台形土器	22.2	20.6	30.2	口縁部内面～体部外面横ナデ，他は箆ケズリ，口縁端面凹線4条，二重竹管文2段，凹線上段4条・中段10条・下段10条，長方形透し孔9個	淡乳黄白～淡乳灰	細砂

図39　土壙－366　出土遺物　縮尺 1/4

(2) 弥生時代後期前半の遺構・遺物

当時期は鹿田・後・1期および後2期にあたる。竪穴住居7棟・井戸2基・土壙107基・溝3条（内2条は短小）・土器棺4基・柱穴多数を検出した。後・1期については数点の遺物が出土したが，遺構は未検出のため掲載遺構は全て鹿田・後・2期に属す。

鹿田・後・2期は，井戸の一括遺物から2a期（井戸2・3の出土遺物を指標）と2b期（Ⅱ地点の井戸1の出土遺物を指標）に細分される。本調査区（Ⅰ地点）では2a期が中心を成す。主要遺構としては2a期に竪穴住居6棟（住3～8），井戸2基（井2・3），溝1条（溝37），土器棺4基（土器棺1～4），2b期に竪穴住居1棟（住12）が挙げられる。土壙は総数107基を数え，その約⅔が2a期，約⅓が2b期に属する可能性が考えられる。

遺構は調査区のほぼ全域において検出されたが，旧地形が高くなる東側に多く，下り部分に向う溝37以西には少ない傾向が看守された。東西両地区間に密度の差が認められなかった中期とはやや様相を異にする。また，東北部分の空白部は中期同様に後世の大規模な攪乱，影響が考えられる。

次に竪穴住居と井戸の諸関係を考えたい。

2a期においては，遺構は，井戸2と3との出土遺物における若干の差，竪穴住居間での切合いの存在等から，少なくとも二群に細分が可能であると考えられる。つまり，井戸2と竪穴住居3・5の一群と井戸3と竪穴住居4・6の一群である。具体的には井戸2から3へ，竪穴住居3から4へ，5から6への建て替えが想定される。いずれも5～10mの距離内での移動であり，両者間に大きな位置的変化はなく，住居が井戸を囲んで配された状況が読みとれる。竪穴住居6・7については遺物の出土量が少なく正確な時期は把握できなかったが，前述の住居と井戸との諸関係に否定的な状況は認められない。

次の2b期には主要遺構としては竪穴住居12が挙げられる。鹿田・後・4期まで存続する住居のため，当時期の遺物は非常に少なく，詳細な時期は把握できないが，僅かの遺物の特徴および諸状況から当時期の最終末に考えたい。他に同時併存の主要遺構は検出されておらず，集落の中心が調査区外に移動した可能性が考えられる。

竪穴住居・井戸のほかに当時期に特に目立つのは土壙である。数量・包含物等に他時期を凌駕する状況が認められた。特に，注目される包含物としては粘土・円礫・遺物（土器主体）・製塩土器などがあげられるほか，土器棺に代表されるような墓壙的性格をもつものも認められる。

特に土器を中心とした遺物を多量に含む土壙は，中期に比べて数が増加すると共に，包含される遺物量も飛躍的にのびており，当時期において特徴的である。

最後に土器棺については，検出された4基（壺棺3基・甕棺1基）の内，土器棺2・4は鉢

蓋壺身，土器棺３は壺身で木蓋の可能性をもち，土器棺１は高杯蓋甕身である。土器棺２からは乳歯が10数本，土器棺４からは供献の可能性が考えられる完形の壺が２個体各々出土した。

以上をまとめると，２ａ期の集落は調査区西側の微高地の落ち際に沿って形成された溝37の東側（微高地高位部）に中心を有し，竪穴住居数棟が井戸１基を囲んで建てられる。各々は順次建て替えられるが，ごく近距離内であり，大きな位置の移動はない。周囲には土器棺等の埋葬遺構を含んで多数の土壙が形成される。土壙の機能は多岐にわたるが，特に，遺物量の増加に伴って遺物廃棄を目的とした土壙が際だって増加する。鹿田・後・２ｂ期に入ると，東側の住居群は廃絶され，西側に新たな住居が構築されるが，該期に属す遺構は減少し，集落の中心を移動した可能性が考えられる。詳細は不明である。（山本）

図40　弥生時代後期前半の主要遺構配置図　縮尺 1/500

a．竪　穴　住　居

竪穴住居－３（図41・42，図版８－１・53・54）

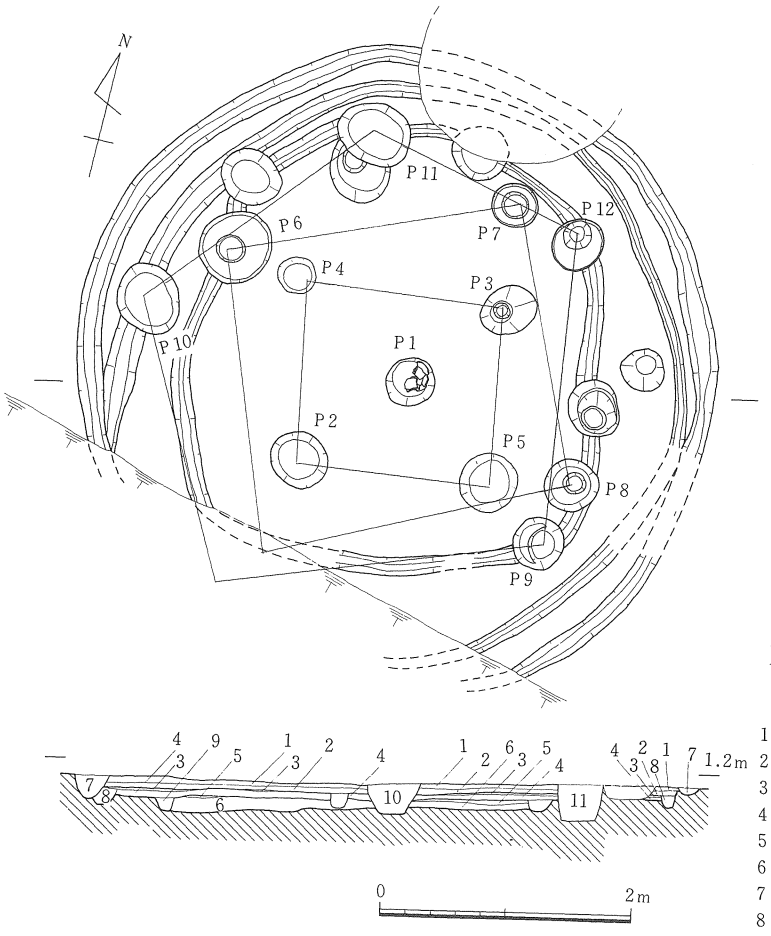
ＢＤ31・32区に位置する。南側を側溝に，また，北側の一部を井戸10に各々切られ，上部では竪穴住居４と重複関係をもつ。２回の建て替えが認められる。

１次住居は東西330㎝・南北360㎝の不整隅丸方形プランを呈す。床面は標高90～95㎝で南西に向って緩く傾斜する。貼り床は部分的に存在し，厚いところで５㎝を測る。柱はＰ２～５の４本柱が考えられるが，Ｐ４・５については底面高がやや浅く問題を残す。

２次住居は径460㎝前後の円形住居で，床面は標高97～102㎝を測り，やはり南西に緩く傾斜する。床面上では南半に炭化物の分布が検出された。また，貼り床は厚さ１～２㎝で部分的に認められる。柱は４本柱と想定され，Ｐ６～８と側溝中に１本が考えられる。

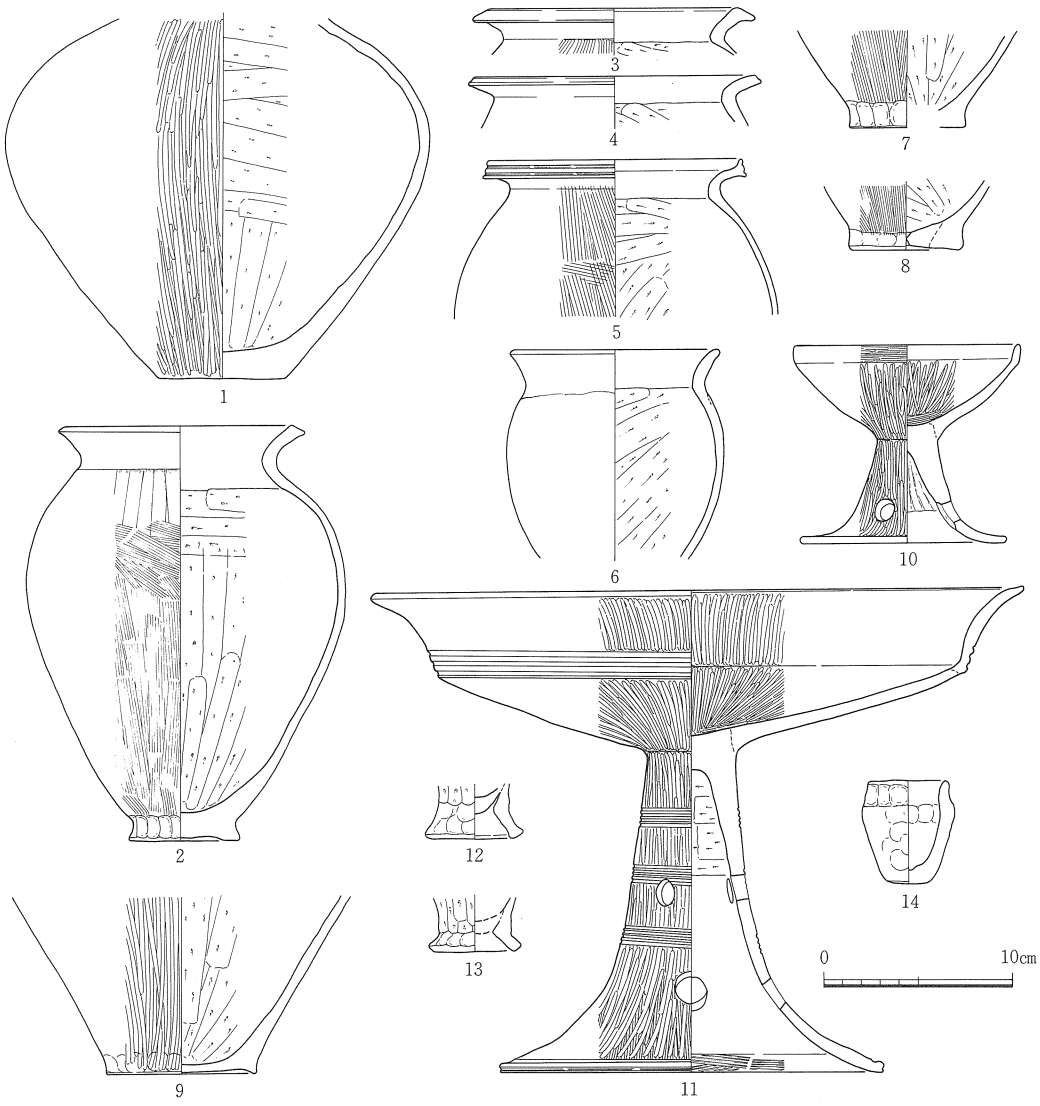
最終住居は径510㎝前後の円形住居で，床面は標高110㎝前後を測る。柱は５本柱でＰ９～12と側溝中に残りの１本が推定される。中央穴周辺の床面上には炭化物が検出された。

遺物は１次住居床面から甕（９），最終住居床面及び埋土から甕（２～８），高杯（10・11），製塩土器（12・13），手捏ね土器（14），中央穴Ｐ１から壺（１）が各々出土している。高杯（11）は井戸３出土高杯（29）よ



1　淡黄褐色粘質土…最終床面
2　黄褐色　〃
3　淡黄褐色　〃　…２次貼り床
4　黄褐色　〃
5　淡黄褐色　〃　…１次貼り床
6　黄褐色　〃
7　暗黄褐色　〃　…最終壁体溝
8　〃　〃　…２次　〃
9　〃　〃　…１次　〃
10　黒褐色粘質土（炭・焼土）…Ｐ１
11　暗茶褐色土　（炭・焼土）…柱穴

図41　竪穴住居－３　縮尺 1/60



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	－	6.7	－	外面ハケ後篦ミガキ，底部外面篦ケズリ後ナデ，黒斑	(内)灰褐(外)灰黒	微～細砂㊎
2	甕形土器	12.0	5.9	22.1	肩部外面縦位の工具使用ナデ，底部外面ナデ，外面煤	淡黄白～淡赤白	細砂
3	〃	13.3	－	－	外面ハケ，内面篦ケズリ	暗赤褐～明黄褐	微～細砂㊎，雲母
4	〃	14.9	－	－	外面指ナデ	淡黄褐	微砂
5	〃	13.6	－	－	口縁端面凹線２条，黒斑	淡黄灰	細砂，粗砂㊍
6	〃	11.0	－	－	外面磨滅で不鮮明・肩部下から粘土被せの痕跡残る，黒斑	(口)黄褐(胴)淡灰白	〃 ㊎
7	〃	－	6.2	－	底部外面ナデ，外面煤少量	淡黄褐	〃 ，金雲母
8	〃	－	5.7	－	焼成後の底部穿孔１ケ所	〃	〃
9	〃	－	8.0	－	底部外面ナデ，外面煤	(内)淡黄褐(外)淡灰褐	〃
10	高杯形土器	11.9	10.8	10.5	杯部内外面篦ミガキは波状㊎，円孔３個	黄褐	〃
11	〃	34.7	20.4	25.6	脚裾部外面ハケ後篦ミガキ，円孔は４個づつ２段あり交互配置	淡乳黄褐	〃 ㊎
12	製塩土器	－	4.4	－	内面ナデ，２次焼成痕	暗灰褐～淡赤褐	粗砂㊎
13	〃	－	4.4	－	〃 ， 〃	暗赤褐～黄白～黒	粗砂～細礫㊎
14	鉢形土器	4.2	2.3	5.4	手捏ね土器，ナデ・押圧	暗灰褐	微砂

図42　竪穴住居－３　出土遺物　縮尺 1/4

りはやや古い要素が考えられる。

時期は１次住居が鹿田・中・３期，最終住居は鹿田・後・２ａ期の範囲にとらえたい。

竪穴住居－４（図43・44，図版８－２）

ＢＣ31区に中心を置き，ＢＣ32・ＢＤ31区にかかる住居である。北端部を井戸14に切られ，南端部では竪穴住居３の上部を切り，その廃絶に続いて構築される。

標高120㎝で検出されたが，その時点ですでに床面は削平されていた。かろうじて壁体溝が残存するのみで，溝底レベルは標高100～107㎝である。平面形は長軸600㎝・短軸440㎝を測り，隅丸方形の東南方向の一部が凹んだような不整形なプランを呈す。

柱については，いずれも不確実であるが，その位置から５～６本柱の可能性が推定される。

遺物は壁体溝中から出土した，壺・甕・高杯・鉢・製塩土器等があげられる。時期は鹿田・後・２ａ～ｂ期に比定される。

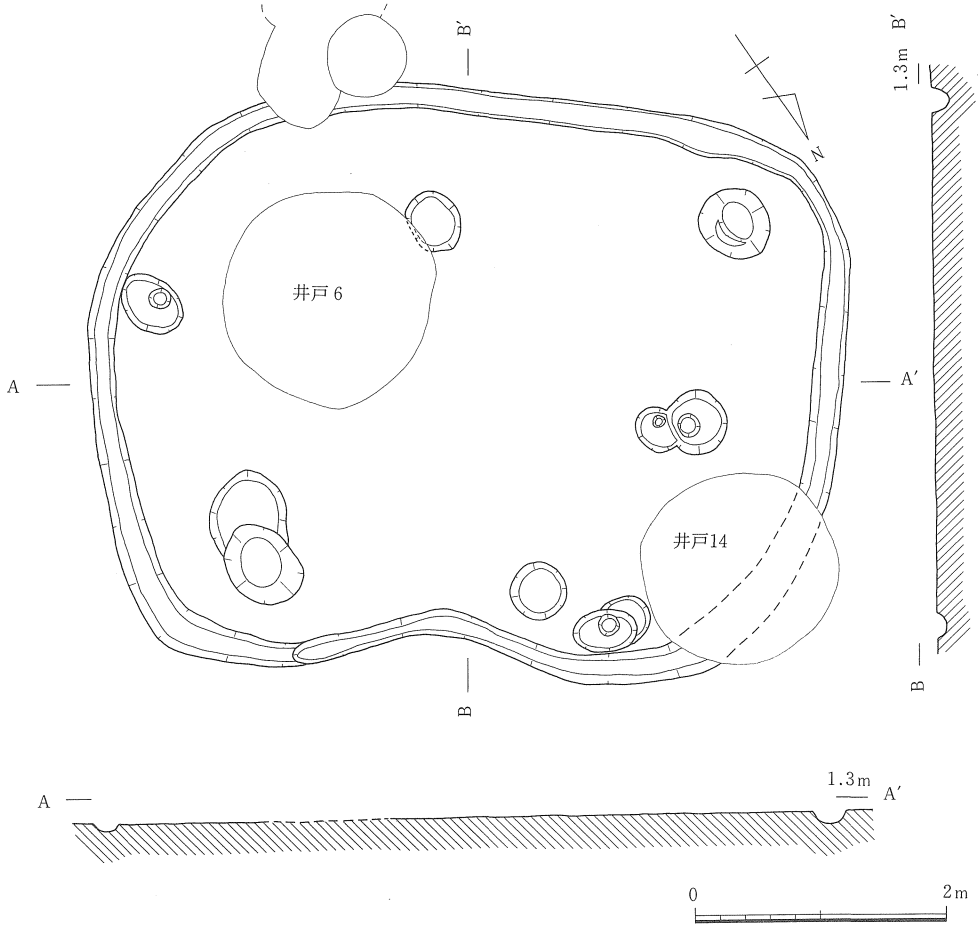
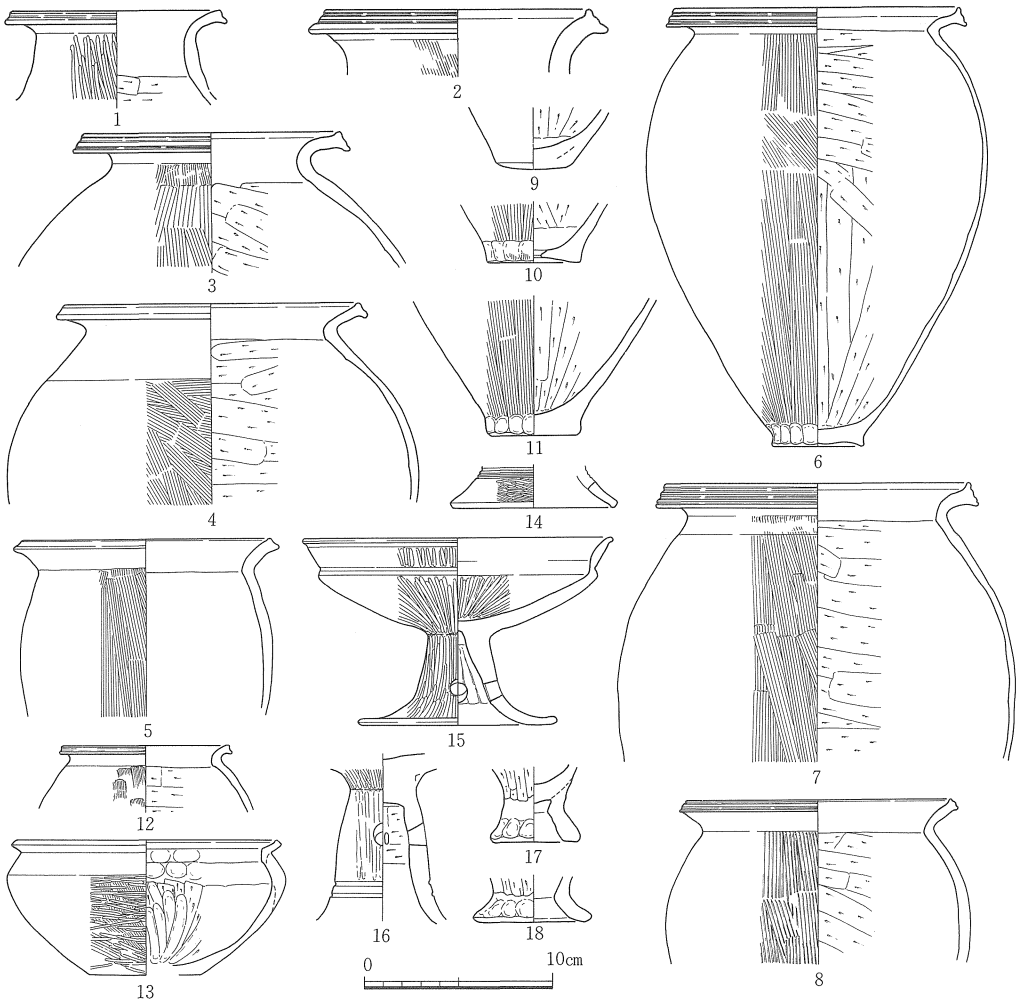


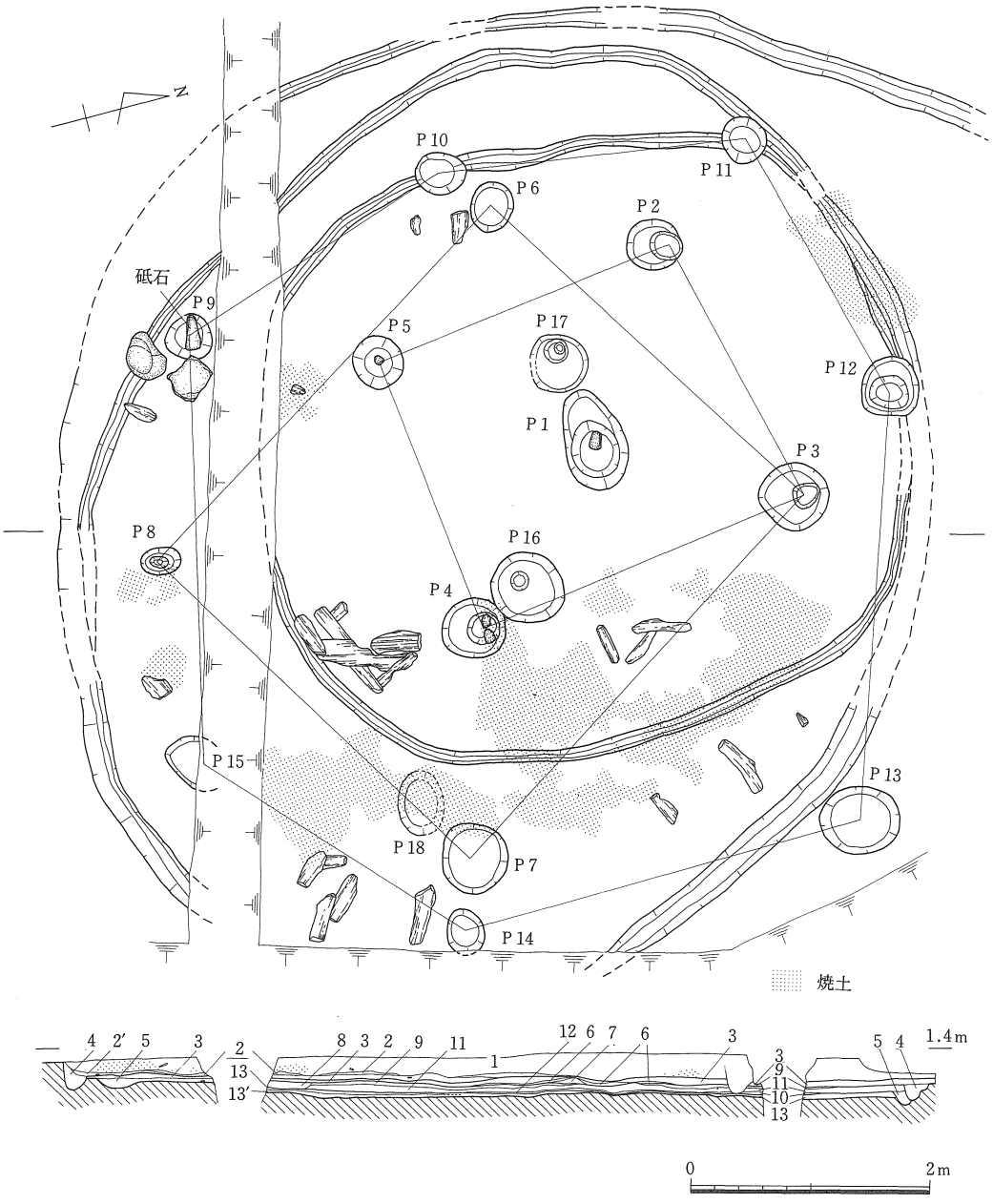
図43　竪穴住居－４　縮尺 1/60



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	11.3	—	—	口縁端面凹線1条	淡黄灰	微～細砂
2	〃	14.1	—	—	頸部外面ハケ後横ナデ	淡黄白～淡乳褐	微砂㊉
3	〃	13.7	—	—	体部外面細いハケ後目が幅広く浅いハケ	淡赤褐	〃
4	甕形土器	15.7	—	—	外面煤付着	(内)黄灰(外)淡灰褐	細砂㊂
5	〃	13.2	—	—	体部外面篦ケズリ後ナデ，黒斑	(内)明黄褐(外)黄灰	微砂㊇，水漉粘土
6	〃	15.2	5.0	23.3	口縁端面凹線2条，外面煤付着，底部外面押圧	黄白～黒灰	細砂
7	〃	16.25	—	—	〃 〃 3条	(内)明灰褐(外)暗灰褐	〃 ㊂
8	〃	14.15	—	—	〃 〃 2条，外面煤付着	淡灰白	微～細砂
9	〃	—	4.1	—	外面剝落で不明，底部内面押圧・ナデ，2次焼成痕	(内)淡灰白(外)黒褐	粗砂
10	〃	—	5.0	—	内面篦ケズリ後ナデ，底部外面ナデ，焼成後の穿孔あり，外面煤付着	(内)灰黒(外)黒灰褐	細砂
11	〃	—	5.0	—	底部内外面ナデ，内面煤付着少量	(内)淡灰褐(外)黄褐	粗砂㊂
12	鉢形土器	9.0	—	—	体部外面ハケ後ナデ	〃 〃 〃 〃	〃 〃
13	〃	13.8	6.0	8.2	底部外面ナデ，体部内面篦ケズリ後ナデあげ，黒斑	淡黄褐	微砂㊉
14	台付鉢形土器	—	8.6	—	内面横ナデ，透し孔は一部残るのみで詳細不明	暗灰褐	細砂
15	高杯形土器	16.4	10.6	10.0	口縁部内面・脚裾部内面横ナデ	灰褐色	微～細砂
16	〃	—	—	—	杯部内篦ミガキ，脚部磨滅で不詳明，円孔の1つは未貫通	淡黄褐～淡灰褐	細砂㊂
17	製塩土器	—	4.8	—	鉢部と脚部の境横ナデ，2次焼成痕	(内)赤褐(外)淡乳黄白	粗砂～細礫㊂
18	〃	—	6.3	—	2次焼成痕	灰黒	粗砂㊂

図44　竪穴住居－4　出土遺物　縮尺 1/4

竪穴住居－5（図45～50，図版53～55・78－1・79・81－2）



1　暗灰褐色土（焼土塊多含）
2　黒色炭化物層
2′　黒灰色炭化物層
3　黄灰褐色土…貼床
4　淡黄灰色土…壁体溝埋土
5　暗黄灰色土…2次床覆土
6　灰黒色炭化物層
7　黄白色土
8　暗灰色土
9　黄褐色粘質土…2次貼床
10　暗黄灰褐色土…1次床覆土
11　暗灰色土……　〃　〃
12　黒色炭化物層
13　黄白色粘質土…1次貼床
13′　暗黄褐色土…1次床

図45　竪穴住居－5　縮尺 1/60

ＡＹ～ＢＡ30～32区に位置する。後世の攪乱溝，調査区の側溝等で北端・東端を削られ，また，南側も一部切断される。そのため，特に最終住居については規模等は不明確である。

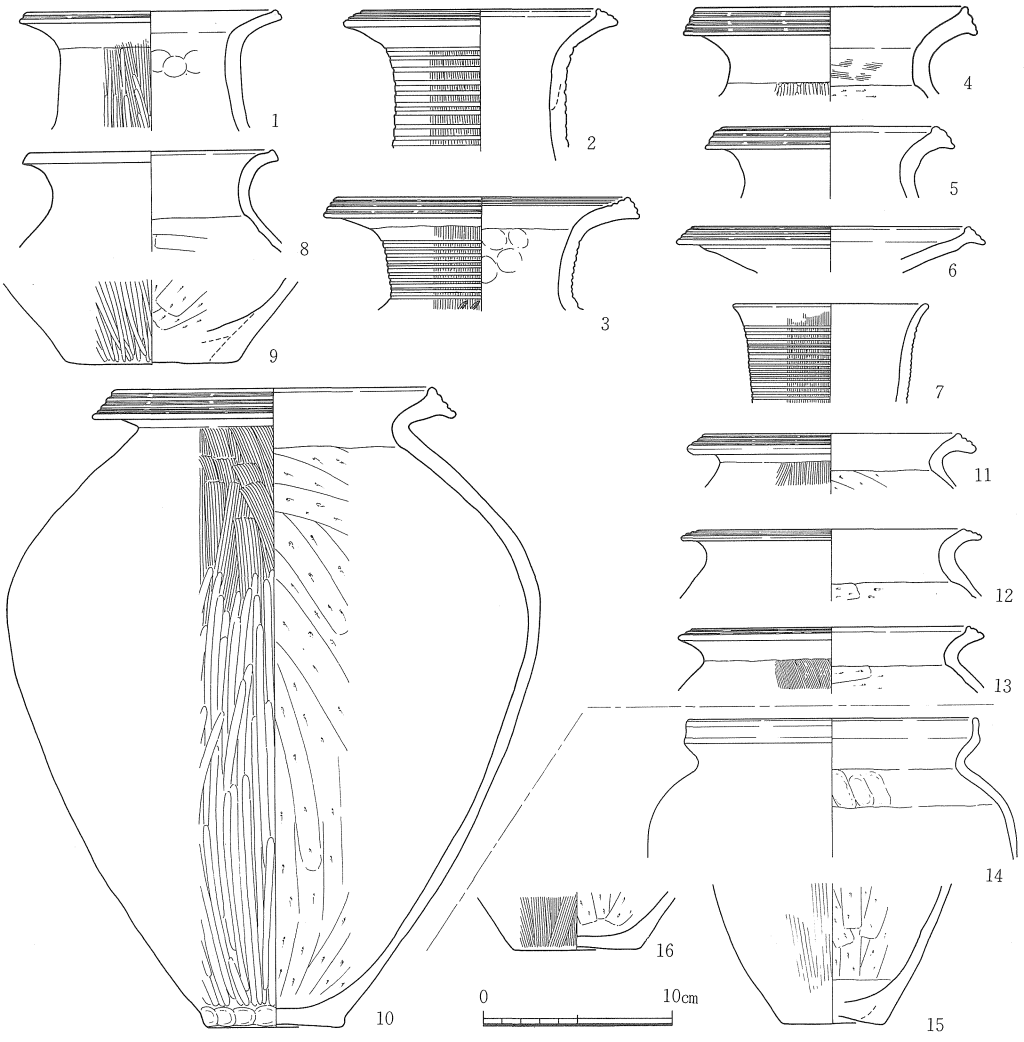
この住居は，断面観察から２回の建て替えが確認された。

１次住居は長軸546㎝・短軸512㎝で南北にやや長い隅丸方形の住居である。床面は標高101～107㎝を測り，壁体溝付近で僅かに高くなる傾向を示す。貼り床（13層）は１～６㎝の厚さを持ち，住居全面を覆う。また，南半部では13層の下にもう一層床面を形成する層（14層）が検出される。床面上には炭化物が分布しており，特に北半部分においては顕著で薄層状をなし厚く堆積している。柱穴は中央穴Ｐ１のほかにＰ２～５が想定され，４本柱をなすと考えられる。いずれも暗灰～青灰色粘土を含み，特にＰ１においては粘土が大形ブロック状を呈し多量に含まれるほか，14㎝前後の礫および下層では多量の炭化物が検出されている。Ｐ３においても礫・炭化物が出土しており，状況はＰ１と同様である。また，粘土化した材も確認されている。Ｐ４からは，多量の粘土ブロックの他に柱痕中に柱の残存と考えられる材が出土している。柱間距離は長軸260～284㎝・短軸240㎝を測る。

２次住居は東側を復元すると長軸800㎝前後・短軸700㎝の長楕円形が推定される。床面は標高110㎝～115㎝を測り，北に向ってやや傾斜する。貼り床（９層）は１次住居の覆土（10層）上に厚さ３～４㎝で部分的に形成されている。床面上には炭化物の分布が認められ，１次住居同様に北半部分において顕著で薄層状をなし，厚く堆積する。また，断面土層観察により，９層上において炭化物層の下に１ヶ所だけ黄白色土（７層）の高まりが認められる。この土層は汚れの少ないきれいな土である。機能については不明確だが，住居内に占める位置などから中央穴の肩部を形成する可能性も考えられる。柱穴はＰ３・６～８の４本柱が想定される。柱間距離は長軸600㎝・短軸360㎝を測る。

最終住居は北～東側の確認が不可能なため，850㎝以上の円形に近い住居が想定されるのみである。床面は標高115㎝前後を測る。柱穴は中央穴Ｐ16とＰ９～15で構成される７本柱が考えられる。Ｐ10・11・13・16には灰白色粘土が含まれる。柱間距離は４本が250～260㎝・３本が340～350㎝である。この住居は焼失住居と考えられる。床面直上には炭化材が数多く認められ，その上には焼土が全面を覆う。特に，図のトーン部分には10㎝以上の厚さを持ち塊状をなす焼土が検出されている。炭化材は壁体溝側から中心に向って倒れ込み，Ｐ４の南側では材が組み合さって落ちた状況を示す。炭化材の材質は，シイの木の可能性が高い。この焼土等は，本住居内におさまらず，北側のすでに埋没しかけている竪穴住居２の凹み部分にも投棄されて，ほぼ同レベルに埋めこまれ片付けられている。

遺物はこの焼土直下・つまり最終床面直上に多量に出土している。土器は甕・高杯等（１・２・４～12）がある。また，柱穴内ではＰ13・17・18から鉢・甕・壺（37・13・３）が各々出



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	13.3	—	—	口縁端面凹線1条，頸部外面ハケ後篦ミガキ	淡黄褐	微～細砂㋐
2	〃	12.5	—	—	〃　3条，頸部外面ハケ後沈線10条	〃　一暗褐	〃～〃
3	〃	15.5	—	—	口縁端面・内面凹線3条，頸部外面ハケ後沈線10条，列点文は2個確認	黄褐	〃～〃
4	〃	14.5	—	—	口縁端面凹線3条，頸部内面ハケ後ナデ，体部外面篦ミガキ	淡黄褐	細砂，雲母
5	〃	11.5	—	—	〃	淡黄白	〃 ㋑
6	〃	14.6	—	—	〃	黄褐	〃
7	〃	10.4	—	—	外面ハケ後沈線15条以上，内面ナデ	淡黄褐	微砂
8	〃	13.0	—	—	内面篦ケズリの方向は磨滅で不明	〃	〃 ㋺，精良
9	〃	—	9.15	—	底部外面ナデ，黒斑	内黄褐外淡黄灰	微～細砂
10	甕形土器	16.9	7.2	34.0	口縁端面凹線3条，底部内外面ナデ	灰黄褐	細砂
11	〃	13.6	—	—	〃	淡黄褐～黄白	微～細砂，金雲母
12	〃	14.1	—	—	〃　黒斑	淡灰白	細砂
13	〃	14.7	—	—	体部外面細いハケ	淡黄白	〃 ㋩
14	〃	15.5	—	—	磨滅で不明	内暗黄褐外明赤褐	微砂
15	〃	—	5.4	—	底部内面篦ケズリ後ナデ・外面ナデ，体部外面荒いハケ後ナデ，黒斑	赤褐～黄褐	〃
16	〃	—	6.8	—	〃　・外面ハケ後ナデ	内灰褐外黄褐	細砂㋑，雲母

図46　竪穴住居－5　出土遺物(1)　縮尺 1/4

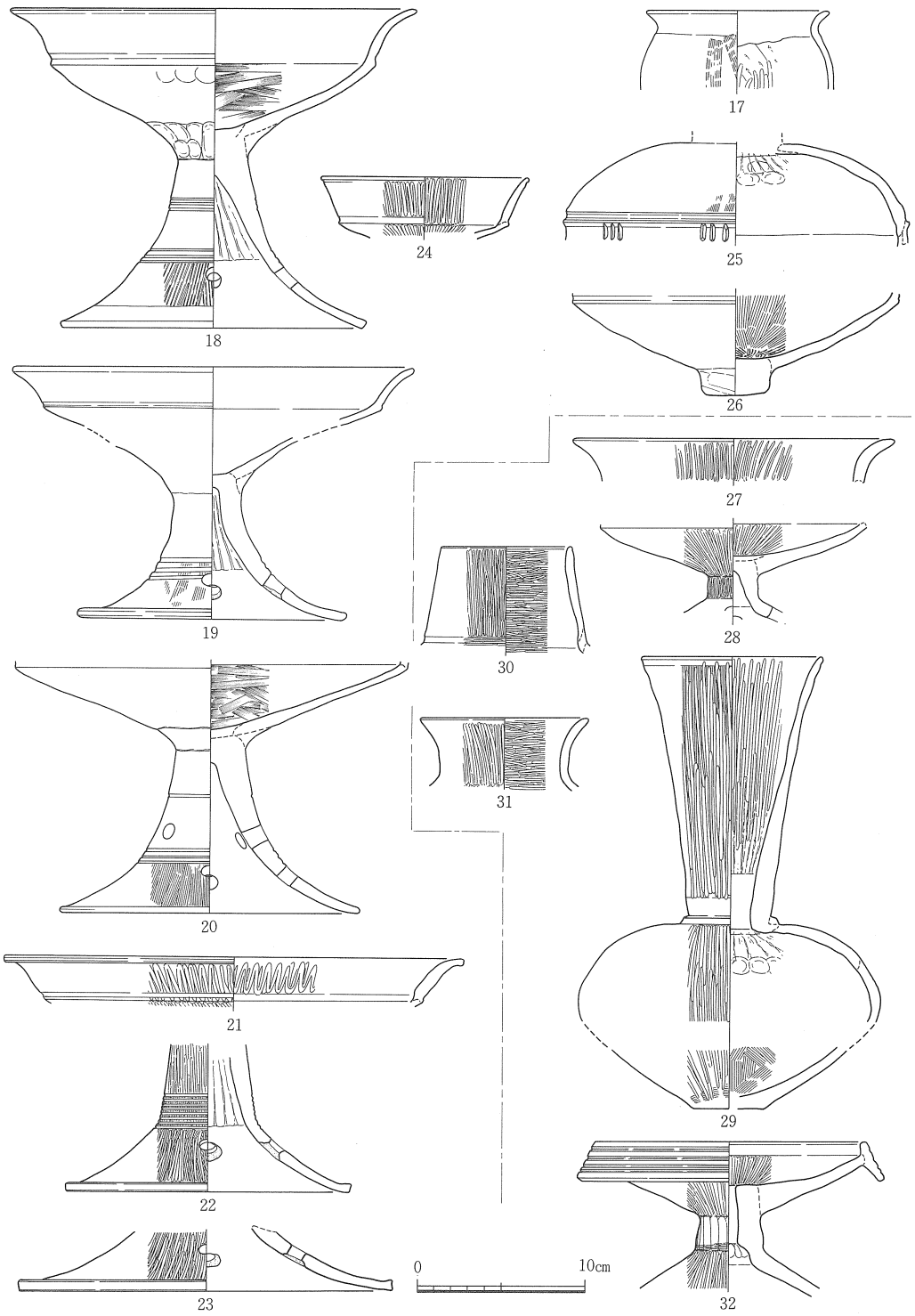
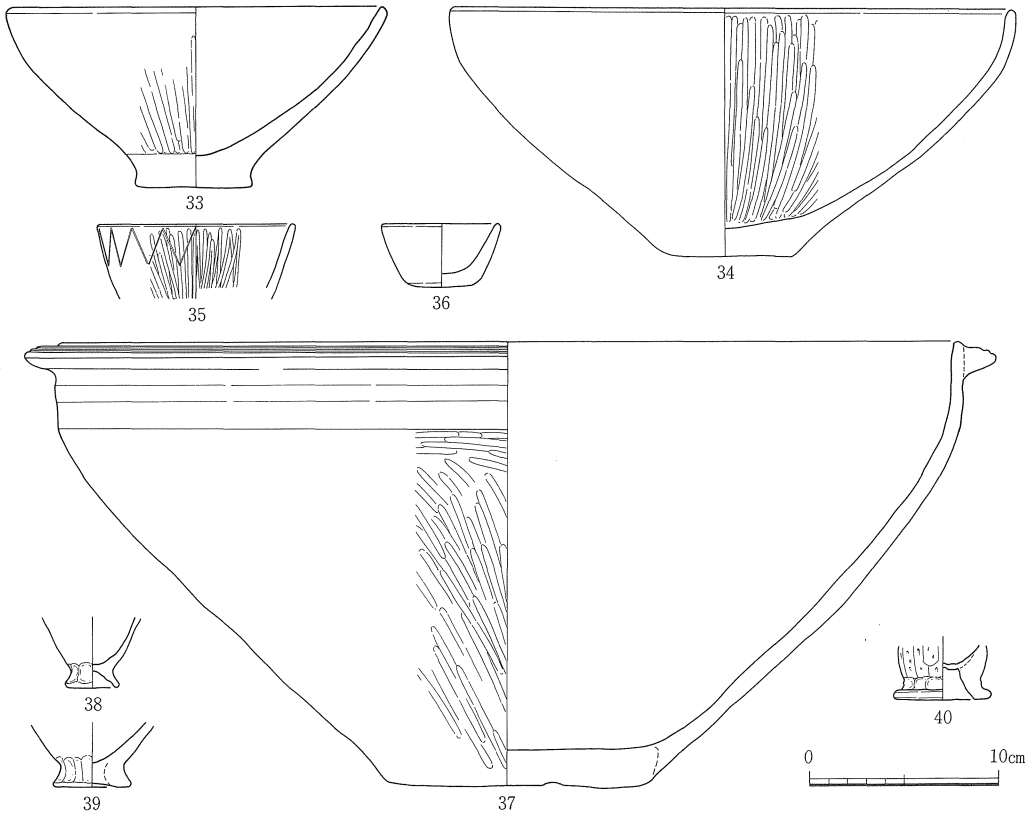


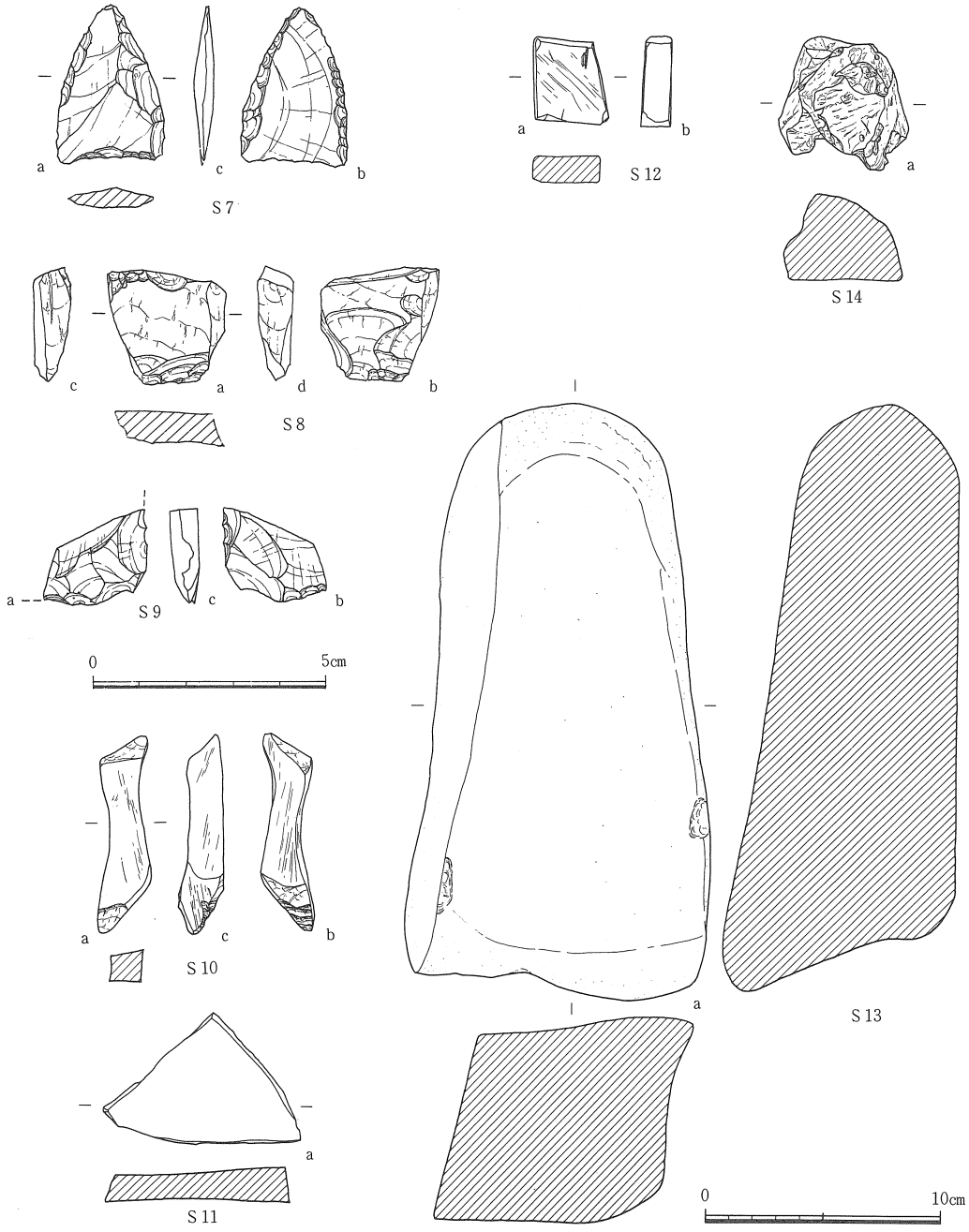
図47　竪穴住居ー5　出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
17	甕形土器	10.9	—	—	体部内面篦ケズリ後篦ミガキ・外面ハケ後ナデ，内外面煤付着	灰褐	微砂
18	高杯形土器	24.2	17.9	19.0	口縁部横ナデ，杯部内面工具使用ナデ，外面脚裾部浅いハケ，他はナデ	(内)明茶褐(外)黒灰褐	微～細砂
19	〃	24.0	16.0	—	脚裾部外面ハケ，他はナデ	(内)明～黒褐(外)灰褐	〃～〃 ㉖
20	〃	—	17.9	—	〃 ，杯部内両工具使用ナデ，円孔は4個づつ2段交互配置	黒灰～黄褐	〃～〃
21	〃	27.4	—	—	横ナデ後口縁部内外に波状篦ミガキ	灰黒	細砂
22	〃	—	16.9	—	外面裾部ハケ後篦ミガキ，他は篦ミガキ，内面ナデ，脚柱部しぼり目	〃	〃
23	〃	—	22.1	—	外面ハケ後篦ミガキ，内面ナデ	黒褐～灰	微砂，細砂㉖
24	〃	12.4	—	—	内外面篦ミガキ	灰白	〃 ㉒
25	直口壺形土器	—	—	—	体部内面下半横位篦ケズリ，3本単位棒状浮文6ヶ所，黒斑	(内)黄褐 (外)明赤褐	細砂
26	〃	—	4.0	—	内面放射状ハケ，外面ナデ，黒斑，No25と同一個体	(内)淡黄褐(外)暗灰褐	〃，白色粒子
27	高杯形土器	19.2	—	—	内外面横ナデ後篦ミガキ	黄褐	微砂㉒，精良
28	〃	—	—	—	脚部内面ナデ，脚裾部外面不明，他は篦ミガキ	茶褐	〃 ㉚，〃
29	直口壺形土器	10.8	4.3	—	頸部内外横ナデ，口縁部内面下半しぼり目残存，底部篦ケズリ後ナデ	(内)灰黒 (外)黄褐	細砂
30	〃	7.8	—	—	内外面篦ミガキ	淡赤褐	微砂㉒，精良
31	〃	10.0	—	—	〃	黄褐	微～細砂
32	器台形土器	16.2	—	—	脚柱部外面縦位の篦ミガキ	(内)明褐(外)明黄褐	微砂㉚，水漉粘土

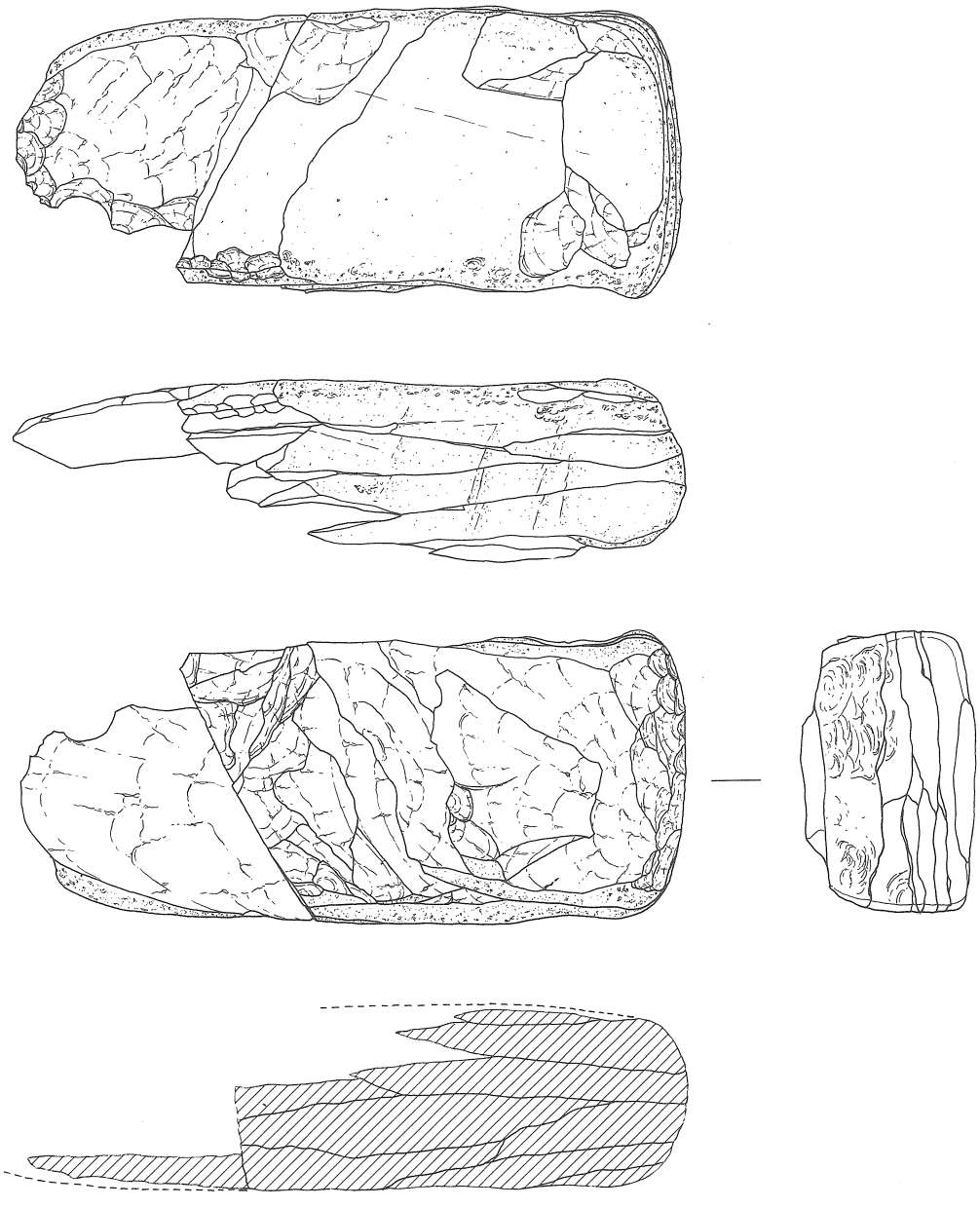
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
33	鉢形土器	20.2	6.2	9.5	外面篦ミガキ	淡黄灰～明黄褐	微砂㉒
34	〃	30.0	6.5	13.2	外面丁寧なナデ，内面篦ミガキ	黄褐～暗灰褐	細砂㉖
35	〃	10.6	—	—	横ナデ後篦ミガキ，口縁部に線刻が廻る	(内)暗茶褐(外)淡灰褐	〃
36	〃	6.3	3.8	3.4	ナデ・押圧，黒斑	(内)赤褐(外)黄褐	微砂㉒
37	〃	47.7	14.0	23.5	凹線3条，口縁部横ナデ，内面丁寧なナデ，底部外面ナデ，黒斑	淡黄褐	粗砂㉖
38	台付鉢形土器	—	2.8	—	ナデ・押圧	黒褐	微～細砂
39	〃	—	4.1	—	〃・〃	赤褐	微砂㉒，精良
40	製塩土器	—	4.5	—	内面篦ケズリ，内面ナデ，2次焼成痕	淡赤白～暗黄灰	細礫㉖

図48　竪穴住居－5　出土遺物(3)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S 7	石鏃	3.3	2.3	0.4	1.0	サヌカイト	浅い凹基，横長剝片素材，両面素材面
S 8	楔形石器	2.6	2.3	0.7	5.0	〃	d面截断面，上端折れ面で一部つぶれ残す
S 9	二次加工ある剝面	1.7	2.2	0.5	2.0	〃	欠損品，残存する二縁に両面からの二次加工，縁辺一部磨耗
S10	砥石	8.1	2.0	2.1	38.0	凝灰岩	小形四角柱状を呈し，各面研磨面
S11	〃	6.2	6.2	1.4	75.0	砂岩	欠損品，扁平板状を呈し，両面研磨面
S12	〃	3.4	3.1	1.2	24.0	凝灰岩	小形扁平，一端欠損，各面研磨面
S13	砥石	25.0	12.9	9.6	4300.0	砂岩	大形四角柱状を呈し，上端以外各面研磨面
S14	軽石製石器	6.3	5.3	3.7	22.0	軽石	下面は平坦で線条痕を残す，用途不明

図49　竪穴住居－5　出土遺物(4)　縮尺 2/3(S7～9)・1/3(S10～14)



遺物番号	器　種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材 質	特　徴
S 15	剝片接合資料	13.1	5.8	3.8	336.80	粘板岩	表面全面磨面，剝片14点接合

図50　竪穴住居－5　出土遺物(5)　縮尺 2/3

土している。石器も多く，床面上に不明石器（S15）・埋土中に砥石（S11～13）・柱穴P5・7・9・12・17に砥石・楔形石器等（S9・10・14・7・8）が各々認められる。壺・甕・高杯等（14・27～32）は焼土及び上部埋土中からの出土である。

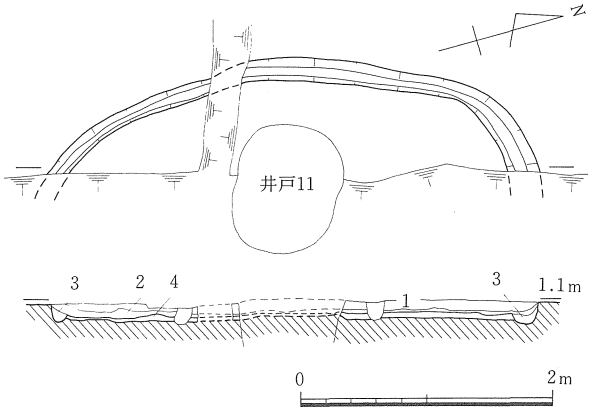
時期は，最終住居は鹿田・後・2a期に比定される。1・2次住居は確定的な遺物がなく，竪穴住居2より新しく鹿田・後・2a期よりも古い時期と考える。最終的には，住居焼失後，出土遺物（27・28）から想定される鹿田・後・3期の時期に竪穴住居2ともども完全に埋没したと推定される。

竪穴住居－6（図51）

AZ・BA33区に位置する。中央部を後世の攪乱穴に大きく抉られ，また，東側は上部の各遺構によって削平を受けるため範囲は未確認である。残存する西側部分も一部を井戸11に深く削られる。そのため，わずかに西半部で検出された壁体溝の形状から，小形の隅丸方形か円形を呈す竪穴住居の存在が窺われるのみで，旧状復元は不可能であったが，残存する径から考えて少なくとも径350cm以上の規模をもつことは予想される。検出面は標高115cmを測り，深さ10cmで床面に至る。床面は北部で標高105cm，南部で標高100cmを測り，やや南に傾斜する。東北部に位置する竪穴住居5の1次床とほぼ同レベルを示す。全面に淡黄褐色のきめ細かい土で貼り床がなされる。床面上には炭層が1～2cmの厚さで認められる。また，柱穴については確実に床面に伴うと判断されるものは確認できなかった。

遺物は床面および覆土中から出土しているが，量的に少量であり，また，細片のみであるため図化は不可能であった。

出土遺物から時期を決定することは困難であるが，各遺構との切合い関係から本遺構は鹿田・後・2期の範囲に入ると考えたい。（山本）



1　暗褐色土……住居覆土
2　黒褐色土（炭化物多含）……〃
3　淡黄褐色土（粘土粒・炭化物含）…壁体溝埋土
4　淡黄褐色土……貼床

図51　竪穴住居－6　縮尺 1/60

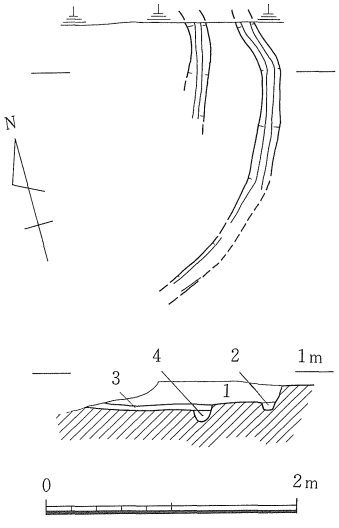
竪穴住居－７（図52，図版９－１）

本住居はＡＵ・ＡＶ35区で検出した。住居の北側部分は調査範囲外にあり，未調査である。また西側の大半は土壙201に，南側は土壙203にそれぞれ破壊されており，確認部分は全体の約1/6前後とみられる。本住居では２条の壁体溝を検出しており，１回の建て替えを確認した。

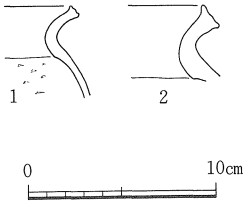
１次住居はごく一部分を検出し得たのみで，壁体溝も全長で40㎝前後を確認したにすぎないため，その平面形の詳細は不明であるが，最終住居壁体溝とはほぼ平行して走っており，最終住居と同様に円形プランをとる可能性が認められる。床面は標高約70㎝前後であり，壁体溝付近は平坦であるが，中央部付近でやや高まっている。１次住居に伴う柱穴や中央穴あるいは遺物は確認できなかった。

最終住居は確認部分では１次住居より最大で約40㎝前後拡張しており，確実ではないが，平面形は円形をなすものと推定される。床面は標高75㎝前後を測り，１次住居と同様に中央寄りの部分でやや高まっている。本住居に伴うとみられる柱穴や中央穴も今回の調査範囲では検出されなかった。

本住居の埋土中からは，調査範囲が限られていたため，少量の土器片を検出したに過ぎない。いずれも小片で，図示し得たのは甕の口縁部破片の２点のみである（１・２）。これらの出土土器から，最終住居は鹿田・後・２期に廃絶されたとみられる。１次住居も該期を大きくは遡らないと推定でき，やはりその時期は鹿田・後・２期の範囲内でとらえておきたい。（栄）



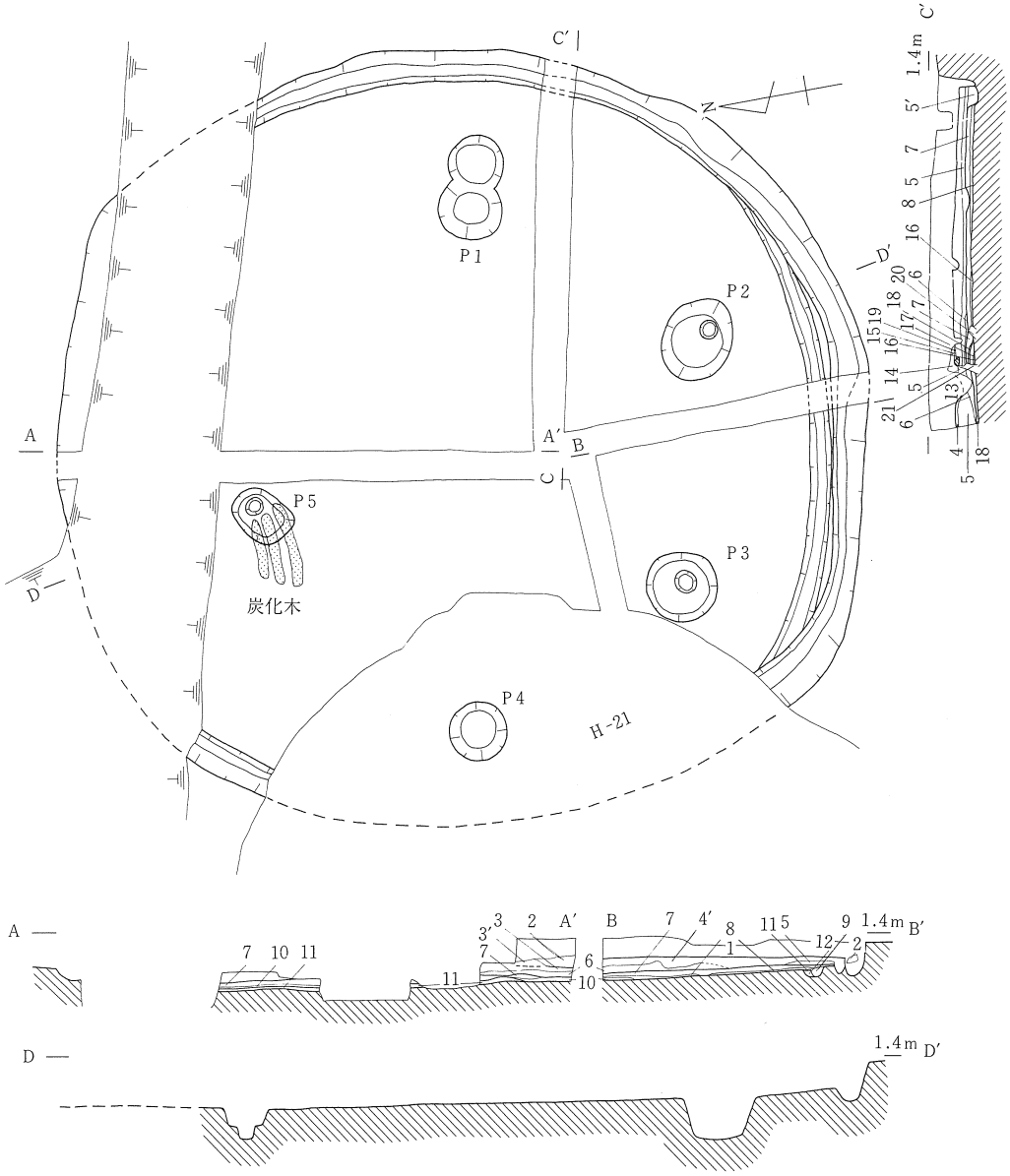
1　灰褐色土（炭・焼土含）
2　暗灰褐色土
3　茶褐色土
4　明茶褐色土



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	－	－	－	口縁端面凹線２条，体部外面ハケ	(内)灰褐(外)黄白	微砂
2	〃	－	－	－	〃　，体部内面篦ケズリ	淡黄白	細～粗砂

図52　竪穴住居－７，出土遺物　縮尺 1/60，1/4

竪穴住居－８（図53～55，図版80－１・81－１）



1　暗黄灰褐色土
2　暗褐色土（焼土塊多含）
3　暗黄褐色土
3′　灰黄褐色土
4　黄白色土……最終貼床
4′　灰黄褐色粘質土…最終床
5　暗褐色土（焼土塊多含，炭化物）
5′　暗黄白色混細砂土…１・２次壁体溝
6　炭化物層
7　灰黄褐色粘質土…２次貼床
8　暗褐色土……１次床土
9　黄褐色土……１次壁体溝
10　炭化物層
11　灰黄色土……１次貼床
12　暗灰褐色土……１次壁体溝
13　暗褐色土（黄褐色粘土塊含）
……最終住居柱穴
14　黄褐色土……最終住居柱穴
15　炭化物層……柱穴土堤部
16　〃
17　黄褐色土……１次柱穴土堤部
18　炭化物層
19　〃
20　暗褐色土……１次の杭痕跡
21　〃　……２次　〃

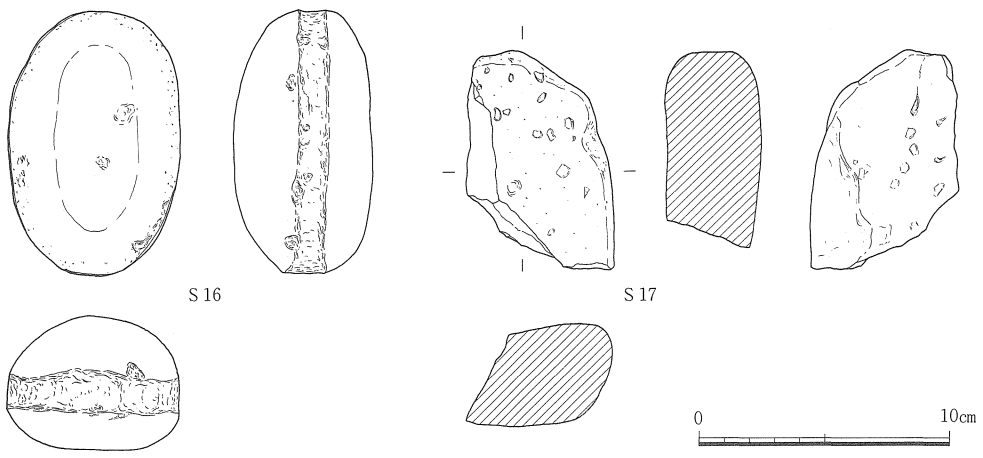
図53　竪穴住居－８　縮尺 1/60

ＡＹ・ＡＺ29・30区に位置する。北側を後世の攪乱溝で深く削られ，上層は竪穴住居10・19によって多くを削平されている。

２回の建て替えが認められるが大きな拡張はなく，１次住居で径630㎝・２次および最終住居で径630～660㎝の円形住居が想定される。床面高は１次住居で標高95㎝～110㎝・２次住居では100～113㎝を測り，いずれも北に向って傾斜する。一方，最終住居では南半部で120㎝前後を測るが，北半部は土層削平のため不明確である。貼り床は１次住居北半に厚さ３㎝前後・２次住居中央部に５㎝前後の厚さでそれぞれ検出される。

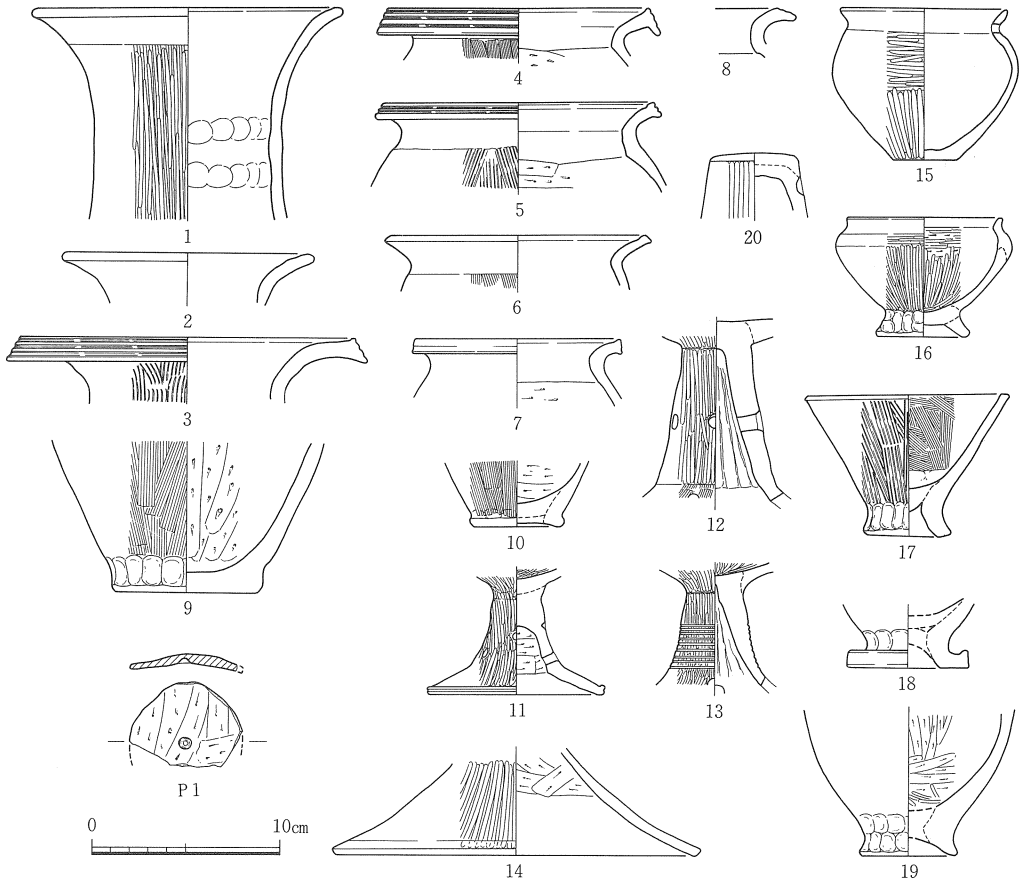
柱穴はＰ１～５が検出されているが，５本柱とするとやや不整形な形となるため攪乱溝中に１本を想定し，６本柱となる可能性もある。柱穴はいずれも１次から最終住居まで踏襲されている。中央穴の構造については平面調査では未検出だが，土層観察からその様相がいくらか判明した（Ｃ断面）。住居の中央やや南寄りに中央穴が想定され，１次から最終住居までいずれも土手状の高まりをもつ。１次床では17層・最終床面では14層がそれにあたる。炭化物は，その周辺に多く認められるが，特に２次住居床面では非常に厚い堆積となっている。また，一次住居の土手状高まりの外側および２次住居中央部の厚い炭化物層の外側に，それぞれ杭状痕跡（21・20層）が検出されており，中央穴に伴う可能性をもつ。中央穴の設置時期は，18層下面に炭化物が薄く認められることから，住居構築後少し時間を経てからであることがわかる。

遺物は最終床・埋土に壺等（１～６・８～18），紡錘車（Ｐ１），石錘・磨石（Ｓ16・17）が，柱穴Ｐ３・５から甕等（19・７）が出土する。時期は鹿田・後・２ａ期に比定される。（山本）



遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S16	石錘	10.6	6.7	5.5	585.0	細粒花崗岩	全周に敲打による溝
S17	磨石	9.1	5.8	3.7	270.0	石英斑岩	欠損品，両面に磨面，砥石の可能性

図54　竪穴住居－８　出土遺物(1)　縮尺 1/3



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	16.5	—	—	外面ハケ後篦ミガキ	淡黄褐	細砂㊎
2	〃	13.3	—	—	内外面横ナデ	明褐	微～細砂
3	〃	17.8	—	—	口縁端面凹線3条	淡乳白	微砂
4	甕形土器	13.75	—	—	〃 ，外面煤付着	淡黄褐	微～細砂
5	〃	14.35	—	—	口縁端面凹線2条	〃	〃～〃
6	〃	13.6	—	—	体部外面ハケ，他は横ナデ	〃	微砂
7	〃	10.7	—	—	口縁端面横ナデによる凹み廻る	淡灰～淡灰褐	微～細砂
8	〃	—	—	—	体部内面横位篦ケズリ，他は横ナデ，口縁端面浅い凹線2条	黒灰～淡灰褐	細砂
9	〃	—	7.5	—	底部内面篦ケズリ後ナデ・外面ナデ，内面炭化物厚く付着	内)灰黒外)淡黄	粗砂
10	〃	—	4.6	—	底部外面ナデ	内)灰黒外)淡黄褐	微～細砂
11	高杯形土器	—	9.2	—	円孔は上・下段に3個づつ交互に配置，上段は未貫通，脚裾部黒斑	淡黄褐	〃～〃
12	〃	—	—	—	杯部内面ナデ，円孔は上・下段各々4個づつ交互に配置	淡灰褐～淡黄褐	細～粗砂
13	〃	—	—	—	沈線9条，脚裾部外面ハケ後篦ミガキ	淡黄褐	微～細砂
14	〃	—	19.1	—	脚裾部内下半ナデ	黄褐～赤褐	細砂
15	鉢形土器	8.8	3.5	8.0	内面・底部外面ナデ，頸部円孔は対角線上に1個づつ	淡黄褐～明茶褐	〃
16	台付鉢形土器	8.2	4.8	6.3	台部押圧，体部内篦ケズリ後篦ミガキ	〃 ～明赤褐	微砂
17	〃	10.7	4.6	7.5	〃 ，体部底部内面押圧	〃	細砂
18	〃	—	6.5	—	内外面ナデ・押圧	黄褐～灰褐	〃 ㊎
19	〃	—	5.0	—	体部外面ナデ・内面幅狭い篦ケズリ後一部篦ミガキ，台部押圧，黒斑	淡灰褐	微～細砂，雲母
20	蓋形土器	—	—	—	天井部外面ナデ，内面ナデ・押圧，径1cmの丸い凹み1ケ所あり	淡黄褐	微砂

遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
P1	紡錘車	—	—	0.5	16	外面横ナデ・ハケ・煤付着，甕の頸～肩部破片の再利用	灰褐	粗砂

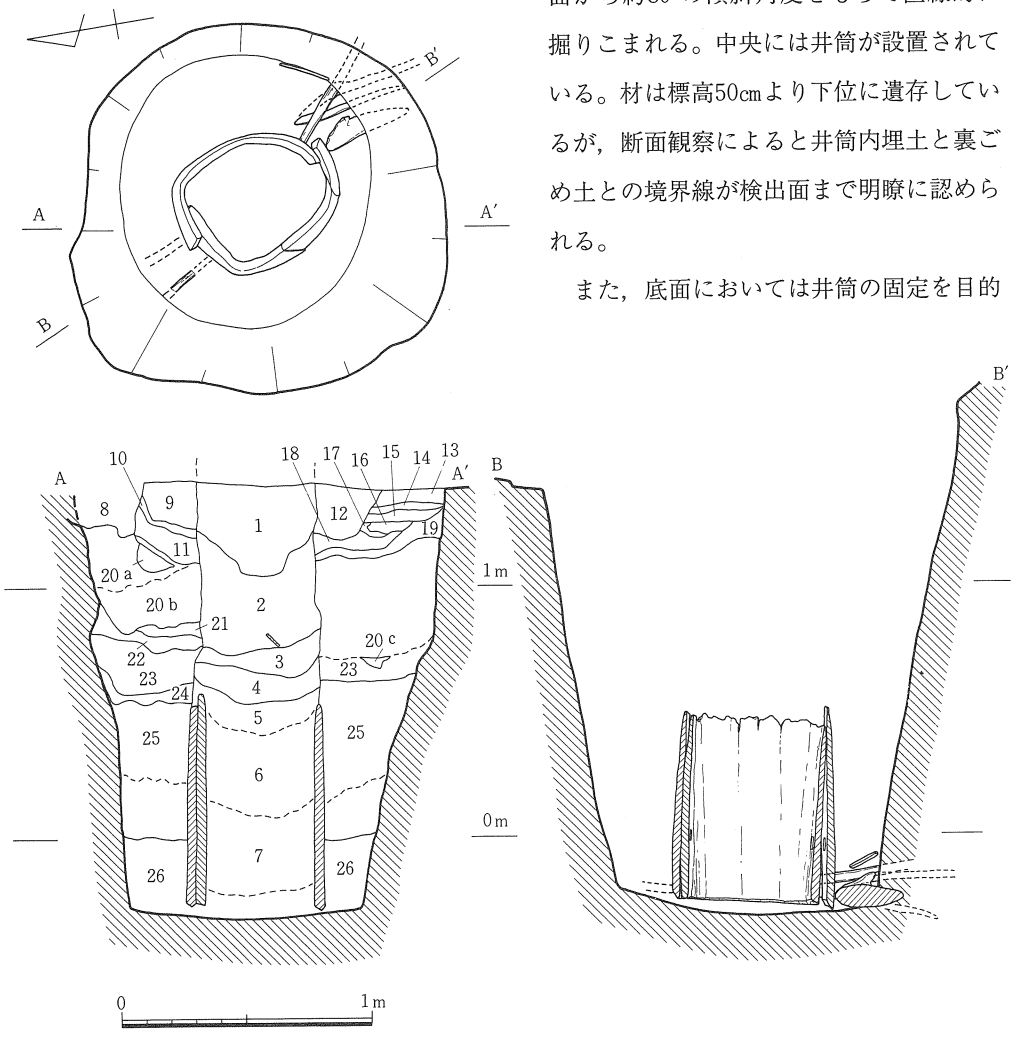
図55　竪穴住居－8　出土遺物(2)　縮尺 1/4

b．井　　戸

井戸－2（図56～58，図版10・54・82）

ＢＢ28区に位置する。東半部上部は側溝によって削平を受けているが，平面形は径150㎝の不整円形が復元できる。検出面からの深さは173㎝で，底面は標高－30㎝を測る。掘り方は上面から約80°の傾斜角度をもって直線的に掘りこまれる。中央には井筒が設置されている。材は標高50㎝より下位に遺存しているが，断面観察によると井筒内埋土と裏ごめ土との境界線が検出面まで明瞭に認められる。

また，底面においては井筒の固定を目的



1　茶褐色微砂粘土
2　暗茶褐色微砂粘土
3　暗黄褐色微砂粘土
4　(暗)黒灰色粘土
5　暗黄灰色粘土
6　暗灰～灰黒色粘土
7　灰黒色粘土
8　暗茶褐色微砂土
9　暗黄褐色微砂土
10　暗茶褐色微砂土
11　茶褐色微砂土
12　茶褐色微砂土
13　暗茶褐色微砂土
14　暗黄褐色微砂粘土
15　暗黄褐色微砂土
16　暗灰褐色微砂粘土
17　黄白色粘土
18　暗黄色粘土
19　暗茶褐色微砂粘土
20ｂ暗黄褐色微砂土(ａ・ｃは砂)
21　黄褐色粘土
22　黄白色粘土
23　暗灰色粘土
24　暗灰色砂混り粘土
25　暗～黒灰色粘土
26　暗青灰色砂

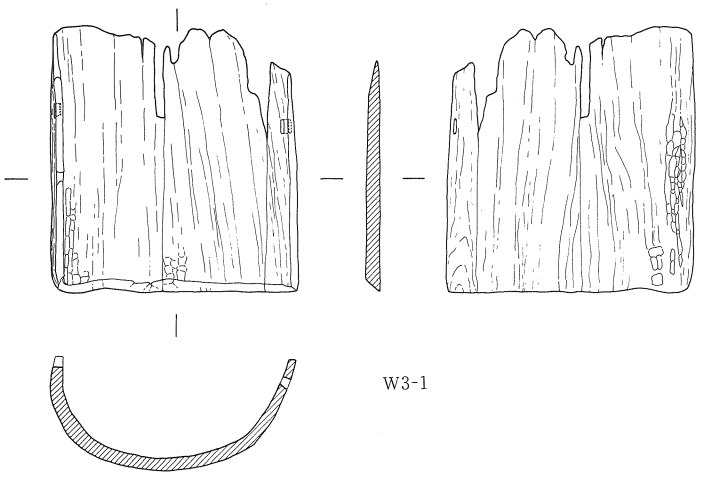
図56　井　戸－2　縮尺 1/30

としたと推定される材が壁に向って直角に打ちこまれて数本検出されている。

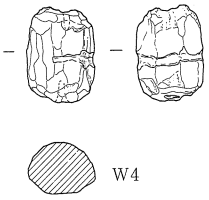
井筒（W３）は２枚の刳り貫き材を組合せたもので，径約60㎝・厚さ３～４㎝を測る。内外面とも風化が進んでいる。底面端部は内外面からの削りによって尖っている。下面から約20㎝上方には長方形の透し孔が各々２個づつ穿たれている。

遺物は量的にはやや少なくほとんどが小～細片である。その中で井筒中埋土６・７層からは炭化物・腐植物等を伴ってほぼ完形の高杯（７）・壺・甕，木器（W４・５），種子としてモモ・トチ・クルミが出土している。

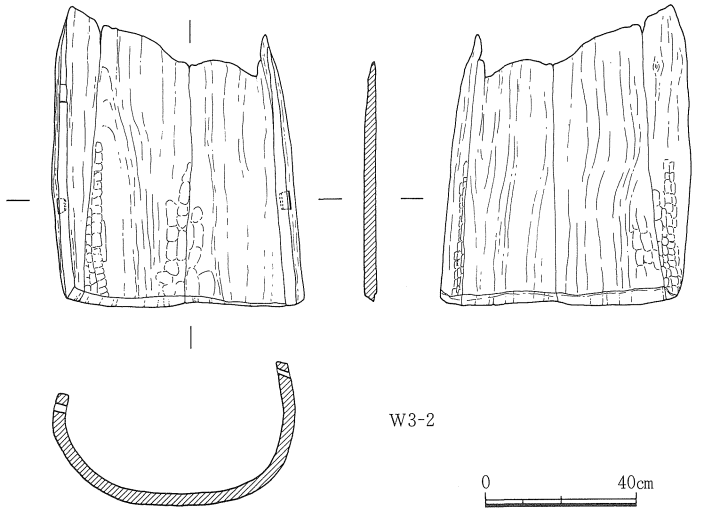
本遺構の時期は鹿田・後・２ａ期に比定される。



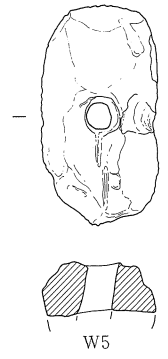
W3-1



W4



W3-2



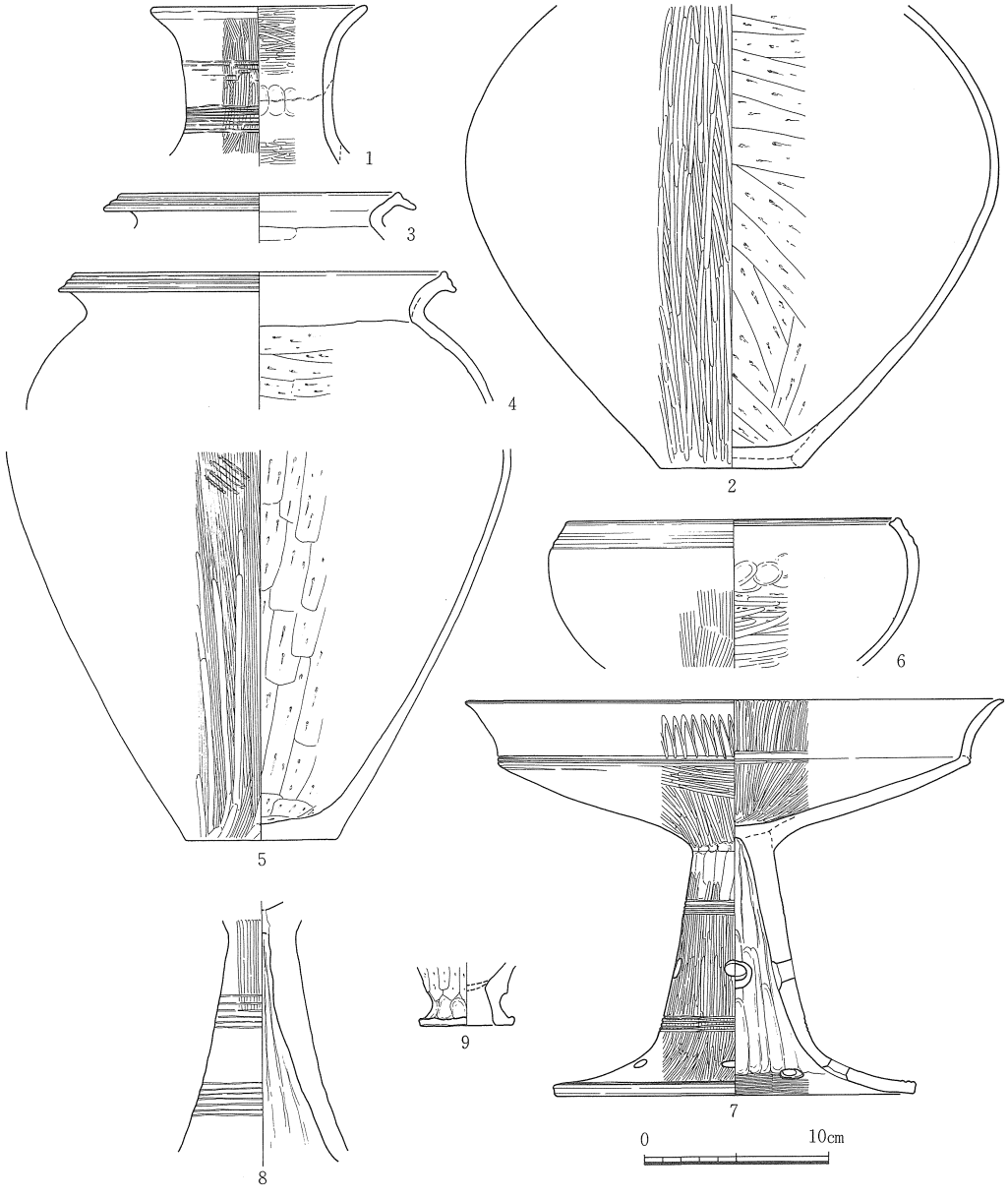
W5

0　40cm

0　10cm

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	樹種	特徴
W３-１	井戸枠	70.6	66.0	3.4	クロマツもしくはコウヤマキ	丸太を半截し刳り貫いた組み合わせの井戸枠の表面には手斧もしくはノミ状工具の工具痕が残る，１・２ともに両端には方形の柄穴を持つ
〃 -２	〃	80.0	66.2	3.4		
W４	浮子	3.8	2.7	2.0	－	上下端から穿孔しかけているが貫通していない，胴回りに浅い溝が廻る，面取り整形する
W５	〃	8.6	4.6	－	－	中央に孔を持ちその片側がくぼんでいる，破損後火を受け表面は炭化剝離が著しい

図57　井戸－２　出土遺物(1)　縮尺 1/5・1/3(W4・5)

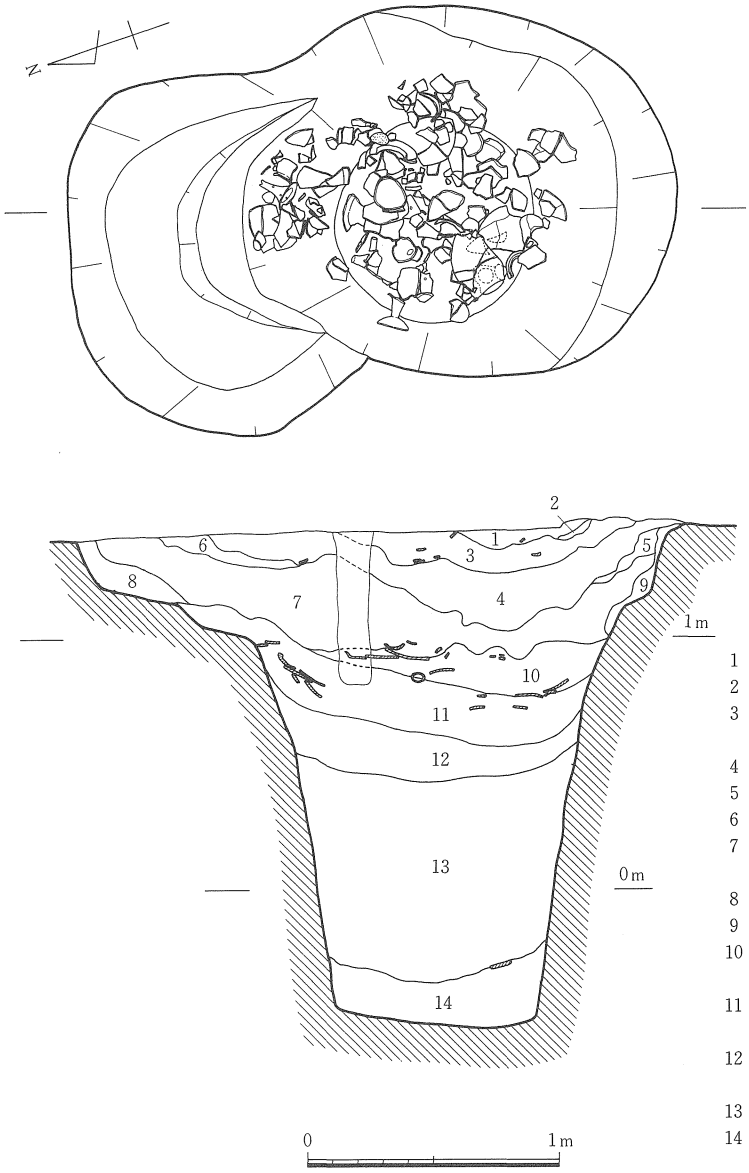


遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	11.7	—	—	外面ハケ後篦ミガキ，頸部外面の沈線は2条1単位，2次的焼成痕	淡黄白	細砂
2	〃	—	7.6	—	外面底部ナデ，外面ハケ後篦ミガキ・煤付着	淡黄灰	細～細礫㋁
3	甕形土器	15.0	—	—	口縁端面凹線2条，内面の篦ケズリの方向は不明	灰褐～黒褐	細砂
4	〃	20.0	—	—	〃 ，黒斑あり	淡黄褐	微～細砂
5	〃	—	8.1	—	外面タタキ後ハケ後篦ミガキ，底部外面ハケ	〃	細礫㋁
6	鉢形土器	17.8	—	—	口縁端面凹線1条，口縁部外面凹線2条	黄褐	微砂㋂
7	高杯形土器	29.2	19.3	21.3	円孔は上段4個・下段6個，口縁端部に沈線1条，2次的焼成痕	淡乳黄灰	〃 〃
8	〃	—	—	—	外面篦ミガキ・下半磨滅で不明，浅い沈線6条・7条が上下にあり	淡赤褐	細砂
9	製塩土器	—	5.0	—	外面篦ケズリ，脚台部押圧，2次的焼成痕	赤～赤褐	粗砂～細礫㋁

図58　井戸－2　出土遺物(2)　縮尺 1/4

井戸－3（図59～64，図版11・49・81－1）

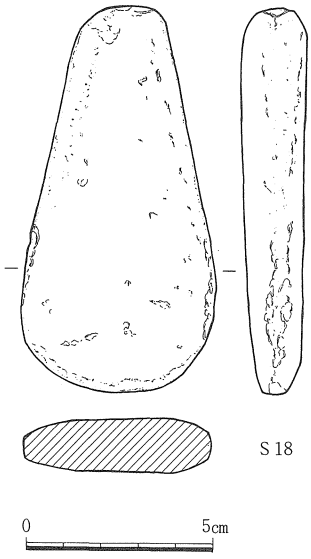
ＢＡ28・29区に位置する。平面形は径150㎝と147㎝の円形が中央付近で重複し，長軸240㎝の瓢形のような不整形を呈す。掘り方は底面から標高100㎝前後の位置まで急角度で立上がり，そこから上部に向って段掘り状をなして大きく開く。特に北半部はテラス状をなす。底面は南半部に位置し，径70㎝の円形を呈す。検出面より198㎝下がり，標高－54㎝を測る。

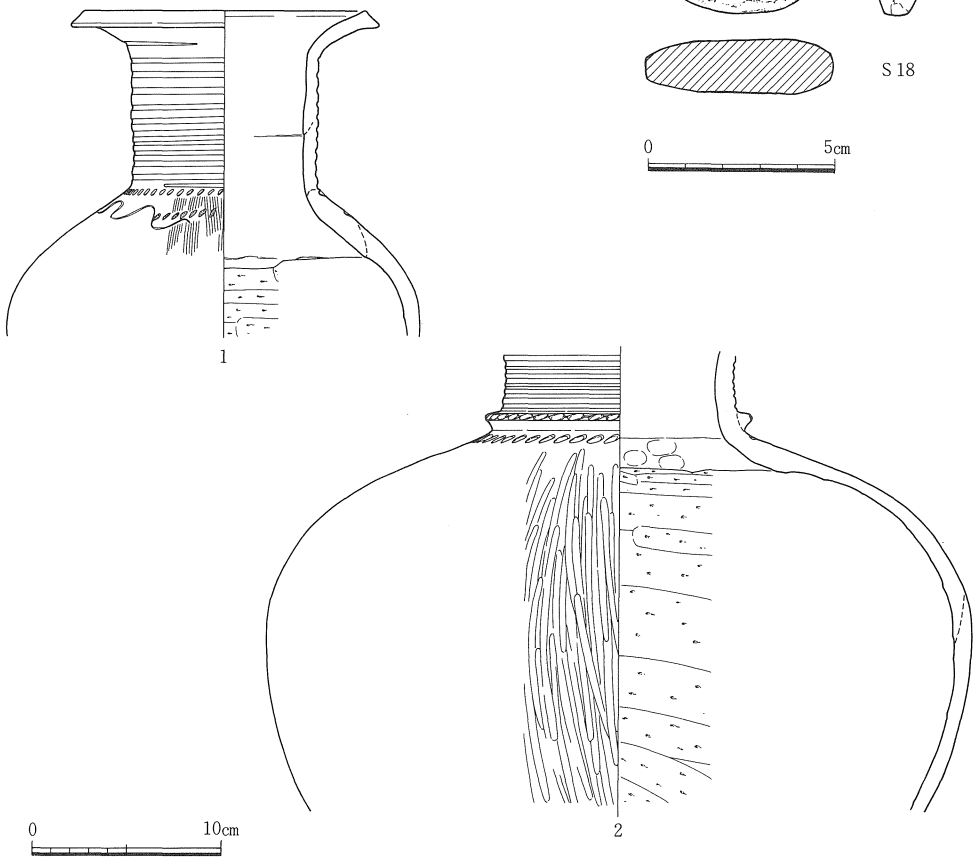


1　黄褐色土（焼土・炭多含）
2　黄色微砂
3　暗褐色粘質土
（焼土・炭多含，土器含）
4　黄褐色細砂土（粘土塊多含）
5　黒褐色炭化物層
6　黄褐色土（粘土多含）
7　茶褐色細砂土
（粘土塊・炭多含）
8　黄灰色土（粘土塊多含）
9　暗茶褐色粘質土（土器多含）
10　茶褐色粘質土
（炭多含，土器多含）
11　暗茶灰色土
（粘土含，土器多含）
12　青灰色粘質土
（粘土塊多含，砂塊多含）
13　暗青灰色粘土（細砂多含）
14　青灰色細～粗砂
（粘土・有機物・炭含）

図59　井戸－3　縮尺 1/30

埋土は，上・中・下の3つに大別される。上層（1～3層）は流入土と考える。中層（4～11層）は粘土塊～粒の包含層と炭層が互層をなす。また，本遺構出土の遺物は，その多くがこの層に含まれ，壺・甕・高杯・鉢等（1～3・5～11・13・15～20・22～34・36～39・41・42）があげられる。大形破片が密集しており，壺・高杯が特に目立つ。下層（12～14層）には青





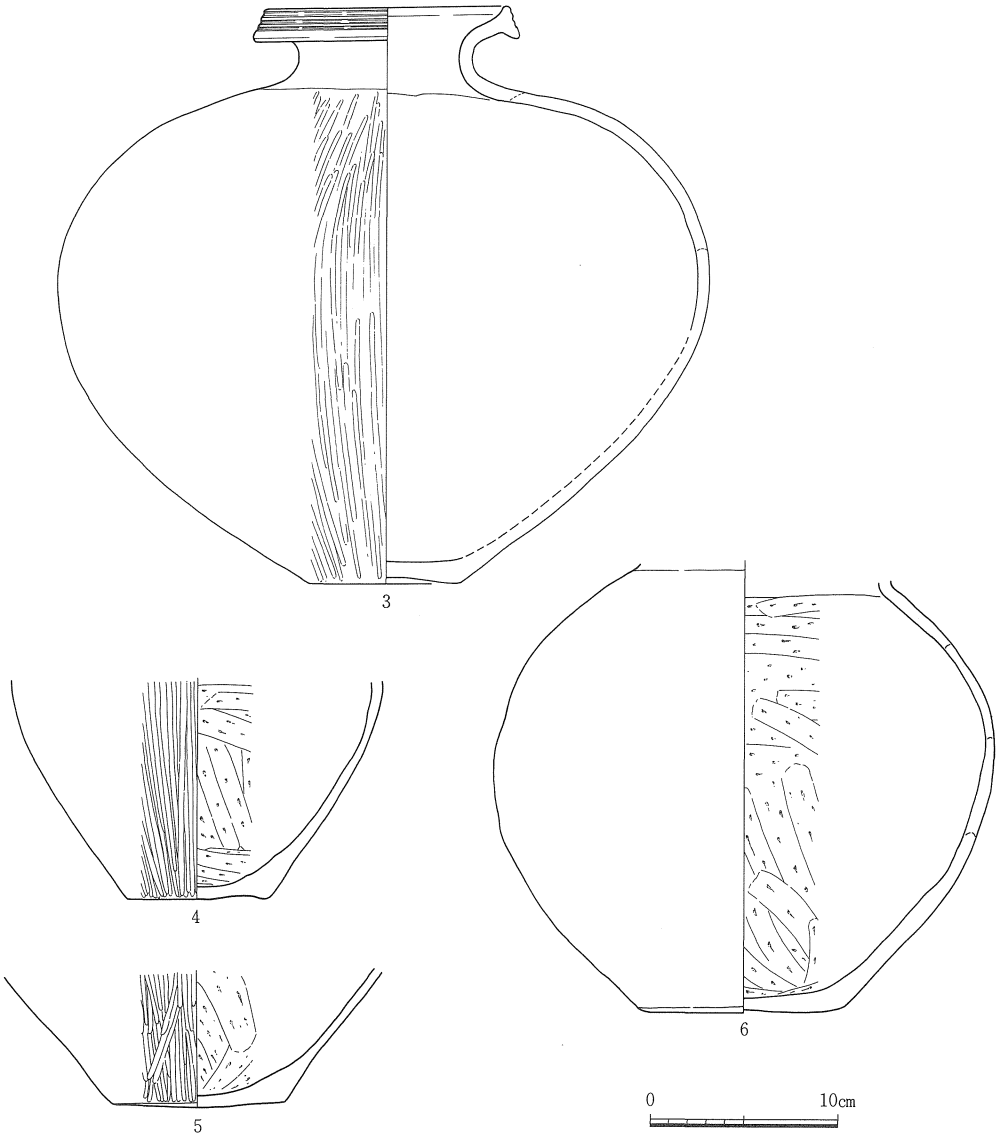
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	15.1	－	－	口縁～頸部横ナデ，頸部沈線は螺旋状，2段目の刺突文は1ケ所のみ	淡乳黄褐	微砂◎
2	〃	－	－	－	頸部と体部の境にゆるい刻目をもつ貼付け凸帯・刺突文を廻らす	〃	微～細砂◎

遺物番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	特徴
S18	磨石	10.2	5.2	1.7	121.0	玢岩(?)	撥形を呈し，基端・側面に一部敲打痕

図60　井戸－3　出土遺物(1)　縮尺 1/4・1/2(S18)

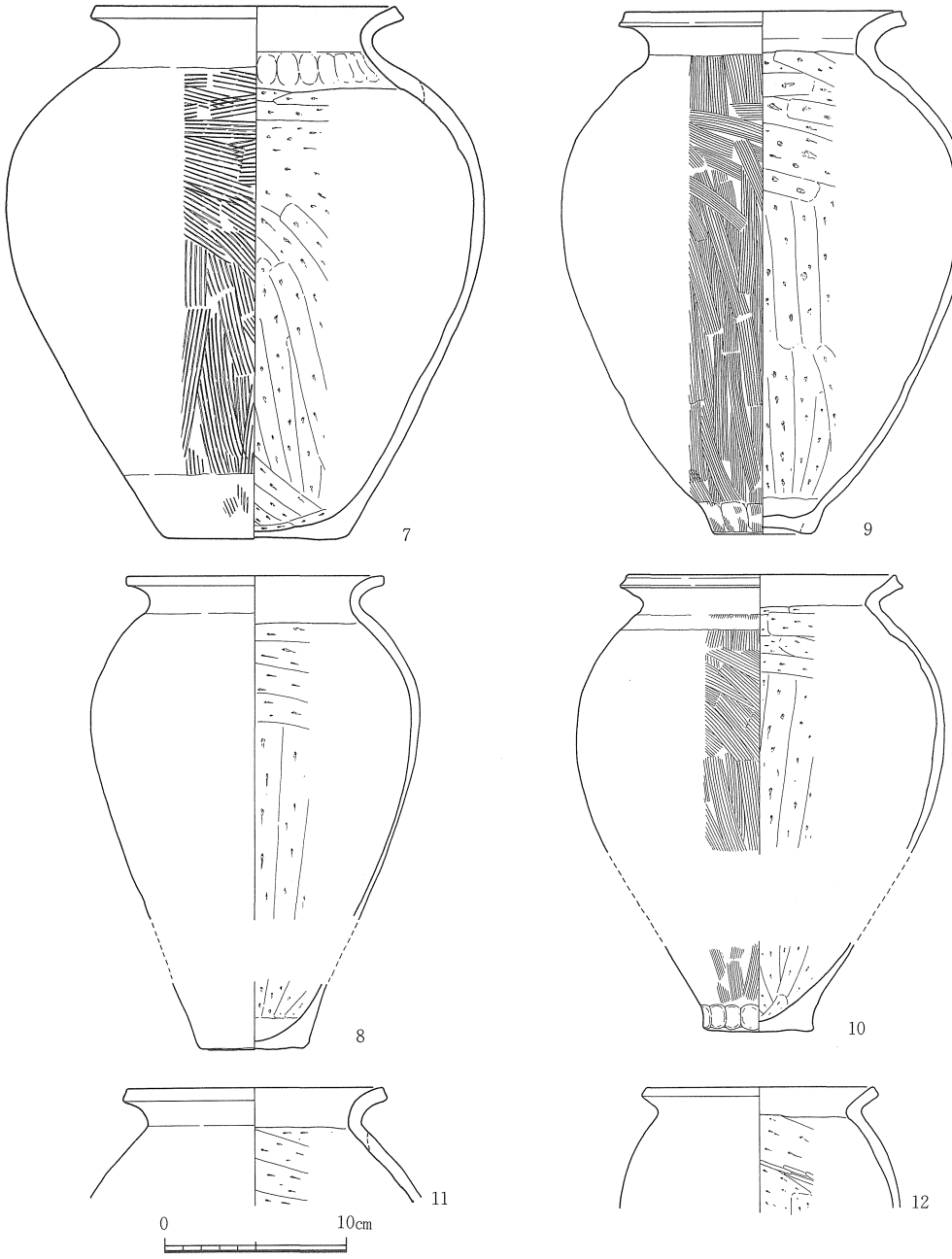
灰色粘土層および砂層が堆積し，粘土粒等も含むが中層ほど特徴的ではない。遺物は少量認められ，14層上面に壺・高杯（4・35），下面に石器（S18）が出土する。

時期は鹿田・後・2a期に比定される。（山本）



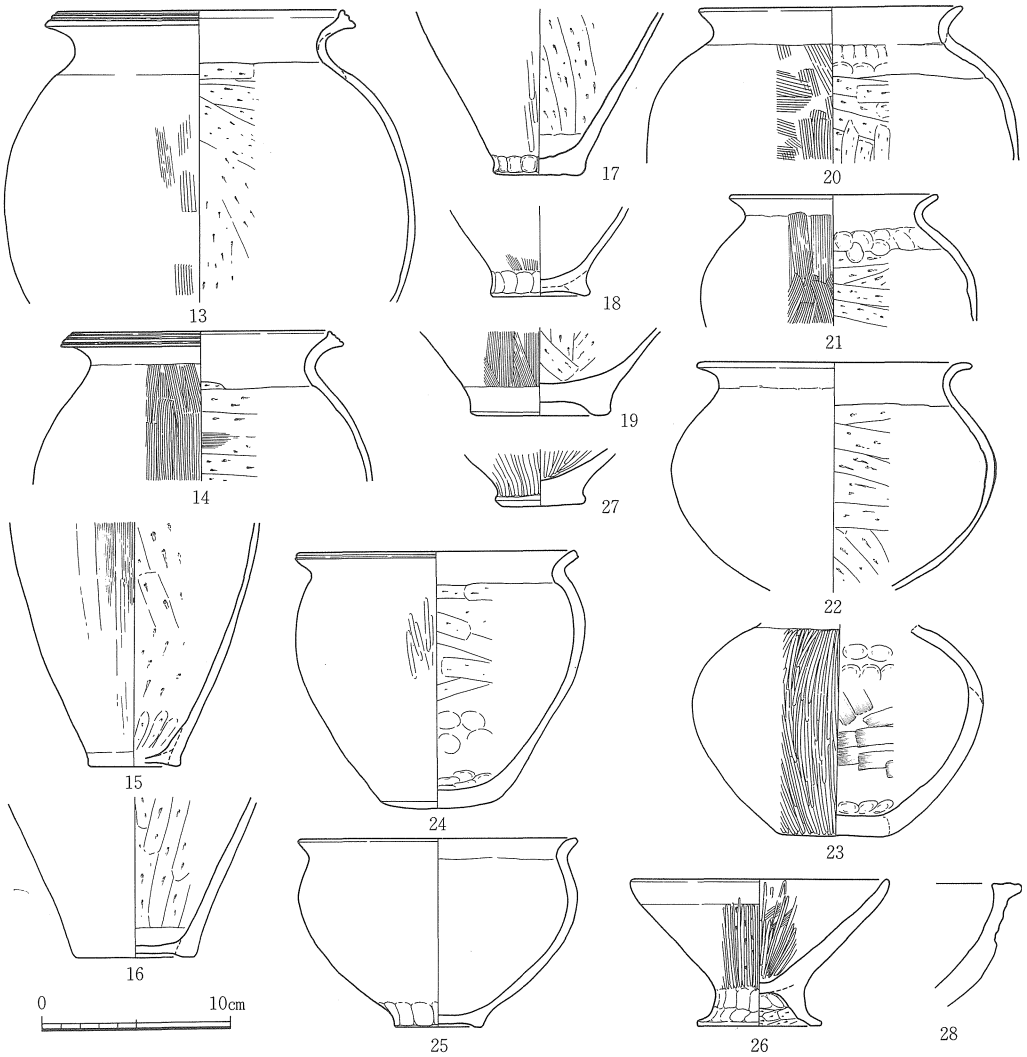
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
3	壺形土器	13.0	8.0	30.6	凹線3条，体部外面篦ミガキ・内面篦ケズリ，全体的に磨滅で不鮮明	淡黄褐～淡乳灰	細砂
4	〃	—	7.6	—	内面篦ケズリ，外面篦ミガキ，黒斑あり	灰褐	微砂
5	〃	—	9.2	—	〃　，　〃	淡乳黄褐	粗砂～細礫㊎
6	〃	—	11.0	—	〃　，外面押圧と丁寧なナデ，頸部横ナデ	淡灰褐	細～粗砂

図61　井戸－3　出土遺物(2)　縮尺 1/4



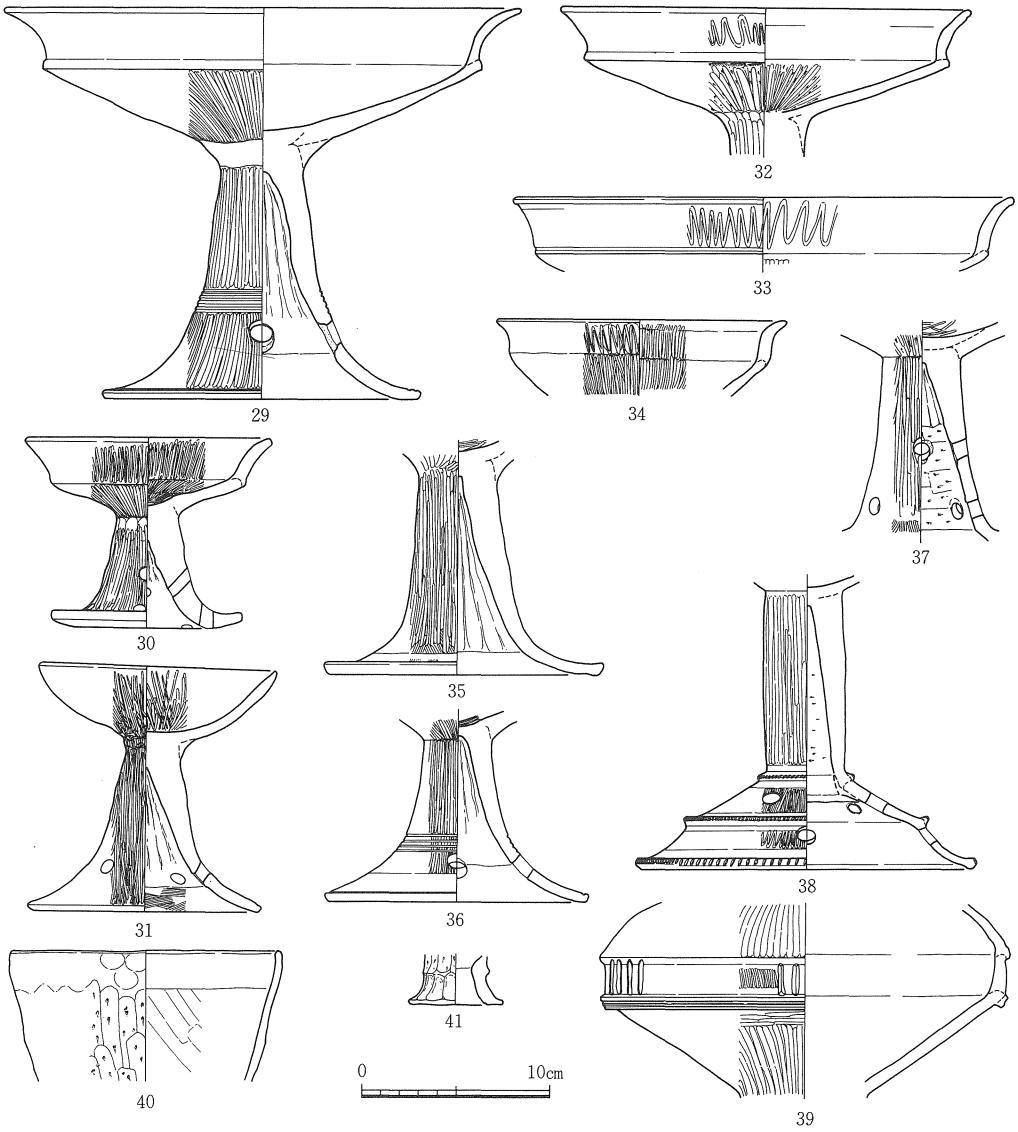
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
7	甕形土器	16.5	10.0	29.2	底部外面篦ケズリ，体部下端周辺ハケ後ナデ，肩部内面しぼり目・押圧	淡乳黄白	微砂㉖
8	〃	14.0	5.7	—	外面ナデ・煤付着，口縁部内面ナデ	淡黄白	微～細砂
9	〃	15.0	5.5	28.6	底部内面ナデ，底部外面篦ケズリ後ナデ，外面煤，体部内面下半炭化物	淡黄～灰褐	細礫㉖
10	〃	14.6	6.0	—	底部外面ナデ・押圧	淡灰褐	微～細砂㉖
11	〃	14.0	—	—	口縁部～外面ナデ，体部内面篦ケズリ	淡褐	細砂
12	〃	12.4	—	—	〃 ～ 〃 ， 〃	赤褐	微砂㉖

図62　井戸－3　出土遺物(3)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
13	甕形土器	15.2	—	—	口縁部凹線2条，全体に磨滅で不鮮明，外面煤付着	淡黄褐～黄白	微砂㊎
14	〃	13.7	—	—	〃 〃 3条，体部内面篦ケズリ後一部ハケ，外面煤付着	淡乳褐～乳白	微～細砂㊎
11	〃	—	4.9	—	外面ハケ後篦ミガキ（不鮮明），煤付着	灰褐	粗砂
16	〃	—	6.6	—	外面縦位のナデ，底部内面ナデ，底部外面押圧	淡黄褐	微～細砂
17	〃	—	4.7	—	外面ナデか篦ミガキ，外面煤付着	淡褐～黒褐	細砂
18	〃	—	5.3	—	全体磨滅で不鮮明，外面煤付着	淡黄白	粗砂㊎
19	〃	—	7.4	—	底部外面ナデ・押圧	淡灰褐	粗砂～細礫
20	〃	14.0	—	—	肩部内面しぼり目後押圧，外面煤付着	淡黄褐	微～細砂㊎
21	〃	11.0	—	—	〃 〃	〃	〃～〃
22	〃	14.6	—	—	体部外面丁寧なナデ，頸部外面1cm幅の工具痕が巡る，黒斑2ケ所	〃	粗砂～細礫
23	鉢形土器	—	5.5	—	体部内面上半・底部押圧，内面下半工具使用ナデ，底部外面ナデ・押圧	内黒外淡黄褐	微砂
24	〃	14.6	6.0	13.6	体部内面下半押圧・上半篦ケズリ後ナデ，外面ナデ後一部篦ミガキ	赤褐	細砂㋐，精良
25	〃	14.8	4.6	10.0	全面磨滅のため不明	〃	〃 ㊎
26	台付鉢形土器	13.7	6.6	7.8	体部外面篦ケズリ後篦ミガキ・内面ハケ後篦ミガキ	黄灰褐	微～細砂
27	鉢形土器	—	4.7	—	底部外面ナデ	内灰黒外黄灰	〃～〃
28	〃	—	—	—	内面～口縁部外面横ナデ，体部外面横篦ミガキ，口縁端面凹線2条	淡黄褐	細～粗砂

図63　井戸－3　出土遺物(4)　縮尺 1/4



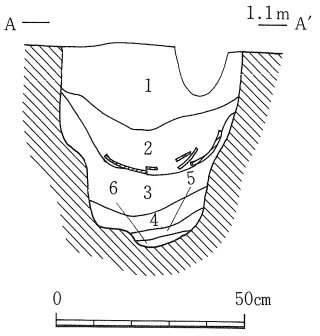
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
29	高杯形土器	27.5	16.7	20.8	内面ナデ，脚部に沈線5条，円孔4個	淡黄褐	微～細砂
30	〃	12.8	10.2	10.1	口縁部の篦ミガキは密な波状をなす，円孔上段4個・下段5個	〃	〃～〃
31	〃	12.6	12.0	13.2	円孔は5個	赤褐	微砂㊦，水漉粘土
32	〃	21.8	—	—	杯部内外面篦ケズリ後篦ミガキ，口縁部横ナデ後外面のみ波状篦ミガキ	淡黄～赤褐	微～細砂
33	〃	26.4	—	—	口縁部内外面横ナデ後波状篦ミガキ，黒斑	赤～黄褐	微砂㊂
34	〃	15.4	—	—	全体篦ミガキ，口縁部外面篦ミガキ	淡黄灰	微～細砂
35	〃	—	14.3	—	外面・杯部内面篦ミガキ，脚内面しぼり目・裾外面ハケ残る	淡乳黄白	微砂
36	〃	—	13.7	—	杯部内面ハケ，脚部沈線4条，円孔4個	淡黄灰褐	細砂㊂
37	〃	—	—	—	円孔は上段4個・下段推定4個	暗褐	微～細砂
38	〃	—	17.6	—	内面の脚柱部と裾部境に粘土帯の貼付け，円孔上・下段4個交互配置	淡褐	〃～〃 ㊂
39	台付壺形土器	—	—	—	棒状浮文は4本単位で6ケ所	(内)暗灰(外)明褐	微砂㊁，精良
40	製塩土器	14.3	—	—	内面細いハケ，2次焼成痕あり	黒褐	粗砂～細礫
41	〃	—	5.0	—	2次焼成痕あり	〃	〃～〃

図64　井戸－3　出土遺物(5)　縮尺 1/4

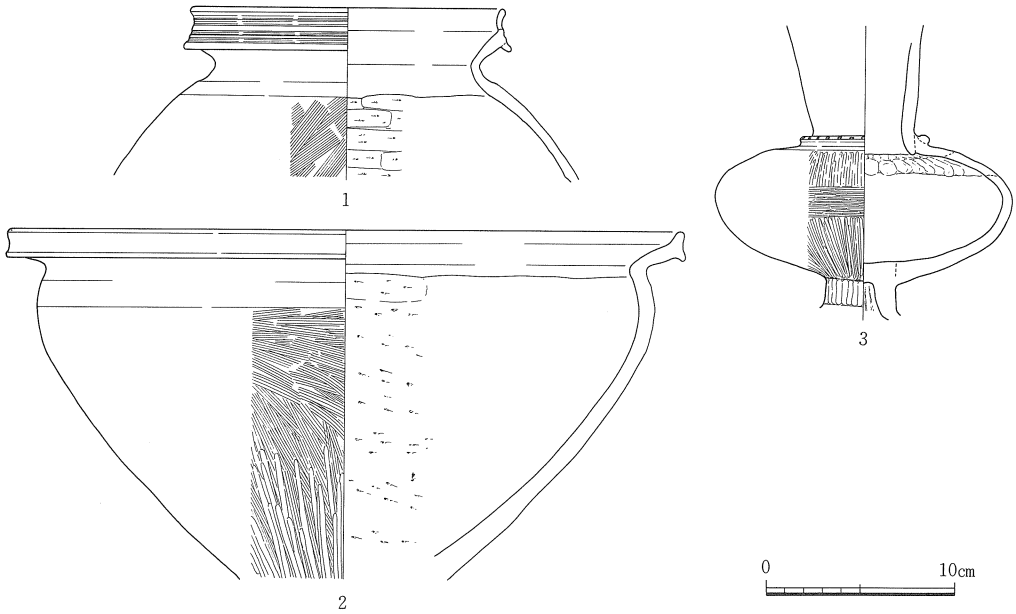
c．溝

溝－37（図40・65，附図４，図版16-２）

本遺構は西側の調査区を斜行して，両端は調査外へ伸びる長大な溝である。溝は南端部でＮ―20°―Ｅの方向に曲がるが，大半はほぼＮ―45°―Ｅ方向に走っており，検出長は約35ｍに達している。幅は30～70㎝前後で，平均的な幅は50㎝程度とみられる。壁は急な角度で立ち上がっており検出面からの深さは40～60㎝前後を測るが，底の標高は50～60㎝前後で，両端で顕著な比高差は認められない。溝内の埋土は基本的に粘質土であり，主に上半部に地点によって土器片が出土している。本溝は遺構との切合い関係から鹿田・後・２期には一部は埋没していたと考えられる一方，出土土器には鹿田・後・３期に下るものも存在し，地点によっては凹みとして残存していたと推定される。



1　暗茶褐色粘質土
2　黒灰色粘質土
3　暗灰色粘質土
4　黒灰色粘質土
5　暗黒灰色粘質土
6　黒灰色粘質土



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	16.6	－	－	口縁端面凹線３条，外面ハケ，内面篦ケズリ，口縁～頸部内外面横ナデ	暗赤褐	細砂㉖
2	鉢形土器	35.8	－	－	体部外面ハケ後下半に篦ミガキ，内面篦ケズリ後軽いナデ	淡黄灰	〃，赤色粒子
3	台付直口壺形土器	－	－	－	頸部貼付け凸帯上に小さい竹管文が廻る，体部～脚柱部外面篦ミガキ	淡灰白	微砂㉘，水漉粘土

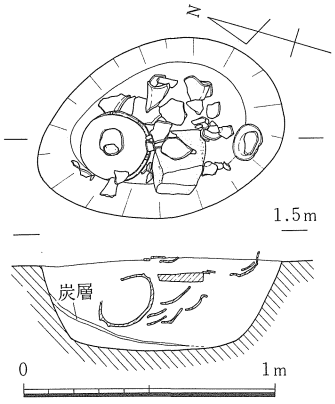
図65　溝－37，出土遺物　縮尺 1/20，1/4

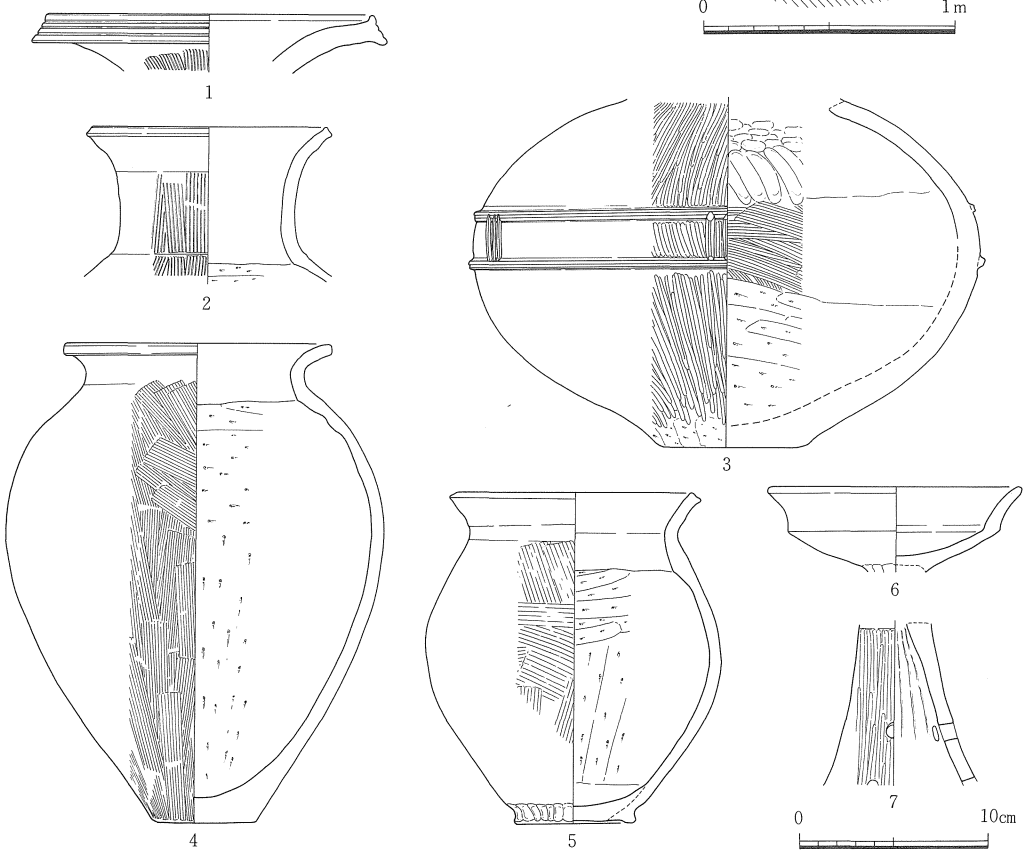
d．土　　壙

土壙－23（図66，図版12-１・52）

ＡＺ29区に位置し，長軸100㎝・短軸70㎝の楕円形を呈す。底面は検出面下37㎝・標高103㎝を測る。

埋土は茶褐色砂質土で，炭化物・遺物を多量に含むほか，焼土も認められる。遺物は大形角礫のほか２～５㎝大の円礫を伴って，南側から一括廃棄されている。一方，炭化物・焼





遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	17.4	－	－	口縁端面凹線３条，外面下半ハケ，他は横ナデ	明褐	微砂
2	〃	12.5	－	－	頸部外面押圧後幅広いハケ，体部外面幅広いハケ	淡乳黄褐	細砂
3	〃	－	8.0	－	上下に貼付け凸帯，棒状浮文３本単位６ケ所，底部外面未調整，黒斑	灰黄	〃
4	甕形土器	14.0	5.4	25.4	体部～底部外面ハケ，内面篦ケズリ，外面煤付着，赤変あり	〃	微～細砂
5	〃	12.5	6.4	17.5	底部内外面ナデ・押圧，体部下半外面２次焼成による赤変	乳黄褐	細砂
6	高杯形土器	13.3	－	－	内外面丁寧な横ナデ，脚部との境界部分押圧，黒斑	黄白～黄灰	微～細砂
7	〃	－	－	－	円孔は上段３個で各々を挟み円孔２個が下段に３ケ所，上下に長い黒斑	淡灰白	細砂，細礫㋐

図66　土壙－23　出土遺物　縮尺 1/30，1/4

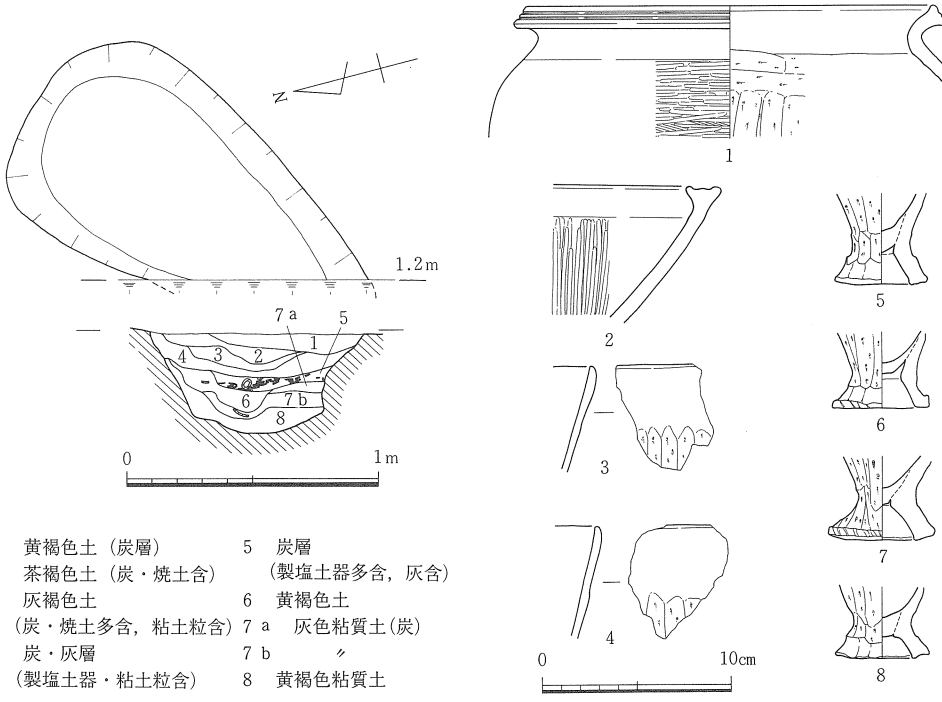
土は土器群の直下に北側から流入する。遺物の中で壺（3）は頸部以上の破片が出土せず，口縁部は打欠きの可能性が考えられる。

時期は鹿田・後・2ａ期の範囲に比定される。

土壙－54（図67，図版74）

ＢＡ31の基準杭の位置に中心をもつ。西半部を側溝によって削られる。平面形は長軸160cm前後・短軸75cm前後の長楕円形が復元推定される。南西方向に向って細くなる傾向が認められる。逆台形に近い掘り方をもち，底面は検出面から40cm・標高80cmを測る。埋土中央部には炭・灰・製塩土器を多量に含む層（3～4層）が検出されている。また，埋土下半は粘質が強い傾向をもつ。以上の状況から当土壙には，土器製塩に付随した遺物の一括廃棄が行なわれたことが窺われる。遺物はほとんどが製塩土器であり重量にして2860ｇを測る。

時期は鹿田・後・2ａ期に比定される。



1　黄褐色土（炭層）
2　茶褐色土（炭・焼土含）
3　灰褐色土
（炭・焼土多含，粘土粒含）
4　炭・灰層
（製塩土器・粘土粒含）
5　炭層
（製塩土器多含，灰含）
6　黄褐色土
7ａ　灰色粘質土(炭)
7ｂ　〃
8　黄褐色粘質土

遺物番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
		口径	底径	器高			
1	甕形土器	21.6	－	－	口縁端面凹線２条，体部外面ハケ後篦ミガキ，鉢の可能性もあり	黄褐	細砂
2	鉢形土器	－	－	－	〃　，体部外面横位の篦ミガキ，煤付着，半径19cm前後	明褐～灰褐	微砂
3	製塩土器	－	－	－	内面工具使用ナデ，外面上半ナデ・下半篦ケズリ，２次焼成痕	黄白～赤褐～赤白	細礫㊗
4	〃	－	－	－	〃　，　〃　・　〃　，　〃	(内)黄白(外)暗灰褐	〃　〃
5	〃	－	5.0	－	内面ナデ，脚台外面押圧，体部外面篦ケズリ（上方向），２次焼成痕	黒褐～赤褐～黄褐	〃　〃
6	〃	－	5.1	－	〃　，　〃　，　〃　（〃），　〃	黄～赤白	〃　〃
7	〃	－	5.6	－	〃　，外面篦ケズリ（上方向），２次焼成痕	灰黄白～赤白～黒	〃　〃
8	〃	－	5.0	－	〃　，脚台外面押圧，体部外面篦ケズリ（上方向），２次焼成痕	赤褐～黒灰～黄褐	〃　〃

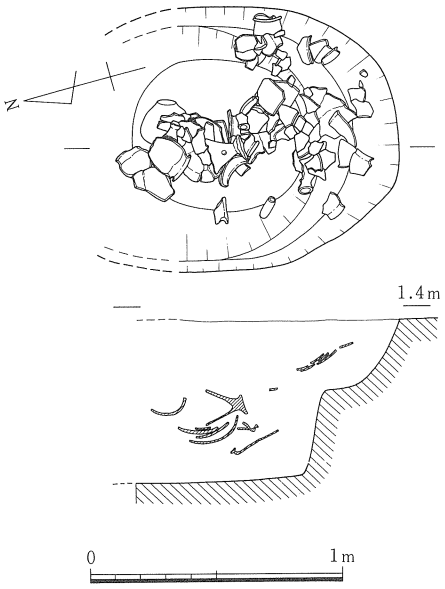
図67　土壙－54，出土遺物　縮尺 1/30，1/4

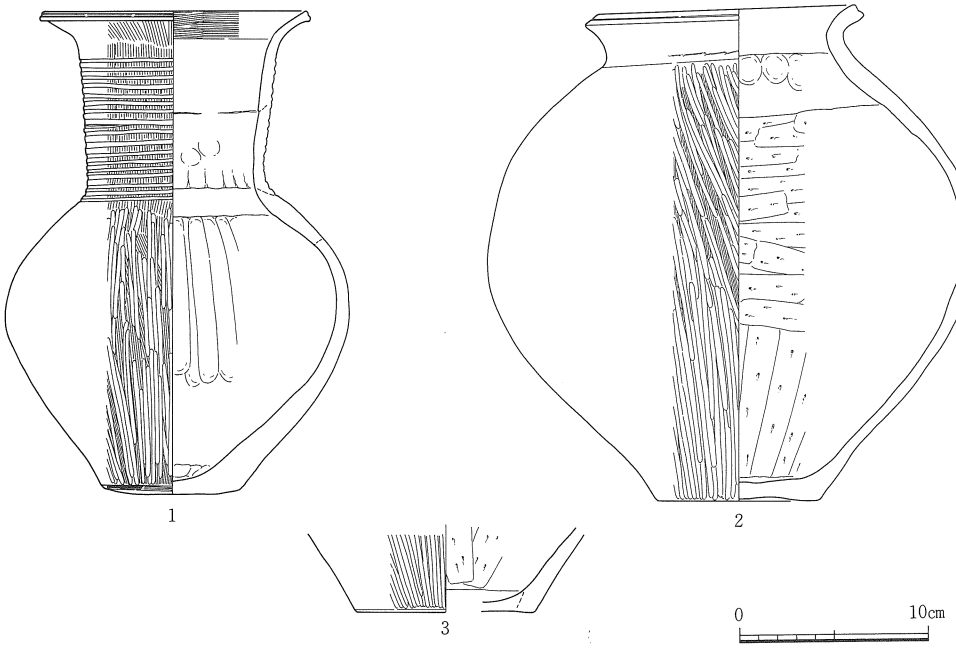
土壙－60（図68～71，図版50）

ＢＢ30区西北隅に位置する。北側を調査時の側溝により切られる。そのため長軸の長さは不明である。短軸105㎝の南北に軸をもつ楕円形土壙である。底面は検出面より65㎝，標高70㎝を測り，掘り方はほぼ中央で段掘り状をなす。特に，南側でその特徴がよく現われており，一部にテラス状部分をもつ。

土壙内には，暗茶褐色微砂土が埋積し，炭化物を伴って多量の遺物が包含される。遺物は南側から廃棄された様相を呈し，掘り方ラインに沿って流入する状況が明瞭に認められる。土器は，壺・甕を中心とし，ほかに土錘（Ｐ２）を１点含む。

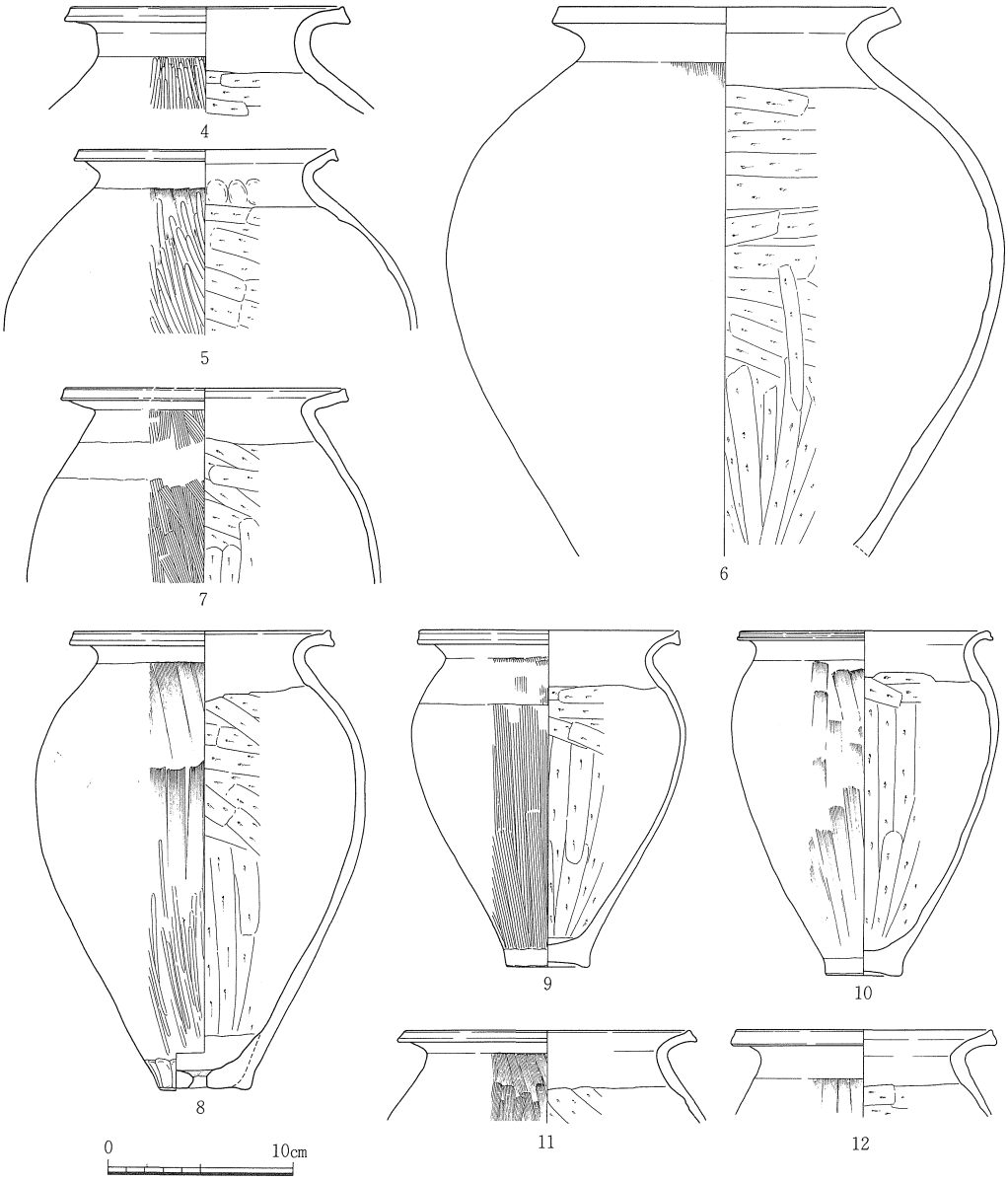
時期は鹿田・後・２ａ期に比定される。





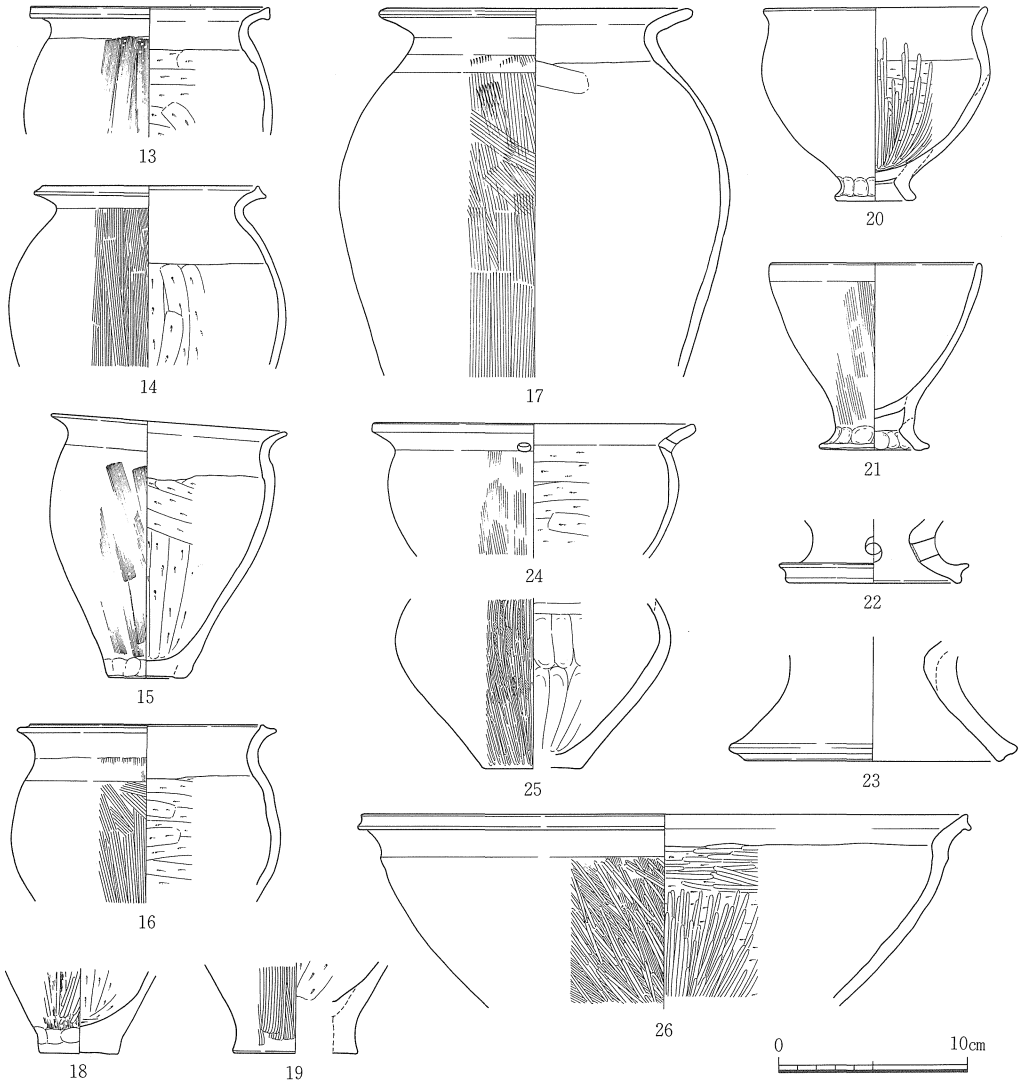
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	14.0	7.4	25.6	沈線17条，口縁～頸部外面ハケ，底部外面篦ケズリ後ハケ後ナデ，黒斑	明褐～黄褐	微砂
2	〃	13.7	8.6	26.3	頸部外面ハケ状工具痕残存，底部外面ハケ後ナデ・内面ナデ	内暗黄褐/外明黄褐	〃
3	〃	－	9.6	－	底部外面ハケ後ナデ・内面ナデ	淡黄白	細砂

図68　土壙－60，出土遺物(1)　縮尺 1/30，1/4



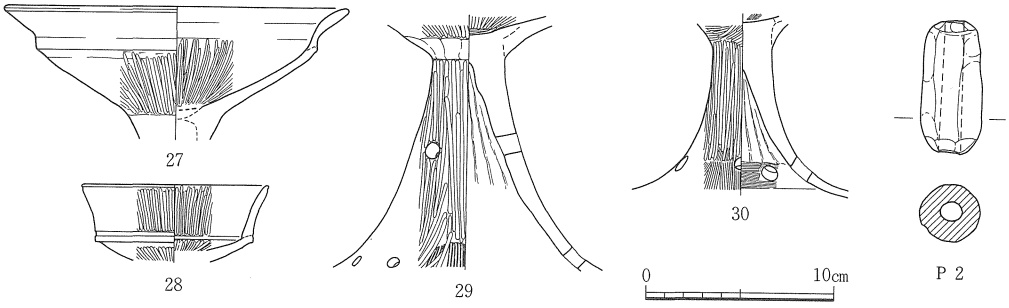
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
4	壺形土器	14.8	—	—	体部外面ハケ後篦ミガキ（部分的に疎密あり）	(内)灰黒(外)暗茶褐	細～粗砂㊎
5	〃	13.8	—	—	体部外面工具使用ナデ後篦ミガキ	淡黄褐	微砂㊎
6	〃	18.0	—	—	体部磨滅で不鮮明だが上半ハケ・下半丁寧なナデの可能性あり	明黄褐	微～細砂㊎，細礫
7	甕形土器	15.1	—	—	外面肩部にハケ後ナデの部分あり	暗灰褐	〃～〃〃，〃
8	〃	13.9	5.0	24.7	外面上半工具使用ナデ・下半ナデ後篦ミガキ状調整痕㊍，黒斑，外面煤	(内)茶褐(外)明～暗褐	粗砂～細礫
9	〃	14.0	4.5	18.1	底部内外面ナデ，黒斑，２次焼成による変色	淡黄褐	微砂㊐，細礫㊐
10	〃	13.4	4.1	18.5	体部外面工具使用ナデ，凹線１条，外面黒斑・煤，底部外面ナデ	(内)黄褐(外)暗赤褐	粗砂㊎，〃〃
11	〃	15.3	—	—	体部外面浅く細いハケ（工具使用ナデに近い），外面煤付着	灰褐	細～粗砂
12	〃	13.8	—	—	体部外面工具使用ナデ，外面煤付着	(内)暗黄褐(外)暗褐	微砂

図69　土壙－60　出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
13	甕形土器	12.8	—	—	体部外面工具使用ナデ	褐	細～粗砂
14	〃	11.6	—	—	体部外面浅く細いハケ，黒斑，外面煤付着	内灰褐外淡黄灰褐	微砂
15	〃	12.7	4.2	14.0	体部外面工具使用ナデ，底部外面篦ケズリ後ナデ，外面煤付着	淡黄灰～淡乳黄灰	〃
16	〃	12.4	—	—	体部外面ハケ	暗赤褐～灰褐	〃
17	〃	16.5	—	—	体部外面幅広いハケ・内面篦ケズリだが磨滅で不鮮明，黒斑	内暗黄灰褐外黄褐	〃 ㉓，細礫㉗
18	〃	—	4.2	—	体部外面工具使用ナデ後篦ミガキ㉒，底部外面ナデ，黒斑	内黒灰外灰褐	微～細砂
19	〃	—	6.6	—	体部外面ハケ，底部外面ナデ	明褐～淡乳黄灰	細砂
20	台付鉢形土器	11.8	4.3	10.2	体部内面篦ケズリ後篦ミガキ	淡黄褐	微砂
21	〃	11.1	5.8	9.9	体部内面丁寧なナデ・外面ハケ後ナデ，台部押圧・ナデ	内黒灰外淡黄白	細砂㉓，粗砂㉗
22	台付土器	—	9.3	—	内外面磨滅で不明，円孔は1個残存	黒褐	〃
23	〃	—	13.7	—	外面丁寧なナデ，内面ケズリ後ナデ	淡乳褐	微砂
24	鉢形土器	16.9	—	—	体部外面ハケ後ナデ，円孔は1個残存する（可能性としては2個まで）	内明赤褐外淡黄褐	細砂
25	〃	—	5.3	—	内面ナデ，外面ハケ後細い篦ミガキ，底部外面ナデ	淡黄白	微砂
26	〃	32.2	—	—	体部内面篦ケズリ後篦ミガキ・外面ハケ後細い篦ミガキ・一部押圧痕㉘	内明褐外淡乳黄灰	微～細砂，細礫㉗

図70　土壙ー60　出土遺物(3)　縮尺 1/4



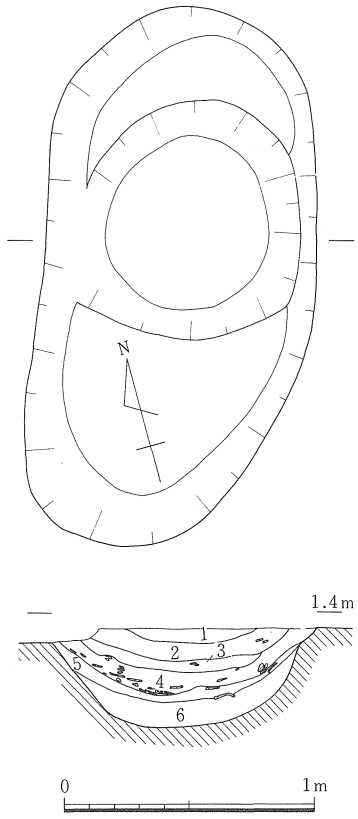
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
27	高杯形土器	18.3	—	—	口縁部内面丁寧な横ナデ，杯部外面横位篦ケズリ後押圧篦ミガキ	明赤褐	細～粗砂㉓
28	〃	9.8	—	—	口縁部と受部との境の外面ナデ・沈線1条，他は篦ミガキ	淡黄褐	微～細砂
29	〃	—	—	—	脚裾部外面ハケ後篦ミガキ，円孔上段3個・下段推定2個単位6ケ所	〃	微砂
30	〃	—	—	—	杯部内面ハケ後ナデ，脚裾部内上半浅いハケ，円孔5個の可能性高い	〃 ～淡黄灰	〃

遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
P 2	土錘	7.1	3.3	3.0	68g	全面ナデ・押圧	黒褐～灰黒	微砂㉔

図71　土壙－60　出土遺物(4)　縮尺 1/4

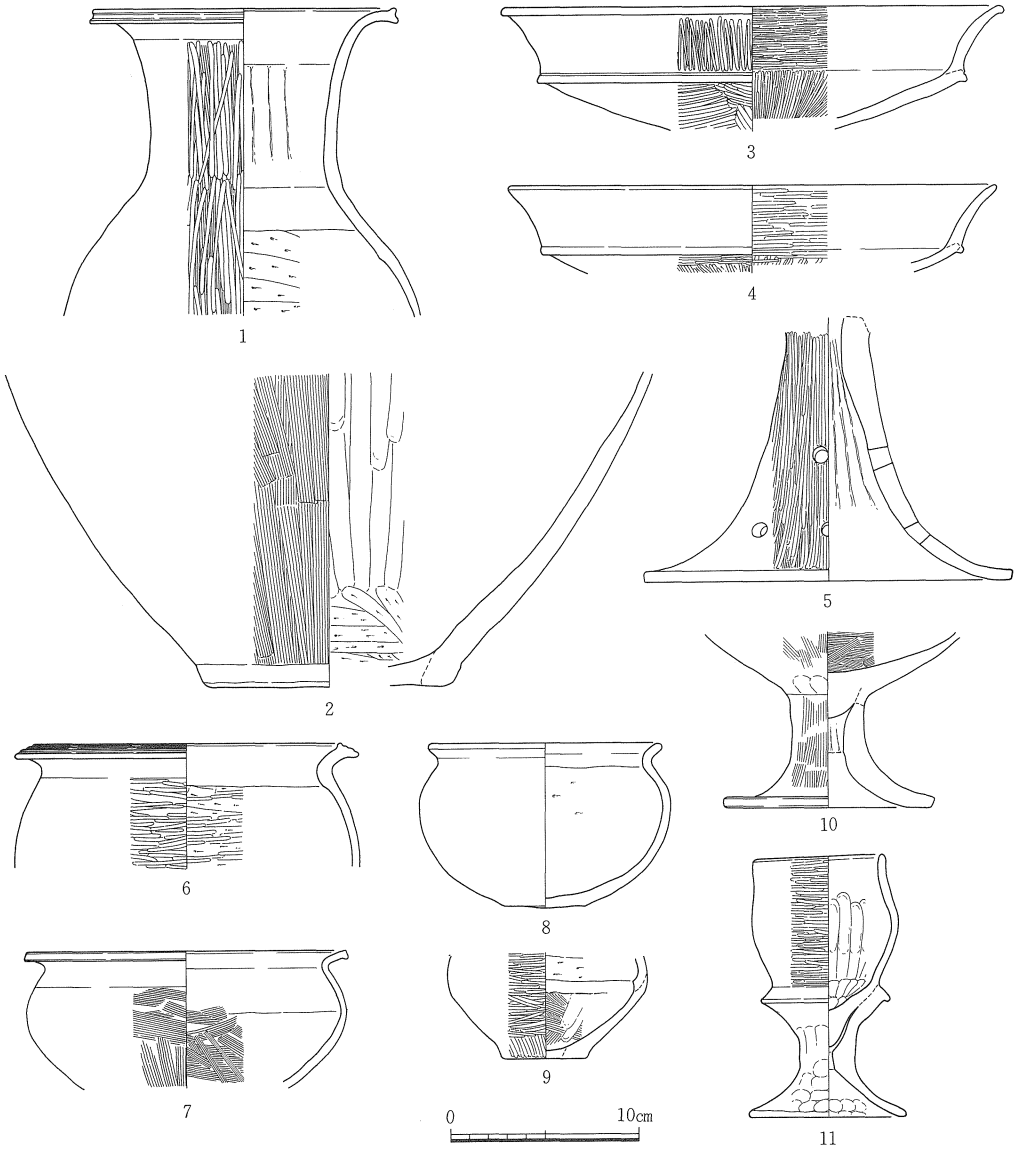
土壙－63（図72～74，図版56）

ＢＣ30区の北寄りに位置する。長軸217cm，短軸100cmの南北に軸をもつ長楕円形土壙である。掘り方は段掘りになっており，南北両側でかなり広いテラス状部分を形成する。土壙の中心部はやや北側に位置し，深さ40cm前後・標高94cmを測る。底面形は65～70cmの円形を呈す。埋土の中で炭化物・焼土・円礫を多量に含む4層は南北のテラス状部分に堆積する。4層以外では包含物は少ない。出土遺物は完形に近いものは比較的少ない。また，壺・甕・高杯・鉢と基本的器種を含むが，その中で甕の量が多い傾向を示す。また製塩土器の細片もまとまって出土する。本土壙は竪穴住居1の柱穴Ｐ3・8と重複関係を有す。そのため，鹿田・中・3期の遺物混入が認められるが，本土壙は，鹿田・後・2a期に比定される。



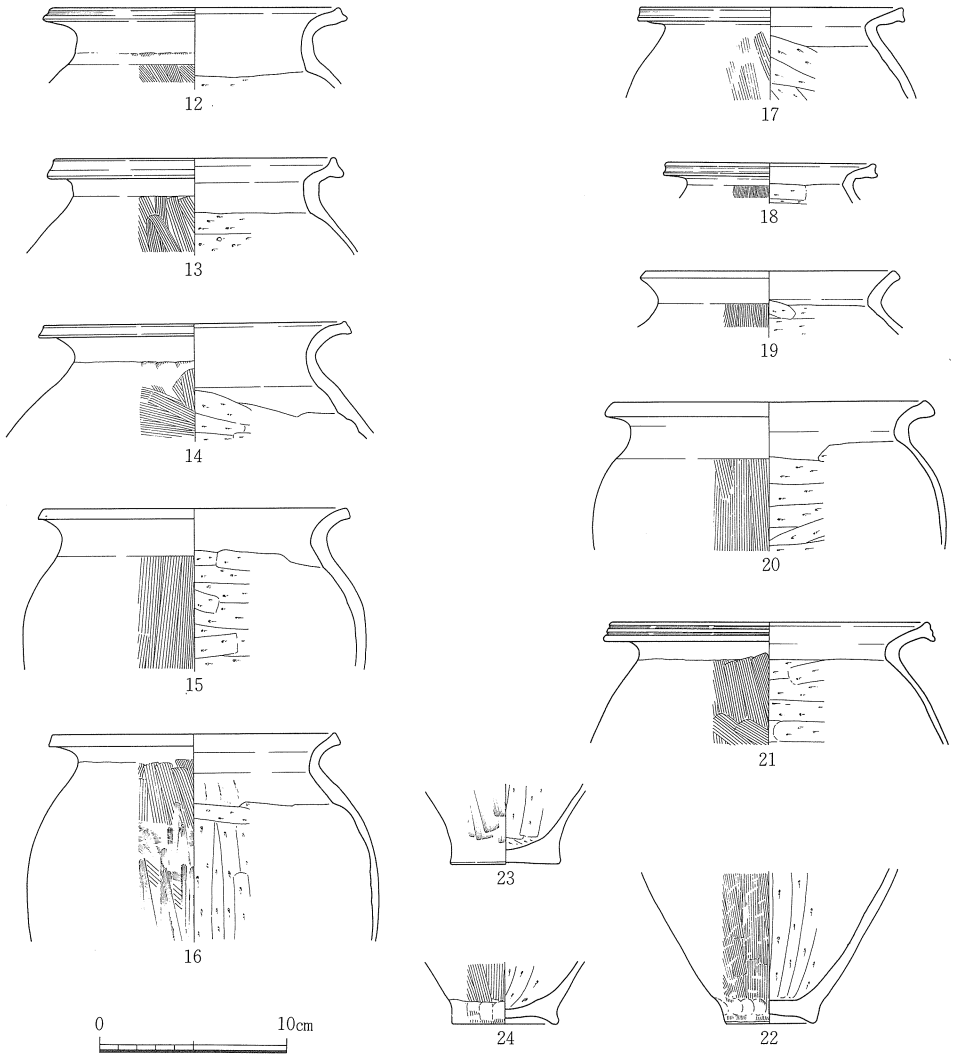
1　黄灰褐色砂質土
2　黄灰褐色砂質土（炭・焼土・土器含）
3　黄灰褐色土
（炭・焼土・土器・粘土粒含）
4　黒褐色炭層（焼土・土器・円礫多含）
5　暗茶褐色土
6　〃

図72　土壙－63　縮尺 1/30



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	16.0	—	—	口縁端面凹線1条，外面ハケ後篦ミガキ，頸部内面しぼり目・ナデ	(内)淡灰～黒(外)黄灰	細砂
2	〃	—	17.2	—	体部内面ナデあげ，底部内面篦ケズリ・外面篦ケズリ	(内)黒灰(外)淡乳白	粗砂～細礫
3	高杯形土器	26.4	—	—	内外面篦ミガキ	淡黄褐	微砂，細礫㋑
4	〃	25.9	—	—	内面篦ミガキ，外面杯受部篦ケズリ後篦ミガキ	黄褐～黄灰	細砂
5	〃	—	19.5	—	外面ハケ篦ミガキ，円孔は½の破片中に上段1個・下段3個残存	赤褐～黄褐	微砂㋐，精良
6	鉢形土器	16.2	—	—	口縁端面凹線3条，体部内面篦ケズリ後篦ミガキ・外面篦ミガキ，黒斑	淡黄灰	細砂
7	〃	16.9	—	—	口縁～肩部内外面横ナデ，体部内外面ハケ	淡黄白～淡黄灰	〃 ～粗砂
8	〃	12.3	—	—	内面篦ケズリ後ナデ，他はナデ，黒斑，口縁は12.3×11.3cmの楕円形	淡黄褐	微砂～細礫㋑
9	〃	—	4.4	—	肩部外面篦ケズリ，内面上半篦ケズリ・下半ハケ後ナデ上げ	黒褐	微～細砂
10	台付鉢形土器	—	11.0	—	鉢部内面・脚部外面ハケ，鉢部外面ハケ後ナデ，台付壺の可能性有り	淡黄褐	粗砂㋒，細礫㋑
11	〃	6.9	8.3	13.9	脚部内外面押圧，鉢部外面篦ミガキ・内面押圧とナデ上げ，黒斑	淡黄灰～黄白	細砂

図73　土壙ー63　出土遺物(1)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
12	甕形土器	15.4	—	—	口縁部～頸部内外面横ナデ，体部外面ハケ・内面篦ケズリ	黒褐	粗砂
13	〃	15.0	—	—	体部外面ハケ・内面篦ケズリ，口縁部15×15.9cmの楕円形	淡黄灰	細～粗砂，細礫㋑
14	〃	16.1	—	—	口縁部～頸部内外面横ナデ，体部外面ハケ・内面篦ケズリ，外面煤付着	黄褐～灰褐	〃～〃，〃〃
15	〃	16.2	—	—	口縁部～肩部内外面横ナデ，〃・〃，〃	淡黄灰	微砂
16	〃	15.1	—	—	体部外面幅広のハケ後下半に工具使用ナデ，肩部内面ナデ・しぼり目	内)淡灰白外)淡黄白	細砂㋒，細礫㋑
17	〃	13.9	—	—	口縁部横ナデ，体部外面ハケ・内面篦ケズリ	内)黒褐外)茶褐	〃
18	〃	11.1	—	—	〃，〃・〃	内)暗黄褐外)暗褐	微砂
19	〃	13.2	—	—	〃，〃・〃	内)淡黄灰外)暗灰褐	細砂～細礫㋑
20	〃	16.6	—	—	〃，〃・〃	明褐～淡灰白	細～粗砂
21	〃	16.9	—	—	口縁～体部内外面対角線上に補修用の粘土帯が2ケ所貼付け有り	淡黄灰～淡黄白	粗砂，赤色粒子
22	〃	—	4.8	—	底部内外面ナデ，外面工具使用ナデに近い非常に浅いハケ・煤付着	暗褐	細～粗砂
23	〃	—	5.8	—	底部外面篦ケズリ，〃〃〃	内)灰黒褐外)暗灰褐	粗砂
24	〃	—	5.9	—	底部外面ナデ，内面篦ケズリ，外面ハケ・煤付着・黒斑	暗褐	細砂

図74　土壙ー63　出土遺物(2)　縮尺 1/4

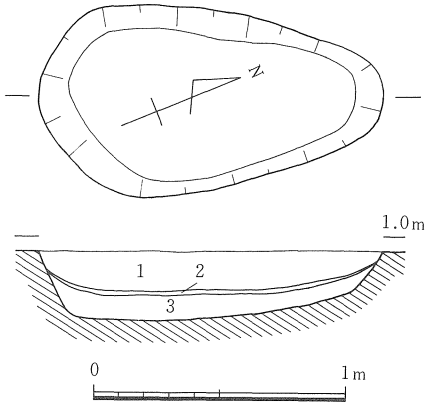
土壙－69（図75～77）

ＡＷ31区に位置する。上部を竪穴住居18に完全に削平されており，床面直下で検出した。

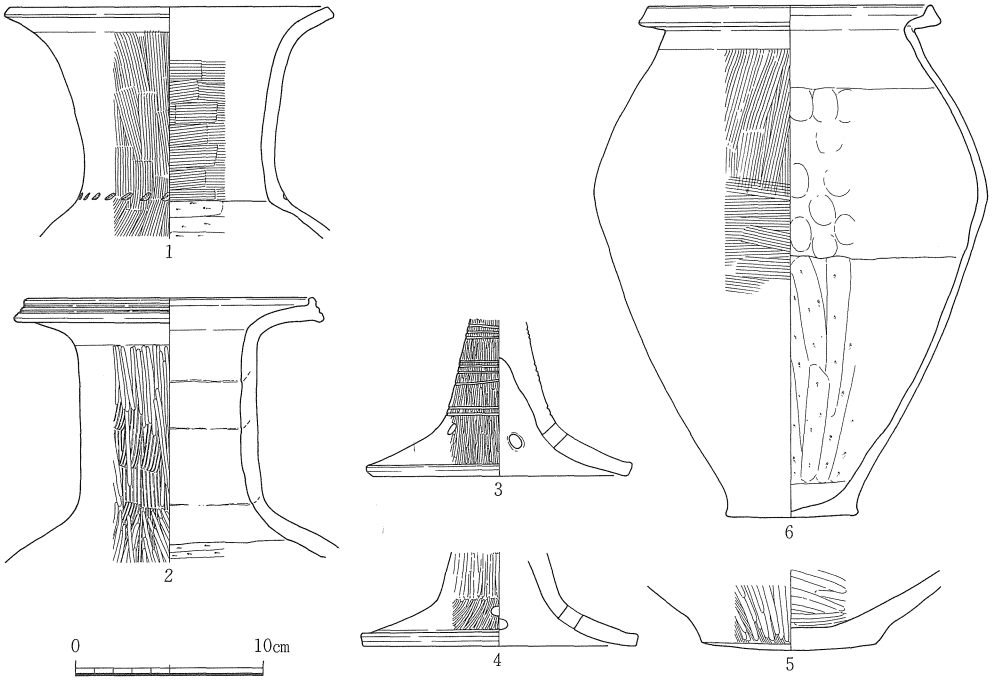
平面形は長軸137㎝・短軸76㎝を測る長楕円形土壙で，南北に軸をもつ。底面は検出面下27㎝・標高67㎝を測り，広い平坦面をなす。

土壙内上層には多量の遺物のほかに炭化物が含まれ，下層との境には炭化物層を形成する。下層は比較的きれいな層である。こうした状況は土壙96・194等と同様である。

出土遺物中では甕の占める割合が非常に高い。時期は鹿田・後・２ｂ期に比定される。

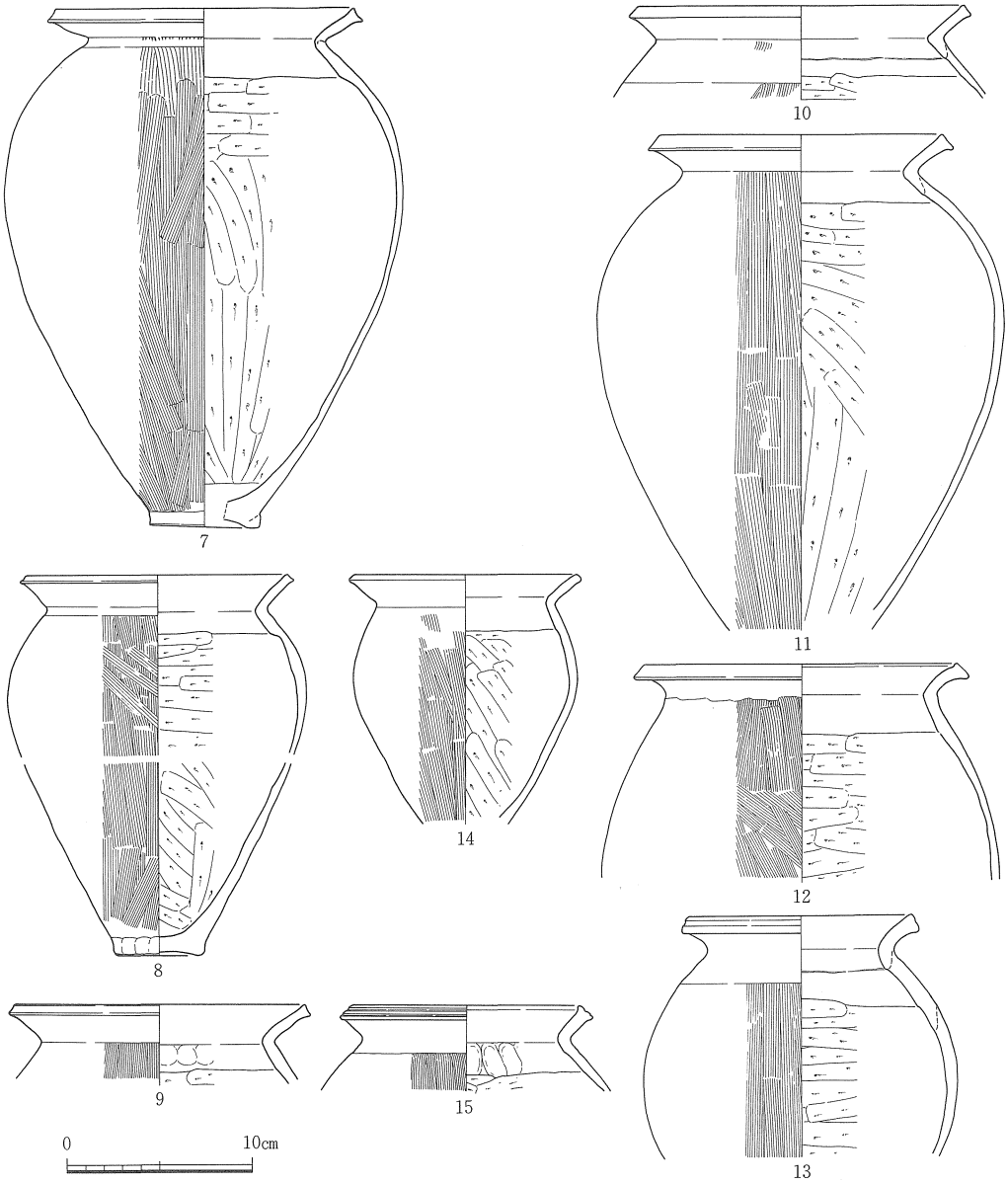


1　暗黄灰褐色粘質土（炭・土器多含・焼土含）
2　炭　層
3　黄灰褐色粘質土（炭・焼土含）



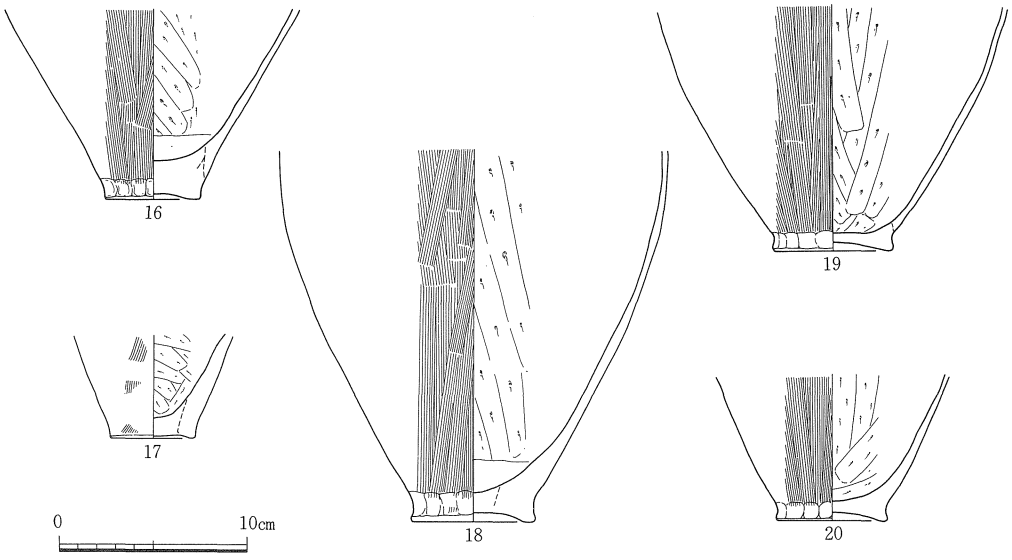
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	16.9	－	－	頸部下端に列点文が廻る，口縁部横ナデ，頸部内面ハケ，外面ハケ	乳黄褐～明黄褐	微～細砂
2	〃	15.2	－	－	口縁端面凹線２条，口縁部～頸部内面横ナデ，外面浅いハケ後篦ミガキ	内黒褐/内黄褐	微砂
3	高杯形土器	－	13.5	－	３段の沈線は各々螺旋状，円孔は等間隔に５ケ所，外面篦ミガキ	暗黄褐	微～細砂
4	〃	－	14.5	－	外面裾部篦ミガキ・脚柱部縦位の調整痕（篦ミガキの可能性高い）	暗茶褐	〃～〃
5	鉢形土器	－	9.3	－	底部外面篦ケズリ後ナデ，外面ハケ後篦ミガキ，内面篦ミガキ	内黄褐/内黒褐	細砂
6	甕形土器	15.1	7.0	27.2	体部外面下半横位のハケ後ナデ，底部外面篦ケズリ後ナデ，外面煤付着	淡茶褐	〃 ◎

図75　土壙－69，出土遺物(1)　縮尺 1/30，1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
7	甕形土器	16.1	5.9	27.9	底部は故意に焼成後穿孔したものか粘土帯接合面での破損か不明確	淡黄白	微～細砂
8	〃	14.1	4.7	—	外面ハケ，内面篦ケズリ，口縁部横ナデ，底部ナデ	明褐～黄褐	〃～〃
9	〃	15.6	—	—	〃，〃，〃，頸部内面押圧・ナデ	淡黄白～淡灰白	〃～〃
10	〃	17.4	—	—	口縁部工具使用ナデ，頸部下外面ハケ後横ナデ，内面に粘土帯接合痕有り	淡黄白	細砂
11	〃	15.2	—	—	口縁部ナデ，内面篦ケズリ，外面ハケ，外面煤付着多量	淡黄白～淡灰	微砂
12	〃	16.9	—	—	〃，〃，〃	淡黄白	〃
13	〃	12.1	—	—	〃，〃，〃	(内)黒褐 (外)淡赤褐	〃
14	〃	12.0	—	—	〃，〃，〃	(内)〃 (外)黄褐	微～細砂
15	〃	12.3	—	—	凹線２条，口縁部横ナデ，外面ハケ，頸部内面押圧，内面篦ケズリ	暗黄褐～暗灰褐	〃～〃

図76　土壙－69　出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
16	甕形土器	－	5.1	－	底部内外面ナデ，外面ハケ，内面篦ケズリ	(内)淡黄褐(外)暗茶褐	微～細砂
17	〃	－	4.6	－	底部外面ナデ，外面ハケ後ナデ，内面篦ケズリ	暗～黒褐	細砂
18	〃	－	6.6	－	底部内外面ナデ，外面ハケ，内面篦ケズリ，外面煤付着・黒斑	灰褐	〃
19	〃	－	6.4	－	底部外面篦ケズリ後ナデ，外面浅いハケ，内面篦ケズリ，黒斑	(内)暗灰褐(外)暗茶褐	細～粗砂
20	〃	－	5.9	－	〃 ，〃 ，〃 ，〃	(内)黄褐(外)暗茶褐	細砂

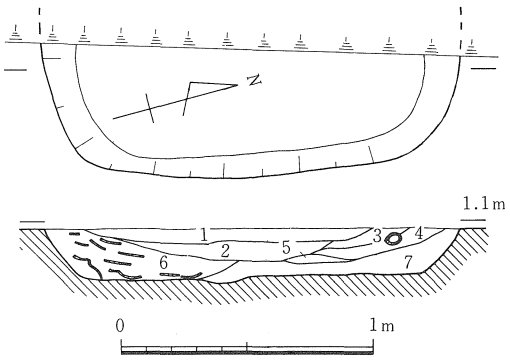
図77　土壙－69　出土遺物(3)　縮尺 1/4

土壙－71（図78・79）

ＡＸ31区に位置し，西半分を側溝に削られる。平面形は長軸167㎝の長楕円形を呈す。底面は検出面下20㎝・標高88㎝を測る。

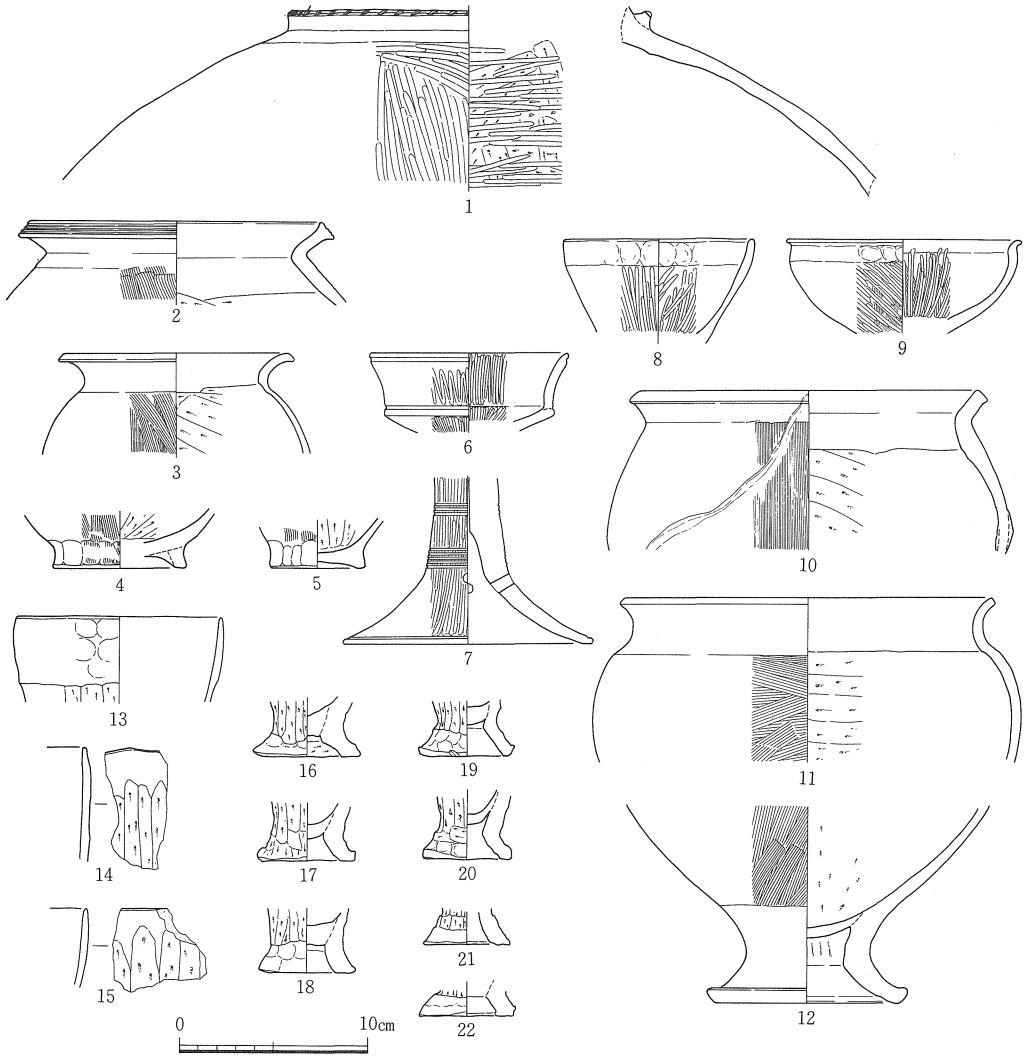
１層は，製塩土器のみを多量（重量3872ｇ）に集積する。２層は，多量の炭・焼土・花崗岩砕石粗砂を含む。粗砂は製塩土器を多く含む土壙によく含まれ，３層中にも製塩土器を伴って認められる。上半に炭・下半に焼土が集中する傾向が強い。６層では製塩土器以外の遺物が出土する。

以上の状況から，本土壙が土器製塩に深い関わりを持つ土壙であることは確実であるが，下層（６層以下）については，他の土壙との切合いも否定しがたい。時期は問題が残るが，全体として鹿田・後・２期と考えたい。



1　製塩土器層
2　黒褐色粘質土（炭化物・焼土・粗砂多含）
3　暗褐色砂質土（〃・製塩土器・粗砂含）
4　黄褐色〃（〃・焼土含）
5　暗褐色〃（〃・〃・細礫多含）
6　灰褐色〃（〃・〃・土器多含）
7　灰褐色土（〃・〃含）

図78　土壙－71　縮尺 1/30



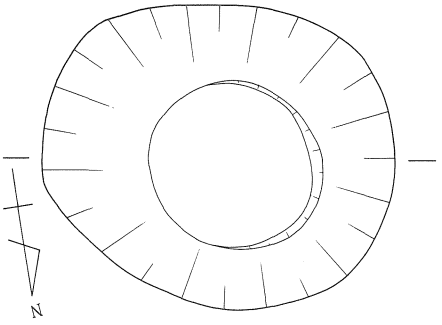
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	—	—	—	頸部に刻み目を持つ貼付け凸帯，内面不定方向の篦ケズリ後篦ミガキ	(内)暗褐(外)淡乳黄白	細砂～細礫㉒
2	甕形土器	15.6	—	—	口縁端面凹線３条	淡黄白	微砂
3	〃	12.0	—	—	外面ハケ	(内)灰黒(外)灰褐	微～細砂
4	〃	—	7.1	—	底部外面押圧	黄～赤褐	微砂
5	〃	—	5.0	—	底部外面篦ケズリ後ナデ	黄褐	微～細砂
6	高杯形土器	10.6	—	—	口縁端部・杯受部・口縁部との境に各々沈線１条	淡灰白	微砂
7	〃	—	13.2	—	内面ナデ，外面篦ミガキ，沈線３条と５条が上・下段をなす	赤褐	〃
8	鉢形土器	10.1	—	—	口縁部押圧，他は篦ミガキ（内面はやや疎）	(内)明赤褐(外)乳黄褐	微～細砂
9	〃	12.5	—	—	〃 ・横ナデ，他はハケ後篦ミガキ	淡赤褐	微砂
10	〃	18.0	—	—	厚さ約３㎜の粘土帯が補修のため口縁部から約45°の角度で下方へ貼付け	(内)黄褐(外)明黄褐	細～粗砂
11	台付鉢形土器	19.5	—	—	外面ハケ，内面篦ケズリ，No12と同一個体の可能性あり	明黄褐	微～細砂㉓
12	〃	—	9.7	—	脚台部内外面ナデ，体部内面篦ケズリ後ナデ，黒斑	黄白～黄褐	〃～〃
13	製塩土器	10.9	—	—	内面ナデ，口縁部外面押圧，体部外面篦ケズリ，２次焼成痕	黄白色，一部赤変	粗砂～細礫㉓
14･15	〃	—	—	—	〃 ，口縁部外面ナデ，〃 ，〃	黄～赤白～黒灰褐	〃～〃〃
16～18	〃	—	5.2	—	No16の脚台部内面とNo17の脚台部外面ケズリ，底径はNo16が5.6cm	黄～赤褐～灰黒	〃～〃〃
19～22	〃	—	4.8	—	内面ナデ，脚台部押圧，外面篦ケズリ，底径は３点の平均値	〃～〃～〃	〃～〃〃

図79　土壙－71　出土遺物　縮尺 1/4

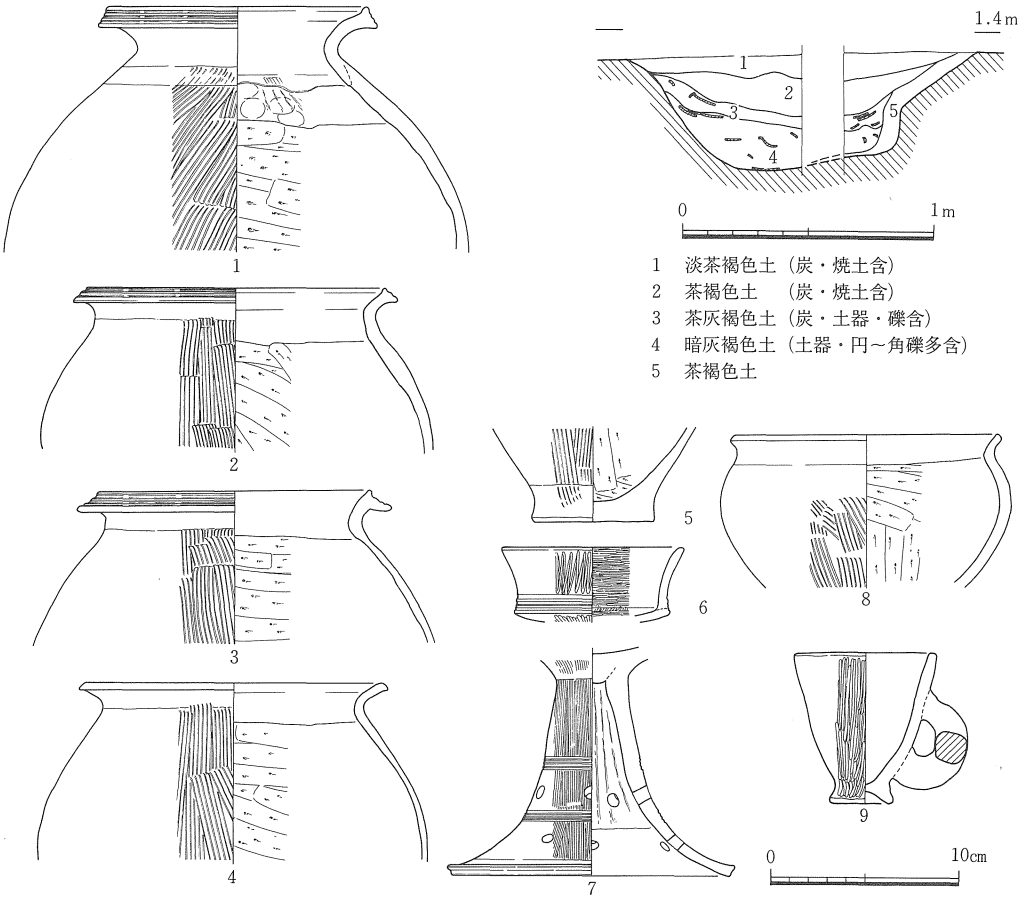
土壙－82（図80，図版56）

ＢＡ32区に位置する長軸150㎝・短軸120㎝の楕円形土壙である。深さは48㎝，底面は標高85㎝を測る。

埋土下半（３・４層）には３～20㎝の礫・土器が多量に集積し下方にその傾向を強める。５層は土壙外となる可能性もある。鹿田・後・２ａ期に比定される。



1　淡茶褐色土（炭・焼土含）
2　茶褐色土　（炭・焼土含）
3　茶灰褐色土（炭・土器・礫含）
4　暗灰褐色土（土器・円～角礫多含）
5　茶褐色土

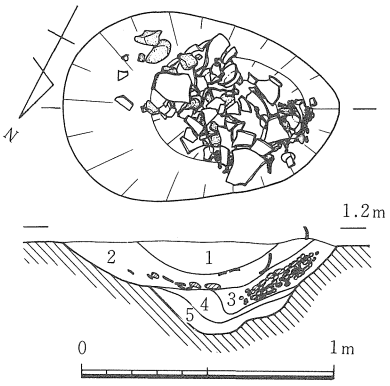


遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	13.8	－	－	口縁端面凹線３条，体部外面幅広のハケ	淡黄白	細砂～細礫②
2	甕形土器	15.9	－	－	〃　〃 2条，　〃　，外面煤付着	淡黄灰	〃～〃〃
3	〃	14.5	－	－	体部外面幅広のハケ，外面煤付着，口縁部は14.5×14㎝の楕円形	暗灰褐	微～細砂，金雲母
4	〃	15.9	－	－	〃　，内面篦ケズリ	黄褐	細砂
5	〃	－	6.5	－	〃　，〃　，底部外面未調整，外面煤付着	暗灰褐	微～細砂
6	高杯形土器	9.6	－	－	内外面篦ミガキ，口縁部下端に沈線４条	淡黄灰	〃～〃
7	〃	－	14.8	－	杯部内面ハケ，沈線４本づつ２段，円孔上段４個・下段５個	明赤褐	微砂，精良
8	鉢形土器	14.2	－	－	外面幅広のハケ，内面篦ケズリ・下半は後軽いナデ，口縁部横ナデ，黒斑	淡黄灰	微～細砂
9	カップ形土器	7.4	3.3	8.0	外面篦ミガキ，把手部は隅丸方形の断面形を呈し，ナデ調整が施される	淡乳黄灰	微砂，精良

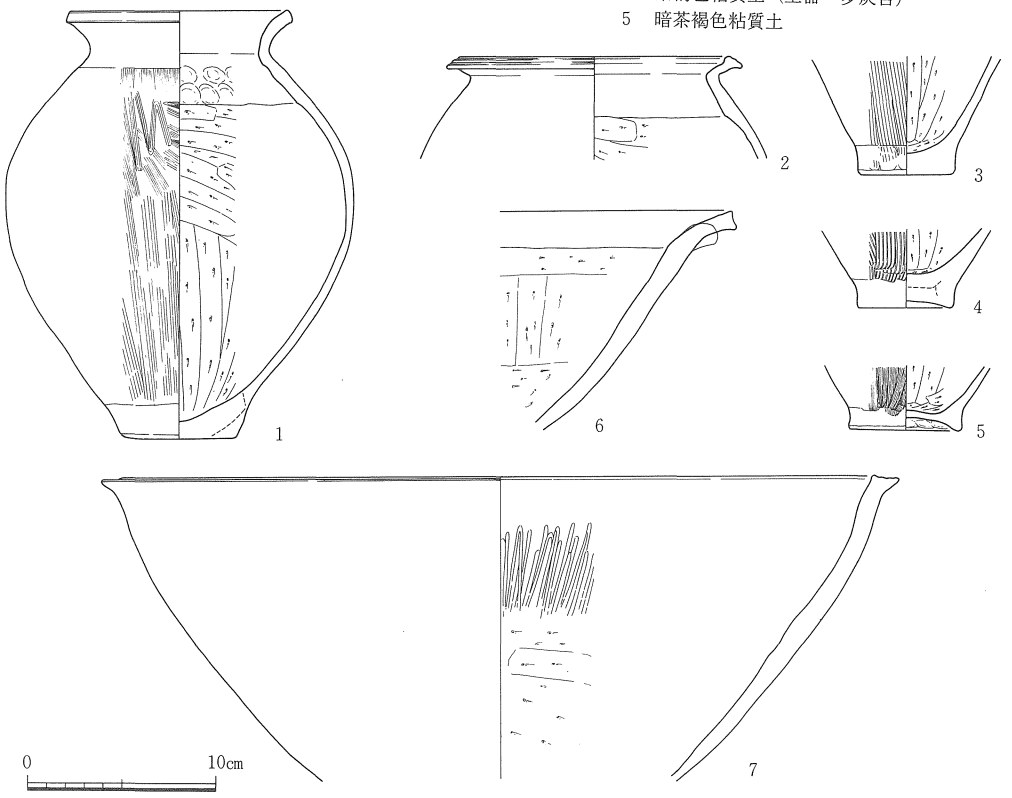
図80　土壙－82，出土遺物　縮尺 1/30，1/4

土壙－87（図81）

ＢＢ29区に位置する。平面形は長軸116cm・短軸75cmの楕円形を呈す。底面は検出面下35cm・標高78cmを測り，凹凸をもつ。埋土中には多量の炭化物・径１～５cmの円礫・土器を含む。炭化物は特に４層に集中する。円礫は２・３層において遺物を伴って南西方向から廃棄された状況が顕著に観察される。時期は鉢の口縁部・甕の底部等に古い様相が看守される。鹿田・後・２ａ期に比定される。

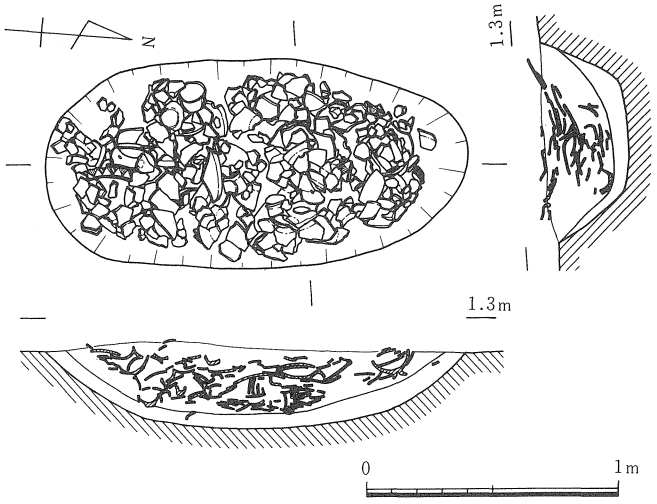


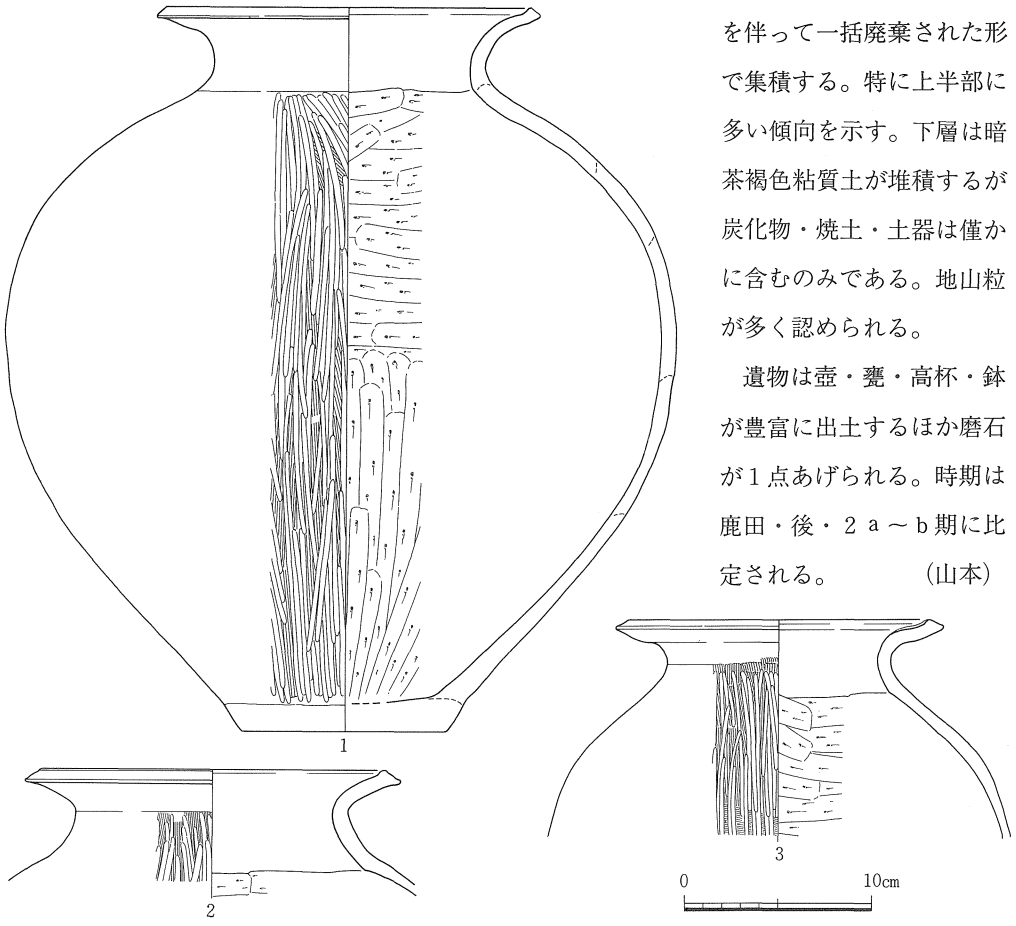
1　黄褐色砂質土
2　暗灰色砂質土（炭・焼土・土器・円礫含）
3　茶褐色土　　（土器・円礫多含）
4　茶褐色粘質土（土器・多炭含）
5　暗茶褐色粘質土



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	11.6	6.1	22.7	内面頸部下押圧，外面細く浅いハケ（肩部は波状），黒斑	(内)暗灰褐(外)灰褐	微～細砂
2	〃	14.4	－	－	口縁端面凹線２条消失気味，内面頸部下～外面ナデ	淡黄褐	細砂◎
3	〃	－	5.1	－	底部外面篦ケズリ後ナデ・押圧，外面・内面底部周辺煤付着	(内)黄褐(外)暗褐	〃 〃
4	〃	－	5.0	－	底部外面ナデ，内面篦ケズリ，外面幅広のハケ，外面煤付着	淡黄褐	〃 〃
5	〃	－	6.0	－	底部外面押圧，　〃　，外面細いハケ，　〃	(内)黄灰(外)黒褐	〃 〃
6	鉢形土器	－	－	－	口縁部横ナデ，内面篦ケズリ，外面横位篦ミガキ，片口部あり	灰褐	微砂
7	〃	42.3	－	－	口縁端面凹線３条，外面磨滅で不明，内面上半篦ミガキ・下半ケズリ痕	(内)明赤褐(外)淡黄灰	粗砂◎

図81　土壙－87，出土遺物　縮尺 1/30，1/4



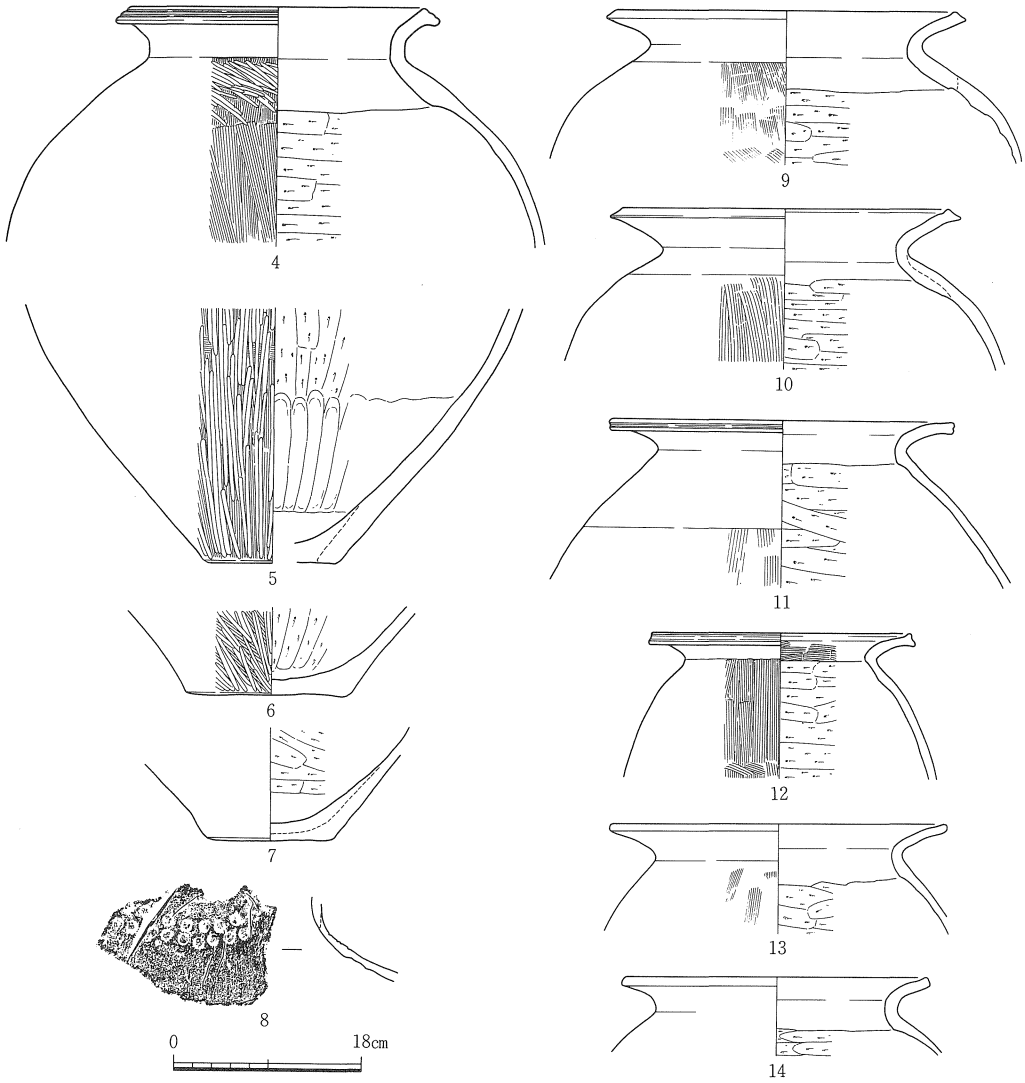


土壙－96（図82～85，図版13-1・52・55・56）

ＢＤ32区に位置する。長軸167cm・短軸82cmを測り，南北に軸をもち長楕円形を呈す。断面形は長軸方向で浅い皿状・短軸方向で逆台形となる。底面は深さ31cm・標高85cmを測る。埋土は上・下に分層でき，上層の暗灰褐色粘質土中には多量の土器が炭化物・焼土を伴って一括廃棄された形で集積する。特に上半部に多い傾向を示す。下層は暗茶褐色粘質土が堆積するが炭化物・焼土・土器は僅かに含むのみである。地山粒が多く認められる。

遺物は壺・甕・高杯・鉢が豊富に出土するほか磨石が1点あげられる。時期は鹿田・後・２ａ～ｂ期に比定される。（山本）

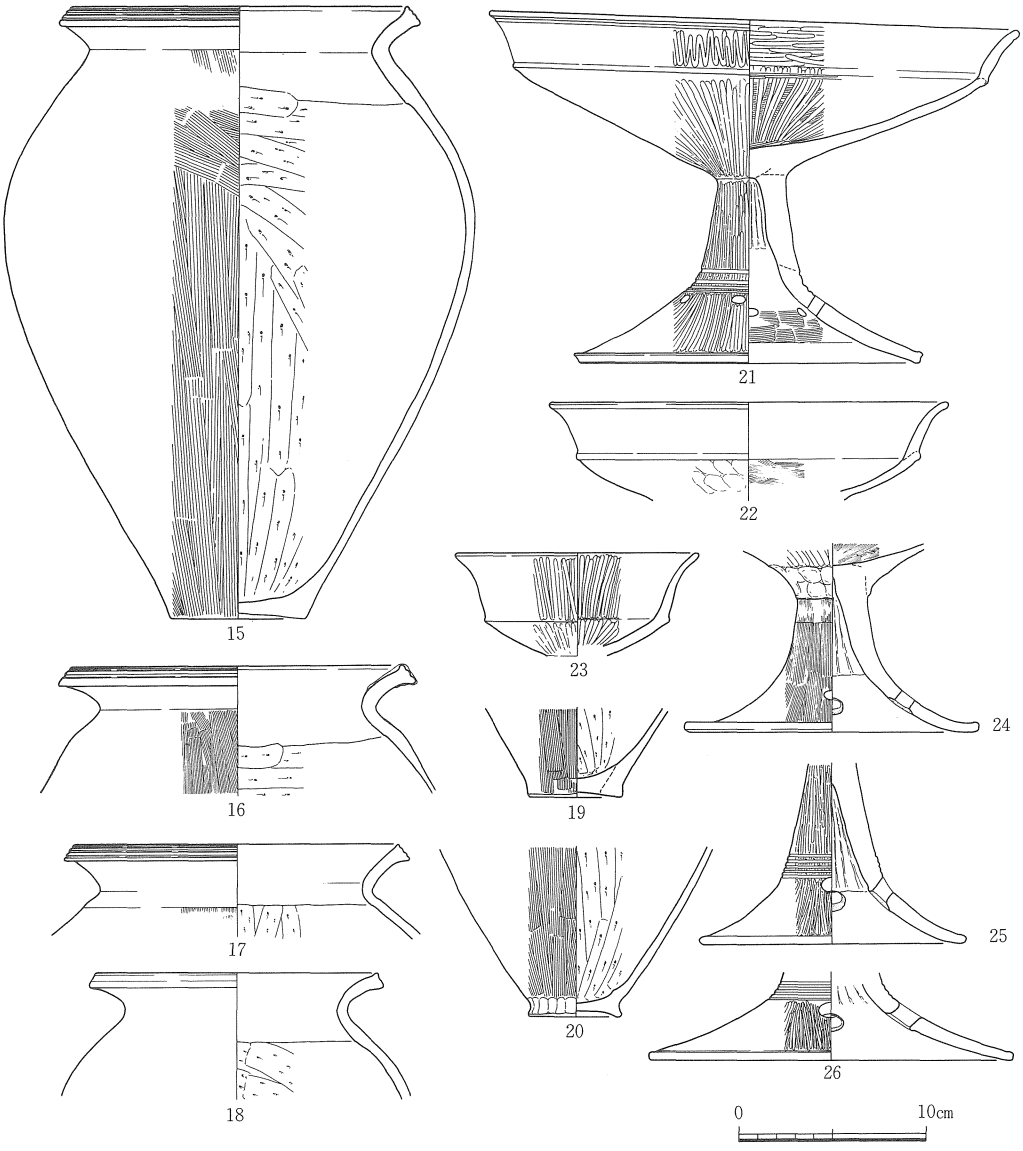
図82　土壙－96，出土遺物(1)　縮尺 1/30，1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	19.3	10.8	38.4	底部外面ナデ，外面ハケ後篦ミガキ	淡黄灰	微砂㉔
2	〃	18.2	—	—	外面ハケ後篦ミガキ	淡黄褐～淡灰褐	微～細砂㉓
3	〃	16.0	—	—	口縁部内面に補修用の粘土帯１ケ所，口縁は16.0×16.5cmの楕円形	(内)淡黄褐(外)淡赤褐	〃～〃〃

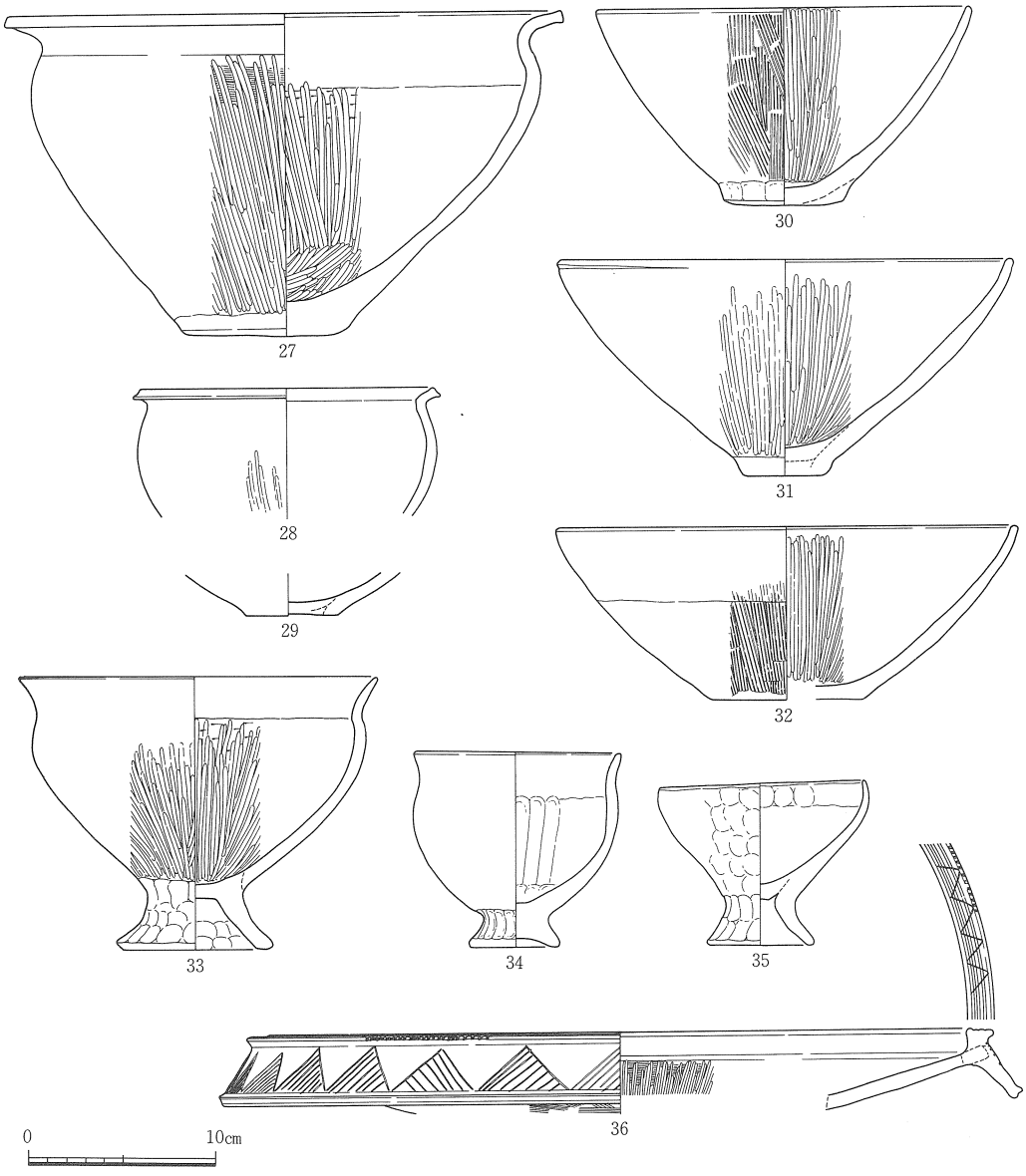
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
4	壺形土器	15.6	—	—	体部外面ハケ後肩部に篦ミガキ，黒斑，口縁は15.5×16cmの楕円形	(内)淡黄灰(外)明黄褐	細砂
5	〃	—	7.2	—	外面ハケ後篦ミガキ，底部内外面ナデ	暗褐	〃
6	〃	—	8.8	—	〃，底部外面篦ケズリ後ナデ	暗灰褐	〃
7	〃	—	6.7	—	外面ナデ，底部内面ナデ，底部外面未調整，黒斑	明赤褐	〃
8	〃	—	—	—	内面ナデ，外面細い縦位のハケ，肩部に竹管文が２段	明褐～黄褐	〃
9	甕形土器	18.0	—	—	外面ハケ（不鮮明），内面篦ケズリ	明茶褐	〃
10	〃	17.3	—	—	外面浅いハケ，内面篦ケズリ，口縁は18×17.2cmの楕円形	明褐	微～細砂
11	〃	18.1	—	—	外面下半磨滅で不鮮明だがハケ少し残存，口縁は18.5×20cmの楕円形	明黄褐	微砂
12	〃	13.7	—	—	体部外面・口縁部内面下半ハケ，口縁は13.9×13.5cmの楕円形	淡黄褐	細砂
13	〃	17.7	—	—	外面ハケ少し残存（磨滅で不鮮明）	赤褐	〃
14	〃	16.0	—	—	外面横ナデ・煤付着	明茶褐	微～細砂

図83　土壙－96　出土遺物(2)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
15	甕形土器	17.8	7.1	32.5	口縁端面凹線3条，体部外面ハケ，底部外面篦ケズリ，煤	明赤褐～淡灰褐	微砂
16	〃	17.6	—	—	凹線2条，口縁に補修用の粘土貼付け1ケ所・17.9×17.2cmの楕円形	(内)赤褐(外)淡赤褐	〃
17	〃	17.1	—	—	〃 3条，体部外面細いハケ（磨滅で不鮮明）	明茶褐	微～細砂
18	〃	14.9	—	—	体部外面磨滅で不明	明赤褐～明褐	〃～〃
19	〃	—	5.0	—	底部外面細く浅いハケ，外面煤付着多量	黄褐	微砂
20	〃	—	4.9	—	底部外面篦ケズリ後ナデ，外面煤付着多量	(内)黄白(外)灰褐	細砂
21	高杯形土器	27.8	18.0	18.7	杯受部内面ハケ後篦ミガキ，円孔は6個，沈線4条	明赤褐	微～細砂
22	〃	20.8	—	—	杯受部内面ハケ・外面ナデと押圧，口縁部横ナデ	淡赤白～淡黄灰	細砂
23	〃	12.7	—	—	内外面篦ミガキ	淡黄褐	微～細砂
24	〃	—	15.6	—	杯部外面篦ミガキ，杯部と脚部の境外面押圧，台付鉢の可能性有り	黄褐	微砂
25	〃	—	14.1	—	外面篦ミガキ，内面上半しぼり目・下半ナデ，沈線5条	(内)明黄褐(外)黄白	〃 ㉕
26	〃	—	18.3	—	外面ハケ後篦ミガキ，内面上半しぼり目・下半ナデ，沈線4条	(内)灰褐(外)明褐	細砂

図84　土壙－96　出土遺物(3)　縮尺 1/4

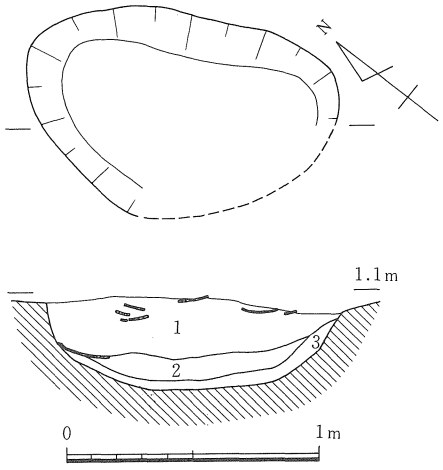


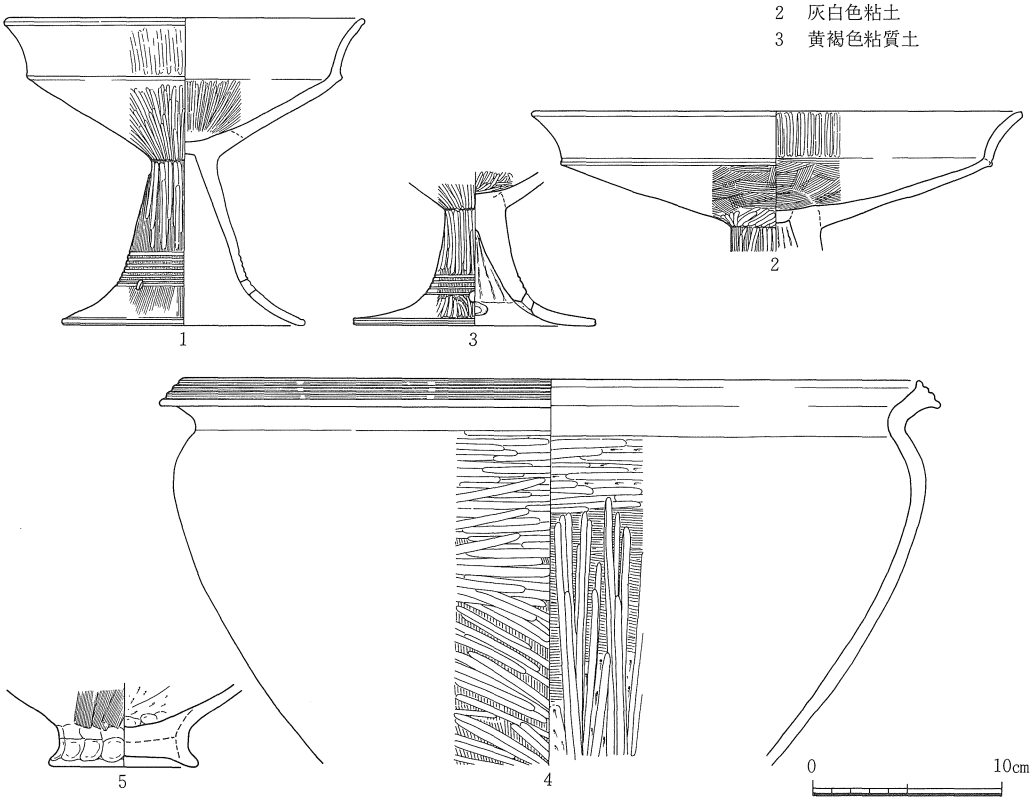
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
27	鉢形土器	29.3	8.8	17.2	底部外面篦ケズリ，体部外面ハケ後篦ミガキ・内面篦ケズリ後篦ミガキ	(内)黄褐(外)淡赤褐	細砂
28	〃	15.5	—	—	全面磨滅で不明，体部外面に一部ミガキ痕，黒斑	(内)暗黄褐(外)明赤褐	微～細砂㋐
29	〃	—	5.0	—	〃	明黄褐	〃～〃，〃〃
30	〃	19.7	6.3	10.5	外面ハケ，内面篦ミガキ，底部ナデ・押圧	淡黄灰(一部)灰黒	微砂
31	〃	24.0	4.4	11.5	内外面篦ミガキ，底部ナデ，黒斑	明赤褐	細砂
32	〃	24.2	8.0	9.2	外面ハケ後上半横ナデ，内面篦ミガキ，底部ナデ	(内)灰褐(外)黄灰	微～細砂
33	台付鉢形土器	18.9	8.3	14.6	脚台部押圧，体部内面篦ケズリ後篦ミガキ・外面篦ミガキ	淡黄褐～淡黄灰	〃～〃㋑
34	〃	10.8	4.8	10.4	口縁部横ナデ，体部外面丁寧なナデ，体部内面と脚台部押圧・ナデ	淡黄灰～明赤褐	〃～〃
35	〃	10.8	5.7	8.6	内外面押圧・ナデ，口縁は11.4×12cmの楕円形	(鉢)淡赤褐(台)黄白	細～粗砂㋒
36	器台形土器	38.1	—	—	凹線3条・鋸歯文4個単位1ケ所・端部に刻み25個以上1ケ所	淡黄褐～明褐	〃～〃

図85　土壙－96　出土遺物(4)　縮尺 1/4

土壙－105（図86・87）

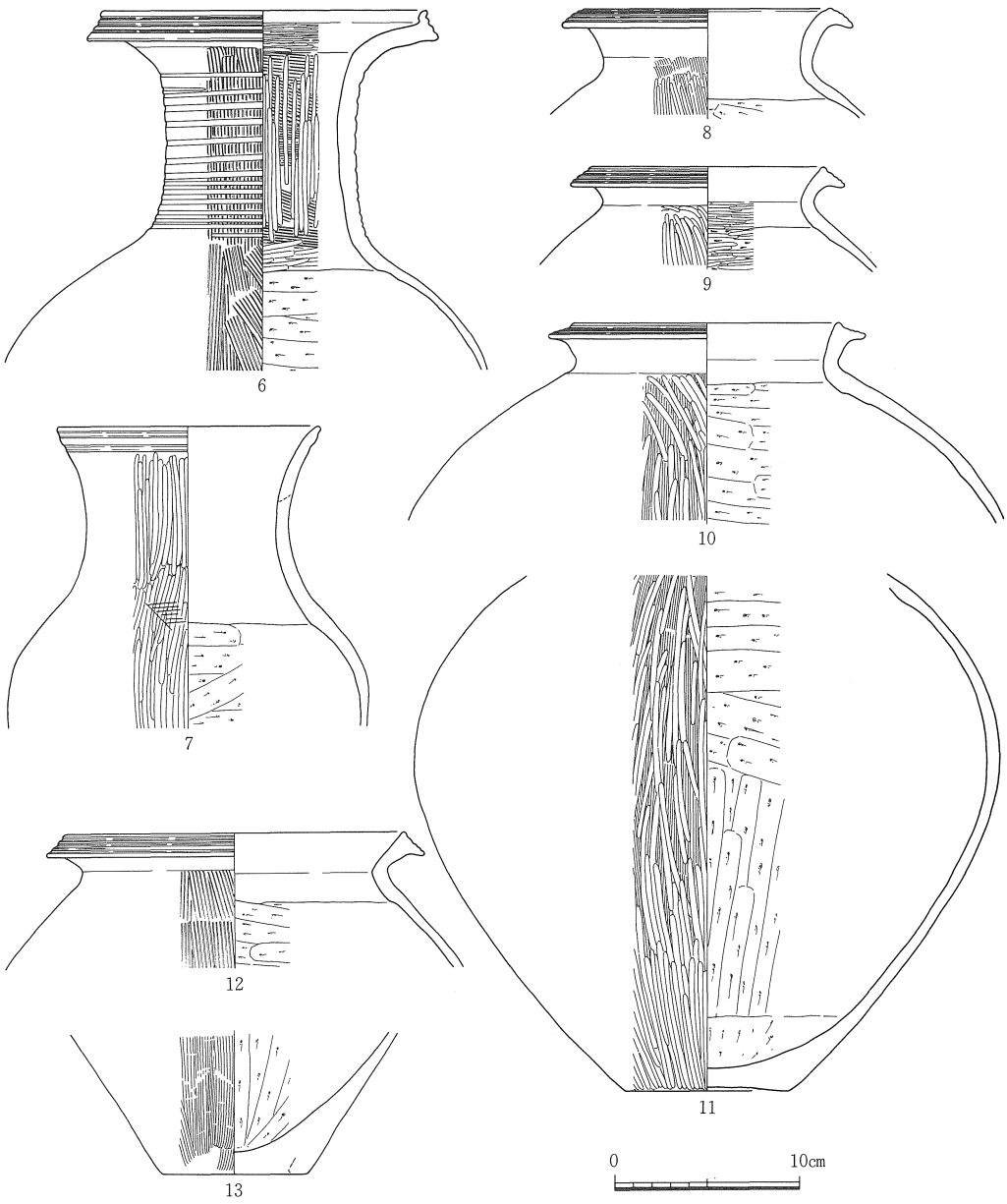
ＡＹ33区西南部に位置する。西南部分は未確認であるが，平面形は長径が約130㎝，短径が85㎝前後の長軸をほぼ南北方向に向ける不整楕円形を呈するものとみられる。掘り方は底から壁下半にかけて緩やかに立ち上がり，壁面上半はやや急な傾斜を示している。検出面から底面最深部までの深さは36㎝を測る。遺物は主に１層中より出土しており，２層は灰白色粘土が堆積している。本遺構は出土土器より鹿田・後・２ａ期に属する。





遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	高杯形土器	18.9	12.8	16.3	脚部外面ハケ後篦ミガキ，内面ナデ，脚部の沈線は７条，円孔は３個	淡黄褐	微砂
2	〃	25.9	－	－	杯部篦ミガキ，脚部外面ハケ後篦ミガキ，円孔４個	淡黄褐～淡黄灰	〃
3	〃	－	12.8	－	脚部外面ハケ後篦ミガキ，内面絞り目，杯部外面下端ハケ後篦ミガキ㊙	淡灰白～赤褐	〃 ㊙
4	鉢形土器	39.0	－	－	口縁端面凹線３条，体部内面篦ケズリ後ハケ後篦ミガキ	淡黄褐	細砂
5	台付鉢形土器	－	7.9	－	底部中央は平行篦ケズリ，体部外面浅いハケ，台付壺の可能性もあり	〃	〃

図86　土壙－105，出土遺物(1)　縮尺 1/30，1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
6	壺形土器	17.5	—	—	口縁端面凹線3条，頸部内面ハケ後篦ミガキ	淡黄褐～黄白	粗砂
7	〃	14.0	—	—	口縁部外面凹線2条，頸部内面横ナデ，肩部外面に線刻文	淡黄灰	微～細砂，金雲母
8	〃	13.3	—	—	口縁端面凹線4条，体部外面ハケ後篦ミガキ	淡乳白	細砂
9	〃	12.4	—	—	〃，体部内面篦ケズリ後篦ミガキ	淡黄褐	微～細砂
10	〃	14.3	—	—	〃，体部外面ハケ後篦ミガキ	(内)淡黄灰(外)淡赤灰	〃～〃
11	〃	—	8.8	—	外面ハケ後篦ミガキ，内面篦ケズリ，黒斑	淡灰褐	〃～〃
12	甕形土器	18.3	—	—	口縁端面凹線3～4条，外面幅広のハケ	淡黄褐	微砂
13	〃	—	7.9	—	内面篦ケズリ，外面ハケ，底部外面ナデ	暗灰褐	微～細砂

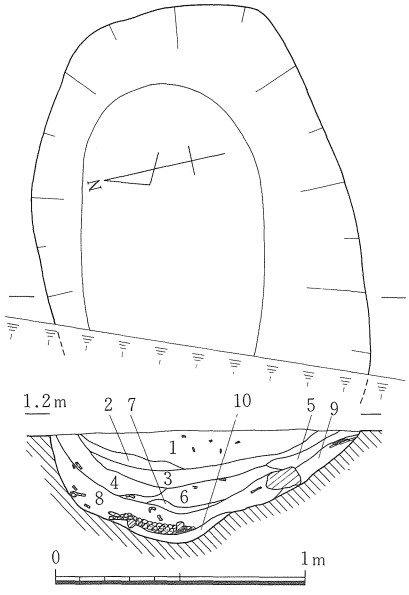
図87　土壙－105　出土遺物(2)　縮尺 1/4

土壙－109（図88・89，図版77-2）

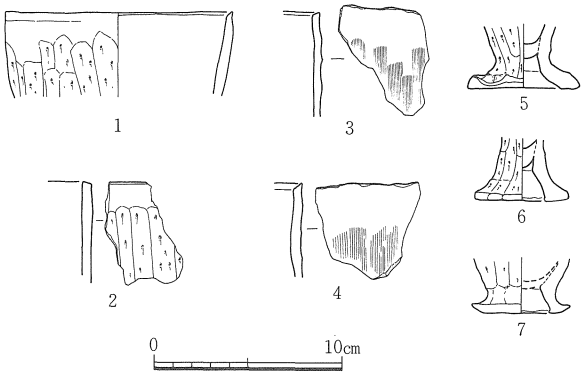
ＡＺ33区の北西部に位置する。西端部は後世の攪乱による削平を受け旧状を留めない。平面形は長軸残存150㎝・短軸127㎝を測る楕円形が想定される。掘り方は南側では緩やかな線を描くのに対し，北側では急峻な立上がりを見せる。底面は検出面下44㎝・標高69㎝である。

埋土は包含物の状況から上・下に二分割される。注目されるのは５～８層の状況で，多量の炭・焼土・円礫・製塩土器・粘土が堆積し，本土壙の性格を特徴づけている。最も包含物の多い８層では円礫が多量の製塩土器を伴って下面に集積する。その上には粘土層（７層），続いて８層類似の６層が厚く覆う。また，焼土層（５層）も上層に認められる。以上の状況から，本土壙は土器製塩に関わる何らかの行為の所産である可能性を示すと考えられる。遺物は総重量3244ｇの製塩土器および壺・高杯等がある。時期は鹿田・後・２ａ期に比定される。

また，混入遺物ではあるが，弥生前期の壺の小破片が３点出土している（図版77－２）。同一個体とみられ，肩部に沈線２条が施される。明茶褐色の色調を示し，１部に黒斑が見える。胎土は細砂である。

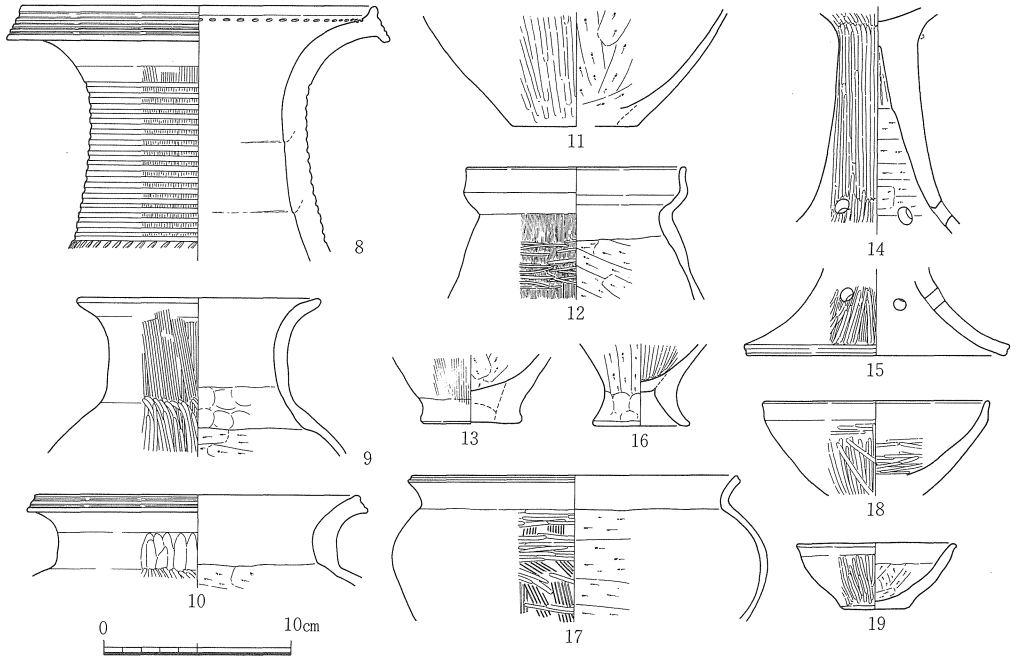


1　暗灰褐色土　（炭・焼土多含・粗砂含）
2　暗灰褐色土　（炭・焼土多含）
3　茶褐色細砂粘質土（炭・粘土粒多含）
4　灰褐色粘質土　（炭・焼土・土器含）
5　茶褐色微砂粘質土（焼土・炭多含）
6　暗灰褐色粘質土
　（炭多含・焼土・製塩土器含）
7　暗灰褐色粘土　（粘土粒～塊多含）
8　暗灰褐色粘質土
　（炭・焼土・円礫・製塩土器多含）
9　茶褐色土　（炭・焼土・製塩土器含）
10　暗灰色粘質土　（炭・地山粒含）



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	製塩土器	12.1	－	－	外面篦ケズリ，内面縦位のナデ，２次焼成痕	内暗赤褐外明赤白	粗砂～細礫◎
2	〃	－	－	－	〃　，内面ナデ，２次焼成痕	黄灰褐～暗赤褐	〃～〃〃
3	〃	－	－	－	外面工具使用ナデ，口縁端面は切り取り面あり，２次焼成痕	〃～〃	〃～〃〃
4	〃	－	－	－	〃　，〃　，〃	〃～〃	〃～〃〃
5	〃	－	6.0	－	内面ナデ，外面篦ケズリ，２次焼成痕	灰褐～灰黒	細礫◎
6	〃	－	5.0	－	〃　，〃　，〃	暗赤褐～黄灰褐	〃〃
7	〃	－	5.3	－	〃　，〃　，〃	黒赤～黒褐～黄灰	〃〃

図88　土壙－109，出土遺物(1)　縮尺 1/30，1/4



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
8	壺形土器	18.8	—	—	頸部外面ハケ・沈線16条・下に列点文，口縁部内面竹管文が廻る	内赤褐/外明褐	微～細砂㉟
9	〃	12.7	—	—	頸部外面ハケ，体部外面ハケ後篦ミガキ	淡黄褐～淡灰褐	微砂
10	〃	17.1	—	—	頸部～体部外面篦ミガキ（頸部は幅広），凹線2条はつぶれ気味	灰褐～黄褐	〃
11	〃	—	6.7	—	外面篦ミガキ（不鮮明），底部外面ナデ	内/灰黒/外淡黄灰	〃 ㉗
12	〃	11.5	—	—	体部外面非常に浅く細いハケ後細い篦ミガキ㉞	暗褐～黒灰褐	〃
13	甕形土器	—	5.3	—	体部外面浅いハケ，底部外面ナデ	内明茶褐/外暗褐	細砂
14	高杯形土器	—	—	—	外面篦ミガキ，脚部内面篦ケズリ，杯部内面磨滅で不明，円孔5個	明黄褐	微～細砂㉗
15	〃	—	15.2	—	外面ハケ後篦ミガキ（上半は不鮮明），内面ナデ，円孔5個，黒斑	〃	〃～〃
16	台付鉢形土器	—	5.1	—	杯部内面篦ミガキ・外面篦ケズリ，脚部ナデ・押圧	淡黄褐	微砂
17	鉢形土器	17.2	—	—	外面ハケ後篦ミガキ，内面篦ケズリ	内淡乳白/外淡黄褐	細砂
18	〃	11.8	—	—	体部内外面篦ミガキ	淡黄灰白	微砂
19	〃	8.5	3.5	—	底部外面篦ケズリ	灰褐	〃

図89　土壙－109　出土遺物(2)　縮尺 1/4

土壙－118（図90～92，図版52・54）

ＢＢ・ＢＣ33区に位置する。土壙中央部を柱穴によって深く切られる。平面形は長軸152cm・短軸105cmの不整楕円形を呈す。底面は検出面下15cm・標高100cmを測り，広い平坦面をもつ。埋土は茶褐色土の単一土層で焼土を含む。遺物は西側から北東側に向って流入した状態で検出されている。比較的大形破片が個体別に集中して出土しており，廃棄時には完形に近いものであったことが予想される。壺・甕・高杯がある。時期は，鹿田・後・2ａ期に比定される。（山本）

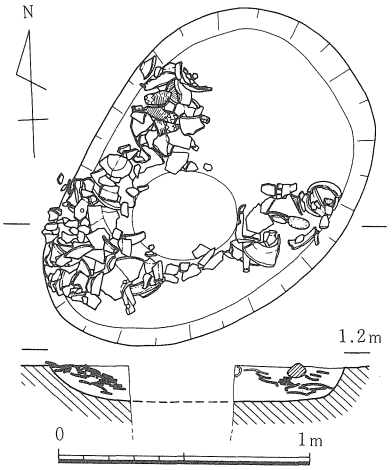
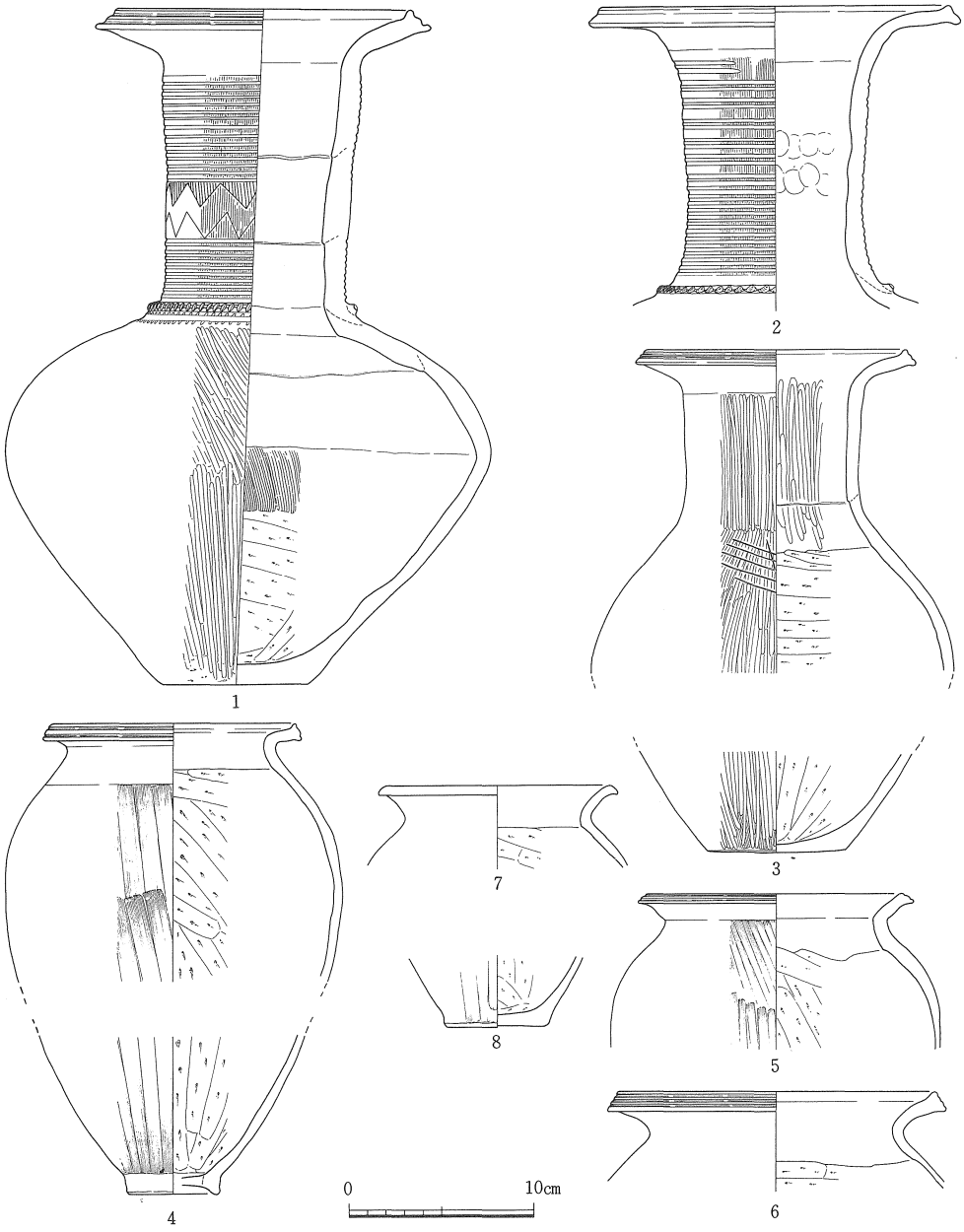
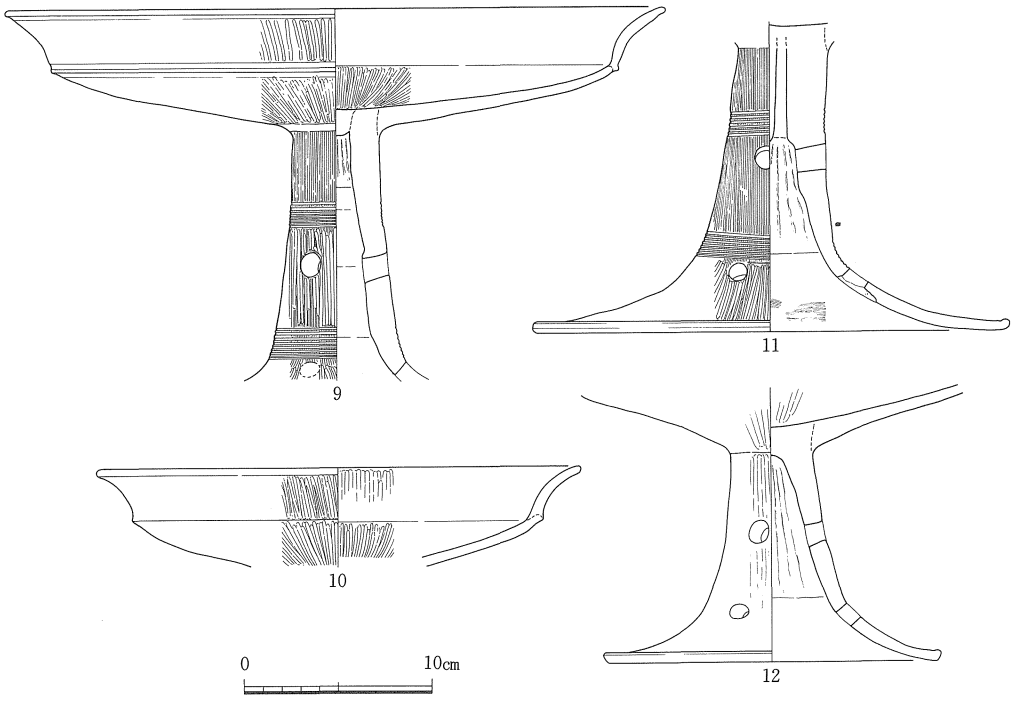


図90　土壙－118　縮尺 1/30



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	15.8	7.8	46.8	頸部沈線2本単位・下段の鋸歯文内に斜線無し，黒斑対角線上に2ケ所	明黄褐	微～細砂，細礫②
2	〃	18.6	—	—	〃 ，頸部外面非常に細く浅いハケ	明黄褐～淡黄灰	微砂
3	〃	14.0	7.4	—	肩部線刻文1ケ所	(内)暗灰褐(外)黄灰	〃
4	甕形土器	13.2	5.0	—	凹線2条，体部外面工具使用ナデ，底部押圧・ナデ，黒斑，煤	明褐	粗砂～細礫③
5	〃	13.7	—	—	細い凹線2条，外面幅の狭い工具使用ナデ，外面煤付着	(内)暗黄褐(外)淡茶褐	微砂
6	〃	17.1	—	—	凹線3条，外面煤付着	(内)淡黄褐(外)淡灰褐	微～細砂
7	〃	12.0	—	—	外面ナデ	淡黄褐	微砂，精良
8	〃	—	5.2	—	外面工具使用ナデ，内面・底部外面篦ケズリ，外面黒斑・煤付着	(内)黒灰(外)黄褐	〃 ，細礫②

図91　土壙－118　出土遺物(1)　縮尺 1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
9	高杯形土器	34.5	—	—	脚柱部内面横位篦ケズリ，円孔上下段共3個	淡乳赤褐～黄褐	微～細砂㊎
10	〃	25.5	—	—	口縁部内面磨滅で不鮮明だが篦ミガキの可能性もあり	淡黄白	微砂
11	〃	—	24.8	—	端部に沈線1条，内面下半ハケ後ナデ，円孔は上下3個づつ	淡乳褐～明黄褐	微～細砂㊎
12	〃	—	17.1	—	脚部内面上半しぼり目，下半ナデ，他は篦ミガキ，円孔上下3個づつ	明赤褐	微砂㊎，精良

図92　土壙－118　出土遺物(2)　縮尺 1/4

土壙－147（図93～95，図版53）

ＡＹ33・34区の北側に位置する。平面形は長径が約175cm，短径が約120cmの長軸を東西方向にとる楕円形を呈す。底はほぼ平坦であり，壁は緩やかに立ち上がっている。底は検出面から約33cmを測る。埋土は上下２層に分かれ，上層は暗灰色粘質土であり，土器の他に炭，焼土，径２～５cm前後の礫を多く含んでいる。下層は黄褐色粘質土で，遺物は少ない。本土壙は鹿田・後・２ａ期に属する。

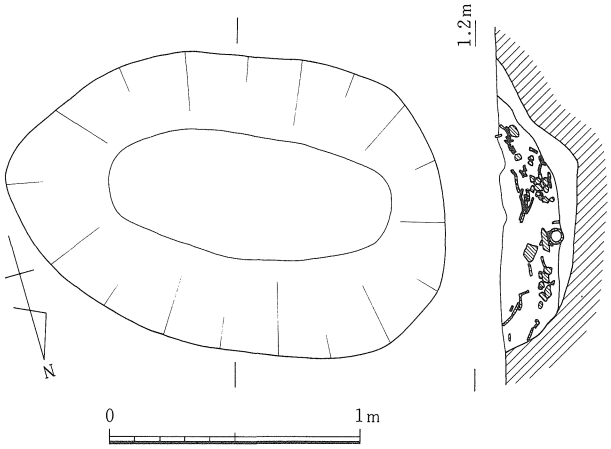
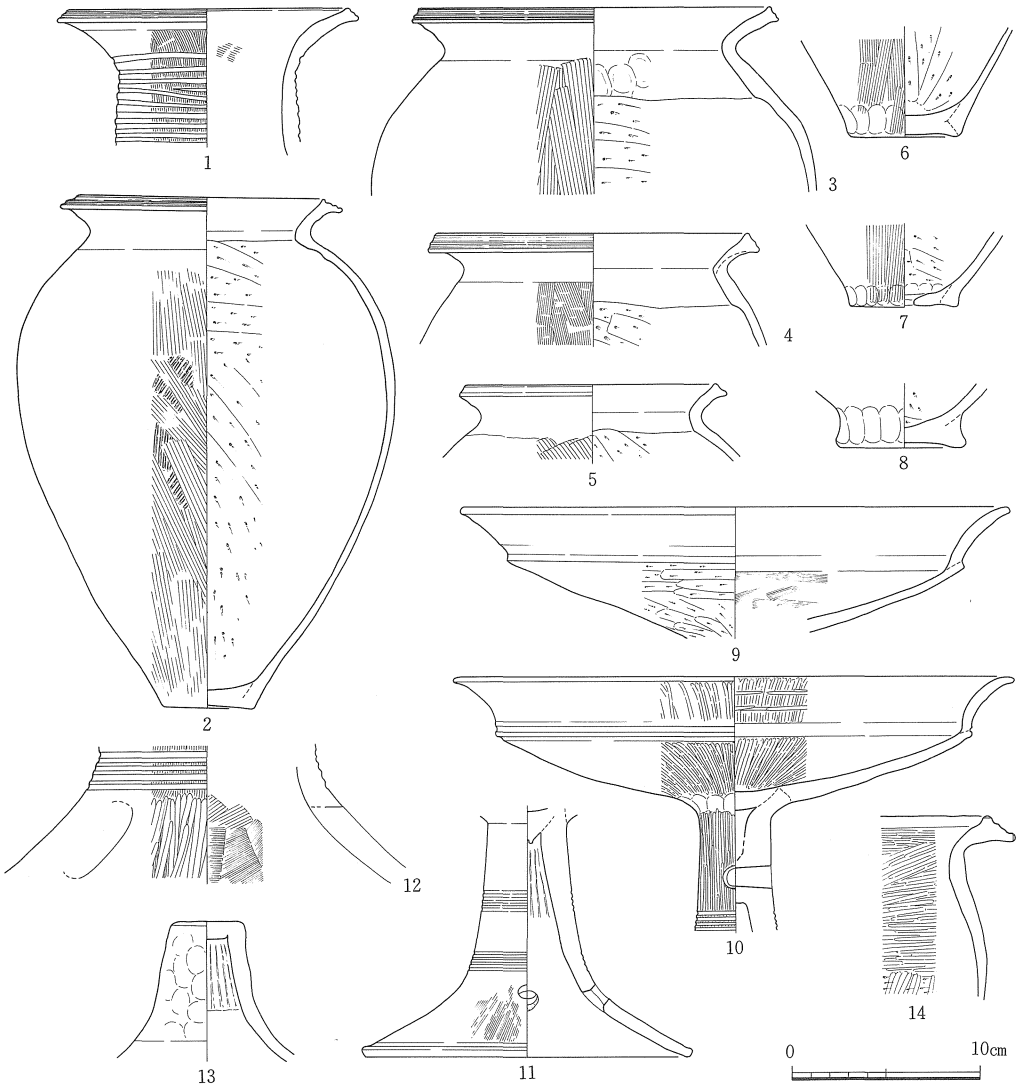
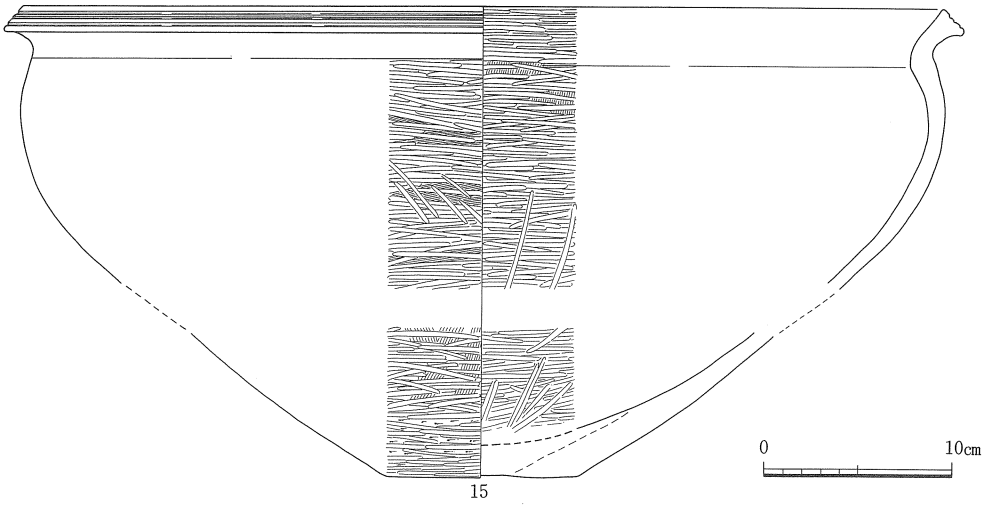


図93　土壙－147　縮尺 1/30



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	15.1	—	—	凹線2条，頸部内面ナデ（一部にハケ残存），外面ハケ	淡黄褐	微～細砂
2	甕形土器	13.1	4.9	27.1	凹線3条，外面タタキ後幅広のハケ，底部外面篦ケズリ，外面煤◎，黒斑	淡黄白	細砂◎
3	〃	18.7	—	—	〃，外面浅めのハケ	黄褐	〃 〃
4	〃	16.7	—	—	口縁端面浅い凹線2条	灰黄褐	〃 〃
5	〃	13.3	—	—	外面幅広のハケ	明黄褐	〃 〃
6	〃	—	5.9	—	底部外面ナデ・押圧，外面ハケ，内面篦ケズリ，外面煤付着	暗灰白～黄褐	〃
7	〃	—	5.7	—	〃 ・ 〃，焼成後底部穿孔	灰黄褐	〃
8	〃	—	6.8	—	底部外面篦ケズリ後ナデ，外面押圧，内面篦ケズリ	黄褐	粗砂
9	高杯形土器	29.0	—	—	口縁部内外面横ナデ，受部内面ハケ後横ナデ・外面篦ケズリ，黒斑	灰黄褐	細～粗砂
10	〃	29.7	—	—	口縁部下端に沈線1条，円孔は3個，杯部内外面・脚部外面篦ミガキ	内)赤褐 外)黄褐	微～細砂◎
11	〃	—	17.2	—	全体的に磨滅で不鮮明，黒斑	灰白	細砂◎
12	器台形土器	—	—	—	破片中に透し孔の一部残存（楕円形か）	黄褐	微～細砂◎
13	蓋形土器	—	—	—	内面上半しぼり目，他は押圧・ナデ，黒斑	〃	〃～〃〃
14	鉢形土器	—	—	—	外面下半縦位のハケ・上半横位の篦ミガキ，口縁両端部に刻み目，黒斑	〃	〃～〃〃，細礫

図94　土壙－147　出土遺物(1)　縮尺 1/4

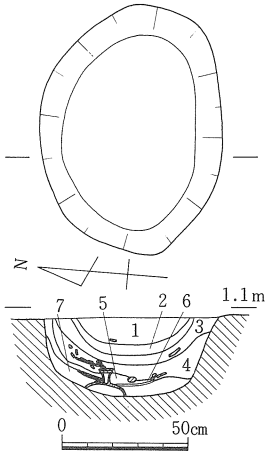


遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
15	鉢形土器	49.0	10.0	—	口縁端面凹線3条，内外面ハケ後篦ミガキ，底部外面篦ケズリ	灰黄褐	微～細砂，細礫㋑

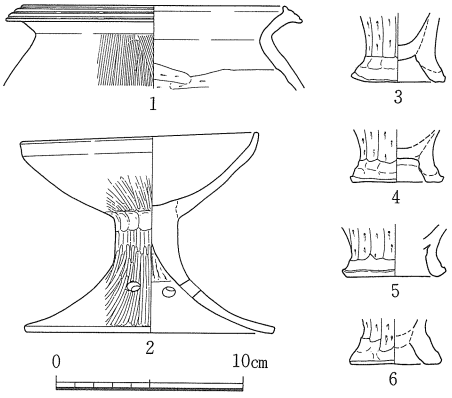
図95　土壙ー147　出土遺物(2)　縮尺 1/4

土壙ー149（図96，図版14-２）

ＡＹ34区東寄りに位置する。平面形は長径約100㎝，短径約75㎝の楕円形を呈し，長軸はほぼ東西方向を向く。底面は中央部に向かって緩く凹み，壁は強い傾斜で立ち上がる。検出面から底までは30㎝を測る。埋土は７層に分かれ，２層以下は中央部に向かって傾斜して堆積している。１層は炭・焼土を多く含み，



1　暗灰褐色粘質土（炭・焼土含）
2　礫
3　暗茶褐色土（炭・焼土多含）
4　灰褐色土（炭・礫含）
5　灰褐色混礫土
6　暗灰黒色土（炭多含）
7　淡黄褐色粘質土

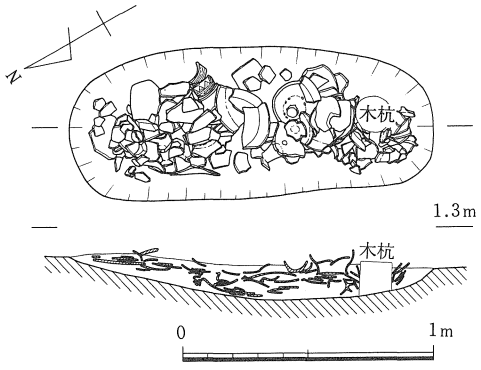


遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	14.0	—	—	口縁端面凹線3条，外面ハケ，内面篦ケズリ	黄灰褐	微砂，粗砂㋑
2	高杯形土器	12.5	13.1	10.4	杯部内面丁寧なナデ，脚内面ナデ，円孔は2個単位3ケ所	明赤褐～淡黄褐	〃
3	製塩土器	—	4.9	—	内面ナデ，体部外面篦ケズリ，脚部外面押圧，2次焼成痕	灰褐～黒褐	細礫㋒
4	〃	—	4.9	—	〃，〃，〃，〃	灰黒～赤～黄白	〃 〃
5	〃	—	5.5	—	〃，〃，〃，〃	淡黄白～淡赤白	〃 〃
6	〃	—	4.8	—	〃，〃，〃，〃	〃	〃 〃

図96　土壙ー149，出土遺物　縮尺 1/30，1/4

2層は径1㎝未満の礫層，3層は炭と焼土の層，4層は黄褐色土のブロックを含み，製塩土器・礫が大量に出土する。5層の礫は径5㎜以下のものが大半である。6層は炭の薄層で，中央部に部分的に認められる。遺物は4層中から大量の製塩土器が出土したほか，底部に倒立した状態で完形の高杯が出土した。本土壙から出土した大量の炭，焼土，礫および製塩土器は一連の製塩活動にともなったものとみられる。本土壙は出土土器から鹿田・後・2a期に属する。

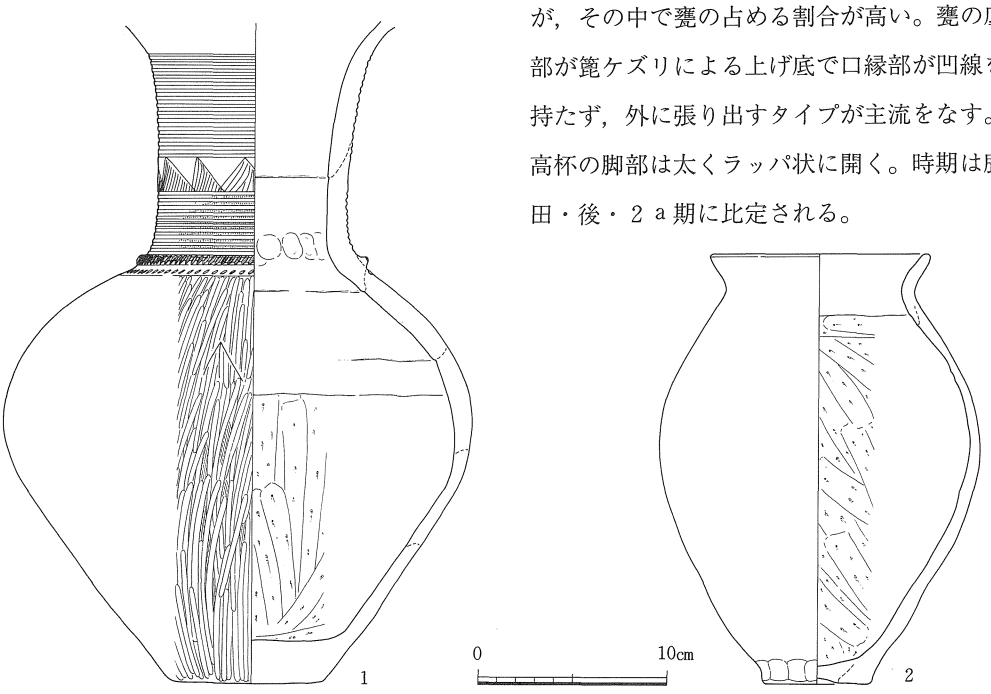
（栄）



土壙ー158（図97～99，図版13-2・53・55・56）

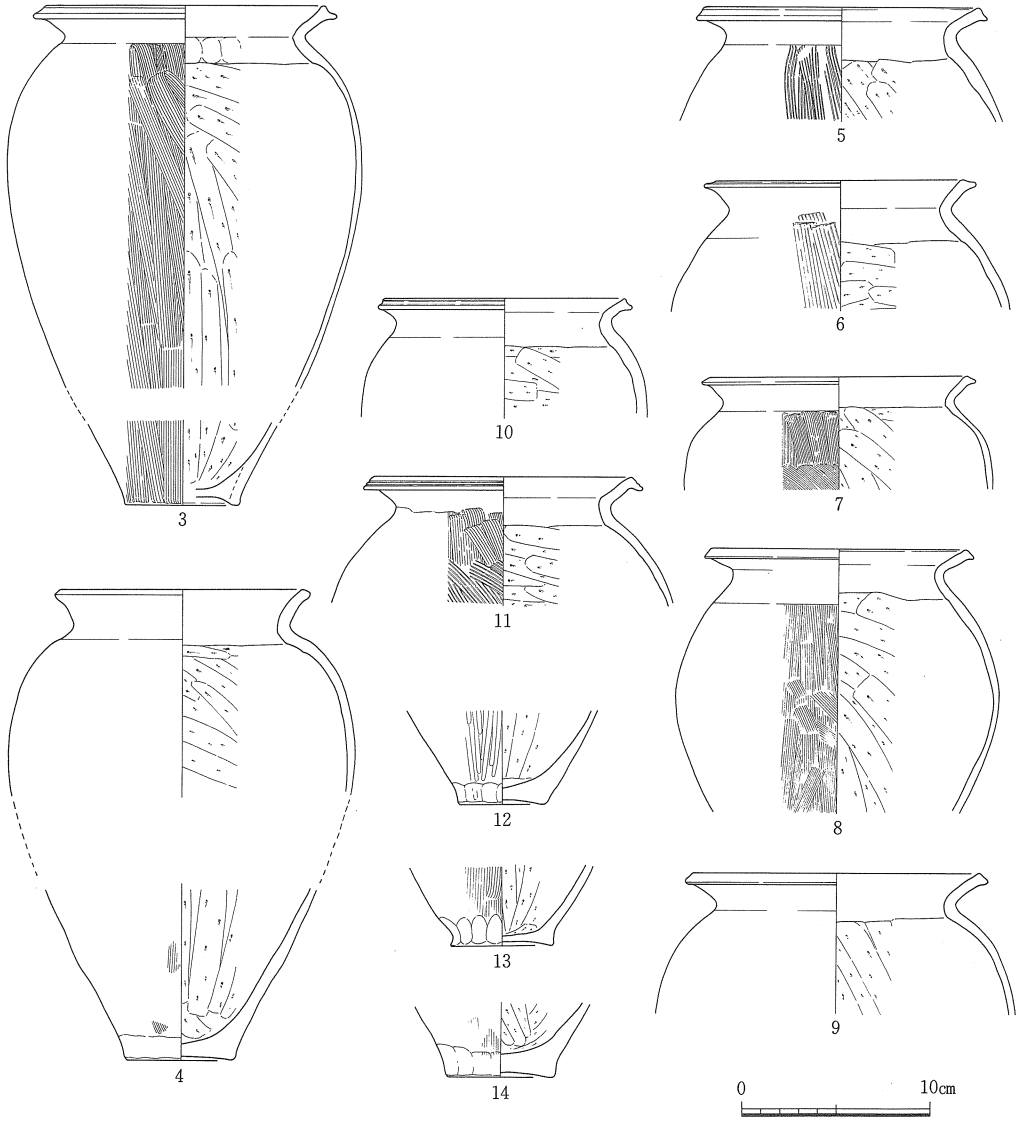
B A 34区に位置する。平面形は長軸145㎝・短軸60㎝の長楕円形を呈し，北東から南西方向に軸をもつ。浅い皿状の掘り方を持ち，底面は検出面下15㎝・標高101㎝を測る。埋土は暗茶褐色粘質土でほぼ単一土層である。包含物は多量の土器のほかに，炭・焼土・灰色粘土粒を含む。

出土遺物は壺・甕・高杯・鉢・蓋等があるが，その中で甕の占める割合が高い。甕の底部が篦ケズリによる上げ底で口縁部が凹線を持たず，外に張り出すタイプが主流をなす。高杯の脚部は太くラッパ状に開く。時期は鹿田・後・2a期に比定される。



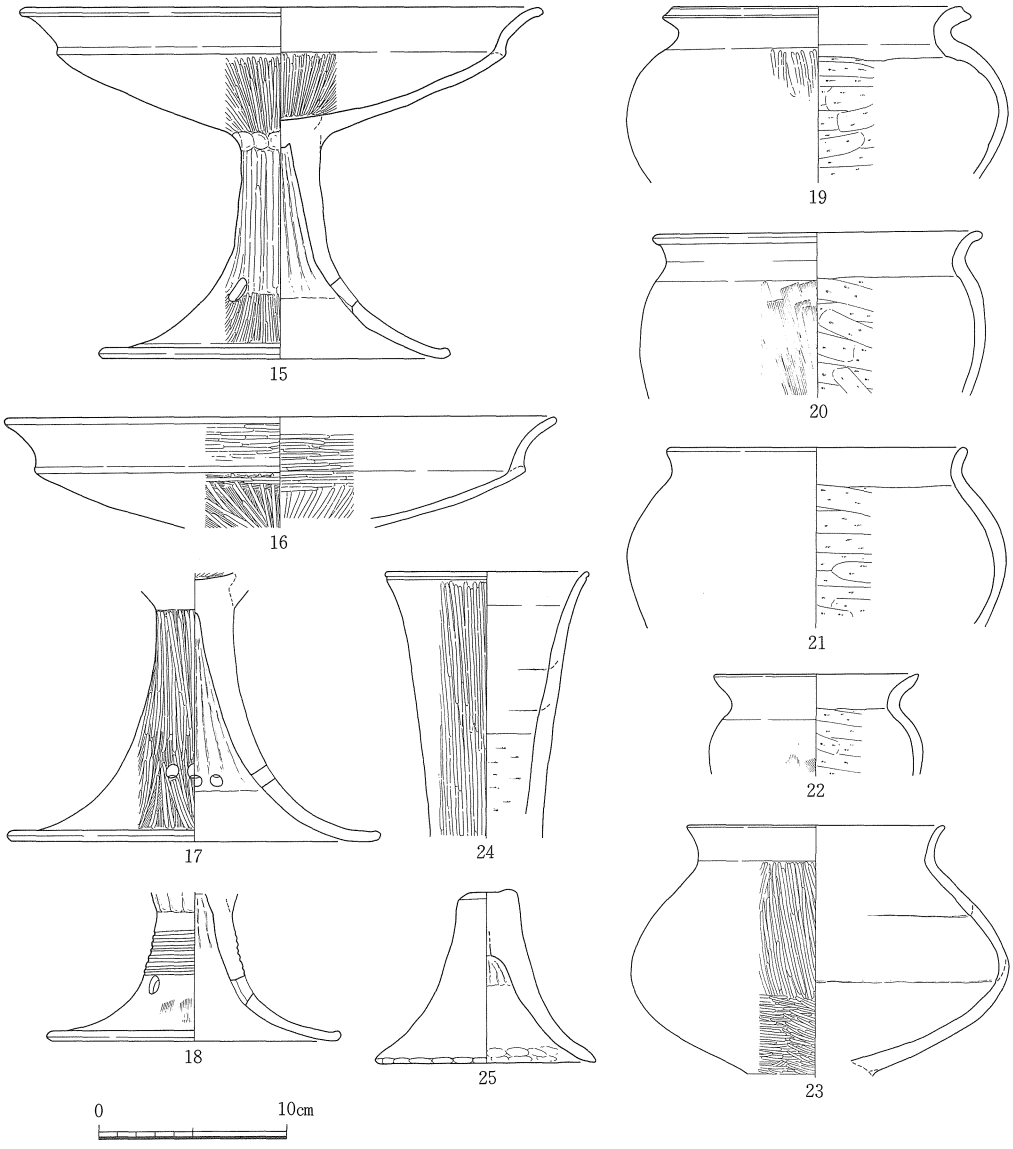
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	―	8.1	―	頸部鋸歯文14個（内左上り2個・山形1個）肩部に線刻文1ケ所，黒斑	淡黄褐	粗砂，細礫㉕
2	甕形土器	11.4	5.8	22.9	内面篦ケズリ，外面ナデ	黄褐	細砂

図97　土壙ー158，出土遺物(1)　縮尺 1/30，1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
3	甕形土器	14.8	6.2	26.5	外面ハケ，内面篦ケズリ，底部外面ナデ，外面煤付着，内面下半炭化物	(内)淡黄白(外)黄褐	細砂
4	〃	13.0	6.0	—	内面篦ケズリ，底部外面篦ケズリ，外面丁寧なナデ・煤付着	(内)黒灰(外)黄褐	微砂
5	〃	14.5	—	—	頸部内面篦ケズリ後ナデ，体部外面幅広のハケ⑩，体部内面篦ケズリ	(内)赤～灰褐(外)暗褐	微～細砂
6	〃	13.0	—	—	体部外面浅いハケ・黒斑，内面篦ケズリ	黄褐	〃～〃
7	〃	13.6	—	—	体部外面細いハケ，内面篦ケズリ	〃	微砂
8	〃	13.5	—	—	体部外面ハケ・黒斑・煤付着，内面篦ケズリ	〃	細砂
9	〃	15.2	—	—	体部外面ナデ，内面篦ケズリ	淡黄褐	微～細砂
10	〃	12.8	—	—	〃，〃，外面煤付着・調整は不鮮明	灰褐	微砂
11	〃	13.6	—	—	体部外面ハケ，〃，口縁端面に非常に細浅な凹線廻る	暗黄褐	細砂
12	〃	—	4.7	—	内面篦ケズリ，外面篦ミガキ・黒斑，底部外面篦ケズリ後ナデ	暗灰褐～黄灰褐	微砂
13	〃	—	5.5	—	外面浅いハケ・煤付着，外面下端押圧，底部外面篦ケズリ	(内)暗黄灰(外)暗灰褐	〃
14	〃	—	5.7	—	外面ナデ（一部にハケ残存），底部外面平行篦ミガキ	赤褐	細砂㊎

図98　土壙ー158　出土遺物(2)　縮尺 1/4



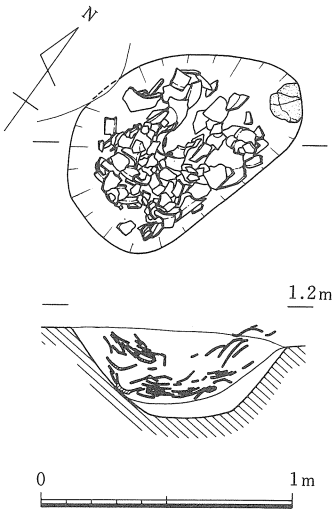
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
15	高杯形土器	27.3	18.2	18.6	杯受部・脚外面篦ミガキ，黒斑２ケ所，円孔３個	黄褐	細砂
16	〃	29.0	－	－	杯受部外面ハケ後篦ミガキ，他は篦ミガキ	内淡黄褐外淡赤褐	微砂
17	〃	－	19.8	－	外面ハケ後篦ミガキ，円孔は２個単位４ケ所	淡黄褐	微～細砂
18	〃	－	15.3	－	外面磨滅で不明，内面ナデ，沈線７条，円孔３個，黒斑	内淡黄褐外褐	微砂
19	鉢形土器	15.3	－	－	内面篦ケズリ，外面磨滅で不鮮明（一部篦ミガキ・荒いハケ残存）	黄褐	〃
20	〃	17.0	－	－	〃，外面浅いハケ・黒斑	黄灰褐	〃
21	〃	15.6	－	－	〃，外面磨滅で不明・黒斑	黄褐～明黄褐	微～細砂
22	〃	10.7	－	－	〃，外面ハケが一部残存	淡黄褐	微砂
23	〃	13.5	－	－	内面ナデ，外面篦ミガキ	赤褐	微～細砂◎
24	直口壺形土器	10.6	－	－	内面上半ナデ・下半篦ケズリ，外面篦ミガキ，口縁端面に沈線１条	淡黄褐	細砂◎
25	蓋形土器	12.7	－	9.0	内面上半しぼり目・下半ナデ，口縁部内外面押圧でつまみ調整，黒斑	暗黄褐	微砂

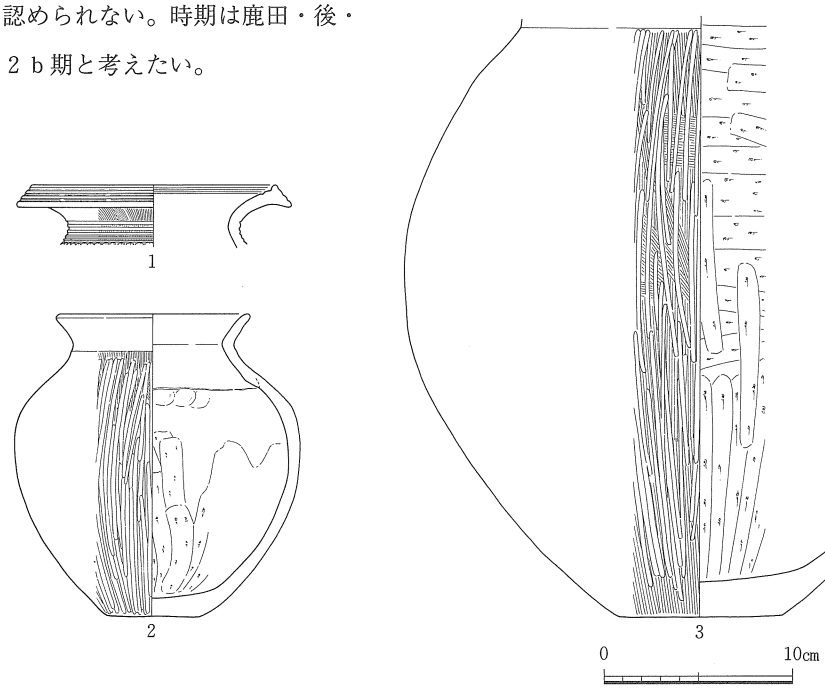
図99　土壙－158　出土遺物(3)　縮尺 1/4

土壙194（図100～102，図版55）

ＡＺ35区の南端に位置する。平面形は長軸101㎝・短軸65㎝の不整円形を呈す。南北に軸を持つ。断面形は逆台形を呈し，壁の立上りは約45°の角度を示し，大きさの割には急峻である。底面は検出面下35㎝・標高75㎝を測る。平面形の規模を考えると深めの土壙である。埋土は２層検出され，上層には暗灰褐色粘質土が認められ，多量の土器・炭・焼土が混在して含まれる。下層には黄褐色砂質土が堆積している。

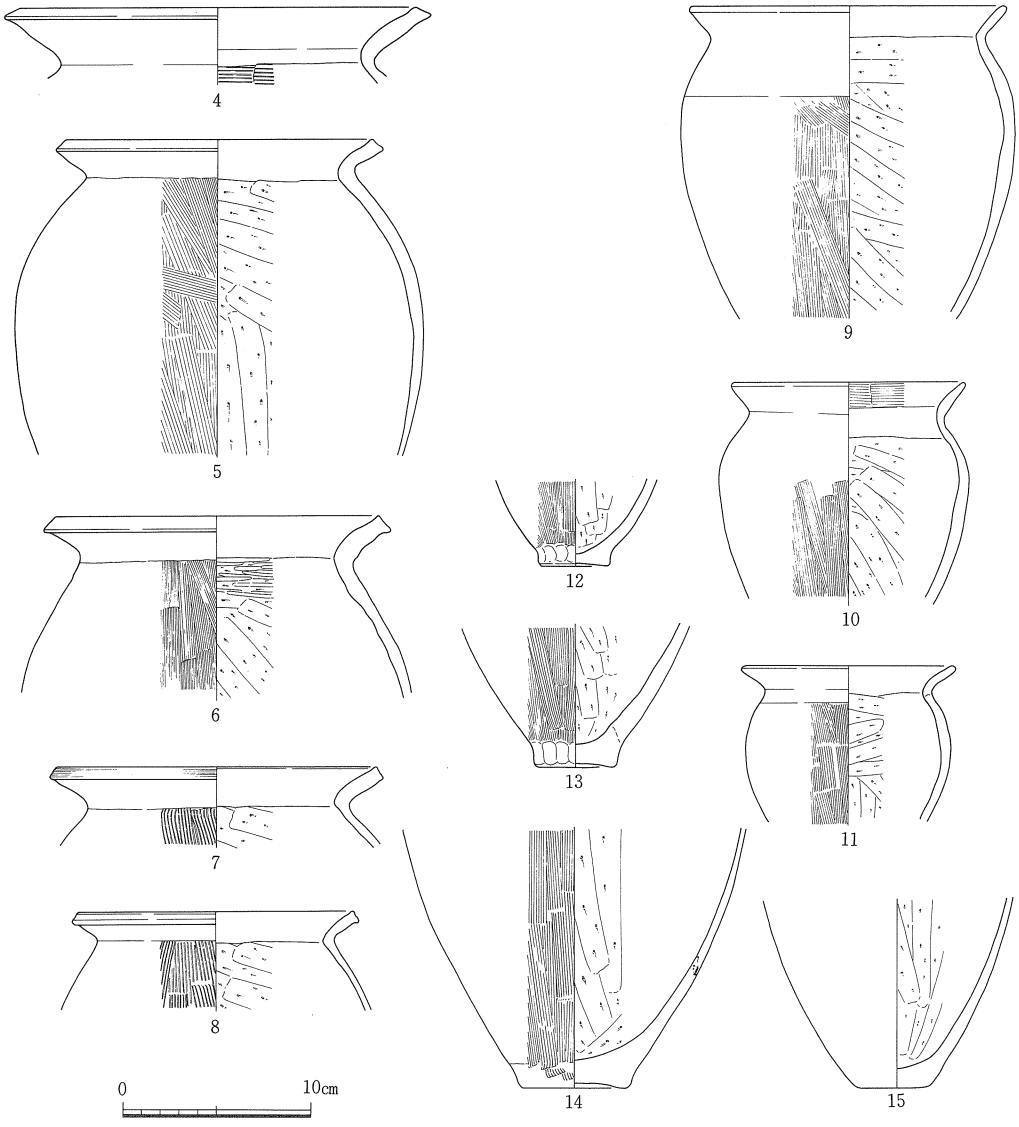
遺物は壺（１～３）・甕（４～15）・鉢（16～25）が出土している。鉢は口縁部が屈曲して外反するものと，屈曲しないで丸くおさめるものとに二分される。出土遺物内に占める割合も高い。甕は内面の篦ケズリが頸部屈曲部まで上がり，口縁部の凹線もほとんど認められない。時期は鹿田・後・２ｂ期と考えたい。





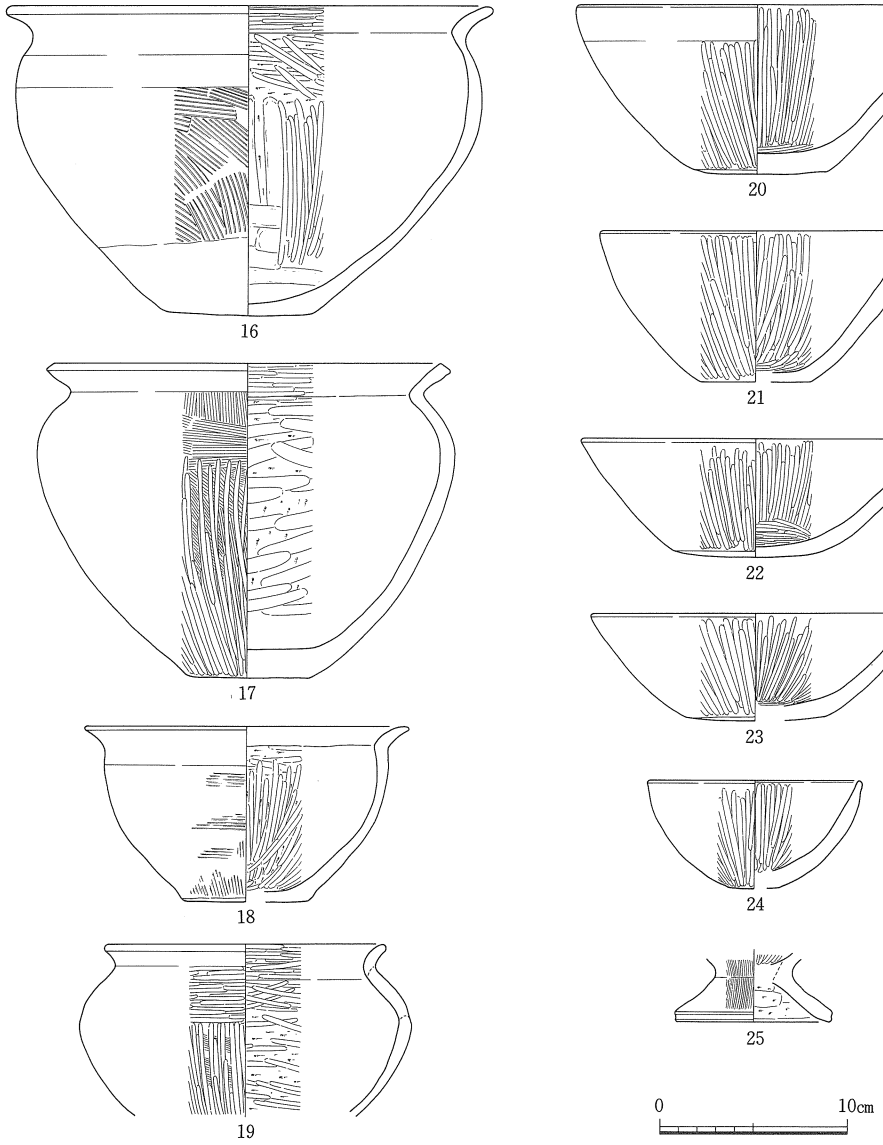
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	12.9	－	－	口縁部内面凹線２条，頸部外面沈線５条の下に列点文廻る	明褐～暗褐	微砂
2	〃	10.1	4.9	16.0	外面ハケ後篦ミガキ，底部外面篦ケズリ，内面ナデ後下半篦ケズリ	暗灰褐	〃
3	〃	－	8.7	－	外面ハケ後篦ミガキ，底部外面篦ケズリ後ナデ，内面篦ケズリ，黒斑	淡黄褐	〃，細礫㋐

図100　土壙－194，出土遺物(1)　縮尺 1/30，1/4



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
4	甕形土器	21.1	—	—	内面ハケ	淡赤褐～淡灰白	粗砂
5	〃	16.3	—	—	内面篦ケズリ，外面ハケ・煤付着多量・黒斑	(内)淡褐(外)淡黄灰	細砂
6	〃	17.3	—	—	内面篦ケズリ後上半篦ミガキ，外面ハケ，外面煤付着少量	明褐～淡黄灰	〃
7	〃	17.0	—	—	口縁端面工具使用ナデによる細線廻る，外面幅広いハケ，内面篦ケズリ	黄褐	〃
8	〃	14.6	—	—	外面幅広いハケ，内面篦ケズリ	(内)淡黄灰(外)明褐	〃
9	〃	16.5	—	—	外面ハケ，内面篦ケズリ，外面煤付着多量	淡褐	細～粗砂㊎
10	〃	12.2	—	—	口縁部内面ハケ，内面篦ケズリ，外面下半ハケ，他は横ナデ，外面煤	(内)明灰褐(外)黄褐	細砂
11	〃	11.1	—	—	内面篦ケズリ・外面ハケ，外面煤付着	(内)明黄褐(外)暗黄褐	〃
12	〃	—	3.8	—	内面・底部外面篦ケズリ，外面ハケ	明黄褐～褐	〃
13	〃	—	4.3	—	底部外面押圧，内面篦ケズリ，外面ハケ・煤付着多量・剝落あり	(内)灰(外)淡赤褐～黒	〃
14	〃	—	6.0	—	底部外面ナデ，〃，〃・〃	(内)黒灰(外)灰褐	〃
15	〃	—	3.8	—	内面篦ケズリ，外面ナデ・煤付着・剝落あり	(内)淡灰褐(外)暗褐	〃

図101　土壙－194　出土遺物(2)　縮尺 1/4



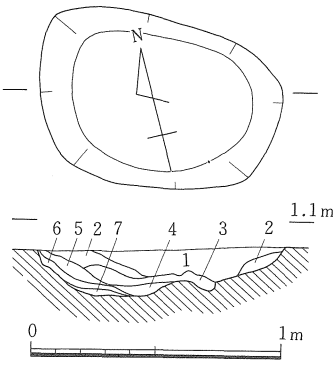
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
16	鉢形土器	25.5	7.7	16.4	内面篦ケズリ後工具使用ナデ後篦ミガキ，底部外面篦ケズリ後ナデ，黒斑	明黄褐	微砂
17	〃	20.5	6.6	16.7	外面ハケ後篦ミガキ，内面篦ケズリ後篦ミガキ，黒斑	淡黄褐～赤褐	細砂
8	〃	17.1	6.9	9.3	体部外面ハケ（磨滅で不鮮明），内面篦ケズリ後篦ミガキ，黒斑	淡乳灰～淡黄灰	微～細砂
19	〃	14.6	－	－	内面篦ケズリ後篦ミガキ，外面篦ミガキ（下半にはハケ残存）	(内)黒褐(外)黄褐	〃～〃
20	〃	19.0	7.3	8.9	口縁部外面横ナデ，底部外面ナデ，他は篦ミガキ	(内)明褐(外)淡乳白	微砂
21	〃	16.6	5.8	8.0	内外面篦ミガキ，底部外面ナデ	淡乳黄褐	〃
22	〃	18.6	－	－	〃 ， 〃	淡黄褐	細砂
23	〃	17.2	－	－	〃 ， 〃	淡茶褐	微砂
24	〃	11.3	－	－	〃 ， 〃	暗～黒褐	微～細砂
25	台付鉢形土器	－	8.3	－	外面ハケ，鉢部内面篦ミガキ，外面ハケ，脚台部内面篦ケズリ	明褐	〃～〃

図102　土壙－194　出土遺物(3)　縮尺 1/4

土壙－193（図103）

ＡＺ35区のほぼ中央に位置する。平面形は長軸100㎝・短軸66㎝の隅丸方形に近い土壙である。底面は検出面より20㎝・標高76㎝を測る。掘り方は平坦でなく，かなりの凹凸をもつ。埋土は７層に分層可能であるが，その中で粘（質）土層（３～５層）の存在が注目される。特に３・４層については，粘質が強く，大形の粘土塊が土壙中央に埋積された状況を呈す。また，炭層（６層）中には１～５㎜の細礫が多く含まれる。

出土遺物は非常に少なく，細片であるため図化可能なものはなかったが，それら破片および検出レベル等から，鹿田・後・２期の範囲に入ると考えたい。

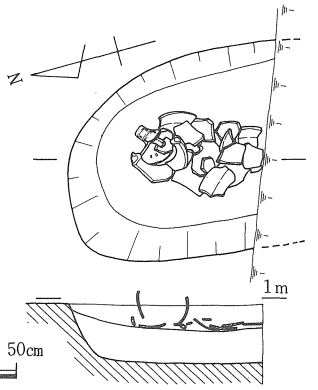


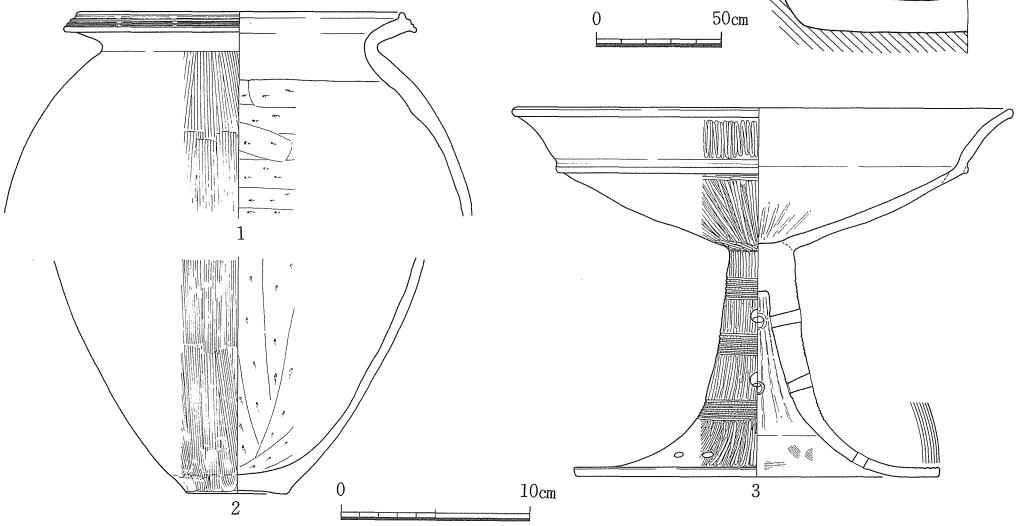
1　灰褐色土（炭）
2　灰褐色土（炭）
3　灰白色粘土
4　灰褐色粘土　（炭含）
5　暗灰褐色粘質土
6　炭層（細礫）
7　灰褐色土

図103　土壙－193　縮尺 1/30

土壙－200（図104，図版54）

ＢＡ35区の南端に位置しＢＢ35区にのびる。南端部分は側溝によって切断され，また，それ以南は調査範囲外で未調査である。長軸の残存長は80㎝・短軸81㎝を測り，本来は南北に軸をもつ長楕円形の土壙が推定される。断面形は浅い皿状を呈し，底面は検出面下23㎝・標高74㎝に位置する。埋土上層は灰褐色





遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	17.2	－	－	口縁端面凹線３条，外面ハケ，内面篦ケズリ	淡黄灰	細砂
2	〃	－	5.4	－	外面ハケ，内面篦ケズリ，外面煤付着，２次焼成による剝離あり	暗褐	細～粗砂，細礫㋑
3	高杯形土器	26.2	19.3	19.6	円孔・沈線文帯は３段（下段は２個単位４ケ所），脚裾端部に凹線３条	明褐	細砂

図104　土壙－200，出土遺物　縮尺 1/30，1/4

砂質土で炭・土器を多く含む。下層は暗黄褐色砂質土で炭化物および・黄褐色地山粒を含むのみである。本土壙は残存状況が悪いため出土遺物も多量ではないが，以上の状況から，前述の土壙96・158等と同タイプの土壙であると考えられる。

時期は高杯（３）が井戸２の高杯に近いことから鹿田・後・２ａ期に比定される。（山本）

土壙－231（図105～107，図版14-１・52）

本土壙はＡＹ36区の東南部を中心に，一部ＡＹ35区・ＡＺ35・36区にまたがって位置している。平面形は現状では西側がやや不整であるが，本来は長径が305㎝前後，短径75㎝前後の隅丸長方形を呈するものと推定される。長軸はほぼ南北方向を向いている。底はほぼ平らであり，東側の壁はかなり急に立ち上がり，西側の壁はやや緩やかに立ち上がっている。検出面から底までの深さは35～40㎝前後であり，底の標高はほぼ69㎝前後で揃っている。埋土は１～７層に分かれるが，その性格から，上層（１～３層），下層（４・５・７層）および６層とにまとめることが可能である。１層は灰褐色土で土器は少ないが，下位で焼土を多く含んでいる。２層は暗灰褐色土であり，大形の土器片が中央よりやや北寄りを中心に大量に出土している。本層には焼土・炭も比較的多く含まれている。３層も２層と同様の層相を示すが，より褐色が強い

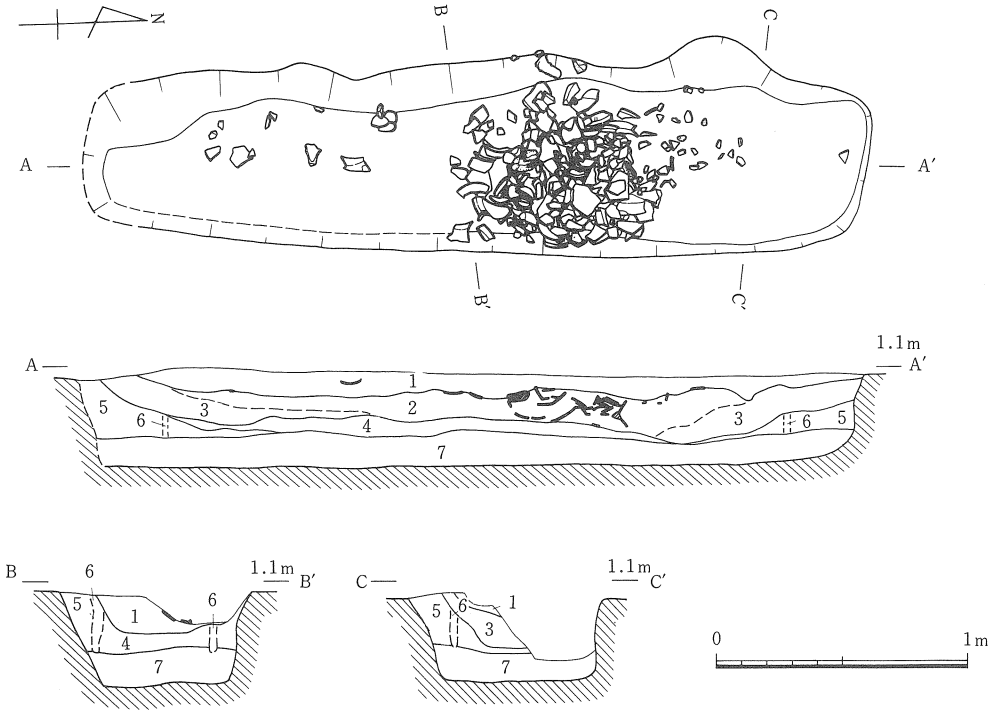
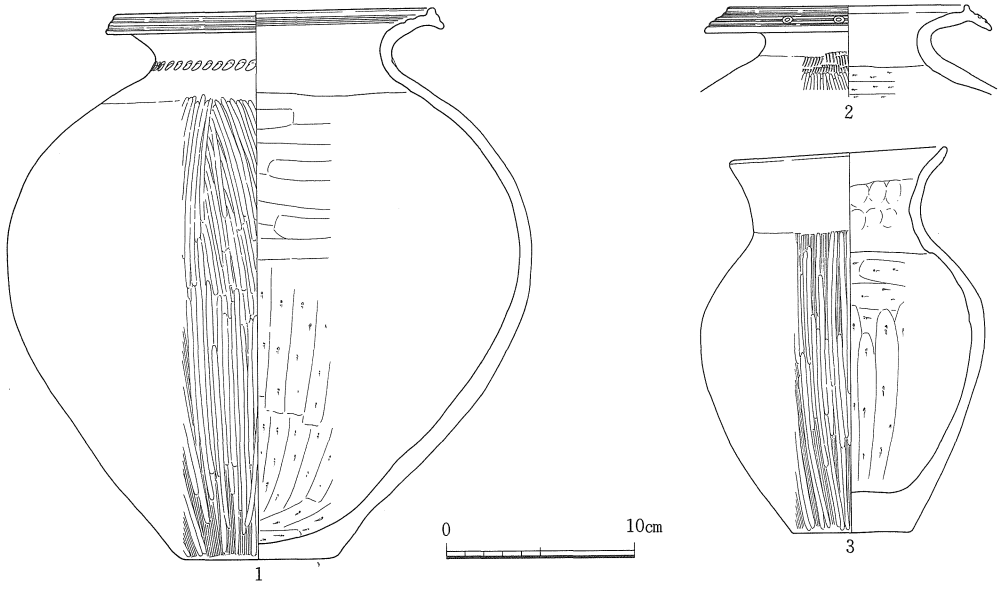


図105　土壙－231　縮尺 1/30

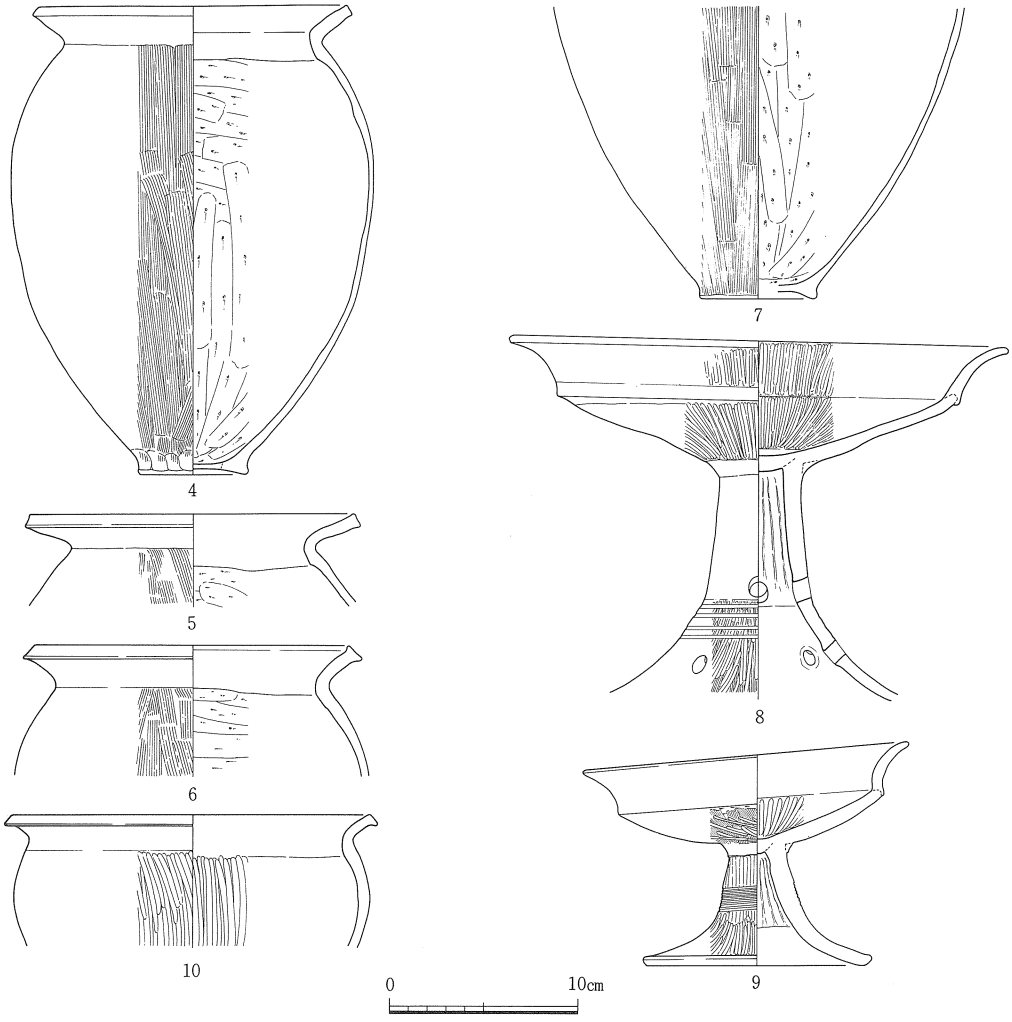
層である。以上の上層はいずれも周辺部から中央部に向かって緩やかに傾斜しながら堆積しており，流入土的性格を示すものとみられる。一方，下層のうち4層は灰色微砂土で，基本的には水平に堆積しており，土器，炭・焼土等は僅かしか含まない。5層も4層より若干色調が異なるだけで基本的に共通した特徴を示している。7層も4層と類似した微砂土であり，本層は土器・炭・焼土等を含まない。この下層は上層と異なり，ほぼ平坦な堆積を示すものとみられ，土壙を掘削後，人為的に埋められたものと推定される。最後に6層は断面観察によって，4層および5層中に厚さ3～4㎝前後でほぼ垂直に認められる淡灰褐色粘質土である。本土壙は特徴的な長方形の掘り方をもつことから，土壙墓である可能性が強く，6層は木棺の痕跡であることも考えられる。しかしながら，6層を明確に面的には検出できなかったこと，6層の外側と内側とでは埋土に差が認められないことなどから6層を木棺痕跡と断定することはできない。したがって，本土壙は木棺墓であった可能性を指摘するだけにとどめておきたい。

出土遺物は先に触れたように，土器が主に2層の中央から北寄りに集中して出土している。いずれも破片であり，本来の位置から移動したものとみられる。壺（1～3），甕（4～7）高杯（8・9），鉢（10）などがあるが，他の土壙と比べて特徴的な器種構成は認められない。本土壙は出土土器から鹿田・後・2a～b期に属する。



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	16.9	8.3	29.1	口縁端面凹線2条，口縁部内面凹線3条，底部外面篦ケズリ	明褐～暗黄褐	微～細砂，赤色粒
2	〃	12.6	—	—	〃　〃　4条，竹管文2個単位1ケ所，外面ハケ後篦ミガキ	淡赤褐～淡黄白	細砂
3	〃	11.4	6.4	20.5	頸部内面押圧，外面ハケ後篦ミガキ，底部外面押圧・ナデ，2次焼成痕	淡赤白～〃	微砂

図106　土壙－231　出土遺物(1)　縮尺 1/4

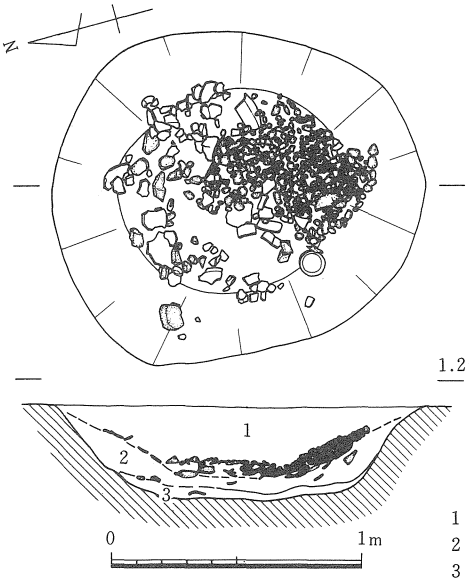


遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
4	甕形土器	16.4	5.9	24.9	内面篦ケズリ，外面ハケ，底部外面押圧・ハケ，外面煤付着	淡灰褐	粗砂～細礫
5	〃	16.7	—	—	〃 ，外面浅いハケ後ナデ，口縁は17×17.4cmの楕円形	淡黄白	細～粗砂，細礫㋑
6	〃	17.2	—	—	〃 ，外面浅いハケ	淡乳白	微砂㋑，赤色粒子
7	〃	—	6.2	—	底部外面篦ケズリ後ナデ，煤付着は外面・内面下半	灰褐	細～粗砂㋒
8	高杯形土器	26.5	—	—	口縁部外面横ナデ一部篦ミガキ，円孔4個づつ交互配置	淡黄灰～淡黄白	微～細砂㋒
9	〃	17.4	12.2	11.5	口縁部横ナデ・受部内面篦ミガキ㋐，脚柱部外面篦ミガキ，煤少量	淡灰白	〃～〃〃
10	鉢形土器	19.0	—	—	口縁部横ナデ，他は篦ミガキ	暗褐	微砂，金雲母

図107　土壙－231　出土遺物(2)　縮尺 1/4

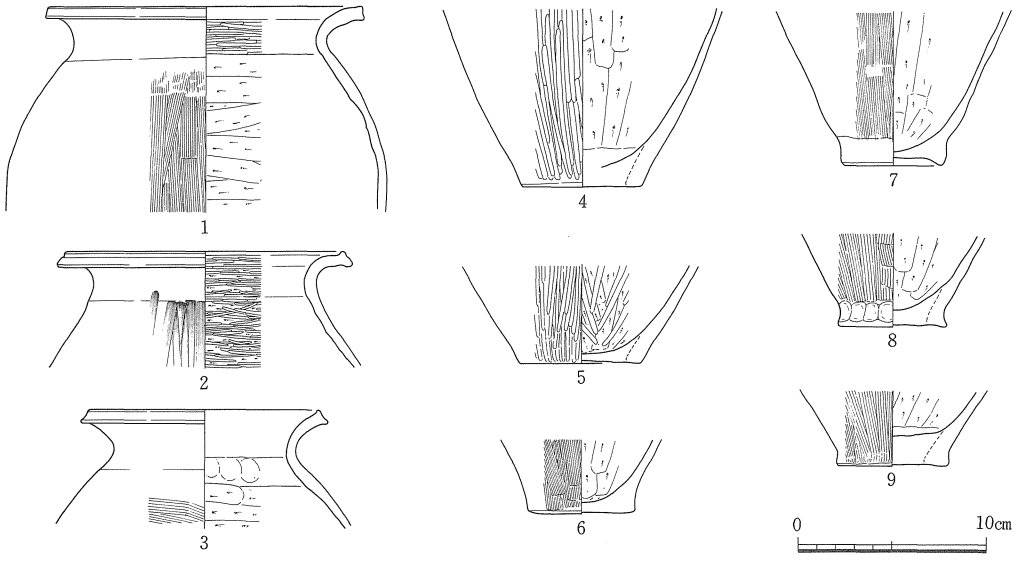
土壙－264（図108・109，図版12-2・75）

本土壙はＡＹ37区中央やや西寄りに位置する。平面形は長軸が約150cm，短軸が約130cmの正円に近い楕円形を呈す。長軸方向はほぼ南北方向であり，壁はややゆるやかに立ち上がっている。埋土は３層に分かれる。１層および２層は共に類似した褐色～暗灰褐色粘質土であり，両者の差は漸移的である。２層上面は土壙中央部に向かって傾斜しており，この２層堆積後，ま



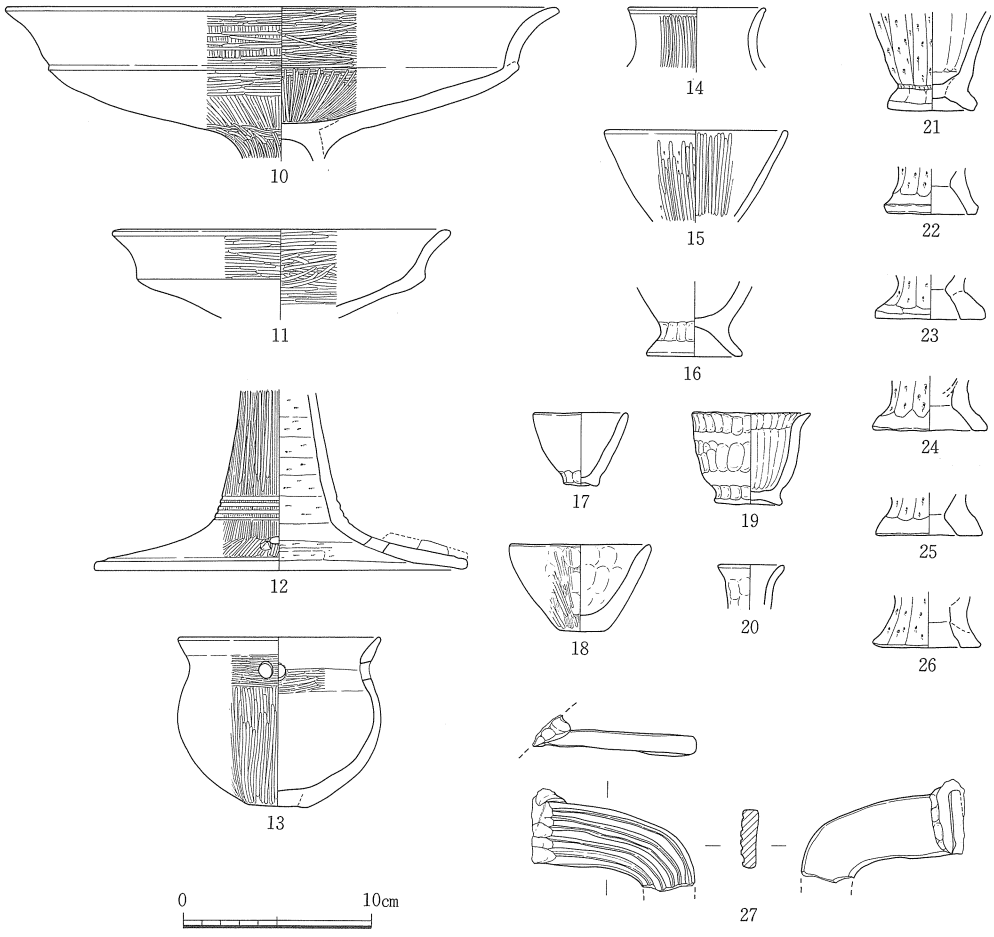
1　褐色粘質土
2　暗灰褐色粘質土
3　灰褐色粘質土

ずほぼ全周から土器片が流入し，さらにその上に南側から径１～５㎝前後の小礫が大量に流入している。この２層の下の３層は厚さ３㎝前後の薄い灰褐色粘質土層で，炭・焼土および土器片を少量含んでいる。遺物は２層上面からまとまって土器が出土しており，その中には比較的多量の製塩土器（21～26）が含まれている。その他の出土土器には壺・甕（１～９・14），高杯（10～12），鉢（13・15～19），手捏ね土器（20），性格不明の把手状土器（27）などがある。本土壙は出土土器から鹿田・後・２ａ期の範囲に属するものとみられる。



遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	甕形土器	16.6	－	－	外面ハケ，内面篦ケズリ，頸部内面篦ミガキ	黄褐	微～細砂
2	〃	14.7	－	－	内面ケズリ後ミガキ，内面ナデ後工具使用ナデ㊙，外面煤	〃	微砂
3	〃	12.2	－	－	外面ナデ後ハケ，内面篦ケズリ，No８と同一個体の可能性高い	黄褐～灰褐	細砂
4	壺形土器	－	6.4	－	外面篦ミガキ，底部外面平行篦ミガキ，内面篦ケズリ，外面煤付着	内)黄褐外)黒褐	〃
5	〃	－	6.4	－	底部外面篦ケズリ後ナデ，内面篦ケズリ後篦ミガキ㊙，〃	内)黒褐外)暗褐	微～細砂
6	甕形土器	－	5.1	－	外面ハケ，内面篦ケズリ，底部外面篦ケズリ後ナデ	内)暗黄褐外)暗褐	粗砂
7	〃	－	5.4	－	〃，〃，底部外面ナデ，外面煤付着・黒斑	内)淡黄褐外)暗赤褐	細砂
8	〃	－	5.7	－	〃，〃，〃，No３と同一個体の可能性高い	黄褐～灰褐	〃
9	〃	－	5.9	－	〃，〃，底部ナデ	内)淡黄灰外)灰褐	微砂

図108　土壙－264，出土遺物(1)　縮尺 1/30，1/4

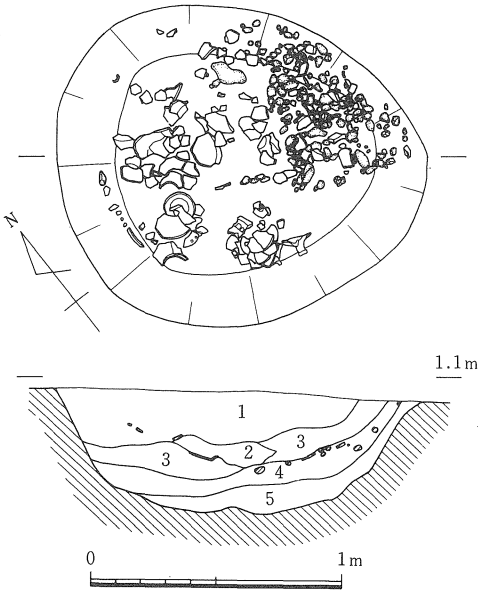


遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
10	高杯形土器	29.1	—	—	内外面篦ミガキ，黒斑	淡黄褐	微砂
11	〃	17.9	—	—	受部外面ナデ，他は篦ミガキ	赤褐～暗褐	〃
12	〃	—	19.2	—	内面屈曲部はナデ，断面三角形粘土帯貼付け㊀，円孔は4個以下，黒斑	(内)淡黄褐(外)赤褐	細砂
13	鉢形土器	10.7	3.4	9.0	内面・底部外面ナデ，円孔は2個ほぼ対角線上，黒斑	淡黄褐	微砂
14	壺形土器	7.2	—	—	内面横ナデ，外面篦ミガキ	〃	〃
15	鉢形土器	9.5	—	—	内面篦ミガキ，外面篦ケズリ後篦ミガキ	暗黄褐～暗褐	〃 ㊁
16	台付鉢形土器	—	5.1	—	全体磨滅で不明	(内)淡灰白(外)淡灰褐	〃
17	鉢形土器	4.9	1.9	3.8	手捏ね土器，全体押圧・ナデ，黒斑	明赤褐	細砂
18	〃	7.4	2.5	4.6	〃，〃・〃，〃，外面に一部ハケ後篦ミガキ痕あり	淡黄褐	微砂
19	〃	6.2	3.6	4.8	〃，〃・〃	明赤褐	〃 ㉒，精良
20	〃	3.4	—	—	〃，〃・〃	黄褐	微砂
21	製塩土器	—	4.7	—	外面篦ケズリ，他はナデ，2次焼成痕	(内)黄褐(外)赤～黄褐	細礫㊂
22	〃	—	5.1	—	〃・内面ナデ，脚台部押圧，2次焼成痕	灰褐	〃 〃
23	〃	—	5.8	—	〃，脚台部押圧・ナデ，2次焼成痕	淡乳赤白	〃 〃
24	〃	—	6.0	—	〃，〃・〃，〃	(内)灰黒(外)暗赤褐	〃 〃
25	〃	—	5.7	—	〃，〃・〃，〃	(内)灰黒(外)淡乳赤灰	〃 〃
26	〃	—	5.8	—	〃，内面ナデ・押圧，2次焼成痕	(内)灰褐(外)赤白	〃 〃
27	把手状土器	—	—	—	丁寧なナデ，表面は篦描沈線5条を施文，約45度の角度で貼付け，境部分には粘土紐を巻きつけ，押圧によって接合していたと考えられる	淡乳灰白	微砂㊁

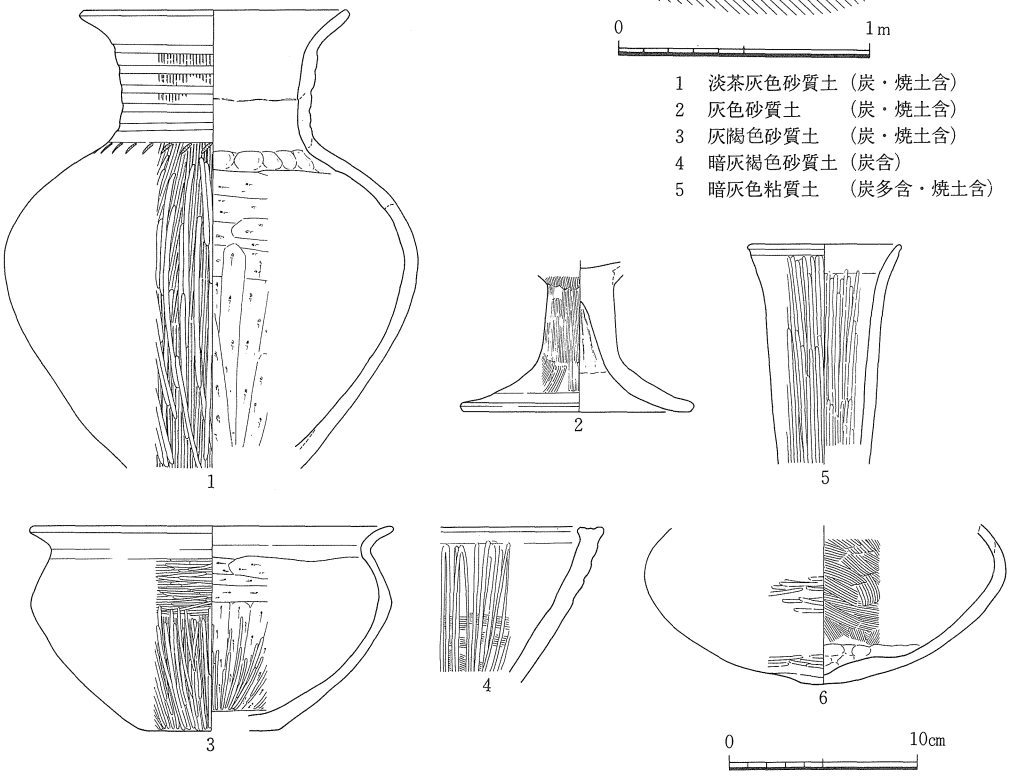
図109　土壙－264　出土遺物(2)　縮尺 1/4

土壙－268（図110・111）

ＡＹ37区のほぼ中央に位置する。平面形は径130cm前後の不整円形を呈する。底は若干の凹凸があり，壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は５層に分かれる。１～３層は灰色～淡茶灰色の砂質土で，いずれも土器を少量含んでいる。４層の暗灰褐色土中にはほぼ全面に大形の土器片を含み，さらに東側から小礫が流入している。５層は炭・焼土を大量に含んでいる。本土壙は出土土器から鹿田・後・２ａ期に属する。

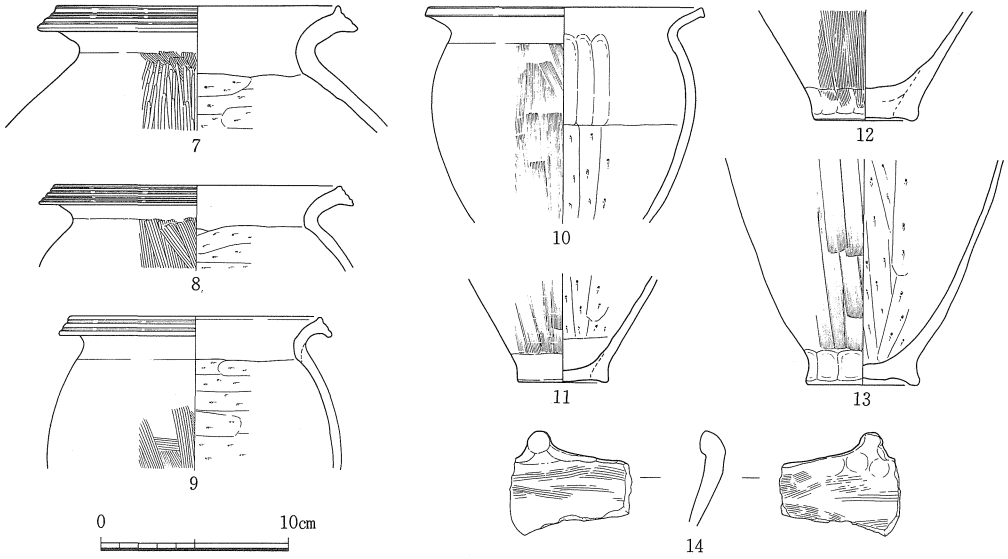


1　淡茶灰色砂質土（炭・焼土含）
2　灰色砂質土　　（炭・焼土含）
3　灰褐色砂質土　（炭・焼土含）
4　暗灰褐色砂質土（炭含）
5　暗灰色粘質土　（炭多含・焼土含）



遺物番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
		口径	底径	器高			
1	壺形土器	13.9	－	－	沈線幅広で５条，頸部下に列点文廻る，外面ハケ後篦ミガキ㊥，黒斑	㈪灰褐㈫淡黄灰褐	微砂，粗砂㋙
2	高杯形土器	－	12.2	－	杯部内面ナデ・外面ハケ，内面上半しぼり目・下半横ナデ，透し孔は無し	明乳黄褐	〃 ㋙
3	鉢形土器	19.1	7.3	10.9	外面下半ハケ後篦ミガキ，内面下半篦ケズリ後篦ミガキ，黒斑２ケ所	㈪淡灰褐㈫淡黄白	細砂
4	〃	－	－	－	外面左上りのハケ，口径は推定40～46cm	明黄褐	微～細砂
5	直口壺形土器	7.8	－	－	口縁部内外横ナデ，内面篦ケズリ後ナデ後篦ミガキ，外面篦ミガキ	〃	微砂
6	〃	－	－	－	底部内面押圧，外面篦ミガキか，No５と同一個体の可能性高い	淡黄褐	〃

図110　土壙－268，出土遺物(1)　縮尺 1/30，1/4

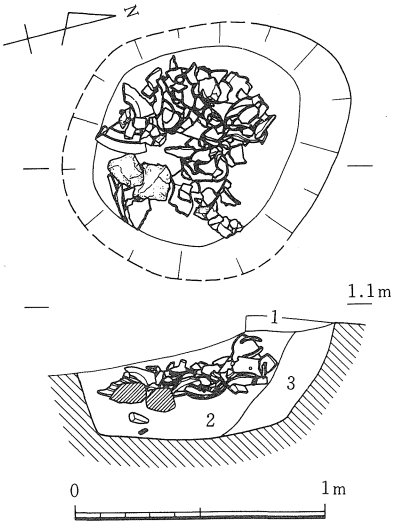


遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
7	甕形土器	15.0	—	—	口縁端面凹線3条，外面ハケ後篦ミガキ，壺の可能性もあり	暗灰褐	微砂，緻密
8	〃	15.2	—	—	〃 4条，外面ハケ，内面篦ケズリ	淡黄褐～淡黄灰	〃
9	〃	13.4	—	—	〃 2条，〃，〃	灰黒～灰褐	〃
10	〃	14.4	—	—	外面非常に細く浅いハケ，No11と同一個体	黒褐	細砂㊎
11	〃	—	4.7	—	〃 ，内面底部ナデ・押圧，No10と同一個体	〃	〃 〃
12	〃	—	5.4	—	外面細いハケ，内面篦ケズリ（砂粒の動き㊎），外面煤付着	灰褐	微砂
13	〃	—	6.0	—	外面工具使用ナデ，内面篦ケズリ，底部押圧，外面煤付着	黒褐	細砂
14	鉢形土器	—	—	—	縄文式土器，波状口縁，口縁部押圧，内外面ハケ状調整後ナデ	淡灰白	〃

図111　土壙－268　出土遺物(2)　縮尺 1/4

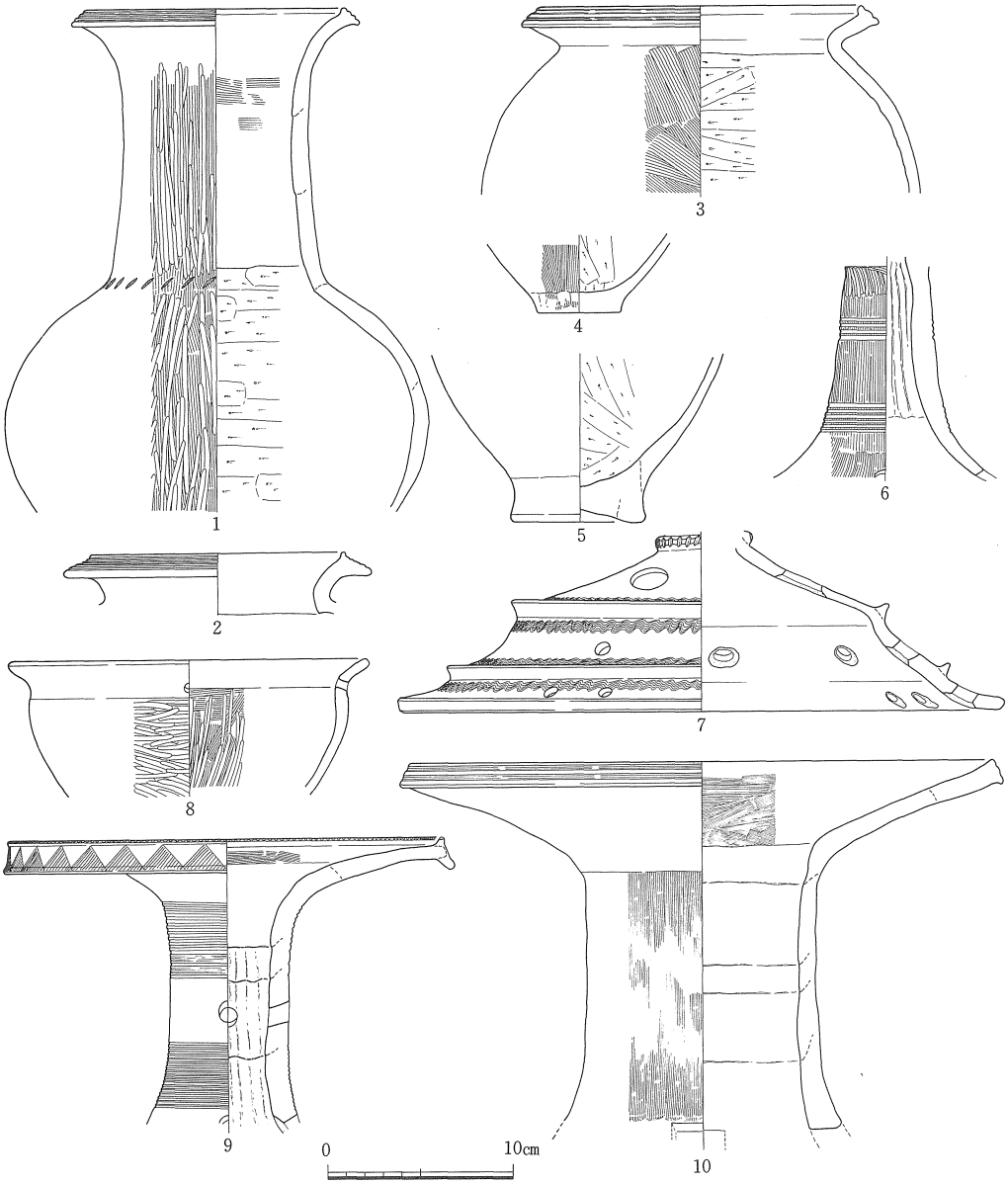
土壙－284（図112・113，図版52・56）

本土壙はＡＺ37・38区の南側に位置する。南側部分の周辺部および上部はすでに破壊されており，正確な平面形は不明であるが，長径120㎝前後，短径100㎝前後の不整円形をなすと推定される。底は浅く凹むがほぼ平坦であり，壁は急に立ち上がっており，検出面からの深さは約50㎝である。埋土は３層に分かれる。１層は若干の炭・焼土・土器を含む灰茶色粘質土である。２層は大量の土器片および小礫を含み，炭・焼土は含まない暗灰褐色粘質土である。３層の茶褐色粘質土は炭・焼土を若干含んでいるが，遺物は含まない。本土壙は出土土器から鹿田・後・２ａ期に属する。（栄）



1　灰茶色粘質土（炭・焼土少含）
2　暗灰褐色粘質土
3　茶褐色粘質土（炭・焼土含）

図112　土壙－284　縮尺 1/30



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	13.9	—	—	口縁端面凹線3条，外面ハケ後篦ミガキ，頸部内面ハケ後ナデ	淡黄灰褐	微砂
2	〃	13.6	—	—	〃　〃　5条，内面篦ケズリ，他は横ナデ	淡灰白	〃
3	甕形土器	17.2	—	—	〃　〃　3条，　〃　，外面ハケ	淡灰褐	細砂
4	〃	—	4.5	—	内面篦ケズリ，外面ハケ，底部外面剝離で不明，外面煤付着	黒灰褐	〃
5	〃	—	7.2	—	〃　，外面磨滅で不明，黒斑	(内)黒灰褐(外)黄白	粗砂
6	高杯形土器	—	—	—	外面ハケ後上端篦ミガキ，内面下半横ナデ，円孔は1ケ所のみ残存	暗褐	微～細砂
7	装飾高杯形土器	—	32.2	—	円孔は上から2個以上・5個・2個単位5ケ所，波状文は4段廻る	赤褐	細砂
8	鉢形土器	19.1	—	—	内面ハケ後篦ミガキ，外面篦ミガキ，円孔は1ケ所残存	淡灰白～淡黄灰白	〃
9	器台形土器	23.3	—	—	口縁端面刻み目，内面しぼり目，他はナデ，細い沈線16条と17条廻る	淡黄灰～淡黄褐	微～細砂㊂
10	〃	31.4	—	—	口縁部内面・体部外面細いハケ，長方形透し孔4ケ所の可能性が高い	(内)淡黄褐(外)明褐	微～細砂，粗砂㋐

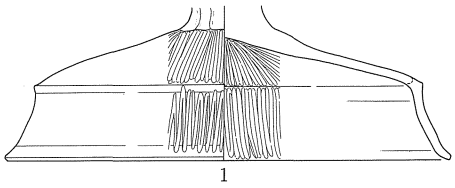
図113　土壙－284　出土遺物　縮尺 1/4

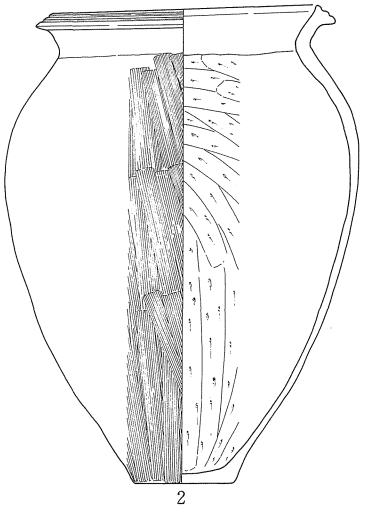
e．土　器　棺

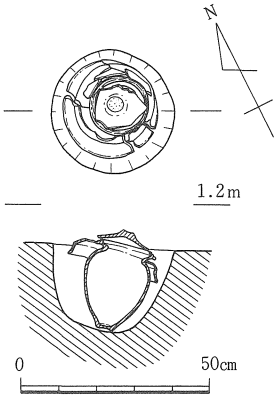
土器棺－1（図114，図版57）

ＢＤ33区の中央部，調査区南端部に位置する。径34cm前後の円形プランを持ち，底面は検出面下24cm前後・標高86cmを測る。掘り方の東側部分は土壙123と切り合うためやや不明瞭となる。棺は甕を身，脚部を除去した高杯を蓋とし，掘り方内にほとんど垂直に埋納される。埋土は淡灰黄褐色粘質土の単一土層である。棺内からの出土遺物は確認できなかった。

甕（2）の口縁部・底部のつくり等に古い要素が認められ，鹿田・後・2ａ期の範囲に含まれるものとする。







遺物番号	器種	法量（cm） 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	高杯形土器	23.7	－	－	内外面篦ミガキ，口縁部外面波状篦ミガキ，黒斑	明黄褐	細砂
2	甕形土器	14.1	5.3	25.2	底部外面ナデ，凹線２条，外面煤付着，外面非常に細く浅いハケ	〃	微砂，細砂㉖

図114　土器棺－1，出土遺物　縮尺 1/20，1/4

土器棺－2（図115・116，図版15-1・57）

ＢＢ30区に位置し，東西55cm・南北60cmの不整円形を呈す。床面は平坦で，標高99cmを測り，深さは約30cmである。棺は壁に接して埋納され，頸部以上を除去した壺を身とし，鉢を蓋とする。北西―南東方向に軸をとり，傾いた状態で設置される。除去した壺の頸部～口縁部は土壙内の南東隅の壺底部に立てかけて置かれる。

棺外埋土（１層）は単一土層である。棺

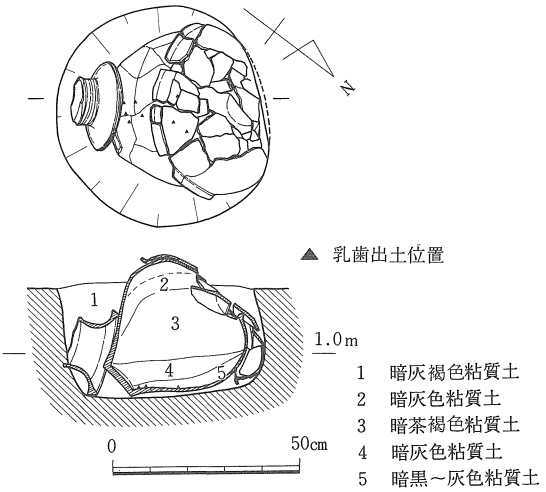
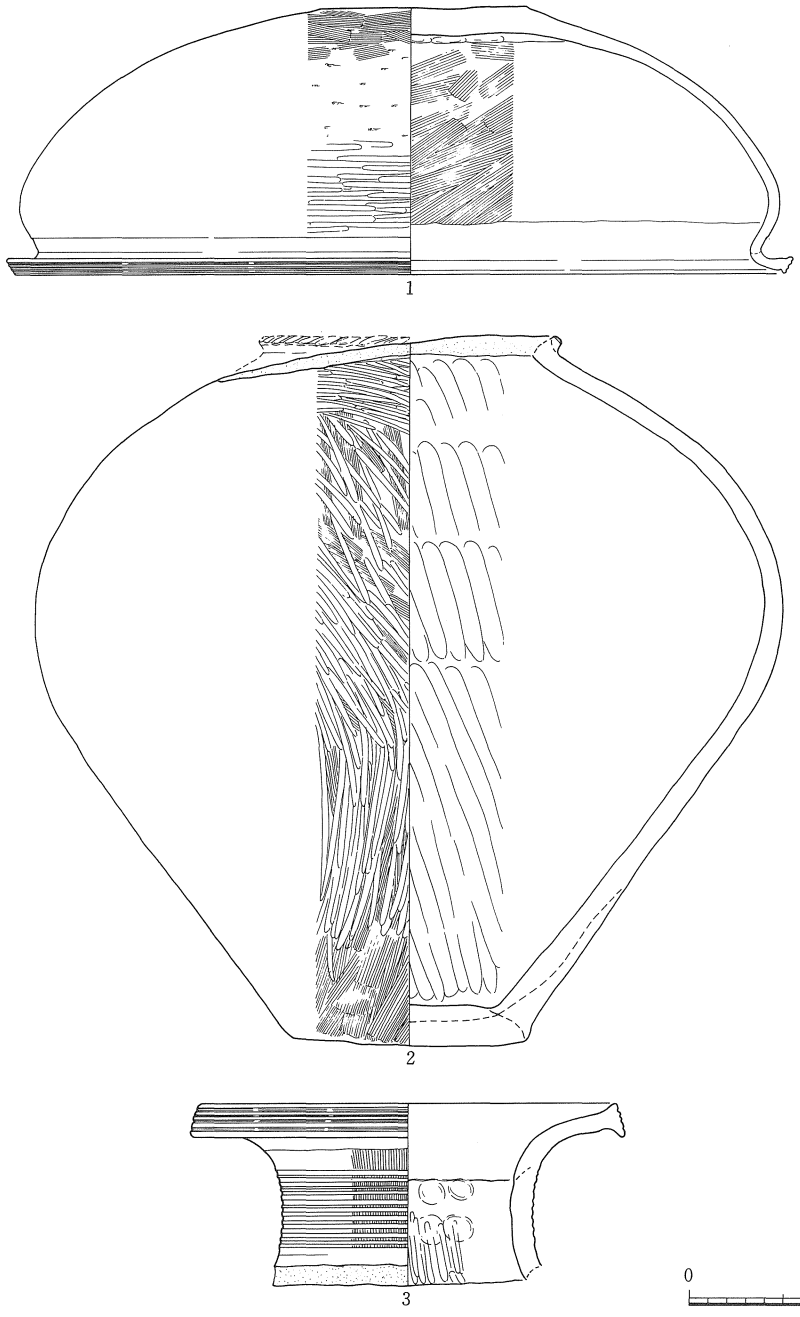


図115　土器棺－2　縮尺 1/20



遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	鉢形土器	40.8	10.9	14.1	口縁端面凹線3条，底部外面ハケ，底部は12×9cmの楕円形，黒斑	淡黄褐	微～粗砂
2	壺形土器	－	12.3	－	頸部下端に刻み目突帯が廻り，打ち欠きにより頸部以上と切離される，黒斑	〃	微～細砂◎
3	〃	22.0	－	－	凹線3条，沈線10条，頸部内面押圧後一部篦ミガキ，No 2と同一個体	明黄褐～明赤褐	〃～〃〃

図116　土器棺－2　出土遺物　縮尺 1/4

内埋土は４層に分層されるが上半部（２・３層）は鉢蓋陥没後の流入土・下半部（４・５層）は陥没以前の風化物と侵入泥の堆積と判断される。棺以外の遺物としては，５層下面から生後数ヶ月の乳歯が10数点出土している。

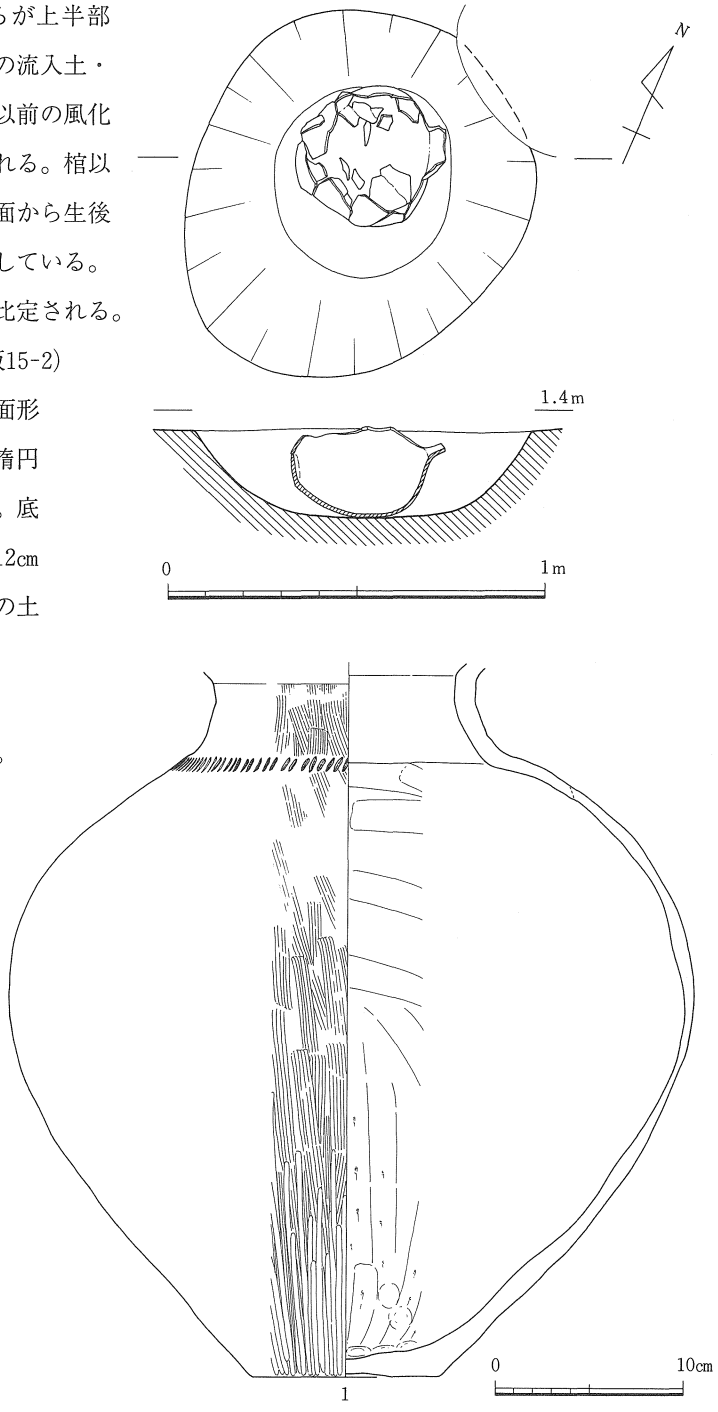
時期は鹿田・後・２ａ期に比定される。

土器棺－３（図117，図版15-2）

ＢＣ28区に位置する。平面形は長軸120cm・短軸89cmの楕円形を呈し，南北に軸をもつ。底面は検出面下23cm・標高112cmを測る。掘り方の規模は他の土器棺の状況とは異なり，棺の大きさに対してやや広めで立ち上りも緩やかである。棺身と考えられる壺が１個体のみ，頸部を東，底部を西方向に向けて倒した状態で出土している。上半部は大きな破損を受けている。蓋となるべき遺物は検出されておらず，木蓋のようなものが推定される。

埋土は黄褐色砂質土の単一層で，炭・焼土片を少し含むのみである。

時期は鹿田・後・２ａ期と考えられる。　（山本）

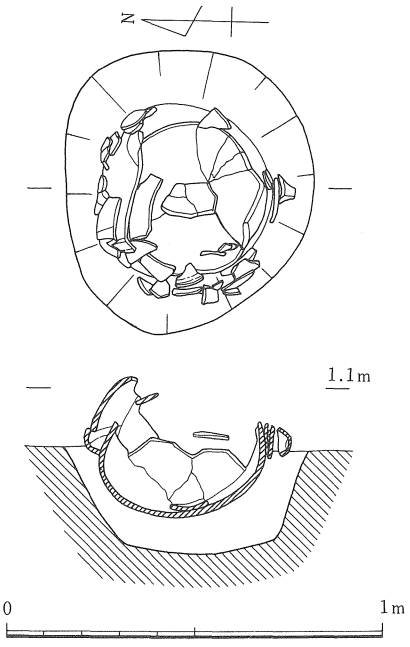


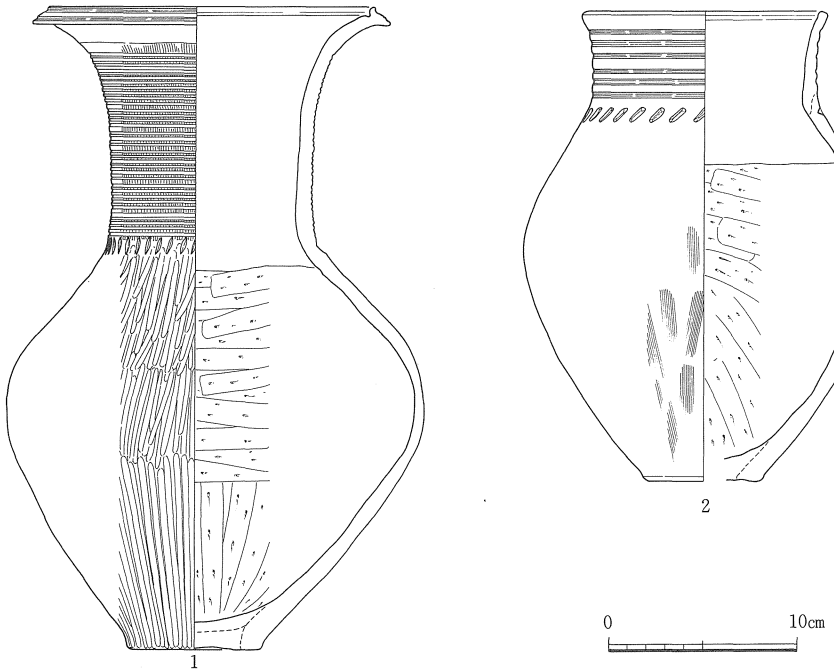
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	－	10.0	－	内面磨滅でケズリ不鮮明，頸部端列点文，打ち欠き状況は破損で不明，黒斑	内淡灰褐外淡黄褐	細砂◎

図117　土器棺－３，出土遺物　縮尺 1/20，1/4

土器棺－4（図118～119，図版16-1・58）

本遺構はＡＺ37区中央やや南寄りに位置する。上半部は近代の攪乱によって破壊されており，下半部のみを検出した。本遺構の平面形は現状で長径約80㎝，短径約65㎝の正円に近い楕円形をなしている。底はやや浅く凹み壁は斜めに立ち上がっている。土壙掘削後，土壙内側に地山の黄褐色土を若干埋め戻し，頸部を打ち欠いた大形壺を斜めに傾けて，最下に据えたものとみられる。さらに破壊が著しく，明瞭でないが大形の鉢（3）を逆位で大形壺にかぶせ，壺棺としている。さらに大形鉢の周囲には長頸壺（1）と短頸壺（2）２個体分の破片が散在していたが，攪乱による破壊が著しく，正確な出土状況は不明である。最下に据えられた大形壺内の埋土は茶褐色粘質土である。若干の炭・焼土を含んでいたが，人骨・歯等は確認できなかった。壺

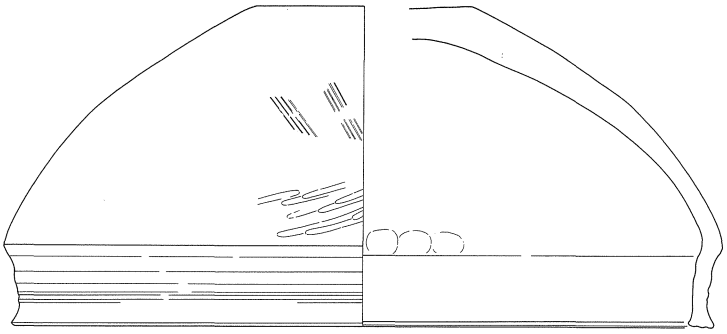




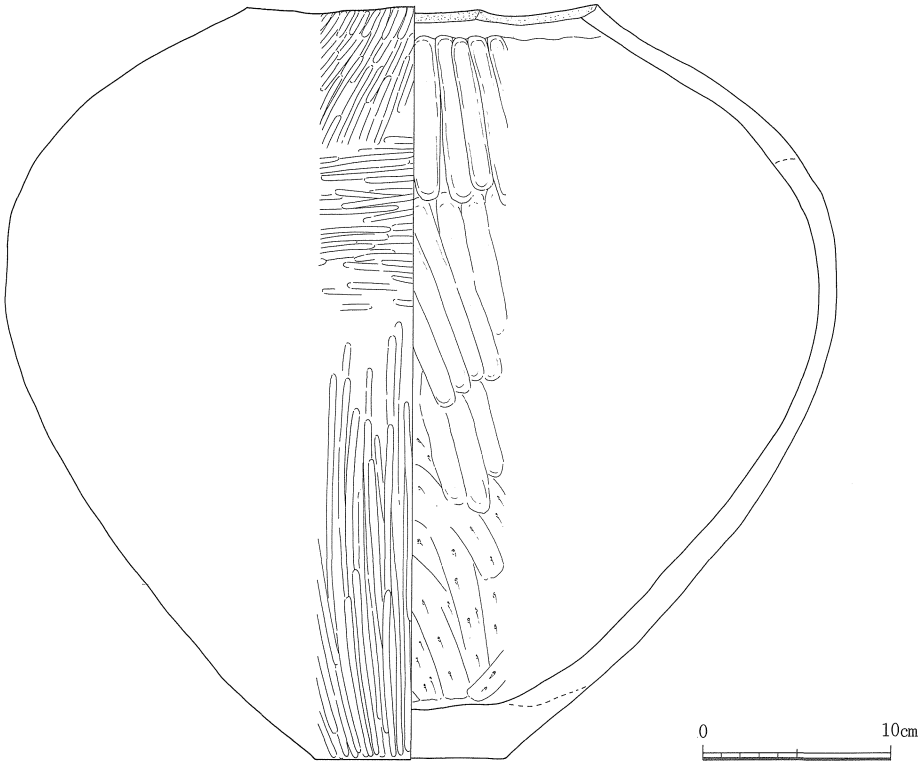
遺物番号	器種	法量 (cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
1	壺形土器	17.3	7.0	34.2	口縁端面凹線２条，頸部沈線３条１単位，底部外面篦ケズリ後ナデ	暗茶褐～黄褐	微砂，細～粗砂㉖
2	〃	12.5	6.3	25.0	頸部下端列点文，外面非常に浅いハケ，底部ナデ	淡黄褐	細砂

図118　土器棺－4，出土遺物(1)　縮尺 1/20，1/4

（2）・鉢（3）は形状等に古い要素を残すが壺（1）では頸部沈線が細く多条化しており，壺（2）においても沈線が非常に浅くなるなど新要素を示している。鹿田・後・2ａ期に属する。　　（栄）



3



4

遺物番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴ほか	色調	胎土
		口径	底径	器高			
3	鉢形土器	37.2	11.4	13.0	口縁端面凹線２条，外面ハケ後篦ミガキ・内面ナデ，磨滅で不鮮明	(内)黄褐(外)淡黄褐	細砂㊂，粗砂㋑
4	壺形土器	－	10.0	－	内面篦ケズリ後強いナデ上げ，底部外面ナデ，体部上端は打ち欠き	淡黄褐	微砂

図119　土器棺－４　出土遺物(2)　縮尺 1/4